

030199その他の土木工事業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	14 ～ 16	被災者他2名で、住宅屋根の雪下ろし作業中、軒先から棟に向かって作業をしていた際に、急に倒れ込み、救急搬送されたが、数時間後に心臓突然死で死亡した。	921	90	1～9
2022	1	12 ～ 14	排水溝工事現場において、被災者は、エンジンカッターを用いて、U字溝の切断を行っていた。被災者が、U字溝の切断中に、エンジンカッターがキックバックを起こし、エンジンカッターの刃が被災者の左頸部に当たり負傷した。被災者は、病院に搬送され、出血による死亡が確認された。	169	8	1～9
2022	1	16 ～ 18	河川沿いの道路護岸を補強する等の工事現場において、道路山側の上方約30m付近の斜面から目測で幅5m・長さ10m・深さ1mの堆積した雪が全層雪崩となり崩落し、道路河川側で、雪に埋もれた「丁張」をスコップで掘り起す作業をしていた2人のうち1人が巻き込まれ、約30分経過後に作業箇所約8m下方で、雪崩によるデブリ（堆積した雪）の中から他作業員により救助されたが、搬送先で死亡が確認された。	719	5	10～ 29
2022	2	12 ～ 14	被災者は、河川維持工事を行う土木現場において、敷設後のU字溝内の洗浄のため、河川の水を利用し水中ポンプ及びホースを使用した洗い流しを行ったあと、当該ホースの水流排水口側を引っ張り、河川近くのコンクリートの床上を移動していたところ、同コンクリート床が割れ、直高145センチメートル下の河川内に墜落し、河川内の石に前頭部を打ち付けた。	418	1	1～9
			再処理事業所での作業を終えて帰宅するため同僚が運転する乗用車に被災			

2022	2	18	者ほか2名の労働者が同乗し、市道を時速50キロメートルで走行中、轍にハンドルを取られて車両がスリップし、防雪柵に衝突した。その際、後部座席に座っていた被災者が車両の窓から車外に投げ出されて頭部を防雪柵にぶつけて死亡した。	231	17	10～ 29
2022	2	10 ～ 12	事業場敷地内の溶接場において、ガス溶接によりアースドリルの補強に用いる鉄材を溶断しようとしたところ、ガス溶接の炎が着衣に接触し、燃え広がったことにより、胸部以下の火傷を負ったもの。災害発生後、救急搬送され、後日死亡した。	331	16	30～ 49
2022	2	14 ～ 16	商業施設駐車場の排雪作業中、トラクター・ショベルを用いてダンプトラックの荷台に雪を積み込み後、当該トラクター・ショベルを前進させた。その際、バケットの死角に入っていた被災者に気が付かず前進したところ、当該トラクター・ショベルに対し後ろ向きで立っていた被災者の上半身にバケットの左角部分が接触し、被災者がうつ伏せの状態に倒れこみ、当該トラクター・ショベルの左側前輪に轢かれた。	141	6	50～ 99
2022	3	0 ～ 2	被災者はトンネル補修作業のため2トンダンプトラック（狭い場所でも方向転換できるようダンプをジャッキアップして反転できる装置を備付えつけた特殊車両）にモルタルを積み込み出発。後刻、積替え作業が終了し、5～10度の勾配のある作業場にて上記装置を用いダンプを反転させたところ、下り勾配上を動きだしたもの。被災者がダンプを停止させようと車両に乗り込むも、間に合わずダンプとトンネルの側壁に体を挟まれたもの。	221	7	1～9
2022	3	16 ～ 18	遊歩道上に覆いかぶさる立木（高さ約10m、胸高直径約40cm）をチェーンソーで伐倒中、追い口から約25cm程チェーンソーで切り込んだところ追い口から約3mにわたって立木が縦に裂け、折れた立木に激突され胸部圧迫による窒息等が原因で死亡した。	712	6	1～9
2022	4	16 ～ 18	除雪・融雪作業終了後、停車していたダンプトラックの荷台に作業用具を積み込む作業を行っていたところ、後退してきた凍結防止剤散布車とダンプトラックの間に挟まれた。	221	7	10～ 29
			被災者は、土場に運ぶ資材を積み込むため、当該事業場の資材置場の前			

2022	4	6 ～ 8	(傾斜地)に3 t ダンプトラックを止め、エンジンを切って、車外に出た。その直後、当該ダンプトラックが道路を逸走し始め、それを止めようと被災者が運転席に乗り込もうしたところ、ダンプトラックが壁に激突した衝撃で運転席とドアの間に被災者が挟まれ、死亡した。	221	17	10～ 29
2022	4	10 ～ 12	被災者が事業場内の資材置場にて、ドラグ・ショベルを用いて金属製の円柱型の管を吊り上げていたところ、管が運転席付近に落下し、被災者が運転席と管との間に挟まれ、心肺停止で死亡したものの。	142	4	1～9
2022	4	14 ～ 16	被災者の同僚が胸高直径40センチメートル、樹高20メートルの立木の伐倒作業中、被災者は伐倒した木の枝打ち作業を行うための準備として、チェーンソーを取りに伐倒した木が倒れる範囲に移動したところ、伐倒した立木が倒れ下敷きとなった。	712	6	1～9
2022	4	16 ～ 18	整備工場へエンジンの点検のため試運転後トラックを持っていき、車を降りて会話している際に自然に車が坂道を逸走したため、止めようと車を追いかけてドアを開け乗り込み止めようとしたが、間に合わず、トラックと一緒に地面に転落し、衝撃により地面に投げ出された。エンジンは止まっており、サイドブレーキはかけていた。車止めも車内にあった。	221	1	1～9
2022	6	6 ～ 8	クレーン機能付きのドラグ・ショベルを用いて、重量1トンのトンパック2つを吊り上げて移動させていたところ、当該ドラグ・ショベルが倒れ、近くにいた作業員(誘導員)が、トンパック及び当該バケットの下敷きとなり死亡したものの。	142	6	10～ 29
2022	6	10 ～ 12	被災者は、農業用通路を1m拡幅するための床掘作業後、オートレベラー測定作業中、既設の重力式擁壁(道路側高さ約1.5m・水田側高さ約0.7m×長さ約3.5m、天端幅0.2m)が倒れて身体を挟まれたものの。被災者の在留資格：特定技能1号	418	5	1～9
2022	6	10 ～ 12	市道について木の伐採作業中に、斜面に対して上り方向に停車していた高所作業車のフロントアウトリガーを収納したところ、車両が逸走し被災者が道路側溝と車両左後部のアウトリガーとの間にはさまれたものの。	146	7	1～9
			産業洗浄士実技試験が終わり、帰社するため社有車で高速道路を走行して			

2022	6	16 ～ 18	いる途中、気分が悪くなったためPAに寄ったところ、そこで意識がなくなり、同乗していた社員が救急車を手配し、救急搬送されたが2日後に死亡した。	715	11	100 ～ 299
2022	7	8 ～ 10	工場新設現場の基礎工事において、ドラグショベルの手元作業を行っていた被災者が突然倒れ、意識不明のまま病院に搬送されたが死亡したもの。被災日10時頃の気温は32℃、湿度は50%でWBGT値は27.3℃であったことから、当初熱中症が疑われたが、被災者のヘルメット後頭部に割れがあり、首と左肋骨（1～12番全て）に骨折、左脛に挫創が認められ、その後、死因は頭部外傷によるものと判明。	142	6	10～ 29
2022	7	10 ～ 12	被災者は、同僚と一緒に、畑の岩石を手で拾い集めて、トラクター・ショベルのバケットに投げ入れていた（徐礫作業）。当該作業を午前8時頃から開始し、小休憩を数回取りながら作業を進めた。小休憩の際、被災者がよろける等して体調の悪化が見られたことから、職長が、車内のエアコンを付け、冷却材を当てて被災者の体を冷やした。その後、痙攣している被災者を見た同僚が、救急に電話した。	715	11	30～ 49
2022	8	14 ～ 16	被災者は同僚の作業員3名と東日本大震災によって地盤が沈下したガス充填作業場の修正工事を行うため、当該作業場の地下をスコップ等で横方向に掘削し、ジャッキを設置する作業を行っていた。坑口から約9mの箇所において、地下の土砂を掘削していたところ、ガス充填作業場の基礎部にある捨てコンクリートが崩壊し、被災者がその下敷きとなったもの。その後、外傷性窒息により死亡した。	418	5	10～ 29
2022	8	8 ～ 10	被災者は、ダムの放水路付近の法面で、刈払機を用いて法面上方を向いて草刈り作業に従事していたものであるが、法面下部から水面まで約3メートル、水深約2メートルの放水路に墜落したものと推定される。被災者は放水路に沈んでいるのを発見され病院へ搬送されたが死亡したもの。	711	1	1～9
			被災者は同僚労働者と2人で草刈り機械を使用し田んぼの畦畔の草刈り作業を開始。約2時間後、2人で休憩し休憩後同僚労働者は調子が悪い草刈			

2022	8	10 ～ 12	り機械を別の草刈り機械と交換するため車で発注者宅へ向かった。残った被災者は畦畔の草刈り作業を再開。同僚労働者が作業開始から3時間後、現場の田んぼに戻ったところ被災者がいないことに気付き探したところ、その後、草刈り機械を持ったまま田んぼに倒れている被災者を発見したものの。	715	11	1～9
2022	8	12 ～ 14	雨水貯留槽設置工事において、作業が一段落したため片付けや清掃作業を行っていた。被災者は、ドラグ・ショベルの左右クローラーの間で機体に付着した土砂をスコップで除去していたところ、別の作業者がドラグ・ショベルを旋回させたため、上部旋回体と油圧ホースの金属製カバーに頭部を挟まれ死亡した。保護帽は着用していた。	142	7	30～ 49
2022	9	14 ～ 16	片側1車線の市道において、1車線を規制しながら街路樹（高さ最大7.5メートル）の剪定作業を高所作業車を使用し、労働者5名で行っていた。被災者2名が高所作業車上で手のこによる剪定作業を終え、地上に降りるため高所作業車のブームの角度を上げながら縮めていたところ、高さ12～13メートルの箇所にある高圧電線に接触し感電したものの。被災者は救急搬送後、同日死亡、もう1名は意識不明。	146	13	10～ 29
2022	9	14 ～ 16	林道に面した法面の改良工事中に発生した災害である。法面上で、2名がエアピックによる岩切り、被災者が補助（エアホース持ち）をした。岩切り作業が終わり2名は山側に撒収した。一方、被災者は、法面上で、エアホースの回収を始めた。その後、地上にいた者によって、被災者の「あっ」という声が聞かれ、地上に墜落する直前の被災者が目撃された。	711	1	30～ 49
2022	9	12 ～ 14	除草業務を請け負う現場の法面上で、被災者は一人で、機体重量350キログラムの乗用草刈機のファンの目詰まりを取り除いていた。被災者は草刈機の側に立ち、走行ペダルを手で押してエンジンの様子を確認しようとしたところ、草刈機が前進し、何らかの原因で転倒した被災者は草刈機の下敷きとなり死亡した。なお、一人作業のため災害発生状況及び発生時間は推定である。	169	7	10～ 29
			道路に隣接した集水柵に、台風15号の影響により土砂や流木等が堆積し			

2022	9	12 ～ 14	てしまったため、労働者4名で重機を用いて、除去作業を行っていた。 重機で除去可能な土砂や流木等を除去後、集水柵につながるトンネルを集水柵の反対側から労働者2名が目視で確認を行ったところ、堆積物が崩壊、鉄砲水となって、目視を行っていた労働者2名を沢の約2.5m下流まで押し流したものの。1名は死亡、もう1名は肋骨及び足の骨を骨折した。	711	5	10～ 29
2022	10	8 ～ 10	浄水場のマンガン処理施設の排水管を布設する工事において、地面をドラグ・ショベルで溝状に深さ2mほど掘削した後、露出した既設の水道管の下に排水管を通すため、溝内で2人がさらに人力で掘り下げていたところ、側壁が崩壊し、胸の辺りまで埋まった者が死亡し、腰の辺りまで埋まった者が負傷した。側壁の勾配は、ほぼ垂直であり、土止め支保工は設置されていなかった。	711	5	1～9
2022	10	14 ～ 16	公園未供用地維持管理業務において、下刈作業を同僚4名と場所割りし作業していた。そのうちの作業員一人が夕方終業時刻になっても降りてこないで、作業場付近を探したところ、草刈機は停止し、仰向けに倒れていた。病院で左肺に小竹が刺さっているのが発見された。外傷性血気胸で救助要請ができず、窒息死に至った模様。	712	2	10～ 29
2022	10	10 ～ 12	積荷の配達を終え、1トントラックを運転して国道を走行していたところ、曲線半径120メートル程度の左カーブを曲がり切れず反対車線にはみ出し、対向する大型貨物自動車と正面衝突して、全身強打により死亡した。	221	17	1～9
2022	11	14 ～ 16	支店敷地内の建屋前において、ドラグ・ショベル（機体重量1.46t）が横転し、被災者がドラグ・ショベルと地面の間に挟まれていたところが発見され、搬送先の病院にて死亡が確認されたもの。	142	7	1～9
2022	11	14 ～ 16	被災者は荷台に設置されたウインチのワイヤーロープの交換作業を行うにあたり、積載型トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして車体の下に入り込み、回転していたPTO（エンジンからクレーンの動力を取り出す装置）のドライブシャフトに、被災者の着用していた衣服が巻き込まれた状態で発見され、その後救出されたものの搬送先の病院で出血性ショックに	212	7	1～9

			より死亡したもの。			
2022	12	14 ～ 16	河川整備工事において、小型のドラグ・ショベル（機体重量約3 t）で、川沿いの通路（幅2.0 m、コンクリート舗装）を走行中、路肩から転落（約3.6 m）し、投げ出され頭部が地面（コンクリート）とドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	142	1	10～ 29
2022	12	14 ～ 16	タイヤテストコース内の法面において、チェーンソーで枯松を伐木したところ、先に伐倒した木の枝払いをしていた被災者に激突して下敷きになった。	712	6	1～9
2022	12	18 ～ 20	被災者は地盤改良作業を終え、午後、社用車の軽トラックに乗り事務所に向かった。被災者の運転する軽トラックが中央線を越え対向車の右側面に接触した後、そのままさらに対向車線に進入し、後続してきた別の対向車と正面衝突した。事故後病院に搬送されたが約2時間後に死亡したもの。	221	17	30～ 49
2022	12	10 ～ 12	委託を受けた施設の屋根の雪下ろし作業で、被災者ら作業員3名が屋根上の雪の上で雪庇を落としていたところ、乗っていた屋根上の雪が屋根を滑り出し、作業員3名は雪とともに地上に墜落したもの。墜落した作業員の1名は負傷なし、2名は生き埋めとなり救出され病院に搬送されたが死亡した。要求性能墜落制止用器具の取り付け設備はなく、同器具の着用や保護帽も着用していなかった。	415	1	1～9
2022	12	10 ～ 12	委託を受けた施設の屋根の雪下ろし作業で、被災者ら作業員3名が屋根上の雪の上で雪庇を落としていたところ、乗っていた屋根上の雪が屋根を滑り出し、作業員3名は雪とともに地上に墜落したもの。墜落した作業員の1名は負傷なし、2名は生き埋めとなり救出され病院に搬送されたが死亡した。要求性能墜落制止用器具の取り付け設備はなく、同器具の着用や保護帽も着用していなかった。	415	1	1～9
2021	1	22 ～ 24	集落の除雪を行うため、トラクター・ショベルを駐車している私有地に到着したものの、積雪が50 cmのため社用車を駐車することができなかったことから、トラクター・ショベルを使用して私有地の除雪を行い、最後に私有地の出入口付近を除雪するため後進してきたトラクター・ショベル	141	6	50～ 99

			に、何らかの理由で後方にいた被災者がひかれたもの。			
2021	1	14 ～ 16	被災者が1. 7トンドラグショベルを運転してトラックに積載しようとした際に、地上からトラックの荷台にかけていた2つのアルミ製道板のうち、左クローラー側の道板が荷台から外れ、ドラグショベルが横転してキャノピ鉄支柱の下敷きとなった。	142	1	1～9
2021	1	16 ～ 18	事業場所有の普通貨物自動車に同僚1名を乗せて退勤中に、県道を走行中に道路を外れ、道路沿いのガソリンスタンドの外壁に衝突したもの。なお、被災者は事業場所有の普通貨物自動車を貸与され、同僚1名の送迎を事業場より指示されていたもの。	231	17	30～ 49
2021	1	10 ～ 12	浄化槽埋設のため地山を掘削し、ドラグ・ショベルでコの字型に3面を土止め用鋼矢板の打設をしたが、1面の鋼矢板が前に傾いてきたので、明り堀坑内で2名で一旦鋼矢板を外し、スコップで地ならしを行っていたところ、鋼矢板を外した地山が崩壊し、1人が膝まで、1人が背面から全身生き埋めになり、13分後に顔、37分後に全身を出して救出したが、外傷性窒息で死亡した。腹起し、切梁は未設置であった。	711	5	10～ 29
2021	2	12 ～ 14	土木施設維持管理業務の現場において、伐倒者が二又の立木（偏心した広葉樹、樹高22m、胸高直径30cm）をチェーンソーで伐倒しようと追いつけなかったため、対処方法を検討するまで一時的に当該立木を放置していたところ、何らかの要因により当該立木が倒れ、付近で玉切り作業をしていた被災者の背中に当該立木の枝（長さ7m、直径6cm）が当たったもの。	712	6	30～ 49
2021	2	14 ～ 16	豪雨により崩落した林道の復旧工事にて、法面でロープ高所作業を行っていた被災者2名に崩落した地山の一部が落下したもの。災害発生時、被災者2名はロープ高所作業により法面の整形（軟岩破碎）を行っていた。被災者らの上方に位置する地山の一部が崩落し、崩落した土砂や岩が被災者らに落下して負傷した。1名はその後、搬送先の病院で死亡した。	711	4	10～ 29
			沖合の波浪観測装置の設置及び撤去工事において、約160mの海底ケーブルを海底に固定するため、陸から約37mの位置で3次下請の労働者3			

2021	2	12 ～ 14	名がスクーパー式潜水方式により潜水作業を行っていたところ、労働者1名が浮上してこないことから、水面より辺りを捜索すると、深さ約8～9mの位置で仰向けの状態で動かない労働者を発見し、病院へ搬送したものの、搬送先の病院で死亡が確認された。	714	12	10～ 29
2021	2	16 ～ 18	公園改修工事における公衆トイレ（重量約10トン）の設置に伴い、当該トイレをコンクリート基礎場へ曳家作業中、地盤が崩れたことによりトイレ本体が傾倒したことで、被災者がトイレと地盤の間に挟まれ死亡した。	418	5	1～9
2021	3	14 ～ 16	林道内山線をロータリー除雪車で除雪していた際、路上の倒木を巻き込んだことによりロータリーオーガのピンが破断したため、車外で交換作業を行っていたところ、突如当該ロータリー除雪車が後進し、左側前後輪が路面から脱輪して法面下に横転したことにより、止めようとした被災者が車両の下敷きとなり死亡したものの。	149	6	1～9
2021	3	0 ～ 2	新型コロナウイルス感染症による。他の労働者において新型コロナウイルスへの感染が判明したことから、PCR検査を行い、翌日に陽性反応が確認された。以降、医療機関で入院加療中であったが、死亡が確認されたものの。	911	90	10～ 29
2021	3	10 ～ 12	ダム取水口付近の沈木引揚げ工事現場において、水中調査のため2人で潜水（フーカー式潜水）作業中、1人が溺れた。	379	10	100 ～ 299
2021	3	8 ～ 10	個人所有の納屋（木造）の解体作業に従事していたところ、倒壊した納屋の屋根部分の下敷きになり死亡した。納屋の東側の柱は被災者が切断しており、倒壊のおそれが高まっていた。なお納屋の解体は庭木の剪定に付随して発注者から依頼されていたものの。	418	5	1～9
2021	3	8 ～ 10	建売住宅建設現場において躯体周りに土入れする作業を予定していた土木作業員が、残土搬入車両（ダンプトラック・積載荷重300kg）の後方で意識不明、呼吸停止の状態であっていた。病院搬送後、死亡が確認された。外傷は認められず、首骨第3関節にずれが生じていた。	999	99	1～9

2021	4	16 ～ 18	擁壁の石積作業終了間際に被災者が擁壁頂部端部より作業箇所を確認中、旋回したドラグショベルの後端部に被災者が接触し、擁壁から転落した。	142	6	1～9
2021	4	12 ～ 14	被災者は、市道に駐車していた事業場の車両（トラック、最大積載2t）のタイヤ交換のため、車両の位置を動かそうとしたがキーがなかったことから、1人で車輪付きのジャッキを使用し車両を動かそうと車体前方を持ち上げた際に、坂道に駐車されていたため車両が動き出し、車両に轢かれ下敷きとなり死亡したものの。	221	7	10～ 29
2021	5	14 ～ 16	被災者は同僚とともに会社所有の圃場で材料の検査を行い、同僚と車で移動中に車内で打ち合わせ、翌日会議室で打ち合わせを行った。同僚が新型コロナウイルスに感染していることが判明し、後日、被災者も感染が判明し入院加療中であったが死亡したものの。	911	90	1～9
2021	5	16 ～ 18	工場の増築工事において、ドラグショベルの手元作業を行っていた被災者が、掘削作業中に出てきた埋設管を取除くため、ドラグショベルに近づいた際にドラグショベルが旋回したため、バケット部分に激突され、さらに近くに停車中のダンプカーとの間に挟まれたものの。	142	6	30～ 49
2021	6	6 ～ 8	トラック荷台に積んであるドラグ・ショベルを被災者が運転して地上に下ろす作業中、運転を誤ってドラグ・ショベルごと転落し、ブームの下敷きとなり死亡したものの。	142	1	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	集水柵を設置するため、地盤面から2.1m床掘りした後、被災者ほか1名で土止め壁を設置していたところ、土止め壁が設置されていない掘削面から埋設物となっていたコンクリート殻が落下し、被災者を直撃したものの。	711	4	10～ 29
2021	6	10 ～ 12	被災者は、他作業員6名（役員2名含む）と、民有林において、当日までに伐木した木の枝払をチェーンソーで行っていたところ、作業区域に接していた立木が根むくれを起し倒れ、当該木に激突された。災害当時は、強風が吹いていた（気象庁の記録によると、災害発生時刻の現場周辺の平均風速は、8.4m/s、瞬間最大風速は、15.9m/s）。なお、役	719	6	10～ 29

			員1名も近くで作業しており、同様に被災して死亡した。			
2021	6	8 ~ 10	既存の自動カート誘導路の狭隘・急傾斜部分の改修工事において、高所作業車（伸縮ブーム・バスケット・トラック型、1次下請がリース）に1次2次下請各1人が乗り込み、ホール付近の誘導路拡幅予定箇所の樹木をチェーンソーを使って伐採中、樹木と反対方向にあった鉄道の送電線（6万6千V、推測高さ8.4m）にバスケットが触れ2人とも感電死した。	146	13	1~9
2021	6	8 ~ 10	既存の自動カート誘導路の狭隘・急傾斜部分の改修工事において、高所作業車（伸縮ブーム・バスケット・トラック型、1次下請がリース）に1次2次下請各1人が乗り込み、ホール付近の誘導路拡幅予定箇所の樹木をチェーンソーを使って伐採中、樹木と反対方向にあった鉄道の送電線（6万6千V、推測高さ8.4m）にバスケットが触れ2人とも感電死した。	146	13	1~9
2021	6	14 ~ 16	用水路に沿って小型特殊農耕用トラクターを走行させ草刈作業を行っていた際に、トラクターが用水路側に横滑りしたため、ハンドルを切って元の位置に戻ろうとしたが、操縦席のある前方が用水路反対側を向いたことで、トラクター後方に取り付けられたモア（草刈り機用アタッチメント）が用水路に飛び出し、モアの重量を支えられずに、反転する形で用水路に転落した。	169	1	30~ 49
2021	6	8 ~ 10	コンクリートケーソンに引っかけた足場において、型枠材を固定する作業などを3名で行っていた。1名（作業員A）はケーソン上部で作業し、2名は足場上で型枠を固定していたところ、足場が倒壊し海上に落下した。足場上で作業していた2名のうち1名は足場とともに海中に沈み溺死した。もう1名（作業員B）は隣接した型枠足場に飛び移り被災しなかった。ケーソン上部で作業していた作業員Aは海上に墜落したが救出された。	411	10	10~ 29
2021	7	16 ~	被災者は、同僚ら4名とともに河川敷の草刈り作業を行っていた。被災者は他の労働者から少し離れた位置で大型の草刈り機（長さ約2.5m、幅約1.7m、高さ約1.3m）を運転していたが、終了時刻になっても戻らなかったため、同僚が被災者の様子を確認に行ったところ、機械の後方	169	7	1~9

		18	で下敷きとなった状態で発見された。解剖の結果、被災者は胸部圧迫により窒息死したことが確認された。			
2021	7	12 ～ 14	工事現場内において、材料空き袋の片付け等の軽作業に就いていた被災者が、昼休憩に入る際に体調不良を訴えたため、社有車内で身体を冷やすなどしていた。しばらくして呼びかけに反応がなくなったため、社有車で近隣の病院へ搬送後、ドクターヘリで総合病院に移送され、数日後に熱中症による多臓器不全で死亡したものの。	715	11	10～ 29
2021	7	12 ～ 14	民間発注の擁壁の改修作業に従事していた一次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したものの。同社の事業主が、具合が悪そうな様子の被災者を現場近くの民家の玄関前で休憩させていた。数時間後、同社の事業主が、被災者に声をかけて頬を叩いたが、意識がなかった。その後、被災者は、救急搬送されたものの、同日中に死亡した。	715	11	1～9
2021	7	10 ～ 12	民家敷地にコンクリート製擁壁を設置する工事現場において、車両積載型トラッククレーンが、荷の積載作業が終了した後、傾斜した道路を無人で後退して道路脇のガードレール等に衝突し、巻き込まれた被災者が発見されたものの。	221	7	10～ 29
2021	7	14 ～ 16	被災者含む4名で市道の維持作業のため、道路沿いを手押し式草刈機で草刈り作業中、被災者が作業をしながらふらついていたため、近くに停車していたパッカー車の車内で冷房をつけて休憩をさせていたところ、被災者の意識が朦朧となったため、救急車を要請、病院に搬送されたが熱中症により死亡したものの。	715	11	10～ 29
2021	9	14 ～ 16	被災者は、道路沿いの法面災害復旧工事現場において、地上高さ約14mの場所で、金網にロープを接続して身体を保持した状態で落石防止金網の復旧作業を行っていたところ、当該ロープが破断したことにより地上に墜落。その際、地上に置かれていた一輪車の持ち手部分が被災者の頸部に突き刺さり、頸髄損傷により死亡したものの。このとき、メインロープから身体保持器具の接続機器が取り外されていたものの。	379	1	10～ 29

2021	9	8 ～ 10	豪雨災害復旧工事現場において、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）で、栗石を詰めたネット（重さ1.7トン）をつり上げて旋回中に、当該積載型トラッククレーンが助手席側に倒れ、操作者が地面との間に挟まれたもの。	212	7	1～9
2021	9	14 ～ 16	港近くの被覆ブロック（30トン型）製作ヤードにおいて、被災者が、鋼製型枠固定用ボルト穴の調整のため、高さ1.74mの可搬式作業台上で、長さ83cmのシノを固定用ボルト穴に差し込み穴の調整を行っていたところ、何らかの原因で当該作業台から墜落し、その際、持っていたシノの先端の尖った部分が右わき腹に刺さり被災した。被災者は、救急車で病院へ運ばれたが死亡した。	371	1	1～9
2021	9	14 ～ 16	土石流災害の復旧及び捜索活動において、作業箇所付近にあった穴を塞ごうと、0.022立方メートルのドラグショベルを用いて、80×60×10cmのコンクリート床板のがれき（重量120kg）を移動させようと、バケットにワイヤーでくくりつけ、旋回したところバランスを崩し2m下の川に転落、被災者の上にドラグショベルが落下し、骨盤骨折による失血性ショックにより死亡した。	142	1	1～9
2021	9	16 ～ 18	農協の支店建築工事の駐車場舗装工事現場において、現場西端部のコンクリート擁壁上を歩いていた被災者が、何らかの原因でバランスを崩して1.3m下の休耕田に墜落した。災害発生直後は意識があったが、その後容体が急変し、収容先の病院で死亡した。	418	1	10～ 29
2021	10	8 ～ 10	発注者の担当者2名が現場確認をする様子を、現場代理人が写真撮影しようとして、後ろ向きに下がったところ、下請労働者の運転するドラグショベルが後退しており、右履帯の後方に左足膝下を轢かれた。	141	7	1～9
2021	10	12 ～ 14	法面工事に伴う岩石の運搬作業を、モノレールを使用して行っていた被災者が、法面上部の作業場所から岩石をモノレールに載せて、法面下部の市道近くにある岩石の荷下ろし場に向かってモノレールで降りて行った。この際、工事現場を訪れた当事業場の課長が、牽引車下部の下バンパーと、レールの支柱の間に頸部をはさまれていた被災者を発見した。	229	7	50～ 99

2021	10	12 ～ 14	林道脇の土砂崩壊地の災害復旧工事で法面に吹き付ける培養土が入ったフレコンバッグを、横付けした2機の移動式クレーン間で移し替えていたところ、地上1.2mの荷台上で玉掛作業に従事していた被災者が地面に墜落し、頸椎骨折で災害発生当日に死亡した。	212	1	50～ 99
2021	10	12 ～ 14	パワーショベルで型枠に生コンクリートを打設する作業を行っていた。当該機械の運転者が途中で代わり、運転操作パターンを自分に合った「モード」に手動で切り変えた。バケットに生コンクリートが入っていなかったため、代わった運転者が機械のアームを手前に動かそうとレバーを操作したところ、思っていた方向とは逆に動き、バケットの前方にいた被災者に当たり、バケットと背後の法面に挟まれ死亡した。	142	6	10～ 29
2021	11	14 ～ 16	擁壁下部地盤改良工事の打設終了後の1t練りコンクリートミキサー内部を清掃中、プラント作業員がミキサーの羽根に巻き込まれ死亡。	162	7	10～ 29
2021	11	8 ～ 10	水道管の敷設工事を行う現場で、代表者の運転するドラグ・ショベルが道路の掘削作業を行う際に後進したところ、被災者が当該ドラグ・ショベルにひかれ死亡したもの。	142	7	1～9
2021	11	16 ～ 18	伐採作業中に、移動式クレーンに設置された搬器に乗り、高さ16.2mの位置でチェーンソーを用いて伐採を行っていたところ当該搬器より墜落し同日死亡したもの。	212	1	1～9
2021	12	10 ～ 12	水路補修工事において、地中の管の撤去のために約1.6メートル掘削した底で被災者が作業をしていたところ、側面の土壁が、幅：約5メートル、高さ：約1.6メートル、奥行：約0.2メートルにわたって崩壊し、足の膝付近まで埋まり、土砂で体が押されて胸部が管に激突したものの。	711	5	1～9
2021	12	14 ～ 16	建設会社の資材置き場において、動力機械等の燃料とするガソリンを入れたドラム缶の保管場所で火災が発生し、その付近で熱傷を負った被災者が発見され、医療機関に搬送されたが、翌日死亡した。	512	16	1～9
			チェーンソーを用いた伐木作業において、被災者が雑木を谷側に倒そうと			

2021	12	10 ～ 12	追い切りを行っていたところ、木が裂け上がり、伐倒予定方向と直角の位置にいた被災者の方向に倒れてきたため逃げようとしたが、逃げきれず被災者の後頭部を直撃したもの。	712	6	1～9
2020	1	14 ～ 16	土止支保工部材（H鋼を連結したもの）の小バラシ作業をしていたところ、移動式クレーンにてつり上げ中であったプレートが同部材の下（地面が砂利に覆われていたため、隙間があった）に入り込んだことにより同部材が被災者側に倒れ、隣接の土止支保工部材との間に挟まれた。	212	7	10～ 29
2020	1	16 ～ 18	橋梁の耐震補強工事において、河川内の「締め切り盛土」の天端部分（高さ約2.5m、幅員2.5～2.9m）を、振動ローラー（車両幅1.3m）で締め固める作業を行っていたところ、振動ローラーが路肩から転落した。路肩の下は勾配約33～34度の法面となっており、振動ローラー転落時に同ローラーを運転していた被災者が投げ出され、その後同ローラーが被災者の体上部を通過し、胸部を圧迫されたもの。	144	1	10～ 29
2020	1	12 ～ 14	被災者は、バックホーをトラック荷台に乗せて災害発生場所に移送した。そして被災者は、バックホーを操作してトラック荷台から地上に降ろそうとしたところ、荷台に掛けた2本の道板のうちの1本がはずれてバックホーが横転したため運転席から投げ出され、付近にあった立木とバックホーに挟まれたもの。	142	2	10～ 29
2020	2	8 ～ 10	敷地内資材置場において、代表取締役がドラグショベルを操作し残土処理の作業をしていた際に、ドラグショベル後方に被災者がいることに気が付かずそのまま後進し、ダンプトラックとドラグショベルの間に挟まれ受傷したもの。その後入院し、加療していたものの、後日、嘔吐し、誤嚥性肺炎により死亡した。	142	7	1～9
2020	2	12 ～ 14	被災者の所属事業場が受注した砂防堰堤工事の現場に通じる山林内の坂道において、被災者がドラグ・ショベルの下敷きになって倒れているのを、昼休憩を終えた同僚が発見したものである。被災者は救急隊により心肺停止状態で救出されたが搬送先の病院で死亡が確認された。	142	1	1～9

2020	2	14 ～ 16	杭打機の売却に備え、輸送時標準仕様（リーダーを倒した状態のまま）への組立中、リーダー下部（下端から約2mの位置がヒンジ式で折れ曲がる構造）を折って接地しジャッキ固定後、オーガーマーターをリーダー下部に取付け、リーダー下部を地面と水平に戻すため運転手がジャッキ解放操作をしたところ、リーダー下部が大振幅で揺れ、被災者の胴体に激突したものの。	143	6	50～ 99
2020	3	14 ～ 16	倒木をチェーンソーで木の先端から約2mずつに玉切りを行っていた。最後の玉切りの際、根株部分の土の塊の重みで幹部分が地面から浮き上がり不安定な状態になったため、根株部分をグラップルで押さえて、幹部分が地面から33度に傾いた状態で根株近くを玉切りしたが、切り口が離れな	712	4	1～9
2020	3	14 ～ 16	いたため、切り口を確認しようと作業員が倒木の下方に入ったと同時に、切り口部分で折れ倒れてきた幹（長さ230cm）の下敷きとなり被災した。	712	6	1～9
2020	3	14 ～ 16	被災者は、チェーンソーにより伐木作業を行っていたが、かかり木がかかっていた木を伐倒したことにより、倒れてきたかかり木が被災者に激突したものの。	712	6	1～9
2020	3	12 ～ 14	工事現場での作業が午前中で終了したため、小型トラックに2人が乗車し、工事現場から会社に戻る途中、国道を走行中にゆるい左カーブで道路右側にはみ出し、橋の欄干に激突して道路脇の沢にトラックごと転落した。助手席に乗っていた労働者が死亡し、運転者が軽傷を負った。	221	17	1～9
2020	3	10 ～ 12	被災者は、駐車場修繕工事で使用するアスファルトを購入するため、工場のアスファルト出荷用ホッパー付近の駐車場に2tダンプトラックを駐車させていたが、午前中、被災者は、トラック助手席側後方付近の路面に仰向けで倒れている状態で発見された。	221	1	1～9
2020	4	12 ～ 14	新型コロナウイルス感染症により死亡したものの。	911	90	30～ 49
			機体重量2.56トンのドラグ・ショベルを用いて、工事用通路に仮設し			

2020	4	8 ～ 10	ていた養生鉄板の撤去作業を行っていた。重量513キログラムの鉄板をつり上げ旋回したところ、ドラグ・ショベルを運転していた被災者が深さ約4m下の沈砂池にドラグ・ショベルごと墜落した。ドラグ・ショベルには、クレーン機能が備えられていた。	142	1	30～ 49
2020	4	12 ～ 14	調整池の底部に設置した排水用のポリエチレン管（直径38cm）に着衣が吸い込まれおぼれた状態の被災者が発見された。被災当時、降雨で調整池の水かさが増したため、被災者はひとりで調整池の水を抜く作業を行っていた。（被災当時、調整池の深さ約1.8m、水位約1.5m）	713	10	30～ 49
2020	5	14 ～ 16	山中にて治山工事中、被災者はドラグショベルを運転し斜面を下ろうとした。被災者はドラグショベルのバケットを斜面下方に接地させ突っ張りとした後、斜面下方に向かってキャタピラを前進させたところ、ドラグショベルが左斜め前に前転するように斜面を転落し、ドラグショベルの下敷きとなった。なお、救助された時点で被災者はシートベルトを着用していなかった。	142	1	30～ 49
2020	5	12 ～ 14	被災者を含む2名で、小学校の校庭にあるケヤキ枯損木の枝打作業を行うにあたり、木にはしごをかけ、被災者が木に登ってチェーンソーで枝打していた。午後の作業が開始されたところ、腹部から出血した被災者が救助を求めて木の途中でうなだれていたため、もう1名が救急車を呼び、被災者は第二日赤に搬送されたが、同病院で死亡が確認されたもの。	136	8	1～9
2020	6	16 ～ 18	建設現場における作業を終え、事業場に戻るため社有車（軽トラック）を運転して走行中、左脇に設置してある防雪柵に衝突した。	221	17	10～ 29
2020	6	10 ～ 12	太陽光発電建設の造成工事で、掘削した岩石を土嚢袋に入れて、ドラグショベルで敷地内の側溝に搬出していた。被災者は岩石を入れる土嚢袋を広げる作業を行っていたが、被災者の判断で空の土嚢袋の上に仰向けで寝てその上に空の土嚢袋を掛けていたところ、それを知らなかった運転者が、土嚢袋が風で飛ばないようにバケットで押さえようとしたところ、その下にいた被災者に激突して死亡した。	142	6	1～9

2020	6	12 ～ 14	被災者が既存の法面で下刈り作業中に、左手甲を蜂に刺された。被災者は刺された後、法面天端まで移動して様子を見ていたが、ショック状態になり意識を喪失。被災者は、その後病院に搬送されたが、同日中に死亡が確認された。なお、被災者は、蜂に刺された時、1か月前にも刺されていたと同僚に話していたもの。	719	90	1～9
2020	8	16 ～ 18	法面保護工事に伴う落雪等防止用擁壁工の築造工事において、被災者が現場横の斜面にある湧水管を確認しようと斜面に登る途中で足を滑らせ、転落した。	711	1	1～9
2020	8	16 ～ 18	駐車場から土場の事業場事務所まで徒歩にて移動中、ガード下の横断歩道で右折トラックに跳ねられ、死亡したもの。	221	17	10～ 29
2020	8	12 ～ 14	公園運動場の水害による汚染土壌を掘削する工事現場において、被災者は、トラクター・ショベルを運転して、小高く盛られた地山に掘削残土を運んでいたところ、地山の肩からトラクター・ショベルごと転落し、翌日、死亡したもの。	141	1	1～9
2020	9	16 ～ 18	道路施設設置工事で使用していた4 t ダンプトラックをリース会社に返却するために県道を走行していたところ、何らかの原因でトラック左車輪が側溝にはまり、側溝から抜けるために右方向へハンドルを切った先に勢い余って反対車線のガードワイヤーを突き破り、崖から約37メートル墜落したもの。	221	17	1～9
2020	9	10 ～ 12	被災者である作業主任者（指揮者）は、災害発生当日、掘削した溝（深さ約1.7m）の中に入り、墨出しレーザーで墨出し作業を行っていたところ、重さ約10トン（横20m、縦1.4m、厚さ0.15m）の擁壁がほぼ垂直に落下（約2.2m。）し、その後、被災者側に倒れたもの。	418	5	10～ 29
2020	10	16 ～ 18	被災者は、事業場の倉庫1階にある型枠を2階に床上操作式クレーンを用いて片づける作業を行っていた。被災者は、同倉庫2階中央付近の床面にある開口部（194cm×150cm）から高さ3.67m墜落したものの。	414	1	1～9

2020	10	12 ～ 14	のり面の草刈り作業中、ハチに右上腕部を刺されたもの。	719	90	1～9
2020	11	8 ～ 10	工事現場において、被災者が移動式クレーンを用いてユニック車を吊り上げて旋回したところ、移動式クレーンが傾き、転倒した。移動式クレーンは擁壁にもたれかかる形となったため、運転席は移動式クレーンの車体と擁壁に挟まれて押し潰され、運転席にいた被災者は死亡したもの。なお、アウトリガー脚部の接地箇所1か所が沈下しており、当該沈下により車体のバランスが崩れたものである。	212	2	10～ 29
2020	12	12 ～ 14	被災者は、道路工事現場で作業中、通行中の大型トラックに轢かれ死亡した。大型トラックは、道が狭いため後進で走行している最中、工事現場にさしかかったところで、大型トラックの後部で被災者を轢いたもの。	221	17	1～9
2020	12	16 ～ 18	道路の除草作業が終了したので、退勤しようと迎えに来ていた車両に移動しようと傾斜約40度の法面を駆け上がろうとしたところ、転倒して側溝に転落し頭部を負傷し、頭部外傷により死亡したもの。	711	2	1～9
2020	12	14 ～ 16	被災者は垣根の剪定作業を行っていたところ脚立から用水路（水深17cm）に転落し、死亡したもの。なお、被災者は保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
2020	12	16 ～ 18	改修工事において、鋼矢板を使用した基礎工事を行うため、労働者3人により鋼矢板（重さ約650kg）をバイブロハンマーで打込んでいた。被災者は打込み作業中に、状況を確認しようと溝に降り立ったところ、事前に設置していた土留め用の軽量鋼矢板（重さ約100kg）が被災者の背中に倒れ、鋼矢板の上端と軽量鋼矢板の間に胸部を挟まれたもの。	419	5	10～ 29
2020	12	2 ～ 4	深夜、道路の除雪作業のため自宅から除雪作業に使用する除雪ドーザー駐車場所に向かう旨を連絡した後、被災者は行方不明になった。同日夕方頃、工場敷地内で倒れている被災者を発見された。被災者は、道路脇に駐車した自家用車から歩除雪ドーザー駐車場所に向かっている途中であっ	715	11	1～9

			た。			
2019	1	20 ～ 22	建設現場からダンプトラックを運転して会社事務所に帰社途中、片側3車線の高速道路を走行中、前方車を追い越そうと車線変更し、追い抜いて第一走行車線に戻った直後、側壁に接触し、その弾みで右側の中央分離帯に衝突、助手席の同乗者がフロントガラスを破って車外に放り出され、全身を強く打ち死亡、ダンプトラックの運転者も負傷した。	221	17	1～9
2019	1	10 ～ 12	道路片側一車線を作業帯としてのり面に雪流れ防止柵を設置する工事に おいて、移動式クレーンのオペレーターがクレーン作業を一時中止し、待機 していた際、コンクリート擁壁（短手方向、87cm）に仮置きしていた 重量約2.1tの削孔機（幅90cm、）が落ちて、コンプレッサと削孔 機の間 にいた被災者が頭部を挟まれ、死亡したもの。	418	5	10～ 29
2019	1	8 ～ 10	宅地造成現場において、ドラグショベルで掘削された幅約1.2m、深さ 約1.9mの溝の中に入り、汚水管の設置作業を行っていたところ法面が 崩壊、逃げようとしたが腰部分まで土砂で埋まり、同僚に助け出され病院 に運ばれたがその後死亡したもの。	711	5	1～9
2019	3	8 ～ 10	現場敷地内にて車両系建設機械をトラックに積み込むため、トラック荷台 と地面との間に2枚の道板を架け渡し、車両系建設機械が自走してトラッ ク荷台に移動していたところ、片側の道板が外れ、これにより車両系建設 機械が転落した。転落箇所のすぐ横に車両積載型トラッククレーンが仮置 きされていたため、運転席の被災者は当該トラッククレーンの荷台と自身 が操作していた転落した車両系建設機械の間に頭を挟まれて死亡した。	416	1	1～9
2019	3	12 ～ 14	削孔機を使用して法面にアンカーボルトを施工する工事で、被災者と同僚 が足場上の削孔機を移動させる作業を行っていたところ、移動中に削孔機 が転倒した際に、削孔機が被災者の胸部に激突した。救急車で救命救急セ ンターに搬送されたが後日死亡した。	149	6	1～9
		10	急傾斜地における災害復旧工事において、胸高直径約48cmの檜の木を 伐倒するため、被災者は、梯子を使用して、約7.3m付近まで登り、2 股の一方の幹にロープをくくり、当該ロープに被災者が着用した身体保持			

2019	4	～ 12	器具を取り付けて身体を支え、もう一方の幹をチェーンソーで切っていたところ、ロープが幹から抜け落ちたため、墜落し約14m下まで斜面を転落し死亡したもの。	712	1	1～9
2019	4	～ 10	資材置き場において、杉の木を伐採する前処理として枝の剪定を、専用の搭乗設備を装着した移動式クレーン（定格荷重2.9トン）を使って行っていた。作業がひと段落し、地上に降りるため、被災者がリモコンを操作し下降していたときに、枝が被災者にあたり、被災者が搭乗設備から約10メートル下に墜落したもの。	212	1	10～ 29
2019	5	～ 16 18	被災者が、トラックの荷台上の伐木5本（直径34センチから50センチ、長さ2.5メートルから4.1メートル 総重量1750kg）を地面に下ろすため、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重：2.9トン）を操作し、伐木5本を一度にワイヤーで一本吊りし、1mほど垂直に持ち上げた後、ブームを旋回中、伐木がトラックのあたりを超えた直後に玉掛をしていたワイヤーが切れ伐木が被災者に落下し死亡したもの。	149	4	1～9
2019	6	～ 10 12	被災者と同僚作業員1名で、重機及び資材置き場を確保するために立木の伐倒を行っていたところ、被災者が使用していたチェーンソーが追い口に挟まったため、替えのチェーンソーを使用して立木の一部とともに挟まったチェーンソーを取り外した。その後、引き続き替えのチェーンソーを使用して追い口切りを再開したところ、突然樹幹が垂直方向に割れ、割れた樹幹の端部が被災者の腹部に激突し、搬送先の病院で死亡したもの。	712	6	10～ 29
2019	7	～ 10 12	市道（傾斜路）において、被災者と同僚3名で法面の除草作業を行っていた。その際、刈り取った草を被災者がパッカー車に積み込むため運搬していたところ、何らかの原因で停車していたパッカー車が動き出し、当該パッカー車に被災者がひかれて死亡したものである。	221	7	1～9
2019	7	～ 12 14	作業員3名で、幅1.2m弱、深さ1.6m弱の用水路脇の草刈り作業を行っていたところ、水路の中でコンクリート床の一部（コンクリートブロック：幅0.4m×長さ1.9m×厚さ0.16m、重さ約280kg）	418	5	1～9

			g) の下敷きになった被災者を発見した。死亡原因は脳挫傷であった。			
2019	7	14 ～ 16	浄水場において、変電所から電源を供給するためのケーブル等を格納するダクトを原水管（直径2800ミリ）の下部にアンダーパスとして施工するため、深さ約6m付近で掘削作業を行った。被災者は原水管を支える受台コンクリートの下側に矢板を設置するため、受台コンクリート下側をはつる作業をしていたところ、同コンクリート（重さ約6トン）が落下し、被災者の頭部に当たったもの。被災者は技能実習生	418	5	10～ 29
2019	8	8 ～ 10	送電設備（鉄塔）の組立工事に係る付帯業務として、被災者は保安伐採（支障木）を行っていた。被災者は、チェーンソーにより伐木作業を行っていた。被災者が立木（クリの木、樹高約18メートル、胸高直径約45センチメートル）の下敷きとなっている状況を、付近で作業していた労働者が確認。救急搬送されたものの、死亡した。	712	6	1～9
2019	8	10 ～ 12	ダムの上で草刈り後の草の集草作業をしていたところ、被災者が斜面から墜落（6m程度）したものの。	711	1	1～9
2019	9	12 ～ 14	ロープ高所作業による法面の既設モルタル撤去作業において、法面上部箇所から取り外した時、高さ約15mの地点から滑落したものの。災害発生時、被災者が身に付けていた身体保持器具は、ライフラインに接続されていなかった。	711	1	30～ 49
2019	10	8 ～ 10	道路脇の法面上部の斜面で破碎した岩石を法面から道路上に下ろす作業を行い、同僚に休憩することを告げ、当該法面上部の斜面で休憩していたところ、高さ約10メートル下の道路に墜落し、同日脳挫傷により死亡したものの。	711	1	1～9
2019	10	12 ～	井戸掘削のため、直径15cm深さ150mのボーリング予定のうち75mまで掘削したところで、地中に入れたボーリングロッドを一旦引き抜いてレールに搬出し休憩に入ろうとした。その時、ボーリングマシンを設置していた箇所の約5m四方の地盤が4m程真下に陥没したため、作業員2	711	5	1～9

		14	名と事業主が、地盤とともに落下して土砂に埋もれ、作業員1名の窒息による死亡が約1時間半後に確認された。			
2019	10	12 ~ 14	市道の街路樹（楓、樹高約8メートル、胸高直径13.37センチメートル）に登り剪定作業をしていたが、墜落防止用のロープをかけていた幹が折れ、地面まで墜落した。幹が折れた位置の高さは4.5メートルで、直径は8センチメートル。安全帯を使用していたがフックは幹が折れた箇所よりも高い位置にかけていた。	712	1	1~9
2019	10	14 ~ 16	管水路工事現場において掘削構内でのマンホール据え付け作業中に法面の一部が肌落ちし、労働者の下半身が埋まって被災したものの。被災労働者は被災当初左脛部の複雑骨折、骨盤の骨折の症状であったが集中治療室に入っており、容態が急変した結果死亡したものの。	711	5	10~ 29
2019	11	0 ~ 2	つり足場において、被災者が常務の補助作業（手元の照射）をしていたところ、被災者のいた箇所から1.2m離れた位置にあった作業床の端（幅1.6m×1.4mの開口部）から川に墜落し、溺死したものの。	713	10	10~ 29
2019	11	12 ~ 14	ダムの洪水吐右岸側の排水管の敷設工事において、擁壁の上に設置されていた墜落防止用の手すり（単管パイプ）を解体していたところ、手すりとともに12m下の洪水吐の孫ダム水路（コンクリート製、当時水深約30cm）に墜落し、被災した。	418	1	10~ 29
2019	11	14 ~ 16	ソーラー発電所建設工事現場において、台風で崩れた法面を復旧するため、不整地運搬車で土砂を運んでいた被災者が、当該法面の上方の路肩から転落し、当該運搬車の下敷きになり死亡したものの。被災者が運転していた不整地運搬車は最大積載量990kgであった。被災者は、調査時の資料によると特別教育を受けていない。	227	1	1~9
2019	11	16 ~ 18	農地の用水路改修工事において、用水路の基礎生コン打設のため不整地運搬車に生コンを積んで打設箇所まで運ぶ作業を行っていた被災者が、6回目の打設のため不整地運搬車を運転して生コンが積まれた3tダンプの方まで向かったが、時間が経過しても打設箇所へ生コンが運ばれてこなかつ	227	1	10~ 29

			たので、他の作業者が3 t ダンプの方に確認に行ったところ、路肩から約3.5 m下に転落した不整地運搬車の下敷きになった被災者を発見した。			
2019	11	8 ～ 10	自動車道下り線片側2車線のうち、1車線（追越車線）を規制し、植栽・ガードレールのメンテナンス作業を行っていたところ、カラーコーンで区切られた規制範囲内に進入したトラックに被災者がはねられたもの。被災者は病院に搬送されたが死亡が確認された。	221	17	100 ～ 299
2019	11	8 ～ 10	被災者が4 t ダンプカーを運転していたところ、橋の欄干に追突し、ダンプカーごと橋から転落し死亡した。	221	17	1～9
2019	12	10 ～ 12	会社の資材置場の敷地において、作業員（移動式クレーン運転士）がホイールクレーン（つり上げ荷重25 t）を使用し、クレーン前方向右側にあった鉄製バケット（約100 kg）をトラックに積み込むため当該バケットの位置までブームを伸ばした際、クレーン前方向右側に転倒し、ブーム先が当該バケット付近にいた被災者（玉掛者）に激突したもの。転倒時のブーム長さ約16.5 m、傾斜角約27度、作業半径約13 mであった。	212	6	10～ 29
2019	12	8 ～ 10	橋台等の補修工事において、橋桁の下にベントを組み立てるため、25 t クレーンでベント2節目（高さ7.8 m、重量約3 t）を降ろした後、被災者は油圧ジャッキを入れてベントの高さを調整していたところ、当該ベントが倒れ、下敷きとなったもの。	419	5	1～9
2018	1	10 ～ 11	河川改修工事において、溝壁の土止め壁に用いていた鉄板（横152 cm、縦303 cm、厚さ2.4 cm、推定重量800～900 kg）の位置を調整するため、ドラグショベル（クレーン機能付き）で吊り上げて移動させ、玉掛けをしたままで地面に立てていたところ、クランプ（一本吊り）から鉄板が外れたために鉄板が倒れ、近くにいた被災者が鉄板の下敷きになった。	372	4	1～9
			被災者は、平屋の児童館の屋根上（片流れ屋根）において除雪業務を行っていたところ、屋根の雪と一緒に約1.8 m下の雪山に滑り落ち、雪の下			

2018	1	14 ～ 15	敷きとなり埋まり被災した。災害発生時、屋根に積もった雪が自然に落ちるよう、被災者を含む3名で屋根上の煙突回り等の隅部を除雪していたものの。被災者の他に1名が被災者と同様に埋まったが、この者は救助され怪我はなかった。	415	1	1～9
2018	1	8 ～ 9	宅地造成のために植林された山の先行伐採を行っていたところ、被災者が落葉高木（樹高約15メートル、胸高直径約23センチメートル）を伐倒中、幹が裂けながら倒れたことにより倒木が被災者の頭を直撃した。被災者は保護帽を着用していなかった。	712	6	1～9
2018	1	12 ～ 13	国道の料金所付近において、電線張替工事の現場を終えた労働者3名が乗用車にて事業場に向けて走行していたところ、道路が圧雪されていたのでスリップし、対向車線に飛び出して中型トラックと衝突した。被災者は乗用車の後部座席に座っており、事故時救急要請はしなかったが翌日未明に容態が悪化し搬送先の病院にて死亡した。	231	17	10～ 29
2018	1	12 ～ 13	被災者は、旧水路と新設水路の接続用の鉄筋を差し込む箇所に目印を付すため、全長約35m、深さ約2.5mで掘削完了後一定期間が経過した掘削部に立ち入っていたところ、掘削法面の一部が崩壊し、生き埋めになった。その後、救急隊により病院に搬送されたが、死亡した。掘削箇所の土質は、その他の地山で、掘削面のこう配は、約70度であった。	711	5	1～9
2018	1	10 ～ 11	建屋の一部を解体する工事現場において、同建屋2階の開口部側で作業中であった被災者が、同開口部から同建屋1階床（コンクリート製）まで3.15m墜落し、死亡したもの。災害発生時、開口部には手摺や安全帯使用設備等の墜落防止措置は講じられていなかった。被災者は保護帽と安全帯を着用していたが、安全帯は使用していなかった。	414	1	1～9
2018	2	8 ～ 9	資材置場の地ならし作業をしていたドラグショベルが後退したところ、後ろにいた被災者の左足に激突した。その後病院に搬送されたものの、後日死亡が確認されたもの。	141	6	1～9
			休耕している水田内に工事中仮設作業道として設置していた敷鉄板の搬出			

2018	2	8 ～ 9	作業中、クレーン機能付きドラグショベルで吊った敷鉄板がダンプの荷台上で引っかかり動かない状態となった。クレーン機能付きドラグショベルを運転していた被災者が運転席から降り、自らダンプの後アオリを下したところ、敷鉄板が振り子状に動き被災者の胸にに激突し、続けて被災者後方の重機に背中から激突したものである。	212	6	1～9
2018	2	14 ～ 15	当該機材センター敷地内に設置されたテント内において、地盤改良機（杭打ち機）のオーガーの攪拌羽根を切断するため、被災者はガス溶接装置を使用して攪拌羽根の根元部分を切断しようとしたところ、火花が防護用の前掛けの中の衣服に引火して火傷を負い、治療のため入院していたが、広範囲熱傷による多臓器不全により死亡したものの。	331	11	1～9
2018	2	8 ～ 9	立木を伐採するため3人で作業中、職長が伐採する立木を倒れる方向にロープで引っ張った上で、他2人に周囲に近づかないように指示しチェーンソーで伐採したところ、伐倒木の先端が被災者の身体と接触し被災したものの。被災者は入院加療中であったが入院先で死亡したものの。	712	6	1～9
2018	3	10 ～ 11	県道において、被災者が運転する2 t ダンプが、緩やかなカーブの手前で急にセンターラインを超えて反対車線にはみ出し、対向してきた大型クレーン車（70 t）と正面衝突。この事故で、2 t ダンプを運転していた被災者は全身を強く打ち死亡（心破裂）。被災者は、工事現場で出た土砂を積み込み、土捨置場（約15 km先）まで向かう途中であった。クレーンの運転者は軽傷であった。	221	17	1～9
2018	3	10 ～ 11	建設工事現場において、ダンプトラックの手すりにロープを掛け、縊死しているところを発見されたもの。	921	90	1～9
2018	3	12 ～ 13	水田の漏水修繕工事現場において、石積み擁壁の裏側を深さ約1メートル、幅約80センチ、長さ約20メートルにわたってドラグショベルで掘削後、作業員2名が当該掘削溝に入り擁壁下部付近をスコップで人力掘削中、石積み擁壁が突然作業員側に倒れて被災者の下半身が挟まれた。	418	5	1～9
			オペレーターが山腹斜面の倒木を「RCM掘削機」のアームで、山腹斜面			

2018	4	14 ～ 15	の下部に落とそうとしたところ、意に反し、倒木が一回転して、RCM掘削機から目測9m離れた位置を移動していた被災者に激突し、被災者は山腹斜面を目測10m滑落した。同日夕方、被災者は全身打撲による臓器損傷により死亡が確認されたもの。	142	6	～ 299
2018	5	10 ～ 11	くい打ち作業の準備作業として、くい製作用の穴を3点支持式くい打機で掘削後、被災者は当該穴に設けられた蓋の一部をガス溶断する作業を行っていた。くい打機のオペレーターが別作業を行うため、エンジンを切って運転席を離れた際、スクリュウの振れ止めに係る足踏式ブレーキをかけ忘れたことから、数十分後にブレーキを把持していた油圧が低下し振れ止めが落下、被災者に激突し死亡したもの。	143	4	10～ 29
2018	5	14 ～ 15	2名にて竹林の伐採工事中、伐採した竹が付近の電柱に引っかかるのを防ぐため、被災者が刈払機を使用していた同僚の側に行き、竹を支えていたところ、バランスを崩し膝が下がったところへ竹を貫通した刈払機の歯があたった。被災者は両太ももを深く切り、死亡した。	169	8	1～9
2018	5	10 ～ 11	堤防斜面（勾配20～30°）の除草作業において、乗用集草機（重量1.5t、立位運転）を運転して集草作業を行っていたところ、集草機の運転台（大きさ35cm×90cm）から転落し、後退してきた集草機にひかれたもの。	169	6	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	くい抜機を用いて杭を抜く作業の過程で、杭にワイヤーロープを掛ける必要があるが、その作業を被災者含む2名で行った後、杭に付着していた土が落下し、被災者の背中に直撃したことによりバランスを崩し、前日に引き抜いた杭穴に落下し、杭穴の底に溜まっていた泥水を吸引したことにより窒息したもの。	414	10	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	クレーン機能付ドラグ・ショベル（定格荷重2.9t、クレーンモードで使用）で、ロードマット（格子状の金属製敷板：重量約600kg）を吊った状態で車両通行路（上り勾配：約20度）を走行していたところ、履帯（クローラ）が滑ったため、運転手は吊荷を下し、バケットを地面に着いて滑りを止めようとしたが止められず、法面にいた被災者を巻き込	212	6	10～ 29

			み、路肩から約17m下に転落した。			
2018	6	12 ～ 13	被災者は現場内に置かれたセメントミキサーのドラムの内部に入りドラム内部のセメントの除去を行っていた。同僚の作業員（外国人技能実習生。国籍ベトナム。）がドラム内部に人がいるにもかかわらず、ポンプを作動させドラムに残留水を吸い上げようとしたところ、ポンプ作動ボタンと間違えてプラント作動ボタンを押してしまい、ドラム内部の攪拌翼が回転し、当該攪拌翼に被災者の足が巻き込まれ被災し、後日死亡したものの。	162	7	10～ 29
2018	6	14 ～ 15	スキー場デリジャンス管理用重機道修繕工事において、被災者がブルドーザーを運転し、スキー場下山コースを下山しようとしたところ、コースを逸脱し、コース外へブルドーザーと共に約50メートル転落し、心肺停止の状態で見つされたもの。	141	1	50～ 99
2018	7	10 ～ 11	25t移動式クレーンに取り付けた杭抜用アタッチメント（2.9t）が被災労働者に激突し、死亡したもの。25t移動式クレーンに取り付けた杭抜用アタッチメントを折り畳む作業をしていたところ、クレーンに付属していた主巻きフック取付け用金具が破断し、杭抜用アタッチメントが振り子状に振れ、被災労働者の頭部に激突し、被災者が死亡した。	145	6	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	被災者は、工事現場で作業終了後、所属事業場の事務所へ戻るため、同僚が運転する社用車（ライトバン）に同乗して町道を直進走行中、交差点の進行方向右側から進入してきたトラックに側面から衝突され、その反動で進行方向左側の路外に転落したもの。当該車両には被災者を含め2現場4名の作業員が乗車していた。シートベルトの着用状況については不明。	231	17	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	現場（個人宅庭木剪定作業）で出た枝葉を、会社敷地隣接の山林にある仮置場に保管する為、トラックから降ろした枝葉約1.5立米を、トラクターショベル（機体重量：2585Kg）で押していたところ、左側に転倒し、被災者の頭部がトラクターショベルのハットガードの支柱と地面の間に挟まれ被災したもの。	141	2	10～ 29
		10	林道建設工事において、被災者は、法面（法勾配約55°×法長約6m＋約法勾配45°×法長約14m）の頂上部で草刈り作業をしていた。下方			10～

2018	7	～ 11	で作業していた同僚が、法面下の林道に倒れていた被災者を発見した。被災者は首を骨折する等外傷があった。	711	1	29
2018	7	14 ～ 15	国道沿いの道路脇の幅約1メートルを刈払機を用いて除草する作業中に、被災者が雑草等で覆われていた深さ5.6メートルの用水路の開口部へ墜落したもの。なお、事業者は工事の受注において発注者から、用水路の存在を知らされていなかったもの。	414	1	10～ 29
2018	7	10 ～ 11	建物（鉄骨造）の解体作業中、天井板等をパワーショベル（機体重量1.5t、ヘッドガードなし）で落としていたところ、天井材等がパワーショベルのアーム部分に崩れ落ち、バランスを崩して側方に横転し、投げ出された被災者が柱（鉄骨）とパワーショベルの間に挟まれた。	141	2	10～ 29
2018	8	14 ～ 15	被災者は同僚2名と山の法面から落石を防止するためのモルタル擁壁修繕工事を行っていた。作業は、既存のモルタル擁壁を剥して内部の土と併せて下方に落とすものでセーフティクライマー工法を用いていた。3名は、次の作業エリアに移るためワイヤロープを付け替える樹木を選定していたところ、上から石（直径約15cm）が落ちてきて被災者の左側頭部に当たり、その衝撃で法面から約15m下に墜落し全身を強く打って死亡した。	711	1	1～9
2018	8	6 ～ 7	事業場は建設現場で杭打機による杭打作業を業としている法人であるが、自社の杭打機をメンテナンス会社に仮置きしていた。その機械を工事現場に出すため、被災者を含め3名の労働者が、自宅からそれぞれの自家用車で当該会社に集合し運送会社のトラックに積み込む作業を行った。作業が終わり自家用車を運転し、自宅に帰る途中信号待ちをしていたトラックに追突し、外傷性脳損傷により死亡した。	231	17	30～ 49
2018	8	14 ～ 15	被災者は、資材置場の整理を単独で行っていた。脚立に上り、棚の上に工事用看板を載せ、後ろ向きに脚立から降りようとしたところバランスを崩し、高さ1.1m（踏み棧の上から2段目）の箇所から仰向けに転落したもの。保護帽の着用有り。当初は肋骨の骨折のみと診断され、自宅療養を	371	1	30～ 49

			続けていたが、容態が急変し、転送先の病院で死亡したもの。（直接死因：急性硬膜下血腫）			
2018	8	6 ～ 7	県外の工事現場に向かうために、主要地方道を走行していたところ、ハンドル操作を誤り、トンネル壁面に車体助手席側が衝突し、その反動で対向車線側に振られ、そのままトンネルを出口付近に設置されている対向車線側のガードケーブルに衝突し、当該ガードケーブルを突き破り、川へ車ごと転落したものの。	231	17	10～ 29
2018	9	12 ～ 13	被災者は、落石防止柵を設置する現場において、チェーンソーで雑木（胸高直径約30cm）を伐採中に木が縦に裂け跳ね上がったため、避難をしようとしたところ、跳ね上がった木が落下し、被災者に直撃した。	712	4	10～ 29
2018	9	10 ～ 11	法面保護工事中の斜面にて、モルタル吹付工事前の養生作業をロープ高所作業で行っていたところ、高さ約12.3m（斜長約16m）の法面から、墜落して、頭を強く打って死亡した。	711	1	30～ 49
2018	9	16 ～ 17	集合住宅新築工事のための宅地造成作業において、後退してきたドラグショベルに被災労働者が轢かれたもの。	142	7	10～ 29
2018	9	14 ～ 15	発電所の下流約500mの連合用水路内の左岸側壁部の修繕工事の準備のため、一輪車に約20kgの発電機を積載し用水路脇の巡視路と呼ばれる路を被災者と外国人労働者2名の3名で交替しながら運搬。被災者に交替し数メートル運搬した後、誤って巡視路から用水路（高さ3m、深さ1m）に発電機、一輪車と共に墜落したものの。墜落推定箇所の巡視路の幅は2.8メートルで柵が無い状態であった。	417	1	1～9
2018	9	8 ～ 9	台風の強風で資材倉庫屋根上の手摺りとネットフェンスの一部が吹き飛ばされたため、復旧作業を行っていたところ、屋根の端より2.8メートル下に墜落したものの。	415	1	1～9
2018	10	12 ～	市道脇の斜面上にて、台風による倒木の撤去作業のため、被災者はクレーン車で支えられた立木をチェーンソーで伐倒する作業を行っていたが、立木の伐倒後、伐倒木から離れた場所で待機していたところ、待機場所上方	711	5	1～9

		13	の幅2.5メートル、高さ5メートルの斜面の土砂が崩壊し、生き埋めになったもの。被災者は救出されたが、現場で死亡が確認された。			
2018	10	10 ～ 11	墓地内で基礎工事を行っていた際、ダンプカーから現場に碎石を移動させるため、現場に置いていたハンドガイド式運搬車（最大積載荷重650kg）を操作してバックさせたところ、背後にあったフェンスと運搬車操作用の手すりに腹部を挟まれたもの。	229	7	1～9
2018	10	12 ～ 13	つり足場の撤去作業に使用した橋梁点検車を運転して林道を走行中、緩いカーブで車両が横転し、ガードレールに衝突したもの。	146	17	1～9
2018	10	16 ～ 17	造成工事現場内において、作業が終了し、片付け中に小型ドラグ・シヨベルで残ったノロセメントをダンプカーから降ろすため、盛土の上を移動中に盛土が削られた箇所に小型ドラグ・シヨベルの履帯が落ち、小型ドラグ・シヨベルが回転しながら前のめりに転倒し、振り出された被災者がヘッドガードではさまれ死亡したものの。	142	7	1～9
2018	10	12 ～ 13	被災者は、業務終了後会社駐車場に止めてあった2トンダンプトラックの高さ約80cmの荷台に、トラック後部から登ろうとして、墜落した。その際、頭部をアスファルトの地面に打ち付けたものと思料される。荷台には被災者の保護帽が残されていた。	221	1	10～ 29
2018	11	4 ～ 5	建設現場に向かうため、社有車のワゴン車に運転者を含む4名が乗車し、自動車道に入り走行していた。インターチェンジの6km手前に差し掛かった時、単独でワンボックスカーが横転しており、そこに追突したものの。後部座席に乗っていた1名が死亡、残る3名及びワンボックスカーの運転者も負傷した。	231	17	10～ 29
2018	11	10 ～ 11	4階建て共同住宅の建設工事において、くい打機を使用して基礎杭（リブ付きコンクリート既製杭）の打設中に、杭を圧入するパイルキャップの爪と杭の固定が緩み、被災者がパイルキャップと杭を再固定するため、杭をパイルキャップの真下にくるよう体で押していたところ、くい打機のオペレーターがパイルキャップを含むオーガー部分を下げたため、パイル	143	4	10～ 29

			キャップが約8 mの高さから落下し被災者に激突したもの。			
2018	11	8 ～ 9	個人宅において植木の移植作業中、槓の木を移動式クレーン（2.9 t）で吊り上げたところ、枝等がジブに接触し持ち上げることができなくなったため、吊っていた木を一旦掘った穴（吊り上げた木の根を掘った穴）に戻したところ、被災者が穴に落ちていることに気づかず、胸を圧迫され死亡したものの。	212	7	1～9
2018	11	14 ～ 15	鉛山鉱山通洞坑ズリたい積場耐震対策工事現場において、被災者は同僚と共に深礎杭を設置するためコンクリートポンプ車を用いコンクリート打設作業に従事。その後、当該作業を終えたため、同僚が当該車両のアウトリガーを格納し、被災者は当該車両後方において待機していたところ、当該車両が逸走し、被災者は当該車両とともに傍らの沢（深さ約3 m）に転落。その際、なぎ倒された木とアウトリガーとの間に胸部をはさまれたものの。	149	6	10～ 29
2018	11	16 ～ 17	河川内において、動力の無い浮きクレーン台船により袋詰め玉石を川底に敷設する作業中、予定の敷設を終えて次の敷設箇所に移動させるため、水中に沈めていた係留用コンクリートアンカーを引き上げようと小型船外機船（総トン数0.4 t）に搭乗した労働者2名が当該アンカーのロープを手繰っていた際、当該船外機船が転覆し、搭乗していた2名が水中に転落した。その後、1名は救出されたものの、もう1名が溺水により死亡した。	239	10	30～ 49
2018	12	16 ～ 17	井戸掘削の工事現場で被災者が1人で井戸の掘削作業を行っていたが、夕方になっても被災者が戻って来なかったため、被災者の様子を見に行ったところ、さく井掘削機械のそばに倒れていた被災者が発見された。その後、病院へ搬送されたが、右肩付近で腕を切断しており、出血性ショックにより死亡した。	121	7	1～9
		10	建物所有者から依頼され建物屋根の雪下ろし・排雪作業を6名で実施。別棟の雪下ろしが完了したため、災害発生建物の屋根の雪下ろしを4名で実施していたところ、被災者が屋根の端部に近づいてしまったため、雪庇状			10～

2017	1	～ 11	態となっている雪の上に登ってしまい、雪庇部分を踏み抜いて高さ7.6 m下の地面へ墜落し、死亡した。保護帽（飛来・落下物用及び電気用のもの）は着用していたものの、安全带等の着用・使用はなかった。	719	1	29
2017	1	～ 15	樹木の剪定作業を行うため、伐採しようとする木の一部にロープを固定して2トントラックにつなぎ、被災者は高所作業車に乗り、高さ約3.5メートルの箇所チェーンソーを用いて幹を切断し、同僚が同トラックを運転して木を引っ張って倒そうとしたところ、切り落とした木が被災者に落下した。	712	4	1～9
2017	1	～ 13	災害発生現場では、流木を解体用車両系建設機械で牽引して撤去するため、作業員2名が川（水深約25～40cm）に入り流木にワイヤーロープを掛ける作業が行われていた。被災者は、岸辺で待機を命じられていた。作業員2名は、ワイヤーロープが掛け終わり岸辺に戻ったところ、被災者がいないので周辺を捜すと、水面にうつぶせで浮かんでいる被災者を発見した。	713	10	1～9
2017	1	～ 11	個人所有の敷地内にある樹木（ケヤキ）を伐採する作業において、伐採する木に立てかけていた2連はしごから、5.9メートル下のアスファルト道路に墜落し、頭部を打ち死亡した。災害発生時、被災者は市道側に木が倒れるのを防ぐため、木にワイヤーロープを掛けようとしていた。被災者はヘルメット・安全带を着用していなかった。また、はしごの固定はなされていなかった。	371	1	1～9
2017	2	0 ～ 1	舗装工事現場にて、モルタルを用い道路下側面の腰壁の補修作業を行っていた。被災者がドラグショベル（クレーン機能なし）を用いてモルタルの入った金属製の箱を吊り上げ、左に旋回したところ遠心力が加わり路肩から川底へ転落し、被災者は運転席から投げ出され、川岸の岩に頭を打ち付け、死亡した。なお被災者はシートベルトを装着せず、ヘルメットもかぶっていなかった。	142	1	1～9
		12	被災者は、車両（最大積載量2tの貨物自動車）を運転し、片側1車線の			

2017	2	～ 13	県道を南方向に走行中、緩やかな下りこう配の左カーブに差し掛かったところで中央線を越えて対向車線にはみ出し、同車線を走行していた別の車両（最大積載量2 tの貨物自動車）と衝突したことにより死亡した。	221	17	1～9
2017	3	～ 13	建設工事の地盤改良の施工管理業務に従事していた被災者（一次下請事業場所属）が精神障害を発症し、失踪先で自殺した。なお、発症前1か月において190時間以上の時間外労働時間に従事していた。	921	90	50～ 99
2017	3	～ 17	桁製作ヤード内において、2.9 t橋型クレーンを使用し、鋼製型枠7枚（重量1.8 t）を2本のスリングで玉掛けし、吊り上げて移動中、ナイロンスリングの1本が切断し、荷が傾斜しながら落下し、もう1本のスリングも切断した。鋼製型枠が落下し、近傍にいたクレーン操作者に激突した。	372	4	10～ 29
2017	3	～ 9	国道に設置している防雪柵をたたんで下に収納するため、被災者は、道路側から梯子に上がりピンを抜く作業をし、もう1人は道路反対側において梯子上、もう1人がクレーン機能付きドラグ・ショベルを運転し防雪柵を吊る作業をしていた。被災者が梯子上にいたとき、何らかの理由で梯子が倒れ墜落した。	371	1	10～ 29
2017	4	～ 13	被災者は、解体工事現場で瓦礫の片づけ中、現場を区画するように設置されていた囲い（高さ約7メートル）が崩壊し、その下敷きとなり死亡した。	419	5	10～ 29
2017	4	～ 15	被災者を含む5名で民家の物置の横の立木を伐倒処理するため現場に入場。被災時は被災者を含む3名でマツの伐倒作業を行っていた。被災者がチェーンソーで胸高直径39.8センチメートルのマツの幹に伐根直径の3分の2程度の追い口のみをほぼ水平に入れた後、伐倒予定方向とは違う方向に退避しているとき、樹高7.4メートルの伐倒木がミシミシと音を立てて被災者側に倒壊し接触。外傷性ショックにより死亡した。	712	5	10～ 29
		14	法面補修工事のため法面頂部への仮設通路を設置していたところ、上方から落石（重さ約300 kg）が発生し、仮設通路上で床材等を取り付けていた被災者に激突、もしくは、被災者がこの落石を避けようとして仮設通			10～

2017	5	～ 15	路から約30m下の沢に墜落した。なお、被災者は、安全帯を使用していなかった。また、落石が発生した付近で作業していた同僚作業員も斜面を滑落し、負傷した。	711	4	29
2017	6	12 ～ 13	国道の走行の妨げとなる立木（胸高直径45cm）の伐採作業のため、被災者は立木に脚立はしごを立て掛け登りチェーンソーで切り込みを入れ、道路路肩のり面下で待機していた作業員2名に控えロープを引っ張るよう合図し立木を倒した。作業員2名がのり面を上がって行ったところ、倒木付近に頭から血を流しうつ伏せの状態に倒れている被災者を発見し、搬送先で死亡が確認された。	712	1	10～ 29
2017	6	8 ～ 9	被災者が法面養生用シートの撤去作業を行っていた際に、背面で地均し作業を行っていたドラグショベルが作業位置を変えるため上部回転体を90度右回転したうえで、右方向に横行したところ、横行経路上にいた被災者がドラグショベルの履帯に轢かれた。	142	7	1～9
2017	7	10 ～ 11	雨水排水管を敷設するためにドラグショベルで掘削した全長約4m、全幅約1.5m、深さ約2mの溝内において、作業員2名が排水管の埋戻し作業を行っていたところ、ドラグショベルが掘削溝内へずり落ち、それに気付いた作業員1人は溝内から脱出したが、被災者は土砂に足を取られて動けず、ドラグショベルのバケットが被災者の胸部に激突し、バケットと鋼矢板の間に胸部を挟まれ、外傷性血気胸で死亡した。	142	6	1～9
2017	7	8 ～ 9	個人が所有する雑木林における立ち木の伐採作業中に事業主がチェーンソーを用いて伐倒作業を行っていたところ、付近で地面に落ちた枝の回収作業をしていた被災者に伐倒木が激突して死亡した。	712	6	1～9
2017	7	12 ～ 13	島内12箇所の河川及び沢の維持工事（河川等兩岸の管理用通路及び河川等の流路内の除草、枯損木伐採、倒木処理）において、流路内の除草等した草木等を搬出するため、車両系建設機械（つかみ機）を用いて搬出中、流路の段差2.5mを当該草木等を用いて斜路を形成し下降していたところ、斜路が崩壊して、運転していた建機とともに転落し、流路内の側壁と	711	1	50～ 99

			建機との間にはさまれ死亡した。			
2017	7	16 ～ 17	被災者は午前8時から伐採された木等の運搬作業を屋外で開始。午前9時、午後2時に10分間、午前10時、午後2時半に30分間。午後12時に1時間休憩を行った。午後4時に作業終了後、被災者が倒れているところを発見し、日陰で安静にさせたが、嘔吐と痙攣を起こした。そのため、救急車で病院に搬送されたが、死亡を確認。	715	11	1～9
2017	7	12 ～ 13	側溝排水管敷設工事現場において、U字型側溝を運搬するため、積載形トラッククレーンを使用して当該側溝（長さ約2m、重さ約350キログラム）を2個、玉掛けしジブを起こしたところ、トラックがバランスを崩して転倒し、左側のアウトリガーと荷台の間にはさまれた。	212	7	1～9
2017	8	16 ～ 17	法面防護フェンスに絡んだつる草を鎌で刈り取る作業（除草作業）を終日行い、終業後帰宅しようとして事業場敷地内の駐輪場へ移動、駐輪場で意識不明の状態で見つかる場所を発見された。熱中症によるものと思われる。	715	11	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	道路脇の草刈作業中、午後4時20分頃に被災者がひどく疲れている様子だったので約400m離れた場所に駐車してあるトラックで休憩するよう指示した。被災者は歩いて行ったが、その後行方が分からなくなり、周囲を探したところ隣の建物の駐車スペースで泡を吹き意識の無い状態で発見された。その後病院に搬送されたが死亡した。熱中症と思われる。	715	11	1～9
2017	8	16 ～ 17	敷地（駐車場）造成工事現場において、石積擁壁の石積み作業中に積み石が崩れ、石積みをしていた被災者が石の下敷きになり死亡した。	419	5	10～ 29
2017	9	10 ～ 11	橋梁修繕工事のために設置していたつり足場の撤去作業のため、つり足場上から集積した足場板を橋梁上の道路に設置した移動式クレーンでつり上げるために、玉掛けを行おうとしたところ、安全帯を掛けていたつり足場の手すり及び集積していた足場板とともに、約20m下の河原に墜落した。	411	1	1～9
			道路維持工事の一環として、台風応急対策として農地沿いに設置していた			

2017	9	10 ～ 11	小型土のうが不足したため、これをトラック（2 t 平ボディ）にて資材置き場に取りに行く途中、何らかの理由により反対車線側の路外（法面）まで逸脱し、案内標識に助手席側から衝突した。被災者ら3名はシートベルトを着用していなかったため、車外へ投げ出され、被災者は死亡し、他2名は休業4日以上となった。	221	17	50～ 99
2017	9	8 ～ 9	ドラグ・ショベル（以下、「重機」という）にて、残土置き場（高さ約10 m）の整地作業中、重機のクローラの真下にある土砂が沈下して重機が傾いた際に、被災者が運転席から投げ出されるとともに重機が横転し、重機の下敷きとなり死亡した。	141	2	10～ 29
2017	9	14 ～ 15	被災者は、工事現場から店社事務所へ戻るため、社用車を運転して直進走行中、交差点に進入してきた一般車両に運転席側から衝突され、その反動で助手席側から街路灯へ衝突し停車した。病院へ救急搬送されたが、急性硬膜外血腫により死亡した。	231	17	30～ 49
2017	9	16 ～ 17	現場の完了検査立会いのため、朝7時過ぎに会社に出社し、書類等を準備し、会社の箱バンにて工事現場に向かった。現場での完了検査は終了し会社に戻る途中、対向車と正面衝突し死亡した。	221	17	1～9
2017	9	8 ～ 9	被災者は一人で、トラフ（約54キロ）敷設の作業現場付近の法肩約1.7 mのスペースでドラグショベル（バケット容量0.024立米、機体重1.22 t）を運転操作中、何らかの原因により約5メートル下に転落し、先に地面に墜落した被災者の上に当該ドラグショベルが落下し下敷きになった。	142	1	1～9
2017	10	14 ～ 15	建物新築に伴う外構工事において、ドラグショベル（クレーン仕様ではないもの）で、側溝のコンクリートブロックを吊り込み作業中、ドラグショベルのバケットの直下で、コンクリートブロックを玉掛けしていた被災者が、降下してきたドラグショベルのバケットとコンクリートブロックの間に頭部を挟まれ死亡した。	142	6	1～9
		16	高所作業車を使用して道路街路樹の剪定作業中、車道を走行していた10 tトラックが、車道に出ていた高所作業車のブームに接触し、その衝撃で			10～

2017	10	～ 17	作業床に搭乗していた労働者2名の内1名が墜落により死亡し、他の1名は作業床内で負傷した。	221	17	29
2017	10	8 ～ 9	個人住宅敷地内の樹木剪定作業において、被災者は三脚脚立（天板の高さ2m45cm）を使用して、サルスベリの剪定作業を行っていた。その後被災者が耳から血を流して倒れているところを他の作業員に発見され、被災者はその後搬送先の病院にて脳挫傷により死亡した。	711	1	10～ 29
2017	10	～ 17	水力発電所の導水路（コンクリート製ずい道、直径約3m）の補修作業に伴い、労働者3名が内燃機関付高圧水洗浄機により、ずい道内壁の洗浄作業を行った。内燃機関の発する一酸化炭素（CO）によりずい道内のCO濃度が上昇したことから、1名がCO中毒により意識を消失し、他の2名も軽度のCO中毒症状を呈した。3名は救助及び病院搬送されたが、意識消失の1名はその後死亡し、他2名は一週程度の入院加療が必要となった。	514	12	1～9
2017	10	～ 13	高速道路保全管理工事において、道路高架下に設置してある吊り足場の解体中、足場上で足場板を高所作業車の作業員へ渡す作業を行っていた際、固定されていない足場板に乗ったところ、足場板がころばしに掛かっていなかったため、足場板ごと約6m下の川（水深4～5m）に墜落し水死した。	411	1	10～ 29
2017	11	～ 15	当該工事は、落石防止用ネットの張り替え工事である。被災者は同工事の下請け労働者として他の労働者ととともに現場へ入場し、当日は他の労働者と離れて法面上の落石防止用ネットの支柱のモルタルを詰める作業を行った後、さらに上方にある親綱の結束部を外そうとした際に法面から転落した。	711	1	1～9
2017	11	～ 5	自動車道でパトロール車に2名が乗車し、インターチェンジから本線に合流する地点でUターンをしようとした際、本線を走行していた大型トレーラーと衝突し、助手席に乗っていた被災者（1次下請所属）が死亡、運転手（2次下請所属）は重傷、大型トレーラーの運転手は軽傷を負った。事	231	17	10～ 29

			故当時、路面は凍結していた。			
2017	11	12 ～ 13	長さ45mのガス管(約900kg)を敷設溝に向けて横向きに運搬中、台車に載せていたガス管が掘削溝に落下しそうになったため、これを止めようと掘削溝に入った被災者がガス管の下敷きになり死亡した。	521	4	10～ 29
2017	11	14 ～ 15	道路の除草作業を行うに際し、被災者は、自らが運転していた貨物自動車(最大積載量2トン)を停車し、荷台に刈り取った草を乗せようと車両から降りたところ、車両が動き出したため車両を止めようとしたが、ガードレールと車両との間に挟まれ死亡した。道路の勾配は、約10度であった。	221	17	1～9
2017	11	10 ～ 11	駐車場で、駐車場舗装修繕工事が完了し次の現場に移動するためトラックを後進させた運転手が、トラックの後方でしゃがみ込んで携帯電話で通話していた被災者を轢いた。被災者は、営業所にいる上司に次の現場の所在地を確認していた。	221	17	1～9
2017	12	14 ～ 15	急傾斜地(高さ約10m。当該場所には約30年前にモルタルが吹き付けられていた。)の崩壊対策工事現場において、被災者は、ピックを用いて高さ約1.5mの当該モルタルのはぎ取り作業に従事していたところ、そばのオーバーハングのため残しておいたモルタル部分(高さ約3m、幅約2m)が崩壊し、被災した。	711	5	1～9
2017	12	4 ～ 5	ロータリー除雪車で同僚労働者(運転手)と被災者(補助)の2名で作業を行っていたが、ロータリーに雪が詰まってオーガが正常に回転しなくなったため、オーガの回転を停止させ、2名でスコップを用いて詰まった雪を除去した後に同僚労働者が運転席に戻り、除雪車を1mほどバックさせ、被災者が前方に退避していることを確認して、オーガが正常に回転するか確認のため回転させていたところ、被災者がオーガに巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2017	12	8 ～ 9	被災者が、最大つり上げ荷重2.33tの車両積載形トラッククレーンを操作し、別の2tトラックの荷台から重さ約0.9tのフレコンバックをつり上げ、地面へ降ろしていたところ、当該クレーンが2tトラック側へ転倒した。被災者は、当該クレーンの車体(運転席)と2tトラック荷台	212	7	1～9

			のあおりとの間に胸部をはさまれた。			
2017	12	6 ～ 7	事業主とともに社屋屋外に取り付けられた外灯の電球交換中、被災者はフォークリフトのヘッドガードの上で事業主に新品の電球を渡した。その後、「ドン」という音に気付いた事業主がフォークリフト後方で倒れている被災者を発見した。	222	1	1～9
2016	1	9 ～ 10	土地造成工事において、ブル・ドーザーの運転手が、前日駐機していた場所から指示された作業箇所に行き、深さ約1.2メートル、法面勾配約40度の道路敷設予定の掘削部に降りた際、運転席より車外に転落し、同機の履帯（クローラ）に巻き込まれた。同ブル・ドーザーは無人のまま約86メートル自走し、電柱に衝突し停止した。	141	7	30～ 49
2016	2	8 ～ 9	急傾斜地の崩壊防止工事現場において、ケーブルクレーンを用いて、解体した単管足場の部材をつり上げたところ、部材が崩れ、足場上にいた被災者に激突し、法面から転落した。その後救急搬送されるも、搬送先の病院で死亡した。	211	4	10～ 29
2016	2	9 ～ 10	積載荷重4トンのダンプトラックを運転し、緩やかな下り坂の林道を走行中、左側法面に衝突後、右側の林道路肩からダンプトラックごと斜面を約60m転落した。	221	17	1～9
2016	2	4 ～ 5	被災者は、店舗の駐車場除雪作業終了後、片側2車線の県道上で除雪作業で使用したドラグ・ショベルをトラックに積み込むため、交通誘導をしていた。このとき、前方不注意の軽自動車が入り込み、被災者がはね飛ばされ死亡した。	231	17	10～ 29
2016	2	13 ～ 14	被災者は、場内整理中、近くで作業していた解体用つかみ機のつかみ具で保持していた木の枝が、被災者の頭部に触れて死亡した。	145	6	1～9
2016	2	15 ～ 16	被災者は、擁壁の建設中、擁壁の端部にいた時に高さ約4メートル下に墜落し、入院して治療していたが、約4箇月後に死亡した。	418	1	10～ 29

2016	3	19 ~ 20	工事現場から、被災者は同僚と二人で残土を積載したトラック（最大積載荷重3 t）で会社事務所へ立ち寄り、同僚を下ろした後、トラックを運転して資材置場へ向かう途中、車体左側が路肩の電柱に接触し、道路左側の田んぼに転落した際、車体が横転して車体右側（運転席側）が下になり、泥が運転席に流入したことにより窒息し、同日死亡した。	221	17	10~ 29
2016	3	14 ~ 15	大学敷地内の南側法面で松の伐採工事中、あらかじめ伐倒した松を、被災者はチェーンソーを用い玉切りしていた。被災者が作業を一時中断し、法面下の状態等を確認に向かったところ、玉切り途中の伐倒木が滑り落ち被災者に激突し、立木との間にはさまれた。	712	6	30~ 49
2016	4	0 ~ 1	車内で亡くなっている被災者を通行人が発見した。	921	90	50~ 99
2016	5	14 ~ 15	個人住宅の外構工事において、道路から約3 mの高さにある宅地面までドラグショベルを移動するため、斜面を自走で登っていたところ登りきれず、斜面の途中で上部旋回体を旋回させたところ横転した。	141	2	10~ 29
2016	5	8 ~ 9	資材倉庫において、高さ約4 mの梁にハシゴをかけ、昇って作業をしようとしていたところ、ハシゴが外れ墜落した。	371	1	1~9
2016	6	6 ~ 7	現場駐車場に停めたトラックの荷台の格子最上部に、ロープをつるし首をつっているところを同僚により発見され、救急車で病院に運ばれたものの、同日死亡が確認された。	921	90	50~ 99
2016	7	13 ~ 14	小学校解体工事現場において、高所から地面に墜落し、胸部を打撲。胸腔内臓器損傷による血胸で死亡した。	418	1	10~ 29
2016	7	1 ~ 2	道路維持作業において、被災者は車道の外側線付近で歩車道境界縁石の草取り作業を行っていたところ、走行してきた乗用車に轢かれ被災した。	231	17	50~ 99

2016	8	15 ～ 16	道路わきの案内看板移設工事を行っていた被災者が体調不良を訴えたため日陰で休ませていたものの、その後意識混濁状態になっているところを発見された。すぐに救急車で病院に搬送したが、翌日熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2016	8	9 ～ 10	調整池復旧工事において、被災者は、法面の矢板を打つ位置に埋まった石をどけるため、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベルを路肩に据え、当該石にワイヤーロープを掛けて当該ドラグ・ショベルで引き上げたところ、機体の後方が浮き上がり、被災者が誤ってペダルを踏んだため、ドラグ・ショベルが急旋回して法面を転落し、被災者は搭乗席から投げ出された。	142	1	1～9
2016	9	19 ～ 20	前月の台風による大雨の影響で小規模な土砂崩れが発生した国道付近において、大雨が降り続く中、被災者が歩道に停車させた車両内から斜面の状況を監視していたところ、土砂崩れが発生し、車両ごと土砂に押し流されて海に転落した。駆け付けた救急隊員に救助されたものの、搬送先の診療所で死亡が確認された。	711	5	10～ 29
2016	9	12 ～ 13	補強改修工事において、地盤強化のためのアンカー（全長6m）を擁壁に開けた孔部に挿入するために労働者4名でアンカーを抱え上げた際、アンカー後方先端部が現場背部に近接した電灯線（三相交流6,600V）に触れて全員が感電。このうち、1名が死亡、1名が重傷、2名が軽傷を負った。	351	13	1～9
2016	9	10 ～ 11	霊園敷地内の雑草対策としてコンクリート床を設ける作業において、小型ドラグショベルで移動中、路肩が崩壊し運転していた作業員が小型ドラグショベルごと高さ約9m崖下に転落し死亡した。	142	1	1～9
2016	9	7 ～ 8	被災者は、2tトラックを運転し、片側2車線の国道を走行していたが、中央分離帯を越えて反対車線で横転し、対向車と接触し死亡した。	221	17	1～9
2016	9	0 ～	ドラグショベルにより林道を開設する作業に従事していたところ、何らか	711	1	10～

		1	の理由により路肩が崩壊し、ドラグショベルごと転落し死亡した。			29
2016	9	10 ～ 11	林道脇の法面上部の伐採作業のため、被災者が法面上部を移動していたところ、約5 m（目測）の高さから道路上に墜落して死亡した。	711	1	10～ 29
2016	10	17 ～ 18	除草作業を行う現場において、乗用の草刈機（重量1.5 t）を運転していた被災者が、終業時刻になっても集合場所に戻ってこないため、同僚が河川敷で停止していた草刈機のところまで見に行ったところ、当該機械のエンジンがかかったままの状態、当該機械の下から、倒れていた被災者を発見した。	169	7	30～ 49
2016	11	10 ～ 11	インターチェンジの料金所付近の通路を設ける工事において、掘削箇所の埋戻し作業で、狭隘な場所で、上部旋回体が後ろ向きになった状態の小型ドラグ・ショベルを用いて均し・締固め作業を行っていた際、後進したところ土止め支保工の切梁と操作レバーに胸を挟まれ、2日後に死亡した。	142	7	30～ 49
2016	11	8 ～ 9	車両積載型トラッククレーン（ジブが伸縮する型式）の荷台から、建設機械を当該クレーンを用いて荷台の側方に降ろしている際に転倒し、クレーンの運転者が下敷きになった。	212	6	1～9
2016	12	16 ～ 17	民家敷地の法面保護工事において、当日の作業を終えるために片付けを行っていたところ、資材置場として使用していた場所に隣接する道路（幅1.1 m）の下方に位置する民家の敷地（コンクリート上）に倒れている被災者を発見し救急搬送したが、頭部打撲により死亡した。	418	1	1～9
2016	12	5 ～ 6	高架橋床版修繕工事現場へ向かうため、会社事務所から会社所有のライトバンにて移動中に交通事故を起こした。交差点にて右折のために並んでいた車列を右側から追い抜こうとしたところ、右折中の車に接触して排水路に転落し、助手席に乗っていた被災者が水死した。	221	17	10～ 29
2016	12	16 ～	自社倉庫内の資材整理作業を終え事務所に戻る途中、幅4 mの直線道路を下っているとき、凍結路面によりスリップし、道路右脇にある電話線引込柱に運転席ドアをこすりながら法面に乗り上げた。法面に乗り上げた衝撃	221	17	10～ 29

		17	で車は止まったが、止まった時の衝撃でハンドルを胸部に激突し、腎挫傷・肋骨骨折・肺気胸による出血性ショックで死亡した。			
2015	6	9 ～ 10	被災者は、新たに採石が行われる山の斜面に重機等が走行するための道路を整備する現場において、ブレーカを運転し岩石を破碎する作業を行っていたところ、当該ブレーカーが安定を失い、機械とともに斜面を転落した。被災者は、斜面を転落中に運転席より投げ出されたものである。	145	1	30～ 49
2015	12	11 ～ 12	会社の敷地内で、建築資材の整理作業において事業主がトラクター・ショベル（機体重量3.36T）により建築廃材をコンテナに積み込みし、同ショベルを後進した時に、木片の盛りに混じったゴミを拾おうと被災者が同ショベルの後側に立ち入ったために、同ショベルに轢かれたものである。	141	7	10～ 29
2015	8	11 ～ 12	被災者は川の支流にかけられた橋付近で、河川の点検作業を1人で行っていた際、右岸側の石積み護岸の天端を通行中、約4.7m下の河床まで転落した。	418	1	50～ 99
2015	8	14 ～ 15	県道の除草作業を被災者を含む8名（現場代理人1名、草刈機除草作業3名、刈った草のトラックへの積込作業2名（内1名が被災者）、交通誘導員2名）で朝8時頃から開始した。午後2時頃、被災者が体調不良を訴えたため日陰で休息させていたところ、痙攣や嘔吐の熱中症が疑われる症状が認められた。その約30分後、再び嘔吐して意識が混濁し、救急車を手配するも到着前に心配停止状態になり搬送先病院で死亡が確認されたものの。	715	11	30～ 49
2015	11	9 ～ 10	新設の鋼製橋梁工事（橋長：35メートル）において、4名の作業員で橋梁に設置されていたつり足場の解体作業中、被災者は橋桁の下部に設置されていた足場板を撤去していた際、その下を流れていた川（作業床から川面まで約1.3メートル）につり足場から墜落し、川を約100メートル流され、墜落から約1時間30分後に救出されたが溺水により死亡したものの。	411	1	1～9
			事業場に隣接する斜面において、チェーンソーを用いて立木を伐倒する作			

2015	7	10 ～ 11	業中、立木の斜面下方向に受口の下切りのみを行い、斜面上方向から追口の切り込みを行い、一旦チェーンソーの刃を抜き、1～2歩離れた瞬間、当該立木が倒れ、被災者の胸部に激突したものの。	712	6	1～9
2015	8	16 ～ 17	建設会社の仮置場の除草作業を請け負い、労働者2名で刈払機を用いて除草作業を行っていた。作業終了間際、被災者は刈払機を作業場所に放置したまま、他の作業員がいた場所にふらふらと近づき、大の字になって地面に横たわった。その後、被災者は意識を失い、救急車で病院へ搬送されたが熱中症による死亡が確認されたもの。	715	11	1～9
2015	1	9 ～ 10	東側に通る舗装道路に伐倒木が倒れないように伐倒する木にワイヤロープを取り付け、西側の切株に設置したワイヤロープを滑車に経由させ、南側の木に取り付けたチルホールで伐倒木を引っ張りながら伐倒作業を行っていたが、伐倒方向が予定より約20度左方向にそれた。伐倒したあと、被災者が見当たらなかったため付近を探したところ、伐倒木の下敷きとなっていた被災者を発見し、その後病院に搬送したが死亡した。	712	6	30～ 49
2015	2	13 ～ 14	排水路の整備工事において、排水路内の中央を矢板で締切した左岸側の工事箇所から矢板越しの排水路（右岸側）に排水するために、排水ポンプのホースを矢板越しに設置しようとし、矢板に梯子を設置し梯子上で作業を行っていたところ、梯子の重心が傾き、梯子と共に排水路に転落し、頸椎損傷により死亡した。なお、矢板の高さは約2mであり、排水路の水深は約50cmであった。	371	1	10～ 29
2015	11	10 ～ 11	消雪パイプの点検及び整備業務（委託）において、労働者3名（作業員2名、交通誘導員1名）が、点検業務の先行作業として行っていた交通看板の設置を終え、次の作業場所へ移動するためトラックに乗り込もうとしたところ、後方から走行してきた一般車両（軽自動車）に追突された。トラックの後ろに立っていた労働者が死亡し、トラックに乗り込もうとしていた2名及び一般車両の運転者（非労働者）の計3名が負傷した。	231	17	50～ 99
		10	取水口工事の二重鋼矢板内（5m×24.8m）の水面上で、ブラケット			

2015	10	～	を溶接するためにいかだ（1. 8m×4m、丸太（径約25cm×7本））に乗って3名で移動していたところ、いかだが転覆し、おぼれ、1名が意識不明の重体となり、65時間後に死亡したものの。	239	10	30～ 49
2015	1	～	公園の整備工事における公園入退出用スロープの修繕作業にて、クローラ式ドラグショベル（機体重量2.26t）を用いて作業を行っていた。ドラグショベルを移動するためスロープ（傾斜角7°）上に仮置きされた厚さ19cmのコンクリートガラ上をスロープ登り方向に進行させ通過しようとしたところ、真後ろの方向に転倒。ドラグショベルの後ろ側で地面のならし作業をしていた被災者がドラグショベルのブームと地面に挟まれたもの	142	7	1～9
2015	5	～	国道共同溝補強のためのシートパイルを敷設する工事において、掘削土留め用鋼矢板をワイヤーロープとキャッチクランプを用いて、移動式クレーンにて吊り上げ作業を行っていたところ、当該ワイヤーロープから掘削土留め用鋼矢板が外れ、下方で作業していた被災者に鋼矢板が当たり、頭部挫傷および大腿部骨折をした被災者が死亡したものの。	372	4	1～9
2015	9	～	道路に隣接する個人宅の石垣が崩壊する危険性があったため、機体重量5tのドラグショベルとつり上げ荷重25tの移動式クレーンを用いて、既存の岩を取り外し、組み直す作業を行っていた。昼休憩を終え、石垣裏の土砂を同僚がドラグショベルのバケットですくい右旋回したところ、被災者がちょうど旋回範囲である石垣の上にはいたため、当該バケットに跳ね飛ばされ、2.15m下の地上に墜落したものの。	142	6	1～9
2015	1	～	被災者が、高さ約6メートルの屋根の端部から墜落し、災害発生現場に設置されていた灯油タンクに激突した後、地面に転落し、死亡したものの。 災害発生時、被災者は2階建ての建物の屋根（勾配約20度）上において、長さ約1メートルのスコップを用い、雪庇を除去する作業を行っていた。作業位置及び隣接部に、足場等は設けられておらず、安全带及びヘルメット等の保護具は未着用であった。	415	1	10～ 29
		12	自社敷地内の雨水排水路の補強工事中、コンクリート製の擁壁（縦約2m			

2015	9	13	横約1m厚さ約30cm)を排水路内に立てて支保工で固定していたところ、支保工が折れ、排水路内で作業していた労働者が下敷きとなった。	418	5	1~9
2015	9	14 ~ 15	立木の伐倒を試みるも木が倒れず、ワイヤー等で引き倒すため準備をしていたところ、不意に木が倒れ付近で作業を行っていた被災者に激突した。被災後病院に搬送され療養していたが、容態が急変し平成27年9月7日午後1時27分に死亡が確認された。	712	4	1~9
2015	5	12 ~ 13	民有地での伐倒作業現場において、被災者がチェーンソーを使用して伐倒した木(樹種:ムクノ木、高さ:約25.3m、胸高直径:約35cm)が途中で折れ、折れた伐倒木が被災者の胸部に激突し、被災したものの。	712	6	1~9
2015	7	9 ~ 10	寺の敷地内において、庭に設置した庭石(寸法:90x70、厚さ17cm、重量:約130kg)の位置を変更するため、つり上げ荷重0.995tの小型移動式クレーン(通称:カニクレーン)を使用して、庭石を吊り上げたところ横転し、ジブの先端が作業の様子を見ていた被災者の頭・背部に激突したものの。小型移動式クレーンはアウトリガーを張り出しておらず、設置した場所も平坦な場所ではなかった。	212	6	1~9
2015	8	13 ~ 14	午前8時頃から事業場の資材置場において、被災者は、同僚と一緒に草刈り機で草を刈っていた。午前11時頃に少し具合が悪いということで、エアコンを掛けた社有車で休んでいたが具合がよくなり、同僚と一緒に社有車で事業場に戻りそのまま自宅に帰った。午後5時15分頃に妻が仕事を終え自宅に戻ったところ、被災者がソファの上で心肺停止で横たわっていたのを発見したものの。検死で熱中症による急性循環不全と診断された。	715	11	10~ 29
2015	7	9 ~ 10	被災者は治山工事での伐木作業で、法肩のケヤキ(高さ9m、胸高直径35cm)を伐倒し玉切りしていたが、伐木が谷側に滑り落ちそうになったことから、1本のロープの端を伐木の先端と末端にそれぞれ結び、同僚と二人で引き上げようとしたが動かなかった。そこで被災者はロープの内側に入り込み、引き続き玉切りを続けたところ、伐木が路肩から滑り落ち、当該ロープに被災者の足が引っ張られる形となり、急斜面を約25m滑落	379	1	1~9

			したもの。			
2015	10	9 ～ 10	つり上げ荷重2.9tのケーブルクレーン1基を解体中、ワイヤーロープ数本(約500kg)の束を吊り下げた状態のまま、支点としていた仮支柱(全長20メートル、重さ約423kg:1ロットにつき2メートル×10本)1本が倒壊し、作業中の労働者2名(1名は合図者、1名は解体員)が被災したもの。	419	5	1～9
2015	10	11 ～ 12	跨道橋橋台の基礎工事現場において、クレーン機能付きドラグ・ショベルを用いて、現場内に敷設されていた仮設の鉄板を大型ダンプトラックに積み込み作業中、停車していたダンプトラックが突然逸走し始めたため、ダンプトラックの左後方で待機していた被災者が咄嗟に止めようとして、ダンプトラックの前方に回り込んだところ、前輪及び後輪に轢かれ、他臓器損傷による外傷性ショックにより1時間後に死亡した。	221	7	1～9
2015	7	10 ～ 11	高速道路建設工事に付随して、道路脇の倒れるおそれのある立木を伐倒する作業をしていたところ、伐倒した立木が他の枯損木に当たり、当たられた枯損木が倒れ、被災者に激突した。被災者は、伐倒予定の立木を倒す方向を誘導するため、伐倒予定の立木が倒れてこない箇所に待避してチルホールを操作していた。	712	6	10～ 29
2015	9	11 ～ 12	被災者が資材置き場においてトラックの荷台にベルトスリング等(以下、「固定具」と言う)で固定して積み込んであった移動式クレーンのジブ(以下、「ジブ」と言う)の荷降ろし作業を行っていた。被災者がジブを4か所で固定していた固定具のうち3か所を外し、最後にジブに残っていた固定具を外すためにジブに乗ったところ、ジブがトラックの荷台から落下した際、被災者が荷とともに墜落し、その下敷きとなったもの。	612	4	30～ 49
2015	8	6 ～ 7	被災者と合番者の2人で、土砂バキューム車に貼られていたステッカーを剥がす作業を行おうとしていたが、タンク内にある道具が必要となったため、タンクのハッチを開けて道具を取り出した。その後、被災者の合図で合番者がハッチを閉める操作を行った際に、被災者がハッチに頭・胸を挟まれ死亡したもの。	221	7	100 ～ 299

2015	2	13 ～ 14	工場本体の新築工事の外構工事として、敷地内に貯水槽（大きさ6.6m×3.6m深さ3.3m）を設置するためドラグ・ショベルで、大きさ11m×8m深さ約3.6mの総堀りをしていた。その際、突然ピット側面の土砂が崩壊したため、ピット底部に入り、ならし作業をしていた被災者が生き埋めとなり、すぐに救出し病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	711	5	1～9
2015	9	14 ～ 15	被災者は、除草作業中、自走式草刈り機（立ち乗り型）を運転していたが、その下敷きになっているところを発見された。	169	2	10～ 29
2015	7	10 ～ 11	下水管敷設のため、深さ1.8m、幅1.2mの溝をドラグショベルにより掘削中、被災者が溝の中に入りまもなくして被災者の背中側が深さ1.4m、幅0.5m、長さ2mに亘って崩れ、腰ぐらいまで土砂に埋まった。	711	5	30～ 49
2015	3	11 ～ 12	事業場は、大手ハウスメーカーの子会社で、主に新築物件の外構工事を行う。主に営業と設計・施工管理を行い、工事は下請け事業者が施工。被災者は営業と設計・施工管理を行う中で、長時間の労働に従事していた。平成27年3月5日午前8時半頃、転居のため一時的に身を寄せていた妻の実家の駐車場の車中で倒れているのが発見された。救急搬送されたが、午前11時2分心筋梗塞により死亡した。	921	90	1～9
2015	12	13 ～ 14	竹藪伐採作業中に、竹藪内に自生していた胸高直径20cm、樹高21mのニワウルシの木をチェーンソーで伐倒した際に、受け口を作らずに伐倒したため、伐倒中にニワウルシの木が裂け、裂けた伐倒木が被災者の頭部に激突したもの。被災者は、同日午後10時31分に重症頭部外傷により死亡した。	712	6	1～9
2015	1	14 ～	建設工事現場でアンカー工事を施工していた下請事業場が、工事に使用していた資材に不具合が生じたため、被災者が1人で予備の資材を事務所まで取りに戻る途中、高速道路を次のインターから北に約1km付近まで南進したところで、被災者が運転していたワゴン車が突然中央分離帯から反	231	17	1～9

		15	対車線に進入し、走ってきた対向車2台と立て続けに衝突した。被災者は全身を強く打ち、搬送先の病院で死亡した。			
2015	8	13 ～ 14	事業場所有の敷地内にて、チェーンソーを使用して、太さ50センチ、高さ20メートルの立木の造材作業を被災者含む2名の労働者で行っていた。事業者は2名の作業を離れた位置で傍観していたが、チェーンソーの音がしなくなったのでよく確認したところ、倒れている被災者を発見した。	712	6	1～9
2015	9	16 ～ 17	林道工事において、元請の作業員と共に2名で残土処理場の木柵の設置作業を終了した後、元請の作業員はドラグショベルで法面の整形作業を行い、被災者は行う作業がないため、元請の作業員から休憩する旨言われていた。別工事を行っていた建設工事の関係者が、車で帰社途中に、残土処理場の横の林道を走行していたところ、林道上に横向けに倒れている被災者を発見したもの。	999	99	10～ 29
2015	6	0 ～ 1	被災者は、県道上において、工事現場にドラグショベル（0.2m ³ ）搬入するための交通誘導を行っていた。積載車からドラグショベルを搬入する作業が終了したため、被災者は交通誘導を終え、工事現場に向かって県道を横断しようとしていたところ、南進してきた軽トラックにはねられたもの。トンネル工事現場において、切羽付近のズリ積み作業を終了したドラグショベルが、次の作業に向かうため後進したところ、ドラグショベル右後方に立ち入っていた被災者の両足を轢いたもの。	231	17	10～ 29
2015	6	15 ～ 16	個人所有地の伐採作業現場において、胸高直径約38センチ、高さ約15メートルの杉を伐採する際、伐倒方向を制御するため、同僚労働者が木材グラップル機を使用し、つかみ装置を地上から約4.4メートルのところ	712	6	10～ 29
		11 ～	に添えながら、被災者がチェーンソーで伐木したところ、切断部が暴れ、根本付近が被災者に激突したもの。			
2014	1	11 ～	資材置場にて、船と呼ばれる生コンクリートを入れる鉄製の箱をドラグ・ショベルを使用してトラックに積み込んだ後、ドラグ・ショベルを運転し	141	6	10～

		12	ていたところ、トラックの荷台にいた被災者にドラグ・ショベルのバケツトが激突した。			29
2014	1	12 ～ 13	法面の工事現場にて、被災者を含めて作業員4名でアンカーの引き抜き試験の作業を行っていた。試験機が故障したため作業を中断し、被災者に先立ち2名の作業員が親綱を伝って下山し、もう1名が山道から下山したが、時間が経っても被災者が下山してこないことを作業員が不審に思い捜索を行ったところ、通路状になっている斜面から約10m下の立木に引っかかっている被災者が発見された。	711	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	ロータリー除雪車を使用して、運転者と補助をする被災者の2人で除雪作業中、除雪車運転席側サイドミラーの位置を直すため、運転者は除雪車のエンジンを停止させず、ロータリー部を回転させたまま停車させた後、運転席を離れ、車内に戻り運転席に座ろうとした際、座席脇の走行レバーに触れてしまい、除雪車が自動前進を始め、車外に出ていた被災者がロータリーに巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	道路補修現場にて、被災者は、道路上でアスファルト切削後の路面の厚みを写真撮影する準備を行っていたところ、切削後に搬出するアスファルト切削片を積み込むため後進してきたダンプトラックに轢かれた。	221	6	1～9
2014	1	9 ～ 10	斜面の落石防止網設置工事にて、斜面下部からウインチ操作で送られてくる単管パイプを受け取るため、一名の作業員が斜面上部の林道からさらに高さ約5mを登った場所に位置し、声を掛け合いながら単管パイプを受け取り、林道へ下ろそうとしていた際、被災者は斜面から滑落し、約5m下の林道へ墜落した。	711	1	1～9
2014	2	14 ～ 15	被災者は、台船を牽引中の船を操縦していた同僚から緊急要請を受け、別の同僚1名とタンカー船で救援に向かった。タンカー船が台船の後方に近づき、被災者がタンカー船の船首から台船に移ろうとしたところ、湖へ落水した。タンカー船を操縦していた同僚が、すぐに救出を試みたが、荒天により救出できず行方不明となり、後日湖岸で発見された。	719	10	10～ 29
			雪堆積場にて、被災者はブルドーザーを操作し、雪をステージ（排雪ダン			

2014	2	17 ～ 18	プが搬入した雪を降ろす場所) 付近から雪山の頂上まで押し上げて移動させていた。頂上付近まで押し上げたため後退(進行方向の斜度17度、法肩方向の斜度8度)していたところ、横滑りして雪山の法肩から斜面を1回転しながら21m滑落し、キャビンの中で頭部を強打した。	141	1	1～9
2014	2	7 ～ 8	漁港施設建築工事現場にて、社有車により漁港敷地内を走行中、社有車ごと岸壁から海面に転落し、溺死した。	231	1	1～9
2014	3	13 ～ 14	土地整地工事にて、土砂運搬用ダンプカーの走行により汚れた道路を清掃するため、被災者は池から散水車への給水を1人作業で行っていた。午後の打合せに現れず、電話連絡もつかない被災者を探したところ、給水を行っていた池に転落水没していた散水車の近くの水中で沈んでいる被災者が発見された。	221	10	10～ 29
2014	3	14 ～ 15	基礎杭周囲を掘削し、基礎の均しコンクリートを電動ハンマーで小割りしようとしていたところ、均しコンクリートを支えていた土砂が、電動ハンマーの振動で崩壊し、均しコンクリート及びその上に堆積していた土砂が被災者に崩れ落ち、窒息死した。	711	5	1～9
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	50～ 99
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	100 ～ 299
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	30～ 49
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	30～ 49

2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	1～9
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	418	10	30～ 49
2014	4	11 ～ 12	再生材をドラグショベルを使用し、トラックの荷台に載せる作業を行っていたところ、ドラグショベルが転倒し、トラック運転席部分にバケットの根元部分が当たり、トラック運転席にいた被災者は、つぶされた運転席屋根に挟まれ、死亡した。	142	6	1～9
2014	5	17 ～ 18	被災者は、ダンプトラックの荷台を上げ、エンジンを掛けた状態のまま運転席を離れ、ダンプトラックの荷台の下に立ち入った際、荷台が下がり、ダンプトラックの荷台と車体フレームの間に体を挟まれ、翌日発見された。	221	7	10～ 29
2014	6	16 ～ 17	農業用牧草ロール機を格納場所へ移動させた際、道路から斜面に降りようと機体を後進させ、法面に垂直に進入したところ、機体が転倒し、約3メートル下のコンクリート敷面まで転落し、機体の下敷きになり、死亡した。	169	1	1～9
2014	7	17 ～ 18	軽自動車で国道を走行していたところ、トンネル出口付近からセンターラインをはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2014	7	8 ～ 9	河川の左岸法面の除草作業中、法面下部の雑草を手作業で除草していたところ、法面から川に転落した。	713	10	30～ 49
2014	7	17 ～ 18	水道建設工事現場にて、土止め材を移動させるため、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベル、ワイヤーロープ及びつりクランプによりつり上げたところ、つり荷がつりクランプから外れ、下にいた被災者の上に落下し	521	4	10～ 29

			た。			
2014	7	15 ～ 16	ドラグ・ショベルを使用し、林道に堆積していた土砂、枝葉等を除去していたところ、ドラグ・ショベルごと林道脇の谷へ約4.2m転落した。	142	1	10～ 29
2014	7	15 ～ 16	伐開作業中、伐倒木の玉切り作業を行っていたところ、被災者に伐倒した立木が激突した。	712	6	10～ 29
2014	7	6 ～ 7	国道を走行中、前方を走行していた乗用車を追い越そうと、反対車線にはみ出した際、反対車線を走行していた乗用車と正面衝突した。助手席に座っていた被災者が車外に投げ出され死亡し、運転席及び後部座席の3名が負傷した。	231	17	1～9
2014	7	8 ～ 9	被災者は、川沿いにコンクリートブロックをドラグショベルにてつり、並べる作業を行っていたところ、旋回したドラグショベルのバケットとコンクリートブロックの間にはさまれた。	142	6	1～9
2014	8	13 ～ 14	台風の被害木の撤去作業中、被害木の玉切作業を行っていた際、被害木にチェーンソーが挟まり、待機していたところ、被災者の上方の立木が根こそぎ倒れ、幹が被災者の頭部に激突した。	712	6	10～ 29
2014	8	10 ～ 11	コンクリートブロックをドラグ・ショベルで吊り上げ、ダンプに積み込む作業中、ブロックにワイヤーロープを掛けようとしていた際、被災者が転倒したところ、ドラグ・ショベルの運転手が操作を誤り、バケットとブロックの間に被災者が挟まれ、頭部を負傷し、死亡した。	141	6	1～9
2014	8	0 ～ 1	建設工事のための寄宿舍にて、深夜に火災が発生し、被災者は火傷を負い、入院先にて死亡した。	911	16	10～ 29
2014	8	0 ～ 1	建設工事のための寄宿舍にて、深夜に火災が発生し、被災者他4人が死亡した。出火場所は2階の物入れで、ゴミなどが置かれていた。	911	16	10～ 29

2014	8	0 ～ 1	建設工事のための寄宿舍にて、深夜に火災が発生し、被災者他4人が死亡した。出火場所は1階の物入れで、ゴミなどが置かれていた。	911	16	10～ 29
2014	9	8 ～ 9	国道維持管理作業中、雨水枡の清掃作業を行っていた際、被災者は枡の中に入り、目皿と呼ばれる円形の金属製の格子が所定の位置から脱落していたため、枡の中から取り出す作業を行っていたところ、意識がない状態で発見された。被災者は、硫化水素中毒により肺水腫を発症し、肺水腫により死亡した。	514	12	10～ 29
2014	9	11 ～ 12	道路上に流出した土砂等をスコップ等を使用し、撤去していたところ、軽自動車に被災者ら4名がはねられ、1名が死亡し、3名が負傷した。	231	17	30～ 49
2014	10	11 ～ 12	土場にて、土を油圧ショベルで掘削し、ダンプに積み込む作業中、背部の地山が崩壊し、油圧ショベルごと埋まり、窒息死した。	711	5	10～ 29
2014	10	9 ～ 10	宅地造成工事現場にて、トラックの荷台から敷鉄板を地上に下ろすため、ドラグショベルを使用し、敷鉄板を吊り上げようとしたところ、鋼棒がバケットから外れ、敷鉄板がトラックの荷台から滑り落ち、トラック側方の側溝で作業していた被災者に鉄板が激突し、敷鉄板の下敷きとなった。	372	4	10～ 29
2014	10	15 ～ 16	橋梁架替工事中、土砂等を搬入していたダンプトラックが道路上に落とし、いった土や砂等を車両入場口付近で単独で清掃していたところ、走行してきた乗用車にはねられ、全身を強打し、死亡した。	231	17	1～9
2014	10	10 ～ 11	石落とし作業を行った際、林道にて作業に使用したロープ等の片付け作業を行っていたところ、高さ10メートル、幅8メートルの範囲で地山表層が崩落し、直径約1メートルの石が被災者の半身に落下し、はさまれ、脳挫傷及び心臓破裂により死亡した。	711	5	1～9
2014	10	9 ～ 10	支障木の伐倒作業中、木を切っていた途中で木が裂け、伐倒木の元口が被災者の頭部にあたり、脳挫傷により死亡した。	712	6	1～9

2014	10	12 ～ 13	河川敷法面を動力式草刈機に乗り、除草作業中、法面より草刈機とともに滑落し、草刈機の下敷きとなり、死亡した。	169	2	10～ 29
2014	11	11 ～ 12	倉庫前にて、被災者がクローラ自走式の樹木粉碎機を積載型トラッククレーンの荷台に積み込む作業を行っていたところ、急性多臓器不全にため、停車したクローラ自走式の樹木粉碎機の後ろで倒れている被災者が発見された。	162	2	10～ 29
2014	11	11 ～ 12	水漏れ箇所の点検のための掘削作業中、被災者が穴の中に入り確認作業を行っていたところ、土砂が崩れた。	711	5	1～9
2014	12	3 ～ 4	小型トラックで走行中、センターラインを越えて対向車線を走行中の大型トラックと正面衝突し、頭を強く打ち、死亡した。	221	17	10～ 29
2014	12	15 ～ 16	トレーラーを傾斜のある作業道に設置し、建設機械を荷台に積載し、上部旋回体をトレーラー後方側へ旋回させた際、荷台側面の履帯を修正しようとトレーラー後方側へ動かしたところ、建設機械が荷台より滑り、墜落。被災者は転落する建設機械に巻き込まれ、建設機械の下敷きになり、死亡した。	145	1	10～ 29
2014	12	11 ～ 12	伐木中、高所作業車の作業床からワイヤロープを緩め、伐倒した幹を倒していたところ、幹が切断部を軸に左回転し、切断部から約1m離れた高所作業車上にいた被災者が幹と作業床の手すりに胸部を挟まれた。	712	5	30～ 49
2014	12	8 ～ 9	被災者はクローラークレーンに装着した杭打ち装置の上部と下部を接合するため、装置接合部の調整を行っていたところ、装置下部が倒れ、ボーリングマシンとの間に挟まれ、死亡した。	143	5	10～ 29
2014	12	9 ～ 10	資材置場へ向かうため、スクーターに乗り移動中、交差点にて、乗用車と激突した。	231	17	1～9

2014	12	8 ~ 9	法面造成工事にて、バックホウに専用のつり具を用い、ブロックを高さ約4.5 m位置から下ろす作業中、重機がバランスを崩し、転落。下方にいた被災者に重機のバケットが激突し、死亡した。なお、当該重機は移動式クレーン仕様であるが、災害発生時はクレーンモードにしておらず、定格荷重0.9 t（作業半径7.3 m）に対して約1.3 tの荷（つり具を含む）を吊っていた。	142	6	100 ~ 299
2013	8	14 ~ 15	林道整備工事において、支障木となる杉を被災労働者及び同僚の2名で伐倒した。その後、被災者がチェーンソーを用いて伐倒した杉（全長約18 m、根元付近の直径42 cm）の先端から約5.3 mの位置で玉切り作業をしていたところ、玉切りしていた木（元口側）が跳ね、被災労働者の左頬付近に当たり、転倒した。	712	4	1~9
2013	4	12 ~ 13	産業残土等の土捨て場において、労働者ら3名が、沈砂池へ水を流す排水管（1本：長さ5 m×径0.8 mの塩化ビニール管）を埋設し連結する作業を行っていたところ、隣接する盛土が崩壊し、2名（労働者1名、会社役員1名）が生き埋めとなり死亡した。尚、現場は、捨土が盛られた個所を管理設のため、約1 m程度の深さにドラグショベルで床掘りした場所で、周囲には捨土と掘削土が山状に盛ってあった。	711	5	1~9
2013	9	9 ~ 10	国有林の治山工事において、被災者は平均角度53°の法面においてモルタル吹付ノズルの修正等のモルタル吹付補助を行っている際、ロリップを親綱に付けたままベルトのD環からロリップを外し、幅20~30センチメートルの小段を歩いていたところ約70 m下に転落した。	711	1	1~9
2013	1	16 ~ 17	災害復旧工事現場において、被災者は、他の労働者1名と法面モルタル吹付作業に使用したミキサー（セメントと砂を混合する機械）の清掃作業を行っていた。被災者が、ミキサーの側面のドアを開放し、ミキサーの内側に付着したセメントをハンマーで叩いて落としていたところ、回転していた攪拌用の羽根に左手から頭部を巻き込まれた。	162	7	1~9
2013	11	9 ~	ガス管の敷設工事の際、ドラグショベルで町道を掘削していたところ、バケットが既設のガス管に接触し破損したため、被災者がタオルで破損箇所	513	12	10~

		10	に栓をしようとして、漏えいしたLPガスを吸い込んだ。			29
2013	5	13 ～ 14	法面上において親綱を張り、ロリップ式安全帯を使用して浸食防止マット貼り作業を行っていたところ、親綱からロリップが外れ、約30メートル下に転落した。	379	1	1～9
2013	8	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、1名がスコップ、もう1名が手持ち式はつり機を持って鋼矢板のそばで手掘り作業を行っていたところ、鋼矢板が傾き出して土砂が崩壊し、2名が生き埋めになった。手持ち式はつり機で作業を行っていた被災者は、その後救出されたが、死亡が確認された。	711	5	1～9
2013	12	13 ～ 14	法面整備工事における立木伐採作業中、チェーンソーで伐倒した法面上方の立木が、法面下方にいた被災者を直撃した。	712	6	50～ 99
2013	9	9 ～ 10	林道開設工事現場において、被災者はドラグショベルを運転して、作業道（道幅2.8m、上限勾配18%）の掘削作業中、作業道の路肩が崩壊し、28m下の谷へ転落した。	142	1	1～9
2013	8	15 ～ 16	河川地震高潮対策地質調査にかかるボーリング作業を、事業者と被災者の2名で行っていた。被災者は、事業者が操作するボーリングマシンのロッドの接続などの補助作業を行っていたが、作業中に倒れ込み、大量に汗をかき、呼びかけにも応じなかったため、すぐに救急搬送したが、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2013	12	9 ～ 10	最終処分場覆土工事において、被災者は、延長約50m、勾配約20度の通路を法面上部から施工場所まで不整地運搬車（車幅1.56m）を運転して土砂の運搬作業をしていた際、路肩から車両ごと斜面（勾配約35度）を転落した。	227	1	10～ 29
2013	4	9 ～ 10	河川護岸改修工事現場で、川沿いの道路に並べて敷いていた敷鉄板（1枚約800kg）を撤去するため、被災者運転のクレーン機能付き（0.9t吊）ドラグショベルで鉄板1枚を吊上げ、鉄板が川の上を通るように旋回していたところ、ドラグショベルごと川に転落し、被災者はドラグショ	212	1	1～9

			ベルの下敷きになった。			
2013	11	16 ～ 17	河川の築堤工事現場において、場内にあった4 t ダンプのバッテリーが上 がっていたため、同場内のブルドーザーをダンプに横付けし、お互いの バッテリーをケーブルで繋いでいたところ、ブルドーザーが突然後退し、 ブルドーザーの左クローラー後部で作業を見ていた被災者が轢かれた。な お、ブルドーザーはエンジンをかけたままであった。	141	7	10～ 29
2013	4	13 ～ 14	運転していた被災者は、ドラグショベルで法面掘削作業中、ドラグショベ ルとともに路肩から約1.6 m下の地面に転落し、ドラグショベルの下敷 きとなった。	142	1	1～9
2013	10	11 ～ 12	ドラグショベルでつり上げた雨水桧（重量約220 kg）が、つり具の縦 型クランプから外れて地面（勾配11°～16°）を転がり、高さ約3 m 下へ落下し、法面の下でモルタルの均し作業をしていた被災者が下敷きと なり死亡した。尚、ドラグショベルはクレーン仕様ではなかった。	372	4	1～9
2013	12	16 ～ 17	被災者は、高さ約13メートルの法面にて、落石防護網の設置作業を行っ ていた。法面に立てられたH鋼に、取り付けていた水平方向の単管に足を かけて作業を行っていたところ、単管が下方向にずれ、被災者は13メー トル下の地上に墜落した。	419	1	1～9
2013	11	10 ～ 11	伐木・造材・集材・木材輸送作業の現場において、作業道を延伸するた め、被災者がドラグショベルに搭乗し、作業道終点から斜面を掘削してい たところ、作業道の路肩が崩壊しており、ドラグ・ショベルが作業道より 30 m下方の谷に転落し、被災者がドラグ・ショベルの傍に倒れているの を発見された。	711	1	10～ 29
2013	1	11 ～ 12	建物解体工事現場で、全高11.2メートルの防音囲い（単管を格子状に 組み立てたもの）に上り、ロープを用いて防音シートを地上から引っ張り 上げる作業を行っていた被災者は、ロープを取り付けた防音シート端部の 取っ手（ロープをくくり付けるための布製の輪）が切れたためバランスを 崩し、高さ9.6メートルから墜落した。	411	1	10～ 29
			法面にラスを張る作業を行うにあたり、被災者が垂直親綱を設置し、法面			

2013	8	13 ～ 14	を登っていたところ、法面上部の岩石が崩落したことにより、崩落に巻き込まれ、被災者は法面から落下し、最大直径約4メートルの岩石の下敷きになった。	711	5	1～9
2013	7	11 ～ 12	残土処分地における流出残土の防止のための沈砂池設置工事において、トラックで運んできたコンクリートブロック（重さ：約3 t）をクレーン機能をもたないドラグ・ショベルのバケットのフックに玉掛用ワイヤロープを掛けて吊り、トラックから作業場へ降ろしていたところ、下方で玉外し作業をしていた被災者に激突し、病院へ搬送したが、死亡した。	142	6	1～9
2013	9	13 ～ 14	函渠設置工事の現場において、元請の現場管理を行う被災労働者が現場内を移動中、国道と地方道が交わる交差点（当該工事は、交差点の地中に函渠を埋設する工事）の北東に位置する地方道の横断歩道を横断しようとしたところ、国道から地方道に左折した大型トラック（一般車両）にはねられた。	221	17	1～9
2013	9	17 ～ 18	被災者は、自社倉庫（平屋、中2階有り）内の整理作業を単独で行っており（被災者の妻が、道路から本人が倉庫内で作業をしているのを見かけていた）が、上席者が倉庫内のコンクリート床上に倒れている被災者を発見した。その後、救急搬送されたが、脳挫傷により死亡した。尚、災害発生時に目撃者はおらず、詳細は不明。	999	99	10～ 29
2013	8	15 ～ 16	被災者は、携帯基地局の建設現場において基礎コンクリート部分の配筋作業を行っていた。作業を終え地上へ梯子で昇ってきた直後、体調不良を訴え座り込んでしまった。熱中症と思われたため同僚が水と塩分を与え、現場監督が氷を買いに行ったが、現場監督が戻ってきたときには痙攣を起こしており、病院へ搬送されたが死亡した。	715	11	1～9
2013	3	12 ～ 13	道路わきの樹木伐採を行い、伐採した木をトラックに積み込んだ。積み込み作業が完了した際、走行してきた別のトラックに轢かれた。尚、現場は片側一車線道路で、路肩にトラックを止めカラーコーンを置き一車線を規制して作業を行っていたが、走行してきたトラックが停車していたトラッ	221	17	1～9

			ク横を通過した際大きな音がし、その直後交通誘導を行っていたガードマンが、倒れている被災者を発見した。			
2013	1	8 ～ 9	民間企業の駐車場にコンクリート板を敷設する工事で、移動式クレーン仕様を備えたドラグ・ショベルをクレーンモードに切り替え、約2トンのコンクリート板の角にワイヤロープを掛けて吊り、掛けていたワイヤロープとシャックルをコンクリート板の2箇所のフックから外すため、被災者がコンクリート板の下に潜っていたところ、角に掛けていたワイヤロープが外れコンクリート板が被災者の頭部に激突した。	372	6	1～9
2013	5	10 ～ 11	被災者が高速道路を社用車で走行移動中、エンジンの故障で路肩内に停車しているトラックを発見したため、トラック前方の路肩内に車を停車し、降車して運転手にトラックの窓越しに話を聞いていたところ、後方から走って来た他社トラックが、停車しているトラックに追突した。この衝撃で、停車トラックが約20メートル前方に押し出されて被災者を撥ねた。	221	17	10～ 29
2013	11	16 ～ 17	倉庫内で被災者が右脚の太ももから血を流して倒れているのを社員が発見し、病院に搬送したが出血性ショックで死亡した。現場には血が付着した携帯用丸のこ盤と切断中の型枠材があったことから、被災者は携帯用丸のこ盤を使用し型枠材を切断中、携帯用丸のこ盤の歯が被災者の右脚の太ももに触れたと推測される。	131	8	1～9
2013	7	12 ～ 13	被災者2名は、解体中のアパートの1室において、昼食時、台所付近に置いた可搬式の発電機（燃料：ガソリン）にエアコンを接続し、エアコンを稼働させ、休息していた。下請の労働者が排気ガスのような臭いのする同室内において、横たわっている被災者らを見出し、声をかけたが、被災者らは反応しなかった。被災者らは病院に搬送され、死亡が確認された。	514	12	30～ 49
2013	7	12 ～ 13	被災者2名は、解体中のアパートの1室において、昼食時、台所付近に置いた可搬式の発電機（燃料：ガソリン）にエアコンを接続し、エアコンを稼働させ、休息していた。下請の労働者が排気ガスのような臭いのする同室内において、横たわっている被災者らを見出し、声をかけたが、被災者らは反応しなかった。被災者らは病院に搬送され、死亡が確認された。	514	12	30～ 49

2013	9	12 ～ 13	ワイヤー製の網に石4つ（直径50cm～80cm程度）を入れ、ドラグショベルを用いて運搬していたところ、幅約2mの急斜面に差し掛かった際、路肩が崩れたためドラグショベルが転倒し、運転者が当該ドラグショベルの下敷きになった。	142	2	1～9
2013	7	8 ～ 9	仮設道路の撤去工事において、ダンプトラック（以下「トラック」）を用いて資材を運搬する作業を行うこととした。被災者は、現場内にトラックを停止させて運転席を下車した。その後、突然、無人のトラックが動き出し、それを止めようとした被災者がトラックと側壁との間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2013	3	14 ～ 15	民家裏の竹林等伐採作業現場において、樹高約20m（胸高直径約27cm）の杉の木をチェーンソー及びチルホールを用いて、横方向に伐倒したところ、伐倒方向にいた被災者を直撃した。作業は2名ずつ2班（伐木班と伐木後の玉切等を行う片付班）に分かれて行っていたが、片付班だった被災者が、なぜその場所にいたのかは不明である。	712	6	10～ 29
2013	5	8 ～ 9	被災者は、法面復旧工事の前段として伐木作業を行っていたが、全長10m及び胸高直径20cmのクヌギの木にかかっている蔓を取り除くため、当該クヌギに登り、チェーンソーで除去作業を行っていたところ、高さ3mの位置から墜落し、後頭部を打った。	712	1	10～ 29
2013	10	13 ～ 14	鉄道林の再生工事において、玉切りをするため、林業用グラップルを用いて4mの丸太をまくら木に載せようとした際、持ち上げていた丸太が、先に載せた丸太に引っかかったため、はずそうと動かした際、近くで待機していた被災者に丸太があたった。	169	6	10～ 29
2013	10	11 ～ 12	被災者は、一般住宅の除染工事現場においてドラグショベルを運転し、約1割勾配の法肩から法面に落ちている木の枝などをバケットでかき上げる作業中、ドラグショベルとともに法面を約5メートル下に転落し、腕などがドラグショベルの下敷きとなり、出血死した。	142	1	100 ～ 299
2013	1	17 ～	事業場の指示により「技能講習」を受講し、市内へワゴン車で戻る途中、対向車線に進出し、対向してきたタンクローリー車と助手席側から衝突した。助手席とその後方の労働者が死亡（2名）し、運転席とその後ろの労働者	231	17	10～ 29

		18	働者が重傷（2名）となり、3列目の労働者が軽傷となった。			
2013	1	17 ～ 18	事業場の指示により「技能講習」を受講し、市内へワゴン車で戻る途中、対向車線に進入し、対向してきたタンクローリー車と助手席側から衝突した。助手席とその後方の労働者が死亡（2名）し、運転席とその後ろの労働者が重傷（2名）となり、3列目の労働者が軽傷となった。	231	17	10～ 29
2013	7	13 ～ 14	所属事業場の駐車場内において、雑草等の廃棄物を指定場所まで運搬するため、廃棄物の積み終わった軽トラックにエンジンをかけたところ、運転操作を誤り前進したまま駐車場の端部から2.8m下の田んぼに軽トラックごと墜落。墜落時に胸部を強打し、外傷性血気胸にて死亡した。尚、駐車場はほぼ平坦で、墜落した駐車場の端部に車止めやガードレールは設置されていなかった。	221	1	10～ 29
2013	12	15 ～ 16	残土捨て場の下刈り作業として、数日前から被災者が中心となって杉の木の伐木を行っていた。伐倒した杉の木の2本が伐木予定のない木にかかり木となり、その木ごと伐倒しようとチェーンソーを使用して追い口、受け口を入れていた。倒そうとしていた木が、かかり木となった杉の木2本重量に耐えられなくなり、追い口の部分から幹が縦にさけて、折れ、伐倒作業を行っていた被災者の頭上に落下して、下敷きになった。	712	5	10～ 29
2013	1	10 ～ 11	社有車を運転し、会社から現場に向かう途中、身体の異常を訴えてそのまま意識不明となり、搬送先の医療機関で死亡した。	921	90	30～ 49
2013	6	9 ～ 10	被災者は、事業者及び漁業者3名と漁船に乗り、ホタテ養殖施設の修繕等を行うため、スクーバ式潜水（ドライスーツ着用）により単独で約40m潜水し、同施設の海底アンカー付近のロープをナイフで切断後、何らかの原因で溺れ、足から海面に浮上した。	999	10	1～9
2013	6	10 ～	コンクリート製集水枡（重さ約1.3トン）をクレーン機能付ドラグショベル（つり上げ荷重2.9トン）でつり上げ、既に敷設していた集水枡の上に重ねようとしたところ、つり上げていた集水枡が落下し、被災者に激	611	4	100 ～

		11	突した。玉掛けワイヤーを掛けていた箇所（厚さ4センチで内部に鉄筋が通されている）が破断し落下したものと推測される。			299
2013	1	10 ～ 11	被災者は、既存橋脚基礎の土止め底部に設置した水中ポンプの調整を行うため、腹起こし材に取り付けたアルミ製はしご（土止め壁の角から4mの箇所に設置）に向かって腹起こし材（H鋼、幅350mm）の上を移動中、土止め壁の角から1～2mの火打ち材に右足を乗せたところ、足を滑らせて4.5m下のフーチングコンクリートに墜落した。	416	1	10～ 29
2013	2	1 ～ 2	被災者は、道路除雪委託業務における道路の排雪作業の工程管理（写真撮影含む）として深夜作業に従事していたが、排雪直後の路面で転倒し頭部を強打した。作業終了後に、会社事務所で「転倒し頭部を強打した」旨を話していたが、その後に様態が急変し緊急入院したが、急性硬膜外血腫により死亡した。	719	2	30～ 49
2012	3	8 ～ 9	資材置き場において、被災者が一人で積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t、4tロング）の荷台後部に架けた登坂用足場板（アルミブリッジ）2本を使用し、トラクターショベル（機体重量1,975kg）を後進させて同荷台に積み込む作業を行っていたところ、荷台後部にあった同トラッククレーンのジブ先端に激突し、ジブ先端と同ショベルのハンドルとの間に胸部を挟まれた状態で発見された。	141	3	10～ 29
2012	11	13 ～ 14	土砂置場で、ダンプカーの運転手である被災者は、同僚の労働者が運転するドラグ・ショベルに轢かれた。	141	7	1～9
2012	11	11 ～ 12	伐採業務において、雑木林内でクローラ式自走式高所作業車（最大高さ12.1m）を使用して高さ10m以上の位置で大木の枝切り作業中、高所作業車がブームを伸ばした状態で転倒し、バスケットに乗っていた被災者が地面に投げ出された。	146	2	1～9
2012	10	14 ～ 15	河川敷にて集草作業を行っていた被災者は、除草作業現場近くの河川内で溺れた状態で発見された。	713	10	10～ 29

2012	7	10 ～ 11	被災者は公園の樹木の剪定作業中に、樹木から墜落して死亡した。	712	1	1～9
2012	10	7 ～ 8	夜間の道路施設建設工事を終え、工事のために借りていたトラック2台を返却するため、車3台（レンタルのトラック2台、乗用車1台）で移動していたところ、乗用車を運転していた被災者が走行中に反対車線にはみ出し、対向してきた運送業者のトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2012	11	9 ～ 10	作業道を拡幅するため、法面掘削に支障木となる立木（桜、胸高直径42cm）をチェーンソーを用いて伐倒していたところ、切断中に幹が割け、伐倒作業をしていた作業員に激突した。	712	6	1～9
2012	1	15 ～ 16	樹木の剪定作業において、被災者は側溝等に落ちた剪定した木の収集を市道脇で行っていたところ、市道を東進してきた軽乗用車にはねられ死亡した。	231	17	1～9
2012	6	10 ～ 11	新設道路の法面に落石防止用の網を設置する工事で、アンカー材（鋼製、152cm、8.8kg）を施工場所に持って行くため法面を移動中、法肩部から国道に転落した。	711	1	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	自社所有の焼却炉の修理のため、焼却炉蓋を移動式クレーンで吊り上げて外し、被災者の合図で地面に下ろしていたところ、下半身が蓋にはさまれている被災者が発見された。	212	6	10～ 29
2012	5	8 ～ 9	被災者は浚渫船のワイヤーロープを取り替えるため、5.5m下の泥倉に移動はしごで降りていたところ、バランスを崩し泥倉に転落した。	371	1	1～9
2012	4	14 ～ 15	農業用水路の配管設置工事の一環として、深さ1.68mの農業用水路内で小型バックホウの排土板を用いてバックで運転しながら用水路の底の堆積物を寄せ集める作業を行っていたところ、用水路に渡された梁に背中を押される格好で、梁と小型バックホウの運転席との間に挟まれた状態で同僚の労働者に発見され、外傷性窒息により死亡した。	141	7	1～9

2012	3	14 ～ 15	地滑り防止工事現場において、工事が完了した後の清掃・片付け作業を行うため、ダンプカーを現場事務所前に駐車していたところ、当該ダンプカーが突然逸走し、被災者は逸走してきたダンプカーに激突し轢かれ、死亡した。	221	6	1～9
2012	6	12 ～ 13	被災者は同僚と2名で草刈り作業を行っていたが、昼食休憩のため最寄り の日陰である高架橋へ移動し、県道の下を通る町道の歩道上で昼食をと っていたところ、軽自動車が歩道に突っ込み轢かれ、同僚は負傷した。	231	17	1～9
2012	1	12 ～ 13	資材置き場で、アース・オーガーの掘進機構部分（長さ約3m、直径約0.5 m、重さ約1.5 t）のモーターの修理を行った後、移動式クレーンを用い て移動させるため（移動式クレーンは、事業場の他労働者が運転）、被災 者が移動対象物にワイヤロープをかけようと上がったところ、被災者もろ とも倒れ、被災者が移動対象物に頭を強打し、死亡した。	612	1	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	国道維持管理工事で道路沿い崖の落石防護ネット（金網）を補修するた め、高さ約11mの法面上で落石処理をしていた被災者が墜落し、死亡し た。	711	1	1～9
2012	4	10 ～ 11	高さ約8mの斜面上にある庭園において、有害鳥獣用防護柵の設置及び庭 園の整地を被災者を含めた労働者3名で行っていた。被災者は、斜面上に おいて前日までに刈り取られた草を収集していたところ、斜面上より約8 m下の地面に墜落した。	711	1	1～9
2012	5	15 ～ 16	林道災害復旧工事において、作業用道路確保のための伐木作業として、作 業員3名により、胸高直径35 c m程度、高さ20m強の杉をチェーンソーを 用いて伐倒したところ跳ね上がり、山手側立木において手動チルホール （ウィンチ）の操作を行っていた被災者に伐倒木が激突した。	712	6	30～ 49
2012	11	8 ～ 9	地すべりの復旧工事において、河川の護岸工として「ふとんかご」を設置 する作業に被災者が従事していたところ、かご枠の部品（1枚20kg）20枚 を現場に搬入するため車両系建設機械（バックホー）のバケットつり金具 にワイヤロープを玉掛けしてつり上げていた際、玉掛けワイヤロープが外 れて直下で荷降ろし準備をしていた被災者に荷が落下した。	372	4	1～9

2012	11	8 ~ 9	事業場から林道新設工事現場に向かうため、ダンプトラックを運転し、既設の林道を通行していたところ、路肩からダンプトラックとともに傾斜約40度の斜面を転落した。なお、ダンプトラックは斜面の立木に引っかかったが、運転者は車外に投げ出されたことでさらに下方に転落し、脳挫傷で死亡し、同乗者は肋骨等を骨折した。	221	1	1~9
2012	2	14 ~ 15	貯水池底部に堆積した汚泥の浚渫、圧送、搬出し作業に使用する泥上掘削機（フロート構造のドラグショベル）のデモンストレーション作業を行うため、貯水池内（深さ6m）中央部まで進んで上部旋回体を150度回転させたところ、右前方部から沈み込む形で泥上掘削機が転覆し、運転者と隣にいた被災者が投げ出された。運転室にいた運転者は自力で脱出し無事だったが、被災者は意識のない状態で浮上したところを救出されたが、死亡が確認された。	142	10	1~9
2012	8	10 ~ 11	斜面上にある倒木を撤去するため、被災者がチェーンソーを用いて玉切り作業を行っていたところ、切断した当該倒木の根株が転落し激突された。	522	6	1~9
2012	2	6 ~ 7	職場内で自殺を図った被災者が発見された。	921	90	10~ 29
2012	3	13 ~ 14	被災者は防火水槽を道路下に設置する工事において、深さ約4mに重機で掘った穴に土止めを設置しようとしていた。穴の底に降りて作業を開始したところ、側面の土砂が崩れ被災した。	711	5	10~ 29
2012	11	13 ~ 14	被災者は0.1立方メートルのバケットを装着したドラグショベルで、バケットや排土板を使用して散策路の路面を均す作業を行っていたところ、勾配18度の斜面（幅員約3m）において約10m下にドラグショベルごと転落した。	142	1	10~ 29
2012	1	6 ~ 7	事業場から建設工事現場に向かうため、国道を軽トラックで走行中、対向車線を越え、進行方向右側の電柱に激突した。	221	17	30~ 49

2012	9	8	豪雨により崩壊した林道の復旧工事現場において、足場の解体材を移動式クレーン（積載型トラッククレーン、つり上げ荷重2.9 t）を用いて積み込んだ後に発生した災害。被災者は当該クレーンを移動させようと、アウトリガーを十数センチ程度引き上げたところ、当該クレーンが後退したことにより、アウトリガーと鋼製擁壁との間にはさまれた。	212	7	100 ～ 299
2012	12	14 ～ 15	立坑内で土止め支保工のうち、地上から約7m下にある4段目の腹起し（上下2本組のH鋼、一本当り長さ約8m、重さ約1 t）を作業員3人で解体中、その2本組の腹起しが動いて玉掛作業のため待機していた被災者に激突した。腹起しは、元々、ブラケット上で、グラウンドアンカーにより両端と中央の3点を固定していたが、解体のため既に片端と中央を溶断し残り1つの状態となっていた。	412	6	10～ 29
2012	4	9 ～ 10	被災者は支管入替工事で発生したアスファルト舗装設をトラックで産業廃棄物処理を行う事業場に運搬していたところ、前方にて右折待ちをしていた10 tトラックに追突し、下半身を挟まれ、出血多量により死亡した。	221	17	1～9
2012	8	9 ～ 10	被災者は立坑掘削工事に使用する仮設資材の移動作業を行っていたところ、当該仮設資材に隣接して設置されていたモルタルミキサー（高さ約2 m）が被災者に向かって倒れ、被災者はコンクリート製の擁壁と倒れたミキサーとの間に頭部を挟まれ、脳脱により死亡した。	162	5	1～9
2012	2	11 ～ 12	被災者はロータリ除雪車を用いて道路除排雪作業を行っていた際、オーガの回転が止まったため修理を行い、オーガ近くで回転を確認していたところ、同除雪車の運転者が被災者の位置を確認することなくオーガの操作スイッチを押してオーガを回転させたため、回転したオーガに巻き込まれオーガと路面に挟まれた。	149	7	1～9
2012	2	9 ～ 10	増築工事現場の現場代理人が現場内で突然倒れ、救急搬送されたものの搬送先の病院で死亡した。なお、被災者は、過重労働による脳疾患として労災認定された。	921	90	10～ 29
		8	高さ約1mの残土の上でブルドーザーを運転し残土の均し作業に従事して			

2012	12	～ 9	いた被災者が、意識不明の状態で残土周辺の地面の上に倒れているのが発見され、搬送先の病院で死亡した。なお、発見時、被災者が運転していたブルドーザーは残土から約30mほど離れた場所に停止していた。	141	1	50～ 99
2012	12	7 ～ 8	凍結路面に滑り止めの砂を撒く作業をしていたところ、反対車線からはみ出した乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2012	4	～ 14	被災者はU字溝を設置する作業を行っていた。中古のU字溝を所定の長さ に切断するため、U字溝の上に乗ってエンジンカッターで切断ところ、切 断部分が倒れて落下し、その際にU字溝に背中を強打した。	418	1	1～9
2012	9	9 ～ 10	水力発電水路護岸等の除草作業現場において、水路周囲に設けられたフェ ンス内の草取を行っていた被災者が誤って水路内に転落し、そのまま水管 内を流され、約3kmほど下流で発見され、病院に搬送されたが間もなく 死亡（溺水）が確認された。	418	10	1～9
2012	7	～ 14	ドラグショベルを使用し、石堀を解体撤去する作業をしていたところ、堀 全体が倒壊し、当該石堀付近に停車したトラックの運転席から降車した被 災者がトラックと石堀の間に挟まれ、脳挫傷により死亡した。	142	5	10～ 29
2012	8	～ 14	法面にコンクリートブロックを設置し擁壁を建設する工事において、事業 者がドラグショベルを運転し、最後の一枚を吊って設置し、被災者がワイ ヤーロープの玉外し作業を行っていたところ、コンクリートブロックが被 災者側に倒れ、下敷きとなった。被災者は、骨盤骨折等による大動脈損傷 により失血死した。	418	5	1～9
2012	12	9 ～ 10	松の剪定作業において、二連梯子をそえ柱と松に立て掛け、梯子の上で剪 定作業に従事していたところ、梯子の下から11段目（約3m）の位置辺り から墜落した。なお、二連梯子、そえ柱は松等に固定されていなかった。 また、被災者はヘルメットを被っておらず、安全帯も使用していなかつ た。	371	1	1～9
2012	2	～ 8	不具合が生じたハンドガイド式除雪機を修理するため、修理を依頼する整 備工場に持ち込んで同工場内を後進で運転していたところ、後方にあった	149	7	10～

		9	ダンプトラックとの間に挟まれた。			29
2012	5	10 ～ 11	国道維持補修工事で、道路と歩道を隔てるコンクリート製縁石の補修作業を行っていた被災者は、走行中の乗用車にはねられ、死亡した。	231	17	50～ 99
2012	12	9 ～ 10	除雪作業を終え、被災者ら複数名が自社所有のワゴン車に乗車し事業場へ戻る途中、県道において、路面が凍結していたためにスリップし速度超過となり、道路脇のガードレールを突き破り、斜面下約10mの沢へ転落した。その際、後部座席の中央に乗車していた被災者が出血多量等により死亡した。	231	17	30～ 49
2012	10	15 ～ 16	被災者はクレーン作業終了後、傾斜した路面に駐車しているホイールクレーンを撤収しようと、駐車用ブレーキをかけないまま、車外の車体左側側面でアウトリガーの格納操作中、当該クレーンが路面を逸走した。被災者は一旦運転席にしがみつき、その後下の小段に飛び降りたところ、当該クレーンが被災者の上に転落し下敷きとなった。	212	1	10～ 29
2012	7	10 ～ 11	被災者は午前中ブロック積み工事現場で具合が悪くなり、午後に帰宅したが途中で意識を失い、救急搬送先の病院で死亡した。	715	11	1～9
2012	12	1 ～ 2	線路下部を跨いで水路を設置するため、非開削工法（HEP&JES）にて施工していた。粘土質の地層に当たり推進機械が動かなくなり、手掘り掘削に変更しようと、推進機械を引き抜くためにエレメントと推進機械にチェーンブロックを掛け、被災者がその間で合図作業をしていたところ、引っ張っていた推進機械が2m程度急に飛び出してきたため、推進機械とエレメントの間に頭部を挟まれた。	149	7	10～ 29
2012	7	11 ～ 12	法面からの落石等を防止するため、親綱にロリップを掛けて法面上方から下方に向かって保護ネットと固定用ワイヤーを結束する作業を行っていた際、親綱が短く法尻から約15mの高さの位置で途切れていた状況のまま作業を行ったところ、墜落した。	711	1	30～ 49

2012	2	8 ～ 9	住宅の屋根にできた氷及び雪庇の除去作業において、元請作業者が氷をチェーンソーで切断し、被災者がハンマーを使って雪庇を砕く作業を行っていたところ、氷を1m程切断したところで雪庇が倒壊し、被災者がその下敷きとなり窒息により心肺停止となった。	719	4	1～9
2012	3	14 ～ 15	道路工事現場において、請負業者が下り坂（勾配約10%）の途中に駐車した4 t 積み積載型トラッククレーンが、無人のまま下り坂を後退し、下方にいた被災者に激突した。	212	6	50～ 99
2012	2	10 ～ 11	雪処理場である埠頭にて、海水の水質検査業務に従事していた被災者は、バケツにロープを括り付け、海水を採取しようと岸壁の端まで移動したところ、岸壁に着いていた雪庇（40～80 cmほど張り出していた）に乗ったため、雪庇を踏み抜き約2m下の海面に墜落した。なお、ライフジャケットは着用していなかった。	418	10	1～9
2012	2	14 ～ 15	被災者は凍結防止剤散布機付き除雪トラックのホッパー上で、凍結防止剤を積み込む作業を行っていた。積み込み作業を終え、ホッパーから荷台上に降り、トラックに据え付けられた昇降設備を使って地面に降りるため、荷台上を移動していたところ、足を滑らせ、約2m下の地面に墜落し、首を骨折し、入院先の病院で死亡した。	149	1	10～ 29
2012	2	8 ～ 9	学校敷地内にあるトレーニングセンター（2階建）の屋根に積もった雪の除雪業務を行うため、被災者が1階の窓をコンパネで覆う作業中、屋根からの落雪が発生し、被災者が落下した雪に埋まった。	415	4	10～ 29
2012	8	14 ～ 15	被災者は国道の耐震補強工事現場において、橋の伸縮装置を取り替えるため、ナイロンシートで覆われた中で橋のコンクリート床版端をハンドガン（超高压水）ではつっていたところ、誤って自分自身に超高压水を直撃させてしまい、失血死した。	169	8	10～ 29
2012	11	13 ～	被災者は工事現場が悪天候のため、午前中のみで終了したため帰宅することとなったが、会社からの指示で途中、市内のガソリンスタンドに立ち寄り、車両系建設機械に入れる燃料の打合せを行うことになった。被災者は乗用車を単独で運転し、目的地に向かって運転中、直線の片側1車線の道	231	17	30～ 49

		14	路でアイスバーンのためスリップし、反対車線に飛び出し走行してきたダンプトラックに正面衝突した。			
2011	2	15 ～ 16	光ケーブルを海底から陸揚するための管路設置工事において、管の出口を確認するために沖合約170mにある作業船へウエットスーツ等を着用して泳いで移動していたところ、途中で溺れたもの。	713	10	100 ～ 299
2011	6	16 ～ 17	高さ9.4mの石積斜面の端部に立つ高木の伐採作業終了後、高木の高さ2.05mの箇所から飛び降りたところ、バランスを崩して斜面から滑落し、9.4m下のコンクリート面に頭部を含む全身を強打した。	712	1	1～9
2011	2	15 ～ 16	本工事において布設した污水管が設計どおりの位置となっていなかったことから、再度ドラグ・ショベルと人力にて掘り起こし、污水管の位置の調整作業を行っていた。污水管の位置の調整が終了したため、深さ1.7mまで埋め戻し、土止め支保工を撤去した。その後、被災者2名が土止め支保工のない掘削溝の中に立ち入ったところ、地山が長さ約3.5m、幅約60cm、高さ約1.7mにわたり崩壊し被災した。	711	5	10～ 29
2011	7	16 ～ 17	法面の落石防護工事でモルタル吹付の前に、法面の草木浮石等を取り除く作業を行っていた。小規模な崩落があったため、崩壊箇所にネットを張った後法面の清掃作業を再開したところ、作業場所の上部（高さ約27m地点）から広範囲にわたり崩落が発生し、被災者が崩落した土石に巻き込まれたもの。被災者は約2時間半後に発見されたが既に死亡していた。	711	5	1～9
2011	4	10 ～ 11	河川の砂防工事現場で、竣工写真を撮影等の業務に従事した被災者が、布団籠設置状況が見下ろせる堤防上（高さ約4.3m）で写真撮影後、法面下部で布団籠の埋め戻しのため土砂の運搬を行うため後進してきた2tトラックの左後輪に上半身を頭部から敷かれ心臓破裂により死亡したもの。（写真データ記録時刻、緊急電話記録、同僚の直前の目撃情報より傾斜約36度の斜面を転落したとき轢かれたと推定）	711	1	10～ 29
2011	3	13 ～	污水处理場の建設現場において、被災者は躯体上部の片付け作業を行っていた。地下に多数の貯水槽があることから、躯体上部には多数の穴が存在	418	1	1～9

		14	し、それらはベニヤ板等を使って塞がれていたが、何らかの理由で蓋がずれ、被災者が貯水槽（深さ約6m）内に墜落し、死亡したものの。			
2011	10	10 ～ 11	道路を走行していた軽トラックが、同道路沿いの工事現場にバックで入ろうとしていた大型トラックに追突したものの。軽トラックを運転していた運転手が重体、助手席に乗っていた同僚が死亡したものの。	221	17	1～9
2011	1	8 ～ 7	労働者4名で会社のワンボックスカーで、工事現場から別の工事現場に移動していたところ、道路上の緩やかな右カーブにさしかかった場所で車が横転した。後部座席に座っていた労働者1名が死亡、運転手他同乗者3名が軽傷を負ったものの。	231	17	1～9
2011	7	13 ～ 14	豪雨災害関連復旧工事において、崩れた土砂をドラグ・ショベルにて掘削しながら整形作業を行っていた。災害発生時、上部から掘削した土砂が下部へ溜まっており、その溜まった箇所においてドラグ・ショベルで周りを掘削していたところ、その溜まった箇所の一部が崩れ、ドラグ・ショベルがバランスを崩し、咄嗟に運転席から飛び降りた運転手のところにドラグ・ショベルが転倒し、挟まれ死亡した。	142	2	1～9
2011	12	11 ～ 12	法面防災工事から出た残土を3トントラックで仮置場に運搬中、縁石に乗り上げ横転し、歩道の街路樹、電柱等に激突し、被災したものである。	221	17	1～9
2011	11	15 ～ 16	電線鉄塔に近接した樹木の伐採工事において、高さ17m程のクヌギの木を伐倒するにあたり、長さ4m程の一本梯子を立てかけ、被災者1名が同梯子の上で墜落防止用の親綱を同木の幹に廻した状態で、チェーンソーを用いて同幹の上部を伐採していたところ、幹が切込途中で裂けて、親綱が引っ張られた結果、幹に腹部を強く圧迫され、大腸破裂により死亡した。	712	7	10～ 29
2011	2	11 ～ 12	被災者が生コンが入った「バツカン」と呼ばれる運搬用容器をドラグ・ショベルにより吊り上げ、コンクリート打設箇所に運搬するためドラグ・ショベルを右旋回させたところ、ドラグ・ショベルが河川側に倒れ、運転していた被災者とともに、3.9m下の河川に転落し、ドラグ・ショベルの下敷きになったものの。	142	1	1～9

2011	3	11 ～ 12	ダムへ向かう通路橋上で定点写真を撮る作業を行っていた被災労働者が約32メートル下の川へ墜落し死亡したものである。	418	1	50～ 99
2011	3	15 ～ 16	発電所付近の立木伐採工事完了後の現場において、施工箇所下部の道路側溝にて発見され、死亡が確認された。	711	1	10～ 29
2011	4	8 ～ 9	道路肩の道路標識支柱に取り付けていた「凍結注意」看板を撤去するため、被災者と同僚の2名が道路端にトラック（最大積載量2トン）を止め、支柱から看板を取り外し、当該トラック前方の道路端で、取り外した金具を看板に取り付けていたとき、突然、一般車両がトラック後部右端に追突した。その衝撃でトラックが路肩方向へ飛ばされ、支柱を倒し、被災者が当該支柱とトラック車体前方底部に挟まれた。	231	17	1～9
2011	2	14 ～ 15	建設会社が請け負う店舗新築工事現場において、下請事業場の被災者は、同僚作業員と共に、機体重量2.8トンのドラグ・ショベルを運転する現場代理人の指示を受けて、地盤の埋め立て作業を行っていたところ、バック走行中の当該ドラグ・ショベルにひかれて死亡したものである。	142	7	30～ 49
2011	6	15 ～ 16	被災者は、浄水場内で除草作業に従事していたが、午後3時25分頃、不調を訴えたため、午後5時の終業まで休憩していた。終業後、他の労働者と共に帰社したが、帰社後、被災者は応答しない状況となり、午後7時40分頃、病院へ搬送された。搬送時、被災者は、既に心肺停止状態であり、午後8時40分に肺塞栓症の疑いにより死亡した。	715	11	1～9
2011	1	9 ～ 10	橋脚の基礎工事において、水中にて、高圧洗浄機を用いて鋼管についた泥を落とす作業をしていた潜水士（約7時間後救出、無傷）が、泥に埋もれ身動きがとれなくなったため、地上にいた他の潜水士が、同人の状況確認のため水中に潜ったところ、数分後、突然、後から潜った潜水士の交信が途絶え、すぐに引き揚げたが、すでに意識不明の状態であったもの。交信が途絶えた原因については不明。（平成23年1月18日死亡）	713	10	1～9
		10	既存の建物（地階部分）の解体工事にて、クローラドリルで床面のコンク			

2011	10	～	11	リートの穿孔作業を行っていた被災者の後方の土砂が崩れ、生き埋めになったもの。	711	5	1～9
2011	10	～	11 12	建設事務所の嘱託員として、2名でパトロール用作業車両による施設巡視を行っていた被災者らは、道路脇の倒木を発見した。通行の妨げになるためこの倒木にロープを掛け、作業車両で牽引して除去しようと考えて車両を後進させた際、運転者が操作を誤り、被災者を巻き込んで車両ごと道路下約2.8Mの沢に転落した。このため被災者は車両の下敷きとなり脳挫傷により即死した。	231	17	30～ 49
2011	11	～	9 10	平成23年11月16日午前9時15分ごろ、市内で建設会社が施工する土木工事現場において立木の伐倒の業務に従事していた被災者が、チェーンソーを使用し1人で杉の木を伐倒していたところ、伐倒した木がかかり木となった直後に元口が浮き上がり、当該伐倒木が被災者の上に落ちてきて、被災者に激突し下敷きとなった。救出後、病院に搬送されたが、脳挫傷により死亡した。	712	6	10～ 29
2011	12	～	16 17	資材置き場で4tトラッククレーン（定格荷重2.9t）から荷（ダンプのタイヤ洗浄機）を下ろしていたところ、荷が荷台の真横に来たところで倒れてきた。操作者の他に、荷を置く予定の場所に被災者がいたが、倒れたトラッククレーン運転席上部と倒れた方向に置かれていた乗用車ボンネットとの間に被災者が挟まれた。操作者はその下の空洞部分に倒れたため無事だった。操作者は、玉掛けと小型移動式クレーンの資格を有していた。	212	2	1～9
2011	5	～	13 14	林道脇の法面（高さ20～30m）にコンクリート等を吹き付けて補強する工事現場において、事前に、法面の成形（浮き石等の除去）作業を行っていたところ、上部の岩盤が突然崩壊し、崩壊した岩盤（幅約2m程度）が被災者に衝突し、その衝撃により、上部で固定していた命綱のロープも切断され、岩盤とともに地面に墜落した。被災者は、墜落した地面で落石の下敷きとなり死亡したもの。	711	5	10～ 29
				建築工事現場において、基礎工事を行う前の試験掘削を行うため、基礎工			

2011	9	9 ～ 10	<p>専用機械（くい打機）の組み立て作業中、杭回転埋設用オーガ（約5 t）を吊り込んだ後に、その下方において、アース・オーガ用のガイド（リーダーガイド）を取り付けていたところ、突然、杭回転埋設用オーガが自然落下し、被災者の肩・背面部等にあたり、心臓部分を強打し、心臓破裂により死亡した。</p>	143	4	10～ 29
2011	11	15 ～ 16	<p>都市ガスのガス管敷設工事現場において、休憩時間中に車線規制を行った道路上の作業帯に停めてあった4トンダンプトラックの前で被災者が休憩を取っていたところ、当該車両の運転手が被災者の存在に気付かず、当該車両に乗り込み、発進させたため、被災者が当該車両の右側前輪に背後から下敷きになるような形で背中から頭部にかけて轢かれ、死亡したものである。</p>	221	7	1～9
2011	6	15 ～ 16	<p>下水道工事に使用する鉄板（長さ約3メートル、幅約1.5メートル、厚さ約2.5センチ、重さ約1トン）を移動式クレーン（定格荷重2.9トン）で吊っていたところ、吊り具のクランプが外れて被災者が鉄板の下敷きとなった。</p>	372	4	1～9
2011	1	17 ～ 18	<p>工事現場の作業終了後、労働者3名は市内のアパートに帰宅するため、自社所有のワゴン車に乗車し、高速道路（片側一車線の対面通行）を走行中、路面の雪により車両がスリップして対向車線をはみ出し、大型トラックに衝突した。この事故によりワゴン車に乗車していた3名全員が死亡した。</p>	231	17	10～ 29
2011	1	17 ～ 18	<p>工事現場の作業終了後、労働者3名は市内のアパートに帰宅するため、自社所有のワゴン車に乗車し、高速道路（片側一車線の対面通行）を走行中、路面の雪により車両がスリップして対向車線をはみ出し、大型トラックに衝突した。この事故によりワゴン車に乗車していた3名全員が死亡した。</p>	231	17	10～ 29
2011	1	17 ～	<p>工事現場の作業終了後、労働者3名は市内のアパートに帰宅するため、自社所有のワゴン車に乗車し、高速道路（片側一車線の対面通行）を走行中、路面の雪により車両がスリップして対向車線をはみ出し、大型トラックに衝突した。この事故によりワゴン車に乗車していた3名全員が死亡した。</p>	231	17	10～

		18	クに衝突した。この事故によりワゴン車に乗車していた3名全員が死亡した。			29
2011	1	2 3	早朝の道路除雪作業を行うため被災者は午前2時頃に出社し、事務室で除雪作業員を呼び出す電話連絡を行っていたところ、机に伏せるように前のめりになって倒れ、同僚の呼びかけにも応じなかつたため、手配された救急車で病院へ搬送されたものの、当日午前2時25分、急性心筋梗塞により死亡した。（平成23年8月31日労災保険支給決定）	921	90	10～ 29
2011	5	9 10	雨水貯留ますの深さを変更するため、雨水貯留ますの横を、幅約2.6m、深さ約2.5mでバックホーを使用し掘削作業中、土砂が崩壊し、掘削溝の中にいた被災者に土砂が直撃したものの。	711	5	30～ 49
2011	8	23 0	駅のエスカレーター設置のための土木改良工事における、地上から地下階への階段通路の側壁をウォールソーで7つに切断されたコンクリート塊を移動式クレーンでつり上げて搬出する解体作業において、側壁のうちコーナー部分のコンクリート塊をワイヤで玉掛けし、移動式クレーンでつり上げようとしていた時、隣のコンクリート塊（重量3.8トン）が倒れ、退避していた玉掛け者が下敷きになった。	418	5	10～ 29
2011	11	14 15	庭園管理業務において脚立に上りクロマツの枝の剪定作業を行っていたところ作業位置から地上に墜落し被災したものの。災害発生時に被災者の作業位置を現認していた者はいないが、枝の剪定箇所から被災者は地上からの高さ173cmの位置にある脚立の踏み面に足を置き作業従事していたものと推定される。災害発生時に脚立はトンボ2本により固定されており転位等認められなかった。被災者は、安全帯、保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
2011	10	11 12	個人住宅の地盤改良工事現場で、被災者が一人でドラグショベルを使用して残土をダンプトラックの荷台に積み込む作業を行っていたところ、ダンプトラックの後部とドラグショベルの車体に胸部を挟まれ死亡したものの。発見時、ドラグショベルのエンジンは起動したままで、クローラー部分が	142	7	50～ 99

			駆動していた。			
2011	3	8 ～ 7	ブルドーザーを運転して、仮設道路（幅5.2m）を後進し、高さ1m、奥行約4mの盛土を乗り越えようとしたところ、運転していた被災者が後ろ側に投げ出され、そのまま進んできたブルドーザーの下敷きになった。	141	7	1～9
2011	11	15 ～ 16	石蔵解体後の鉄骨やガレキの運搬及び整地を行っていた現場で、解体後に発生した基礎のガレキを車両系建設機械（ブレイカー）で破断等を行っていたところ、周辺で鉄骨等の片付けをしていた被災者が、ブレイカーの後ろに行ったときに、後進してきたブレイカーにひかれた。	145	7	10～ 29
2011	5	15 ～ 16	国道において、道路区画線工事のため、同僚と2名で道路中央部付近で巻尺を使って計測作業を行っていたところ、能代市方向から大館市方向に走行してきた軽自動車にはねられ、病院に搬送されたが、死亡した。	231	17	30～ 49
2011	11	18 ～ 19	自社の整備工場内で自社の2tダンプトラックのクラッチ板を交換するために荷台を上昇させ、荷台昇降用オイルポンプを外している最中、何らかの理由により荷台が降下してきたのに気がつかず、事業者が現状を発見した時点で車体フレームと荷台との間に首をはさまれて意識がない状態で発見されたもの。（一人作業のため推定）	221	7	1～9
2011	5	10 ～ 11	給水タンクの新設現場で基礎部分の型枠にパワーショベルでコンクリートを打設中、掘削部分の法肩が崩れパワーショベルが傾き、型枠の外側にコンクリートが飛散するのを防止するためコンパネを持っていた労働者がバケットの下敷きとなった。	142	6	30～ 49
2011	6	14 ～ 15	東日本大震災により一部倒壊した擁壁（石垣上にコンクリートブロックを積み上げたもの）の補強工事現場において、擁壁の根元から約0.6メートル離れた床堀箇所には被災者が、倒れてきた石垣及び土砂の下敷きとなったもの。被災時の被災者の作業内容は不明であるが、床堀箇所において、敷き均した碎石の手直し又は確認作業を行っていたものと推定される。	418	5	10～ 29
		9	当日の朝、自宅から事業場の車で午前9時から予定していた工事発注者との打ち合わせのため家を出た。途中11月上旬で終了した現場の様子を見			10～

2011	11	～ 10	に行ったと思われる。その後、町内の発注者事務所へ向かう途中、高速道路を支えるコンクリート壁に衝突し乗っていた車が炎上したもの。	231	17	29
2010	12	11 ～ 12	ロータリー除雪車のオーガ部分（雪を掻くための回転体）にタイヤチェーンが絡まり、これを除去する作業中、タイヤチェーンを除去し易いように被災者が除雪車オペレーターにオーガを少し回転させるよう指示し、運転者がオーガを少し回転させたところ、オーガに巻き込まれた。	149	7	30～ 49
2010	12	9 ～ 10	かしの木（高さ20m超）の上部をワイヤで引っ張り、幹にチェーンソーを入れていたところ、地面から約6mの部分まで裂け、チェーンソーで伐採作業をしていた労働者の胸部にあたり、死亡したもの。死亡労働者の側で作業指示をしていた労働者にもあたり重傷。	712	6	1～9
2010	12	15 ～ 16	民家の石垣築造工事において、敷地出入り口の通路で、被災者は路面の泥を片付けていたところ、敷地内から前面道路に向かって進行してきたドラグ・ショベルと、通路脇石垣の間にはさまれた。ドラグ・ショベルは旋回体が走行体の進行方向に対し僅かに左回転しており、旋回体の右後部はクローラー部全幅より突出していた。	142	7	1～9
2010	12	9 ～ 10	林道維持修繕工事において、被災者と同僚2名で現場に到着し、当日作業を行う現場まで締固め用機械（ローラー）を移動する準備として、被災者が林道の路肩に止めていたローラーのエンジンを掛けその場に待機し、それを確認した同僚が当日の現場に先に向かった。数分後に災害発生現場に到着した作業員がローラーとともに路肩から転落している被災者を発見した。救急車を呼んだが、胸部を打ち死亡したもの。	144	1	1～9
2010	12	8 ～ 9	社屋前の下倉庫で現場用資材をクレーン搭載トラックの車荷台に積み込みし、被災者を荷台に乗せたまま上倉庫まで移動するため、市道に出て車両をバックさせていたが、道幅が狭くバックがうまくいかず、運転者が方向転換させようと前進させた際にバランスを崩して被災者が荷台上から転落し、右側後輪に轢かれた。	212	1	1～9
			住宅の造園土木工事作業において、三脚式の脚立（高さ3.0m）を用い			

2010	12	13	てイヌマキの木（樹高5.94m）の剪定作業中に墜落し、死亡したも	371	1	1～9
		14	の。剪定していた木は垣根に隣接して生えていたため、脚立を木に十分近づけることができない状態であり、脚立上でバランスを崩しやすい不安定な体勢で作業を行った。			
2010	12	16	被災者はフォークリフト（最大荷重2.95t）を運転し、ユニックの荷台にあった足場用単管パイプ4束のうち3束（総重量1196kg）を	222	4	1～9
		17	フォークに載せたが、うち1束（長さ3.5m×50本。重量364kg）がフォークの先端からはみ出していたため、フォークに単管の束を載せたままエンジンを止めずにフォークリフトを降り、単管の束の下に敷く枕木の1本をフォークの下に差し入れたところ、はみ出していた1束が被災者に落下した。			
2010	11	10	車庫建設の土台となる土地を改良するため、ドラグショベルで掘った3.1m×2.6m×2.3m（縦横深さ）の中に2名で入り、穴の角を出す	711	5	1～9
		11	ためツルハシで手掘りしている時、約2m離れた場所の土砂が崩壊し、足をすくわれ転倒し、肩・胸・腰を骨折した。崩壊した土砂は約0.5立方m程度であり、土砂は両足の膝下部分のみにかかっている感じであった。			
2010	11	15	ドラグ・ショベルをダンプカーに積載する作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの荷重がダンプカーの荷台に掛かった際、ダンプカーが移動	142	1	10～29
		16	し、ドラグ・ショベルが荷台から転落した。ドラグ・ショベルを運転していた労働者が被災し、病院搬送後に死亡した。			
2010	11	8	ハシゴに登って庭木の剪定作業中、約2mの高さから墜落し、頭部外傷により3日後に死亡した。	371	1	1～9
		9				
2010	11	19	現場終了後、会社（駐車場に被災者Bの乗用車を駐車している為）に戻る為、社有車を被災者Aが運転、被災者Bが同乗し、会社に戻る途中、前方車両を追い越したときに、スピード超過により電柱に激突した。被災者A	231	17	10～29
		20	はほぼ即死状態、また被災者Bは病院に搬送され、治療を受けた。			
			雨水管理設工事現場において、被災者は深さ4mの掘削場所でヒューム管			

2010	10	11	(φ700mm) 設置高さを調節していたところ、湧水により地盤が緩んでいたことから、土留めに使用していたコンクリートブロック（高さ66cm、縦50cm、横147cm、重量約1.1t）が崩れ、被災者が下敷きとなり、頭部骨折により死亡した。	419	5	10～ 29
2010	10	15	地熱発電所内の生産井の近傍に発生した噴気孔により設備被害が発生したため、生産井の停止作業及び噴気孔の沈静化作業を3名で行っていた際、	719	14	30～ 49
		16	水蒸気爆発が発生し、噴出した熱水、土砂等により逃げ遅れた2名のうち1名が火傷を負い、1名が土砂等に埋もれ死亡した。			
2010	10	7	被災者は、元請の事務所から、造成地の工事現場に向かうため、同僚が運	231	17	10～ 29
		8	転する軽トラックの助手席に搭乗し国道を走行していたところ、前方を走っていた軽自動車が対向車線にはみ出し、対向車の大型ダンプと衝突した。その弾みで対向の大型ダンプが被災者らが乗った軽トラックに衝突し、軽トラックの助手席に乗車していた被災者が死亡した。			
2010	10	16	ダム湖流芥処理作業中、流芥を囲い込んだ捕獲網羽（流芥回収用の網で、	418	10	1～9
		17	円周約50m）を作業ヤードに係留するため、被災者が手鉤付き竹竿で網羽に接続したロープを引っかけて手繰り寄せようとしたところ、足を滑らせて路肩から水中に転落して溺死した。			
2010	10	8	被災者は、自社倉庫内に棚を取り付ける作業を行っていたところ、高さ約	416	1	10～ 29
		9	2.5mの棚上からバランスを崩してコンクリート床に墜落し、意識不明となり、1カ月後に死亡した。			
2010	9	9	草刈り作業のため高速道を走行規制作業中、走行車線で車両の監視員とし	221	17	50～ 99
		10	て黄旗を振り通行車両への注意喚起をしていた被災者が、走行規制に気付くのが遅れて矢印板設置個所に向かってきた3tキャリアカーに轢かれ、矢印板2枚とともにキャリアカーに約7.1m引きずられたもの。			
2010	9	10	被災者は、会社の車で廃棄物処理場に書類を取りに行くため、交差点に差	231	17	1～9
			し掛かったところ、一時停止せずに交差点へ進入したため、右側から来た軽乗用車と衝突、その勢いで1回転し、道路脇の標識の支柱に運転席のドア側を強打した。被災者は、頭部を負傷して意識不明になり、3日後に死			

		11	亡した。被災者側が赤の点滅信号、軽自動車側が黄色の点滅信号であった。			
2010	9	10 ～ 11	当該事業場が施工する工事現場で用いる土砂を1人運転で最大積載量2tのダンプトラックにより建設資材置場から工事現場へ運搬途中、林道から約15m下の雑木林に転落した。	221	17	1～9
2010	8	9 ～ 10	法面工事で、コンクリート吹き付けに使用する機材（圧送パイプ等）を現場に搬送する作業中、休憩のためコンクリート製の壁（既設の構造物で、被災者が通行していた通路から高さ約60cm）の上に腰かけたときに、後ろ向きに転倒して、約5.9m下の道路に墜落した。	418	1	1～9
2010	8	14 ～ 15	庭木の剪定現場において刈り込みばさみ（長さ約50cm）を持って移動中、何らかの原因で転倒し、刈り込みはさみが被災者の左脇腹に刺さったもの。	416	2	1～9
2010	7	16 ～ 17	橋脚の沓座修繕作業において、午後の休憩時に、25kg/袋の材料を運んだ時にふらついていた被災者を、架道橋内にコンパネを敷き休ませていた。約15分後、被災者が国道の方へ歩いて行ったのに気付いた職長が追いかけて行ったところ、被災者が国道に倒れているのを発見し、救急車で搬送したが、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2010	7	14 ～ 15	緑地整備ほか工事現場において、伐採後の枝や丸太の片付け作業中に倒れ、病院に運ばれたが、翌日熱射病により死亡した。	715	11	10～ 29
2010	7	17 ～ 18	道路拡幅工事において、コンクリート擁壁の型枠組立及び解体作業中に熱中症となり、搬送先の病院で3日後に死亡したもの。	715	11	1～9
2010	7	7 ～ 8	工事用看板を設置するため道路脇に2tダンプを止めて作業中、停車していた同ダンプが動き出したことから被災者が同ダンプを止めようと車外からハンドルの操作をしたところ、体が同ダンプの下に入り、後輪で腹部等を轢かれ死亡したもの。なお、現場道路は4～6度の勾配がついていた。	221	7	1～9

2010	7	20 ～ 21	被災者は、杭掘削準備作業を行っていたところ、つり上げ荷重4.9tのクローラクレーンを運転中、運転席より身を乗り出した姿勢で誤って旋回レバーに体の一部が接触し、現場内の中間杭にはさまれ死亡したとみられる。	212	7	50～ 99
2010	6	11 ～ 12	集水井の壁面の洗浄をエンジン式の高圧洗浄機で行っていたところ、被災者が一酸化炭素中毒により集水井内部に倒れこんだ。被災者を救出するため2名が集水井内部に入ったところ、この2名も被災した。洗浄作業を行っていた労働者1名と、倒れた被災者を救出しようとした労働者のうち1名の計2名が死亡した。	514	12	1～9
2010	6	11 ～ 12	集水井の壁面の洗浄をエンジン式の高圧洗浄機で行っていたところ、被災者が一酸化炭素中毒により集水井内部に倒れこんだ。被災者を救出するため2名が集水井内部に入ったところ、この2名も被災した。洗浄作業を行っていた労働者1名と、倒れた被災者を救出しようとした労働者のうち1名の計2名が死亡した。	514	12	10～ 29
2010	6	9 ～ 10	砂防工事現場において、前日の降雨で河川が増水し、仮橋の護岸が侵食されたことから、被災者と作業員の2人で移動式クレーンを使い、コンクリートブロックを用いて護岸を補強する作業を行っていた。被災者がつり荷を誘導しようと、護岸の斜面を降りて移動した際、乗っていた石（最大直径約85cm、重量約300kg）が増水により不安定になっていたため、被災者が石とともに滑落して、約1.8m下の川岸に転落し、胸を打ち死亡したものの。	711	1	30～ 49
2010	6	10 ～ 11	作業道開設工事において、ドラグショベルを用いて被災者の運転するダンプトラック（車両総重量4t）に土砂を積込む作業を行っていた際に、被災者が運転席を離れ、ダンプトラック後方に移動したところ、サイドブレーキを十分に引いていなかったために後退してきた無人のダンプトラックとドラグショベルの間に胸部を挟まれた。なお、現場には6度の勾配があった。	221	6	50～ 99
			公園設備の工事で、現場に到着し、トラックの荷台からローラーを下ろす			

2010	6	10 ～ 11	ため、鋼製の道板を設置し下ろしていたところ、道板上にて体勢を崩し仰向けに転倒。その上をローラーが通過して轢かれた。病院に救急搬送されたものの、死亡した。	144	7	10～ 29
2010	5	17 ～ 18	被災者は、夕方から事業場の資材置き場において、ホイール式トラクターショベル（機体重量2.6 t）を運転し、1人で盛土用通路の均し作業を行っていた。作業中、後進させながら右旋回しようとしたところ、右後輪が盛土に乗り上げたため同トラクターショベルが横転し、運転席から投げ出された被災者が同トラクターショベルの下敷きとなって死亡したもの。	141	2	10～ 29
2010	5	11 ～ 12	道路の保全工事現場において、パイロンによる区画内で、被災者が道路左側（路側帯）で打設した生コンを均していたところ、突っ込んできた自動車にはねられた。病院で入院加療中であったが、半月後に死亡した。	231	17	1～9
2010	4	10 ～ 11	工事で発生した残土を土捨て場まで運搬していたダンプトラック（最大積載量11 t）が、運転を誤り作業道の路肩から約50 m下へ転落した。	221	1	10～ 29
2010	3	14 ～ 15	植栽作業中、移動式クレーン（吊り上げ荷重2 t）でドラグショベルを堀越しに吊り下ろす際、遠方で吊り下ろしてしまったため定格荷重を超え、移動式クレーンが傾き、クレーン本体と堀の間に挟まれたもの。被災者は移動式クレーンの運転に必要な資格を有していなかった。	212	7	1～9
2010	3	7 ～ 8	事業所から当日の作業現場へ事業所の車で現場に向かう途中、一時停止の交差点を進んだところ、左方向から走行してきた車が左側面に衝突し、被災者が運転する車が横転した。被災者と助手席の同僚は、車外に投げ出され、運転していた被災者は全身打撲で死亡し、助手席の同僚も全身打撲で重傷を負った。	231	17	1～9
2010	3	9 ～ 10	被災者は、2 tトラックを運転し、業者へ碎石を購入に行き、トラックを構内に進入させ、業者の労働者が運転するトラクターショベル（車両重量16 t）による碎石の積み込みを終えた。そして、トラックから降りて積み荷の状況を確認していたところ、後方確認不足のまま後退してきた当該	141	6	1～9

			トラクターショベルに激突され、トラックとの間に挟まれた。			
2010	3	15 ～ 16	長さ約8 m、幅約5 m、深さ約5.5 mの掘削溝内で、3名が配管取替作業していたところ、掘削面が崩壊し1名が死亡した。降雨により地盤が緩み、有効な土止め支保工をしていなかった。	711	5	1～9
2010	2	15 ～ 16	被災者と計測者で誘導柱の基礎の高さを計測した後、被災者は、重機（ドラグショベル）の横を歩いていた時、重機の運転者は被災者がいることに気付かずに重機を移動させたため、重機の履帯に被災者の左足が轆かれた。被災者は、病院で手術を受け治療中であったが、19日後に死亡した。	141	7	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	公園造成に伴うフェンス整備工事において、掘削で出たガラを取り除くために被災者がドラグショベルを運転して掘削端部側を移動中、掘削端部の地山が崩れドラグショベルが掘削部に転倒し、被災者が運転席から約1.7 m下の掘削底に墜落し死亡した。	142	1	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	災害復旧治山事業に係る山腹への土止壁設置工事において、被災者は積上げた土止ブロック面に取付けたブラケット足場（高さ1.5 m）上でブロック間の目地をブラシで掃除していたところ、山腹上方からの落石に跳ね飛ばされるかたちで足場から落下し、首と内蔵の損傷等により死亡したもの。落石した岩は作業箇所より上方100 m付近と推測されるが場所の特定はできず。落石した岩の寸法は最も大きなもので60 cm角である。	711	4	10～ 29
2010	2	14 ～ 15	工事現場にて、3名でユニック車（つり上げ荷重2.9 t）を使用して鉄板4枚（重量約3.2 t）の荷降ろし作業中、オペレーターの方向にユニック車が過荷重により転倒し、その下敷きになったオペレーターが死亡したもの。ユニック車の荷台の上にいる労働者1名も同時に被災した。	212	2	1～9
2010	2	8 ～ 9	現場に向かうため4 t ダンプで市道を走行中、立ち木にアオリが引っかかったため、ジャッキアップしてダンプを横にずらそうとしたところ、サイドブレーキを引いていなかったため、傾斜によりダンプが逸走し、後方を歩いていた労働者に激突した。	221	6	1～9
			林道整備に伴う立木の除去作業において、樹高23 m、胸高直径37 cm			

2010	2	11 ～ 12	のクヌギの伐木作業中、チェーンソーで追い口を入れていたところ、立木が裂け、木の先端部が地面に落下し、その反動で跳ね上がった木が被災者の上に落下したものの。	712	4	1～9
2010	1	13 ～ 14	河川改修工事において、河岸の小径木を根ごとドラグショベルのバケットですくい上げるため、作業し易い位置にドラグショベルを移動させていたところ、ドラグショベルの近くに立ち入った被災者が現場に積んであったコンクリートブロックとドラグショベルとの間に挟まれたものである。	142	7	10～ 29
2010	1	10 ～ 11	海中放出管漏洩位置調査及び応急措置工事のため、水深約27mで放出管の土砂をエアリフトで掘る作業を実施中、作業時間が経過したため、連絡員から浮上の連絡をした1～2分後に、潜水者（被災者）からの応答がなくなったものである。被災者は、海底近くでフーカー式潜水器の全面マスクからレギュレーターが外れ身動きしない状態で発見され、救出されたが、同日死亡が確認された。	713	10	30～ 49
2010	1	9 ～ 10	被災者は、インターチェンジの維持修繕作業のため、路肩規制をしている場所で刈り取った草をパッカー車へ積み込み作業を行っていた。路肩規制をしている場所へ乗用車が進入して被災者に追突し、パッカー車と乗用車に挟まれ死亡した。	231	17	10～ 29
2010	1	9 ～ 10	被災者は高速道路の除雪作業に従事していた。待機所において、除雪作業の待機中、同僚に「自分の車の除雪と飯を取りに行く」と言って待機所を出たまま戻らなかった。その後、待機所近くの駐車場において、被災者所有の自動車の運転席で一酸化炭素中毒により死亡していた被災者を同僚が発見したものの。	514	12	10～ 29
2010	1	4 ～ 5	委託された除雪に使用するためのタイヤショベルの右前輪が、空気が抜けてパンクしたような状態であったため、事業場にあったエアーコンプレッサーにより空気をタイヤに充填中に当該タイヤが破裂し、その衝撃により死亡したものの。他に修理業者の従業員がそばにいて被災したが、軽傷である。	141	15	10～ 29

2009	12	11 ～ 12	被災者は2tダンプ車を運転し、土砂捨て場に向かう途中、何らかの理由で車外に出ていたところ、停車中の車両が私道から竹藪に転落し被災者に激突、車両と竹藪にはさまれた。	221	6	10～ 29
2009	5	15 ～ 16	民家の造園工事において、代表者と被災者の2人で4tダンプトラックで、庭石の運搬作業を行う際、県道から現場へ通じる下り坂を後進させて下ることとなり、代表者が運転する当該トラックを被災者が声を掛け誘導していた。当該坂道を下り、代表者はまだ誘導終了の合図がないにも拘らず後方から被災者の声がしないため、合図が終わり被災者もいないと思い、さらに後進させたところ、まだトラックの後方にいた被災者に激突した。	221	6	1～9
2009	11	16 ～ 17	建設資材置場で、被災者は一人作業を行っており、自走式破碎機の試運転、点検等のため、同機を起動させた後、コンベヤー部付近に接近してゴムベルトと抑えローラーの間にはさまれた。	149	7	30～ 49
2009	7	11 ～ 12	被災者は、墓地造成のための砂利をハンドガイド式不整地運搬車を使用して運搬作業中、墓地へ行くための通路から不整地運搬車とともに約3m下の溝に墜落した。	417	1	1～9
2009	6	15 ～ 16	草刈り作業中に法面を滑落し、法面下で整地作業をしていたドラグ・ショベルにひかれて死亡した。法面箇所は事業場が意図した草刈り範囲でなく、災害発生直前まで被災者に立ち入らないよう警告していた。	142	6	1～9
2009	10	10 ～ 11	現場出入口付近で道路清掃の作業を行っていた被災者が、土砂の仮置き場へ積込みに向かうため現場出入口から県道へ右折しようとした貨物自動車にはねられ死亡した。	221	17	50～ 99
2009	3	13 ～ 14	雑木林の材木伐採作業場において、被災者は伐木切断作業に従事していた。昼の作業開始直後、下方で重機運転手が横倒しにした伐木を切断しやすいようクロー部分で伐木の片方を少し上げ、上方で被災者が同伐木をチェーンソーで切断していた。その時、切断中の伐木が天秤状態となり被災者が転倒したため、重機運転手が救助のため重機の運転を停止すると同時にクローが開き、伐木が被災者を直撃した。	522	4	1～9
			テニスコート改修整備工事で余った残土を、元請が指定した残土置き場			

2009	12	14 ～ 15	に、被災者が4tトラックで運搬作業を行っていた。この日、6回目の同作業を行うために、被災者は残土を積み込み現場を出発し、約94m走ったところで、飲料水を買うためにトラックのエンジンを止め坂道に停車。飲料水を買おうとした時にトラックが動きだし、トラックの左前方と自動販売機に身体をはさまれ死亡した。	221	7	1～9
2009	7	16 ～ 17	被災者が国道上の路肩に社用車（ライトバン）を駐車後、社用車の路肩側で作業中、社用車の後方から歩行者用車線を逸脱してきた軽ライトバンに被災者が飛ばされ、死亡した。	231	17	10～ 29
2009	11	16 ～ 17	土砂をふるい分ける設備の補修作業を行うため、高さ3mのふるい分け機の傾斜部に被災者が上り、ドラグ・ショベルでつり上げた約90kgの鋼材を手で受け取る際バランスを失い転落した。作業場所は、転落防止用としてトラクター・ショベルを据えていたが、作業足場の設置等の墜落防止措置が行われていなかったため、トラクター・ショベル設置外へ転落し被災した。	391	1	10～ 29
2009	11	11 ～ 12	敷地内廃材等処分整地工事現場において、被災者が移動式クレーン（車両積載形トラッククレーン）を用いてコンクリートの塊（重量1.6t程度）を当該移動式クレーンでつり上げて荷台に積み込む作業中、移動式クレーンが転倒し、車外で操作していた被災者が、移動式クレーンの下敷きになった。	212	6	10～ 29
2009	8	14 ～ 15	急傾斜地崩落対策工事のため、工事用車両が動けるだけの通路確保のため、斜面の竹を除伐、集積し、場外搬送する作業で、休憩終了後に現場に向かう途中、現場にうつぶせに倒れている被災者を発見した。救急搬送したが死亡した。身体にクローラにひかれた跡があった。	169	7	10～ 29
2009	8	14 ～ 15	道路から約25m下を流れる河川に倒れた根株を引上げるため、クレーン機能付ドラグ・ショベルのクレーン機能を使って引上げ作業中、急斜面で玉掛けワイヤロープの掛け替え作業を行っていた被災者が、約20m下の川床へ転落した。	711	1	10～ 29
		14	落石防護ネットの取り付け作業において、道路面から高さ約20mの斜面に			

2009	9	～	設置されたアンカーの位置まで資材を引き上げる作業中、斜面で足を滑らせ道路まで墜落した。	711	1	1～9
2009	6	～	10 建設工事現場内の立木（杉：樹高約31m、胸高直径約52cm）を伐採していたところ、伐倒方向の被災者が下敷きとなった。	712	6	1～9
2009	7	～	8 建設中のコンクリート製調整槽（20m×24m×7m）上部の開口部（1.5m×2m）に雨避けの覆い（木製、約70kg）を設けていた。作業開始直後、この覆いを2人で取外そうとしたところ被災者が開口部から墜落した。	414	1	1～9
2009	12	～	13 事業場の作業場においてドラグ・ショベルの運転席の屋根の上に上り当該ドラグ・ショベルの清掃作業を行ったあと、当該場所からカウンターウエイト上へ降りようとしたところ足を滑らせ2.7m下の地面に墜落した。	141	1	10～ 29
2009	10	～	9 伐木作業を行うため、作業場所に向かって法面上部の山中を移動中、法肩部から19.1m下の道路に墜落した。	711	1	1～9
2009	10	～	2 事務所兼寄宿舍（木造2階建て）において、2階の被災者の寝室から出火し、同室を中心に部分焼失した。消防による消火後、同室内にて、本人と思われる遺体が発見された。	911	16	30～ 49
2009	8	～	9 ドラグ・ショベルを用いて山を掘削している時、掘削面が崩壊して代表者を含む2人が土砂に埋まり死亡した。	711	5	1～9
2009	11	～	6 被災者の二人は、事業場に出勤し、2tトラックに乗車して土場の片付け作業に向かう途中、道路左の水路にトラックごと転落した。この事故により7 運転者が死亡し、同乗者は重症を負った。	221	17	10～ 29
2009	5	～	14 県道で被災者（経験6ヶ月）の運転するトラック（2t）が光ケーブルを埋設するため掘り起こした土砂を運搬中、道路を下って（傾斜2度）左カーブに差し掛かったところ、道路右ガードレールを突き破って40m下の川の	221	17	10～ 29

			河原に転落した。			
2009	1	13 ～ 14	建設現場での作業終了後、別途の用務で自社作業基地に徒歩で道路を横断中に乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2009	1	16 ～ 17	公園整備工事現場において森林内に遊歩道を造成中、不整地運搬車にて土砂を造成場所に運搬し、敷きならした後、被災者が不整地運搬車を操作しながら後進中に後方に土砂の積み込みように停めてあった小型ドラグ・ショベルのバケット（地上1.4m付近の空中に停めてあった）と不整地運搬車の運転席の手すり等にはさまれた。	227	7	1～9
2009	11	9 ～ 10	落石防止のための法面保護工事を行う現場において、アンカーを打つ削孔機の移設作業を斜度52度の法面上で行っていたところ、同作業箇所から法面上を約80m転落した。同作業は2人作業で行われていた。墜落防止措置としては法面上に親綱が設置され、他の1人はロリップにより安全帯を使用していたが、被災者は安全帯を腰に着用していたが被災時にはロリップを使用していなかった。	711	1	10～ 29
2009	2	14 ～ 15	防災工事のため、法面掘削を行う準備作業として、地山の立木の伐採や切り株の除去作業において、被災者は、親綱にロリップを取り付け、切株の伐根作業を行っていたところ、親綱からロリップが外れ、そのまま法長で約30m（高さ約23m）滑落し死亡した。被災者の作業箇所は、法頭から法長で3.5mの位置であったが、親綱の長さは8mであった。	372	1	30～ 49
2009	3	16 ～ 17	融雪装置の既設制御盤の基礎（コンクリート製、約950kg）の撤去作業中、ドラグ・ショベルのバケットに基礎を乗せ旋回したところ、当該ドラグ・ショベルのクローラがピット開口部に乗っていたため、ドラグ・ショベルが傾き、運転手がとっさにアームを伸ばしたところ、ピット内でバケットが通過するのを待つため屈んでいた被災者が、バケットとピット側壁にはさまれた。	142	7	10～ 29
			地震災害復旧工事に係る土留設置工事に伴う掘削作業において、掘削した土の搬出をするため、被災者は最大積載量4tの不整地運搬車で土積込場に			

2009	10	11 ～ 12	行き、所定の位置で待機していた。ドラグ・ショベルで土を不整地運搬車荷台に入れる直前に、被災者が停止位置の修正をするため不整地運搬車の操作をしたところ、クローラの向きが斜面方向に動き、そのまま不整地運搬車とともに約30m転落した。	227	1	10～ 29
2009	7	11 ～ 12	法面の吹き付けモルタル補修作業中、親綱にロリップを取り付け安全帯を掛けて法面を移動中、高さ約12mの箇所から墜落し河川に浮いている被災者を同僚が発見した。病院に搬送されたが、死亡した。なお、被災者を救助した際、親綱はアンカーに2点固定されており、また、親綱ロリップに安全帯を掛けたままの状態であった。	711	1	50～ 99
2009	7	14 ～ 15	下水道の敷設工事にて溝掘削を行い、下水管を敷設後、埋め戻しの作業を溝内で行っていた。溝内の埋め戻し土が次の作業箇所に流れ込むのを防ぐため、仕切りの鉄板（1.8m×0.9m、289kg）を溝内の土止め支保工の切梁に立て掛けるように仮置きし、少しの間、被災者が人力で鉄板を支えていたが、他の段取りをするため、溝内を移動した際に、突然、鉄板が倒れ、その下敷きになった。	521	5	10～ 29
2009	2	14 ～ 15	用水路布設工事現場において、掘削用機械（ドラグ・ショベル、機体重量1.5t）を移送させるため、被災者がダンプ（最大積載量3.7t）の荷台に道板（幅50cm、長さ2m）を2本掛け（角度29度）、掘削用機械をダンプの荷台に載せようとした時、片方の道板が外れ、掘削用機械とともに地面に転落し被災者が掘削用機械の下敷きになった。	142	1	10～ 29
2009	4	10 ～ 11	山林内の整地のために2tトラックから碎石を降ろし、掘削用の車両系建設機械の排土板を使って敷き詰める作業を行っていた被災者が、転倒した当該車両系建設機械のアーム部分にはさまれた。	142	2	1～9
2009	2	7 ～ 8	被災者は、資材置場の資材のストックの補充のために、軽トラックを運転し、建材店から資材置場へ建材を輸送中、センターラインをはみ出して、反対車線を走行中の4tトラックと正面衝突した。	221	17	1～9
		8	産業廃棄物埋立処分地内において、太陽光パネル設置工事の事前作業とし			

2009	1	～ 9	て埋立地内の草刈り作業中、一次関係請負人の現場責任者が搭乗式の草刈機を操作して平地の草刈り作業を行っていたところ、草刈機の搭乗席から振り落とされ、後進する草刈機にひかれた。	169	6	10～ 29
2009	6	～ 16	井戸改修工事において井戸のケーシングパイプの設置を完了して、パークッション機（井戸用のパイプの取出し、挿入を行う機械装置）の支柱（同パイプを支える柱）をトラック車両上に格納する作業を行っていた。被災者は、機械装置上の床上（高さ約2.8m）に乗り、控えワイヤーの取りまとめ作業をしていたところ、地上に墜落した。	149	1	1～9
2009	12	～ 9 10	側溝を敷設するためドラグ・ショベルで幅約1m、深さ約1.5mの溝を掘削していたところ、地山が崩壊し法肩に仮置されていたコンクリート製の溝（重さ1070kg）が落下し、溝内で床付作業をしていた被災者を直撃し、身体をはさまれた。	711	5	10～ 29
2009	7	～ 12 13	事業場を出発したトラックに積み込まれていた基礎工事用鋼管ケーシング6本が、荷崩れを起こしたため道路路肩に停車した。荷崩れを直すため、事業場から応援にきた作業員3人とトラックの運転手の4人で、トラック積載形小型移動式クレーンを使用して積み直しをしていた。ケーシングを固縛する作業を実施していたところ、被災者が荷台上のケーシングから墜落し、身体を強打し意識不明になり、死亡した。	611	1	50～ 99
2009	4	～ 12 13	橋梁の基礎補修工事現場において、休憩時間中に作業員2人がバリケードで囲われた歩道上で休憩を取っていたところ、橋梁を通る市道を走行していた一般車両が反対車線を越えて歩道に突入し、作業員2人に激突された。作業員のうち1人は搬送先病院において死亡、もう1人は命に別状はない。	231	6	1～9
2009	9	～ 8 9	被災者が除草機を取り付けたトラクターに乗車して、丘陵地の斜面において除草作業を行っていたところ、トラクターが横転し、その下敷きになった。	169	2	10～ 29
			橋上部工事現場において、橋面上の足場に使用した単管の余りを地上へ降ろす作業を行っていたところ、タワークレーンでつっていた単管の束（長			

2009	12	10 ～ 11	さ約1.5～2m、21本）が風に煽られ橋面の仮設手すり（高さ2m）に当たり、その反動で玉掛用具（ナイロンスリング、2点つり）から次々と抜け落ち、89m下の地上で荷受けの準備をするために歩いていた被災者を直撃した。	372	6	50～ 99
2009	9	14 ～ 15	自社の倉庫の改築を代表者他1人で行っていた。鉄骨の建て方作業中に柱、梁、桁が倒壊し、基礎部にいた被災者に鉄骨（長さ5m、重量約80kg）が落下した。	418	5	1～9
2009	8	14 ～ 15	高速道下り線（二車線）において、センターライン（破線）の位置出し作業中、被災者が他の作業者と向き合いながら、しゃがんで巻尺を引っ張っていたところ、ワゴン車（ワンボックス）に衝突された。当時、追越車線を1.7kmにわたって工事エリアとし走行規制しており、作業を行っていた場所は、工事エリア内であった。	231	17	30～ 49
2009	3	17 ～ 18	建屋内で、柱に沿って擁壁を作る工事を行うにあたり、くい打ち機を用いてH鋼を地面に入れるべきところ、H鋼がうまく入らなかったため、いったん引き抜いた際に、被災者がH鋼に近づいたため引き抜かれて振れたH鋼が被災者に激突し、近くにあった柱との間にはさまれた。	143	6	10～ 29
2009	10	7 ～ 8	被災者は、林道新設工事において、ドラグ・ショベルを運転して、法面の掘削作業を行っていたところ、作業道から約30m下の斜面にドラグ・ショベルごと転落し、運転席から投げ出された。	142	1	1～9
2009	1	16 ～ 17	開放型防火水槽を簡易有蓋化する工事現場にて、水槽内でコンクリート養生のために入れていた練炭の取替中に意識を失って倒れた。	514	12	1～9
2009	8	10 ～ 11	建設会社敷地内車庫において、被災者が1人でコンクリートパネル（以下「コンパネ」（縦180cm、横90cm、厚さ1.1cm、重さ8.8kg/枚））を縦長の状態で柱に立て掛けていたところ、18枚重ねて立て掛けた時点でコンパネが被災者側に倒れ出し、被災者が倒れ掛かったコンパネを両手で支えたまま、コンパネとともに土間面に倒れ、倒れる際に身体をコンクリート	522	5	1～9

			土間に強打した。			
2009	2	17 ～ 18	作業終了（17時）後、現場の片付けをして、現場から国道をはさんで向かいにある現場事務所に戻るため、国道を横断中、4tトラックにはねられた。	221	17	30～ 49
2009	7	13 ～ 14	被災者が自分のダンプカーを降りて、前のダンプカーの後部アオリのチェーンを掛けようとしたところ、後ろから動いてきた自分のダンプカーと前のダンプカーとの間にはさまれた。	221	7	10～ 29
2009	2	16 ～ 17	民間発注工事の商業用地開発造成工事において、砕石を車両系建設機械（ブル・ドーザー）で敷き馴らし作業を行っていた被災者が、後進していた車両系建設機械のクローラの下敷きになった。当該機械は進行方向に止めてあったダンプに衝突し停止した。	141	7	10～ 29
2009	11	12 ～ 13	法面对策の工事のため、打ち込んだアンカーの緊張、定着作業を行っていたところ、アンカーの緊張用に取り付けた油圧ジャッキがアンカーから外れ、約8m下で油圧ジャッキの油圧調整を行っていた被災者に当たった。	391	4	10～ 29
2009	3	8 ～ 9	移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの近くにいた被災者が、土のうをつり上げ旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトとボックスカルバートの翼壁との間にはさまれた。なお、災害発生時、移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの切替えスイッチは「ショベル」側に入っていた。	212	7	1～9
2009	1	8 ～ 9	側溝に詰まった雪の除去作業中、上流側でせき止められていた水が急に激しい勢いで流れ出し、下流側の側溝の中で雪等を除去していた被災者が流された。30m下流で救出されたが、意識不明のまま後日死亡した。	419	10	10～ 29
2009	11	9 ～ 10	一般国道の災害防除工事現場において、被災者は不整地運搬車（最大積重量8t）を運転し、残土を現場脇の仮置場に運搬する作業に従事していた。不整地運搬車に残土を載せ、盛土部分の登坂路（最大勾配13度）を後進していたところ、高さ約5.4mの路肩から転落（転落箇所の勾配は50度）、後方に落下、横転したため、被災者は運転室から放り出された。	227	1	30～ 49
			被災者は工事現場に向かうため同僚が運転する会社所有のワゴン車（3人			

2009	11	6 7	乗車)に乗車中、交差点(赤の点滅信号機あり)に差しかかったところ、一時停止をせず侵入して右から来た車と衝突し2台とも道路脇に転落した。被災者はその衝撃で車外へ放り出され、相手車の下敷きになった。被災者は右後部座席に座り、シートベルト未着用であった。	231	17	1~9
2009	10	13 14	被災者は朝から協力会社の資材センターで産業廃棄物の運び出し及び清掃作業等を行っていた。昼食後は物置等に使用されているコンテナの屋根に庇を付ける作業を行うため、当該コンテナの屋根(高さ約2.4m)に上り、コンパネを運んでいたところ、コンパネとともに地上まで墜落した。被災者はヘルメットを被っていなかった。	419	1	1~9
2009	10	14 15	集水井掘削作業において、補強材のH鋼を取り付けるために、被災者が親綱、ロリップを使用して集水井内に侵入したところ、井戸頂部から2m付近で、ロリップとともに親綱が切断し、33m下の井戸底に墜落した。	379	1	10~ 29
2009	8	7 8	畑の改良工事において、被災者はブル・ドーザーにエンジンオイルを注入後、自らエンジンをかけた。ギアが後進(2速)に入り、また、駐車ブレーキを引いていなかったため後進し、クローラとステップ等との間に巻き込まれ、地上に墜落した。	141	7	30~ 49
2009	8	7 8	被災者は、積載形トラッククレーン(つり上げ荷重2.93t)により、ミニドラグ・ショベル(重量約1.2t)を河川に降ろすため、クレーンの横に立ち、操作レバーで作業していたところ、クレーンが横転した。被災者は横転したクレーンに激突され、河川の周囲に設置されていた柵との間に体をはさまれた。単独作業であり、アウトリガーの張り出しはしていなかった。	212	6	10~ 29
2009	8	7 8	漁港内の浚渫作業のため、引船で起重機船を作業場所まで曳航し、起重機船を固定するため船外機船に係留ロープを渡したところ、船外機船が引船と起重機船の間に回り込み転覆、そのまま起重機船の下に潜り込んだ。船外機船に乗船していた2人のうち1人はすぐに海中より浮かび上がり救助されたものの被災者は浮かび上がらず、その後、海中を捜索していたダイバーにより起重機船の船底から発見された。	239	18	30~ 49

2009	5	14 ～ 15	被災者が1人で水道管メーターの交換作業のため、スコップで地面（縦95cm、横80cm、深さ105cm）を掘っていたところ、隣にあったホームタンク（容量490リットル）が倒れて、掘った穴との間にはさまれた。	419	5	1～9
2009	1	4 ～ 5	国道の拡幅除雪作業をトラック2台、ロータリー除雪車、標識車を使い行っていた。午前4時頃、被災者は駐車帯に同僚とパトロール車で移動し同僚から「ロータリーが入ってくるので、オーガが止ったら助手を代わるように」と指示されたが、視線誘導柱の横でロータリー除雪車の工事写真を撮影中の同僚が車道側に立っていたため「危ないから下がれ」と注意された後、国道を横断中に乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2008	12	11 ～ 12	被災者は、同僚3名と会社資材置場の土場にてウイング車荷台のあおり部分をウイング部を上にあげて丸太3本で支えた状態で解体していたところ、丸太が外れたためウイング部が閉った。その際にウイング部が被災者に激突して死亡した。	419	6	10～ 29
2008	7	9 ～ 10	被災者は、ゴルフ場の高さ約15mの立木の枝打ち作業のため、立木に立てかけた高さ約5mのはしごに登り、チェーンソーを用いて切っていた。切った枝が他の枝にかかっていたため、垂直に落下せずにはしごに激突した。その際、被災者ははしごの高さ約4.1mの位置から地面に墜落して死亡した。	371	1	10～ 29
2008	8	13 ～ 14	産業廃棄物の最終処分場の改修工事現場において、ドラグ・ショベルで掘削した土砂を被災者が2tダンプトラックを使用して運搬していた。その際、道路左側路肩から9.3m下の崖下に転落し、被災者が車外に投げ出されて車体の下敷きになり死亡した。	221	17	1～9
2008	2	16 ～ 17	地すべり防止工事において、傾斜48度の斜面にポリエチレン製の排水管（直径30cm、長さ5m/本）を65m（13本）に渡り設置する作業を作業員3名で行っていた。上部より下方に設置作業を進めて12個目の配水管を接続していたところ、最上方の排水管の接続部が外れて排水管全体が滑落した。配水管の周囲で作業を行っていた作業員3名のうち2名が滑落した排水管に激突されて約18m下に墜落して1名が死亡、1名が負傷した。	711	1	10～ 29

2008	11	18 ～ 19	<p>駐車場整備工事現場において、現場の照明のためにエンジンを掛けて前照灯を点灯したまま駐車していたトラックが、無人のまま前進し、前方で作業していた被災者がひかれた。トラックとドラグ・ショベルの前照灯を照明にして作業しており、トラックは、ギアをニュートラルにしてサイドブレーキを引いていたが、輪止め等措置は講じていなかった。</p>	221	7	1～9
2008	7	14 ～ 15	<p>農業用水路工事において、被災者は、横断暗渠（コンクリート二次製品）を切断するための道具を約20m離れた車まで取りに行った。帰りが遅いため、同僚が車の方向を見たところ、被災者は車から離れ、現場とは反対方向に歩行し、その後、田圃へ転落した。病院へ搬送されたが死亡した。</p>	715	11	1～9
2008	9	9 ～ 10	<p>谷川に堆積した土砂の撤去・運搬作業を行うため、車両積載形トラッククレーンの荷台に不整地運搬車（機体重量2.0t）を載せて現場に搬送した。その後、当該クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使って不整地運搬車を作業場所に降ろす作業中、車両積載形トラッククレーンがクレーンを操作していた被災者側に倒れ、ガードレールとの間にはさまれて死亡した。</p>	212	7	1～9
2008	5	12 ～ 13	<p>2tトラックの荷台に長さ2.2m前後の丸太を積み込む作業をしていたところ、地上2.15mまで積み上げられた丸太の上にはいた被災者が墜落した。</p>	522	1	1～9
2008	5	16 ～ 17	<p>被災者は、治山工事現場において、機体重量2.9tのドラグ・ショベルを用いて浮石等の除去作業を行っていたところ、路肩から同ドラグ・ショベルと共に約5m下の斜面に転落して死亡した。</p>	142	1	1～9
2008	9	10 ～ 11	<p>資材置場で敷鉄板（巾3.05m、長さ1.53m、厚み2cm、重さ732kg）を整理するため、ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたフックに玉掛けワイヤロープを取り付けて、敷鉄板につりクランプを用いて玉掛けを行った。ドラグ・ショベルを走行させて敷鉄板を移動中、敷鉄板がつりクランプから外れて地上に落下した。その後、敷鉄板を誘導していた被災者に倒れた。</p>	372	4	1～9
		14	<p>造船所内の棧橋において、当該棧橋の基礎杭に防食用アルミ亜鉛合金板を取り付けるため、潜水作業を約3m海中で行っていた。その際、被災者が</p>			10～

2008	3	～ 15	おぼれて海面に浮かんでいるところを同じ作業を行っていた作業者に発見された。	713	10	29
2008	8	12 ～ 13	被災者が会社事務所から草刈機の燃料等を購入しに社用車でいったまま戻らないため、捜索したところ、国道へと繋がる町道から社用車ごと川へ転落して炎上し、焼死していた。転落地点の道幅は、3.08m、勾配9度、ガードレール等の墜落防止設備はなかった。	231	17	10～ 29
2008	8	15 ～ 16	地山掘削作業の準備作業として法面に進入路を作成するために、ドラグ・ショベルで法面を掘削していた。その際、ドラグ・ショベルから5m上方の掘削面が崩壊し、被災者がドラグ・ショベルの運転席内部で生き埋めになった。	711	5	10～ 29
2008	10	10 ～ 11	トンネル（全長1964m）内において、4名が入場してトンネル内の道路端に設置してある反射材を清掃する作業を行っていた。道路両端に2名ずつに分かれて清掃作業を行っていたところ、2名がトンネル内を走行していた8tトラックにはねられて内1名が死亡した。	221	17	10～ 29
2008	6	11 ～ 12	ガス管設置のため掘削していた掘削面に被災者が立ち入って掘削面を確認していたところ、掘削作業用のドラグ・ショベルのバケットが被災者に激突した。	142	6	30～ 49
2008	7	17 ～ 18	埋立工事現場での作業を終えた作業者ほか計5名が乗ったワンボックスカーが帰路の途中、高速道パーキングエリア近くの路側帯に故障のため止まっていた2tトラックに追突して5名のうち1名が死亡した。	231	17	1～9
2008	3	9 ～ 10	污水管を敷設するため、地山をドラグ・ショベルで深さ約2m、幅約1m、勾配約90度（ほぼ垂直）に掘削したところ、湧水が確認されたため、被災者が掘削部分へ降りた際、地山が崩壊し生き埋めとなった。	711	5	10～ 29
2008	7	17 ～ 18	個人住宅（木造平屋）の解体工事において、当日に予定していた作業を17時頃に終え、被災者及び現場主任が散水、清掃作業を10分程度行った。現場主任が被災者に対して水道の蛇口を閉めるよう指示し、被災者が閉めに行ったが戻って来ないので見に行ったところ、被災者が倒れていた。救急	715	11	1～9

			車で病院へ搬送したが死亡した。			
2008	1	14 ～ 15	小学校の樹木維持管理作業において、三脚式の脚立を使用して松の枝切り り中に、当該脚立が倒れて2.3m下のコンクリート面に墜落し死亡した。	371	1	1～9
2008	7	14 ～ 15	河川環境対策工事として実施した堤防の除草作業中、蜂に刺されて意識を 失い病院に搬送後、死亡した。	719	90	30～ 49
2008	11	15 ～ 16	移動式クレーン（つり上げ荷重25t）を使用してマンホールブロック（9分 割）の最後のブロックを設置しようとした時、切梁が障害となったため一 度玉外しを行い、ブロックを仮置きした。ワイヤーが外れた状態のブロッ ク（約4t）の下部を作業員2人がバールを使用して押し込んだところ、ブ ロックが倒れて被災者が壁とブロックの間にはさまれた。	611	5	1～9
2008	4	13 ～ 14	河川敷内の資材置場において、勾配5度の通路上で被災者がトラクター・ ショベルを操作して整地作業を行っていた。トラクター・ショベルが路肩 の段差部分で脱輪したために機体のバランスが崩れて被災者とともに転落 した。被災者は横転したトラクター・ショベルの下敷きとなった。	141	1	1～9
2008	1	7 ～ 8	通勤する途中の会社員の運転する乗用車が、対向してきた被災者の運転す る軽ワゴン車と衝突して運転していた被災者が死亡した。	231	17	10～ 29
2008	11	11 ～ 12	事業主と被災者がロッジ周辺の立木の枝払い及び伐木等の整備作業中、被 災者が高さ5.5mのロッジの屋根上でロッジの屋根にかかり木（栗の木、 胸高直径50cm、長さ約10m）となった立木の枝の一部をチェーンソーを 用いて切断を行ったところ、かかり木が地上にずり落ちて被災者もかかり 木とともに地上に墜落した。	712	1	1～9
2008	11	13 ～ 14	同社の資材置場で、杭打用に使用するケーシングパイプ（長さ6.5m、直 径66cm、重量約700kg）をワイヤーでつり上げて移動しようとしていた ところ、ケーシングパイプの先端が運転席に激突した。	611	6	1～9

2008	2	10 ～ 11	埋め立てられた産業廃棄物の撤去に伴う掘削作業において、使用していた発電機（坑内にたまった水を汲み上げる水中ポンプの電源）をドラグ・ショベルを用いてつり上げ移動させていたところ、発電機にかけていたワイヤロープが切断したため、当該発電機が落下して近くにいた被災者に激突して死亡した。	142	4	30～ 49
2008	10	14 ～ 15	被災者は、国道の歩道際の除草作業に従事していた。次の除草現場へ移動するために歩道を歩いて移動していたところ、蛇行してきた軽自動車にはねられて約20m飛ばされた。	231	17	10～ 29
2008	10	10 ～ 11	崩壊した法面の補修工事において、法面上部が不安定な状態であると判断されたため、法面整形作業を中止して林道上に落とした土石等を取り除く作業を行っていたとき、法面上部約16mの高さから落石（2.5m×1m×70cm、推定）があり、当該落石が地面ではねて被災者に激突して下敷きになった。	711	4	30～ 49
2008	1	15 ～ 16	道路上でクレーン機能付き車両系建設機械を用いて鉄板（重量1.6t）をつり上げて旋回したところ、同機械が転倒して川（深さ2.85m）に転落した。そのはずみで被災者が車外へ投げ出されて車体にはさまれ死亡した。	212	1	1～9
2008	12	14 ～ 15	自社資材置き場での資材撤去作業において、クレーン機能付ドラグ・ショベルでH鋼材2本（500kg/本）を11tダンプトラックの荷台に積み込み、玉外しの時、ダンプトラックを約10度の傾斜地に停車していたため、後方に逸走した。この際、つり荷が振れたため被災者が荷台から墜落し、直後に落下してきた鋼材の下敷きとなった。	221	1	1～9
2008	5	9 ～ 10	神社に設置された3本の鳥居のうち1本を撤去作業中、被災者は中央の鳥居の解体後、別の鳥居の近くに廃材を運び出す作業をしていた。別の作業者が廃材を車両積載形トラッククレーンに積むため、クレーンのブームを玉掛け位置まで伸ばした後、被災者の作業を手伝うためクレーンから離れたところ、ジブが伸びて鳥居の上部（笠木）にぶつかり、笠木が鳥居の下で作業をしていた被災者に激突した。	212	4	1～9
			作業員6名で漁港既設防波堤の上部を施工するための既設防波堤とコンク			

2008	8	13 ～ 14	リート型枠を固定する差し筋作業において、3名ずつ2班に分かれて壁と底部の削孔作業を行っていたところ、突発的に発生した高波により、底部で鉄筋を渡す作業をしていた被災者が海へ引き込まれておぼれた。	714	10	10～ 29
2008	10	16 ～ 17	道路の消雪用井戸の掘削工事現場において、削井機の原動機からベルト・プーリーを介して動力を伝達する箇所、4本掛けのゴム製ベルトのうち1本が外れたため、被災者がベルトをプーリーに掛け直し、原動機を再起動して様子を見ていたところをプーリー（Φ46cm）と同覆いの隙間（2.8cm）に巻き込まれて死亡した。	121	7	30～ 49
2008	7	13 ～ 14	花火大会で使用する一般客観覧用の観覧船設置作業において、砂利運搬船を陸地に接続して固定して同船の上面に単管及びコンパネ等を組上げ、その上部にごさを敷き詰め栈敷を作る作業を行っていた。被災者は、栈敷に設けた手すり上栈をまたいだ状態で中栈に両足を置き、高さ2.26mの建地単管の上部にクランプを取り付けていた際、バランスを崩して川に転落した。なお、被災者は、救命胴衣を着用していなかった。	419	10	10～ 29
2008	6	16 ～ 17	街路樹の刈込み作業終了後、後片付け及び清掃作業をしていたところ、後退してきた2tトラックにひかれた。	221	17	1～9
2008	8	12 ～ 13	被災者らは高速道高架橋つなぎ目部分の段差解消工事（伸縮継手補修工事）を道路規制を行った上で実施していた。当該段差解消工事が終了し、被災者らが道路規制を解除しようと片付け作業をしていたところ、後方から来た13tトラックが道路規制をしていた作業場所に進入して駐車していた標識車や被災者などに追突した。この事故により2名が死亡、2名が負傷した。	221	17	10～ 29
2008	12	9 ～ 10	ビル新築工事現場内において、配管設置のための掘削工事等を行っていた被災者が、配管部品を取りに現場内を移動していたところ、現場敷地内にバックで入ってきたトラックと建設中の躯体との間にはさまれ死亡した。	221	7	1～9
			鉄道用の地中電線管路敷設工事において、地質調査のため道路の試し掘り			

2008	5	11 ～ 12	をしていた。試し掘りした箇所に土止めとして使用する矢板47枚約500kgを台車に積み、人力にて運搬していたところ、台車が道路から脱輪した。そのため、道路に戻そうと外側から台車を押していたところ、道路外側のU字溝に足をとられて転倒し、転倒したところに台車に積み上げられた矢板が崩壊して、被災者を強打した。	362	5	1～9
2008	5	14 ～ 15	被災者は井戸堀作業を終え、上司と2人で使用した井戸堀機をトラックに積み込もうとしていた。井戸堀機をトラックに近づけるために、上司が井戸堀機を両手で押し、被災者が井戸堀機の前方に立っていたところ、井戸堀機が道路を滑り出してトラック荷台と井戸堀機のやぐらの間にはさまれて死亡した。	149	7	1～9
2008	11	11 ～ 12	国道新設工事において、コンバインドローラーを運転して、幅員5mの盛土の転圧作業を行っていたところ、前輪ローラー部分が法面の肩からはみ出したため、誘導員の合図でバックした直後にローラーごと法面の肩から転落して約3m下のU字溝敷設箇所に投げ出されてローラーの下敷になった。	144	1	1～9
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	711	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	711	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	711	5	10～ 29
			線路の下に雨水管を埋設するため立坑内で推進工法により鋼管を布設して			

2008	9	21 ～ 22	いたところ、推進機（H鋼上を移動する構造となっている）が管を布設する方向とは逆側の方向に移動して立坑のライナープレートと推進機の間にはさまれた。	149	7	1～9
2008	11	14 ～ 15	被災者は、当日朝、新設マンホール内に練炭ストーブ2個を配置し現場を離れた。午後現場に戻ったがマンホール内で意識のない状態で発見された。当該マンホールは4日前に床面コンクリートを打設し、コンクリートを養生するために前日から練炭ストーブを使用していた。救出時の一酸化炭素濃度は260ppmであった。	514	12	10～ 29
2008	1	8 ～ 9	被災者（資材置場専従者）は共同作業員2名と自社構内の資材置場において推進工法用油圧ポンプユニット（推定重量2～3t）を工事現場に運搬するため、橋形クレーン（床上操作式2.8t）で車両積載形トラッククレーン（以下「トラック」）に積み込み作業中に被災者が玉掛けしたワイヤロープ全4本が切断し、同ユニットがトラック荷台に落下後、横に倒れて地上で橋形クレーンを操作していた被災者が下敷きとなった。	372	4	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	被災者は海底の雑海草を除去する工事現場において、雑海草除去作業専用の特殊機械（建設用機械を改造したもの）のクローラーの修理作業中に、当該機械の運転者が被災者の作業状況を見ようと立ち上がり座席に座ろうとしたところ、運転者の服が操作レバーに引っ掛かり、不意に作業装置が稼働して被災者が作業装置と運転室との間にはさまれ死亡した。	149	7	10～ 29
2008	11	13 ～ 14	海岸沿いの護岸復旧工事現場で、災害当日の朝、高波により被災者を含む土工班の仕事は中止となったため、被災者らは、作業内容を変更して型枠材の運搬作業を行っていた。昼休み後、被災者は、作業箇所へ戻る同僚とは行動を別にして波打ち際の護岸へ移動後に、缶で海水を汲むような動作をしていたところ、高波に足元をすくわれて海へ流され行方不明者となり、後日、海岸にうちあげられていた被災者が発見された。	713	10	10～ 29
		9	被災者は、林道開設工事において掘削した表土等を不整地運搬車（最大積載量4.3t）で340m離れた捨て場に運搬する作業を行っていた。同僚が何			10～

2008	8	～	かが転落するような音が聞こえたので確認したところ、不整地運搬車が林道（幅員4.3m）から約68m下の沢に転落しているのを発見した。被災者は、林道から約48m下の斜面で発見された。	227	1	29
2008	7	17 ～ 18	被災者は、同僚が運転する会社所有のワゴン車で小型発電機をリース会社に取りに行った。積み込みを終え現場に戻る途中、交差点において左手方向から走行してきた車両と出会い頭に衝突し、助手席に乗っていた被災者が死亡した。なお、被災者側車両の方に一時停止の標識があった。	231	17	10～ 29
2008	11	9 ～ 10	水力発電所の放水路内の定期点検に伴う放水路水替工事において、排水ポンプで放水路内の水抜き作業を行っていた。被災者は、放水路下流口で排水ポンプに詰まった落ち葉等を除去する作業を行っていたが、途中から行方不明となり、本工事の作業予定箇所ではない、放水路の本線から分岐した予備放水路の奥にある水深約5m、奥行き約10mの水留め部の底で発見された。被災者の作業箇所と被災箇所は約50m離れていた。	418	10	10～ 29
2008	8	8 ～ 9	被災者は、工事現場内での使用が終わった締固め用機械（タイヤローラー機体重量2.7t）をリース会社へ返却するため公道（直線道路、幅員7m）を自走中に反対車線を逸脱し深さ約1.5mの側溝へ転落した。その衝撃で乗っていたタイヤローラーの下敷きになり死亡した。	144	17	1～9
2007	6	13 ～ 14	個人住宅の敷地内に敷設されているブロック壁が経年劣化により傾いていたため、当該ブロック壁を撤去する作業を行っていた。当該ブロック壁を高速カッターを用いて切断作業中に突然ブロック壁（高さ1.1m、幅2.7m）が撤去作業を行っていた足場側に倒れ、足場上で作業を行っていた作業者が下敷きとなった。	418	5	1～9
2007	7	8 ～ 9	道路災害復旧工事現場において、コンクリート吹付け法面のアンカー設置工事が終了し、当日の朝から法面の足場解体作業を行っていたところ、隣接した現場に設置されていたコンクリートブロック（縦1.5m、横1.5m、重さ800kg）が高さ2.7mから落下し、下にいた被災者を直撃した。	418	4	1～9
			災害復旧工事で崩壊した地山斜面にグラウトアンカー工を施工するための			

2007	2	13 ～ 14	地質調査に使うボーリング機械（重量約100kg）を被災者が小型ドラグ・ショベルでつって作業構台まで運んだ。その直後、被災者は小型ドラグ・ショベルの運転席直下の斜面を林道面まで約11m墜落した。墜落箇所の作業道の幅は約3m、斜面の勾配は約50度であった。	417	1	1～9
2007	2	13 ～ 14	立坑内（直径3.5m、深さ29m）で解体した足場板の搬出作業中、地上から降ろされたつりバケット（直径65cm、深さ55cm）に足場板14本（長さ2mから3.3m）を縦に入れ、移動式クレーンによりつり上げたところ、地上で旋回した時に荷崩れを起こし、足場板が立坑内に落下し被災者を直撃した。	522	4	1～9
2007	7	4 ～ 5	大雨による冠水のため、道路通行止めのバリケードを設置していたところ、増水した川に流され、約7km下流で発見された。	713	10	50～ 99
2007	7	16 ～ 17	駐車場舗装工事において、午前中に路盤工を終了し、午後から舗装を始めた。15時頃、被災者が少しふらついたので、上司に日陰で休むよう指示され、休憩していた。約1時間して通行人からの知らせで様子を見に行くと、被災者は意識不明の状態であったため、病院に搬送されたが、死亡した。	715	11	1～9
2007	12	11 ～ 12	石材置場において、移動式クレーン搭載型のトラックを持ち込み、庭石用の石材（重さ約1t）を搬出する際、石材に巻かれたまま置いてあった他社のつりチェーンを自社の玉掛ワイヤーに掛け換えるため、つりチェーンを移動式クレーンのフックに巻き付け、約50cmつり上げた状態で石材の下に潜り込みワイヤーを通していたところ、つりチェーンがフックから滑って外れ、被災者が落下した石材の下敷きになった。	372	4	1～9
2007	7	6 ～ 7	工事現場へ向かうため、国道を走行中、右側車輪を中央分離帯の縁石に乗り上げ、ガードパイプに接触して横転、そのまま中央分離帯内にある高速道路の橋脚に激突した。	221	17	10～ 29
		15	町道の拡幅工事において、コンクリートブロック（幅41cm、奥行き27cm、高さ30cm、重量41.2kg）を路側に積む作業をするにあ			

2007	10	16	たり、車両系建設機械（機体重量2.8 t、バケット容量0.11立方メートル）でコンクリートブロック7個をつり上げて運搬し、機体を旋回したところ、バランスを崩し、転倒した。	141	1	1～9
2007	4	16 17	工事現場で出た土砂を、2 t ダンプで土捨場まで運搬し、荷下ろし後、再び工事現場へ戻るため、ダンプの切り返しを行っていたところ、作業道沿いの約7 m下の斜面にダンプと共に転落し、ダンプの下敷きになった。	221	1	1～9
2007	2	16 17	コンクリートポンプ車に残ったコンクリートを押し出すため別のポンプ車（4 t）を横付けし、水圧でコンクリートを吐出させた後、取り出されたコンクリートを一輪車で運んでいた作業者が、ポンプの使用を終えて駐車地点に戻ろうとバックしてきた4 t 車にひかれた。	221	6	30～ 49
2007	5	15 16	ダム本体工事におけるコンクリート製造設備解体工事において、ベルトコンベヤー（全長約44 m）の最上部のボルト外しを行い、移動式クレーンでつり上げ地上に下ろすため、つり上げる最上部の1スパン下のベルトコンベヤーに作業員3名が待機した後、最上部をクレーンでつり上げたところ、3名が待機していたベルトコンベヤー上部側が支柱から外れ、作業員3名と共に約20 m下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2007	8	14 15	道路上の陥没部分を被災者が覗き込んでいたところ、被災者が立っていた箇所が突然崩落し、被災者が陥没部分に転落した。	711	1	1～9
2007	4	9 10	現場で発生した土砂を2 t ダンプで残土捨場に運搬中、道路脇から崖下（約70 m）へ転落した。現場は、ゆるいカーブでガードレールは設置されていない。	221	17	1～9
2007	9	14 15	県道の道路山側の法面の落石防止用金網設置工事において、被災者は法肩で樹木の伐採作業を行っていたが、作業場所を移動するため安全帯を親綱から外し、木の切株に手を掛けたところ、木が朽ちていたために折れ、身体の支えを失った被災者が約14 m下方の道路路側帯に墜落した。	711	1	1～9
		9	歩道整備工事現場において、西行き車線を通行止めとし、もう一方の車			10～

2007	1	～	線で自動車を交互通行させるため交通誘導を行っていたところ、加害者が	221	6	29
		10	運転する軽トラックに衝突された。			
2007	10	8	被災者は敷地内の高さ約5mの高木に脚立を使用せずに登り、枝切り作業	712	1	1～9
		～	を行っていたところ、高木の高さ約3.5mの箇所から地面に墜落した。			
		9				
2007	12	9	石積みの擁壁を造成する工事において、玉掛け作業をしていた被災者に、	711	4	1～9
		～	法面上部に置いていた石が落下して当たり、その反動で仰向けに倒れた。			
		10				
2007	7	8	農道築造のため、山の法面の木を伐採し、そこに金網と鉄筋で枠を組み、	711	5	10～
		～	それにコンクリートを吹き付ける工事で、被災者を含む約6名が上部の鉄			29
		9	筋を取り付ける工事を行っていた。工事場所より上面約5mをモルタルで			
			補強し、2本の親綱を下ろして安全帯を着用して作業していたが、突然、			
			法面が崩落した。被災者1名が土砂の中に生き埋めになった。			
2007	11	14	護岸工事において、クレーン台船から作業台船へアース線を固定するため	332	13	10～
		～	の溶接作業を行っていたところ、充電部に接触、台船上から川に転落し			29
		15	た。			
2007	1	11	フォークローダーを運転して廃材の整理をしていた被災者が、窪地で重機	141	1	10～
		～	ごと約5m転落して、重機と岩の間にはさまれた。			29
		12				
2007	11	7	空港建設現場において、朝の始業点検で掘削エリアで使用するドラグ・	229	7	30～
		～	ショベルのエンジンオイルが不足していたため、現場管理者である被災者			49
		8	が、ピックアップ車でオイルを取りに行く途中、掘削エリアに向かって移			
			動していた90t級ダンプに、車両ごとひかれた。ダンプ運転手は、被災			
			者車両に気付かないまま乗り上げた。			
2007	2	9	被災者はポリタンクで麓から水を汲みに行くために、一人で単軌条運搬機	229	7	1～9
		～	に乗り移動し始めた。その後、同僚が単軌条運搬機のエンジン部分と軌条			
		10	の架台にはさまれている被災者を発見した。			

2007	10	14 ～ 15	被災者がコンクリートポンプ車のホッパや配管を洗浄するためコンクリートホッパ内の攪拌機を回転させたまま、ホッパ内に残ったコンクリートを洗車ブラシを用い流していたところ、巻き込まれた。	149	7	1～9
2007	2	16 ～ 17	ドラグ・ショベルのクローラの上に敷鉄板（1.5m×3.0m）がはさまり走行不能となったため、バケットを地面に当ててアームを伸ばし、片方のクローラ部を浮かして敷鉄板を取り除こうとしたが、機体が上がりすぎていたため少し下げようと運転士がエンジンをかけて安全レバーを解除した際、バケットが機体側へ動いた。その時、被災者がクローラ前面とバケットの間にいたため、バケットとクローラにはさまれた。	142	7	10～ 29
2007	2	16 ～ 17	区画整理地内の区画道路上で、被災者がブル・ドーザー（機体重量7.75t）を用いて路盤材の敷き均し作業を行っていたが、エンジンを停止させないまま降りたところ、ブル・ドーザーが後進した。これを停止させるために運転席に乗り込もうとしたが転倒し、ブル・ドーザーの排土板にはさまれた。	141	7	10～ 29
2007	11	17 ～ 18	被災者は当日の作業を終え、他の現場に配置された同僚を工事現場構内に駐車したワゴン車で待っていた。被災者は、ワゴン車内にいる同僚に「トイレに行く」と声をかけ外へ出た。その後、約3.8m下のスロープ状の敷地内道路に転落しているのが発見された。	417	1	1～9
2007	8	16 ～ 17	採掘ガスパイプライン敷設工事において、敷鉄板（1.53m×6.13m×t20重さ1.6t）をクレーン機能付きドラグ・ショベル（2.9t）でつり上げ4tトラックに積み込む作業中、トラック荷台上で敷き鉄板を横に倒した際、敷き鉄板が横滑りして、当該クレーンとトラック荷台との間で荷ぶれを防ぐため支えていた被災者が横滑りしてきた敷き鉄板とクローラの間にはさまれた。	212	7	10～ 29
2007	5	11 ～ 12	岸壁に係留した小型曳船2隻の船底に取り付けられている電蝕防止亜鉛板交換のため、潜水士3名で船底に付着した貝類の除去作業を行っていた。その後、潜水士2名が休憩のため陸上に上がったがもう1名が上がってこないため、潜水して捜し始め、当該岸壁に隣接している第1ドックの	391	7	1～9

			ドックゲート取水口に吸い込まれている被災者が発見された。			
2007	12	7 ～ 8	作業員3名が4 t ダンプカーに乗車し、会社から現場へ向かう途中、自動車道ジャンクション付近で道路左側の側壁に衝突し、うち作業員1名が折れた鉄製手すりに直撃された。	221	17	1～9
2007	12	23 ～ 24	路側帯でハザードランプを点灯して停車している軽ワゴン車に後方から走ってきた大型トラックが追突し、約100m前方へ進み両車両は炎上し軽ワゴン車の被災者が死亡した。	231	17	10～ 29
2007	3	7 ～ 8	作業開始時刻前に、地下道工事現場において、被災者が地下約6.5m下の掘削面に倒れているところを同僚により発見された。なお、地上に設置されていた手すり（単管パイプ）が被災者近くに落下した状態で発見された。	414	1	10～ 29
2007	9	11 ～ 12	高さ約16mのけやきの樹木を伐木しようとして、当該樹木の高さ約8mの地点においてチェーンソーで伐木中、急に風が吹き、伐木中の樹木が落下し、下にいた被災者を直撃した。	712	4	1～9
2007	9	15 ～ 16	高さ約4.5m、傾斜約26度のコンクリート製擁壁の上で除草作業を行っていたが、休憩の時間となったため、擁壁下の道路に降りようとしたところ、擁壁の上を滑るようにして転落した。	418	1	1～9
2007	6	9 ～ 10	垂直高25mの岩盤斜面の上方において、ロープネット工の割付作業のため、被災者は測量テープを押さえていたところ、安全帯のカラビナがはずれ、25m下に墜落した。被災者の安全帯は子綱にカラビナを2個取り付け、その先にロリップを付け親綱に脱着するタイプである。	711	1	1～9
2007	3	12 ～ 13	道路改良工事において、法面への基盤材吹付け作業終了後、被災者の姿が見えないため、捜索したところ現場近くの沼から溺死体で発見された。被災者は吹付ノズル（ガン）の操作を行っていたため、基盤材で汚れた手を洗うため手すりを乗り越えて沼へ下りていったところ、誤って沼に転落し、溺死したと思われる。	418	10	1～9
		11	工事現場に軽自動車に向かう途中、国道で右折しようとして停車していたとこ			

2007	6	～ 12	ろ、大型トラックに追突され、対向車線にはみ出し、対向車線を走行してきたダンプトラックと正面衝突し、衝突のはずみで電信柱に激突した。乗車していた2名のうち助手席に乗っていた被災者が死亡した。	221	17	10～ 29
2007	9	～ 18	被災者は、同社資材置場の門扉から12m南側の敷地内でエンジンがかかったままのトラックの下敷きになり死亡しているのを同僚に発見された。車両積載形トラッククレーン（積載量2t）を運転し、単独で資材置場に行き、一旦降車して当該門扉の鍵を開けようとしていたところ、傾斜のため当該トラックが動き出したためひかれたものと思われる。	221	7	50～ 99
2007	2	～ 12	国道の信号機のある交差点において、直進してきた観光バスが左折中のトラックに追突後、その衝撃で道路左側へ逸走して歩道拡幅工事現場に突っ込み、信号機柱、ドラグ・ショベルに激突した。この事故により、工事業者1名が折れた信号機柱の下敷きとなり死亡した。	231	17	30～ 49
2007	2	～ 16	市道交差点の街路樹枝切り作業現場で被災者が街路樹付近の後片付作業中、乗用車と自動車学校教習車が市道交差点内で出会い頭に衝突、その弾みで乗用車が枝切り作業現場に飛び込み、被災者は、当該乗用車と街路樹にはさまれた。	231	17	30～ 49
2007	7	～ 16	基礎工事用機械を使用して、基礎工事を行い、終了後、基礎工事用機械の解体作業を開始し、リーダを置く架台を移動するため、架台に玉掛ワイヤロープ1本を掛け、基礎工事用機械付随のフックに玉掛ワイヤロープを玉掛し、つり上げたところ玉掛ワイヤロープが切断し、架台が落下、被災者に激突した。	372	4	30～ 49
2007	6	～ 8	道路維持業務のため、軽トラックを運転し現場に向けて町道を走行中、左カーブで反対車線側の路外に逸脱する事故を起こした。事故（約1時間）後、通行人に発見された。現場路面は乾燥、ブレーキ痕は無く、発見時の状況からシートベルトはしていなかった。	221	17	30～ 49
2007	2	～	被災者は、林道災害復旧工事現場において、同僚とともに、翌日からの暴風雪予報に備えて資材等のビニールシート掛けの作業のため、2tトラックで資材置き場の土場に移動し、作業を行っていたところ、停車していた	221	7	10～

		18	当該トラックが約5度の緩やかな傾斜を逸走し、停車していたドラグ・ショベルと当該トラックとの間にはさまれた。			29
2006	7	10 ～ 11	ガス供給管新設工事の作業中、被災者が工事車両に向かって歩いていたところ、突然けいれんを起こし卒倒した。直後に病院に搬送されたが、翌日死亡した。	999	99	10～ 29
2006	3	15 ～ 16	歩道設置工事において、発注者の完成検査に立ち会っていた被災者は、現場から駐車場に停めてある車まで徒歩にてスコップを取りに行った。その際、当初駐車していた場所から検査場所近くまで車を運転し移動させた。その後、運転席に被災者が倒れているところを同僚が発見した。	921	90	10～ 29
2006	12	10 ～ 11	伐木作業現場において、被災者が県道から約6メートルの高さのがけの上の最大約45度の傾斜のある法面の端でチェーンソーによる伐木作業を行っていたところ、自ら切った木に激突され、木とともにチェーンソーを持ったままがけから墜落した。	712	6	10～ 29
2006	12	11 ～ 12	県道を乗用車を運転して防火水槽建設工事現場から戻る途中、道路から転落し、運転していた車両ごとダムに水没した。被災労働者は窓ガラスを開け車内からは脱出したが、水温が低かったため、死亡した。	231	17	10～ 29
2006	12	14 ～ 15	被災者はトラクター・ショベルを運転して林道上に堆積している落葉をかき集めていた。ある程度、落葉が溜まったので空き地に落葉を集積した。そのとき、被災者は集積した落葉を押し固めようとして一旦後退したところ、道路幅約4mのガードレールが設置されていない箇所より、トラクター・ショベルと共に47m下の谷に転落した。	141	17	10～ 29
2006	12	14 ～ 15	林道の災害復旧工事現場において、幅約3.2mの林道にL型擁壁を設置するため、ドラグ・ショベルで埋め戻し作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの横を通り抜けようとした被災者が、ドラグ・ショベルの後方部と山の斜面に挟まれた。	142	7	1～9
		15	杭の溶接作業を行っていたAと、その溶接部スラグの除去作業を行っていたBから、約10Mの場所でクレーン作業を行っていたクレーン運転手			

2006	12	～ 16	が、H鋼（長さ：約11M、重さ約790kg）をワイヤにかけ吊り上げ、約50cmの高さから、H鋼に付着した泥を落とそうと、急激に落下させたところ、そのH鋼が倒れBに激突し死亡。Aはワイヤに激突し、負傷を負った。	212	5	10～ 29
2006	1	～ 4	被災者は勤務を終え帰宅、就寝したが、突然うめき声をあげ苦しみ始めた。息はあったが、話しかけても反応がなかったので、救急車で病院へ搬送されたが、同日死亡した。	921	90	10～ 29
2006	12	～ 14	ダム堤体の補修工事のために設置した仮設通路の解体作業終了後、解体作業に使用した排砂路（幅3.24m、深さ1.2m、水深約0.5m）に掛け渡した足場板を撤去しようとした際、排砂路に墜落し流され、約15m下流の河川に落下した。	416	1	10～ 29
2006	11	～ 15	市道新設予定地である雑木林において、被災者が立木の伐倒作業を行っていた際、伐倒木が伐倒予定方向ではなく、退避していた被災者の方向に倒れたため、その下敷きとなった。	712	6	1～9
2006	12	～ 11	高速自動車道下り線で、走行車線規制を実施しつつ、走行車線右側の白線引きを行っていた。作業はマーカー車により行い、運転手、オペレーター（作業車右側のステップに乗車）、材料等調整者と品質管理者（後部ステップに乗車）の4名が従事していたところ、11tトラックがマーカー車の右側部に追突し、オペレーターと材料調整者が被災し、オペレーターが死亡した。	221	17	10～ 29
2006	11	～ 16	事業場所有の資材倉庫等の解体・整地工事において、土木作業員3人が、木造平屋造（軒高2.8m、間口14.7m、奥行き6.3m）の資材倉庫を手作業で解体していたところ、同倉庫が突然横方向に倒れて、同倉庫の内部にいた被災者1人が下敷きとなった。	418	5	10～ 29
2006	11	～ 14	仮橋設置工事現場において、工事用作業通路の撤去作業中、バイブロハンマーで引き抜いたH鋼杭が河川内に倒れたため、昼食後に引き上げ作業を行う予定であったが、一人で河川に入って、玉掛作業の準備を行おうとした被災者がおぼれた。	713	10	10～ 29

2006	11	17 ～ 18	<p>県道のガードロープを撤去する作業終了後、事業主を含む5名が同乗したワゴン車が帰社のため駐車場から県道に進入した。直後に進行方向右カーブでタイヤがスリップし、同左側にあるガードロープ支柱に衝突、同支柱を倒し、路外へ転落（高さ4mほどの擁壁及びその下約2.5mほどの急勾配の斜面を転落）した。なお、被災当時県道には10cmほどの積雪が認められた。</p>	231	17	10～ 29
2006	11	17 ～ 18	<p>県道のガードロープを撤去する作業終了後、事業主を含む5名が同乗したワゴン車が帰社のため駐車場から県道に進入した。直後に進行方向右カーブでタイヤがスリップし、同左側にあるガードロープ支柱に衝突、同支柱を倒し、路外へ転落（高さ4mほどの擁壁及びその下約2.5mほどの急勾配の斜面を転落）した。なお、被災当時県道には10cmほどの積雪が認められた。</p>	231	17	10～ 29
2006	11	17 ～ 18	<p>県道のガードロープを撤去する作業終了後、事業主を含む5名が同乗したワゴン車が帰社のため駐車場から県道に進入した。直後に進行方向右カーブでタイヤがスリップし、同左側にあるガードロープ支柱に衝突、同支柱を倒し、路外へ転落（高さ4mほどの擁壁及びその下約2.5mほどの急勾配の斜面を転落）した。なお、被災当時県道には10cmほどの積雪が認められた。</p>	231	17	10～ 29
2006	11	17 ～ 18	<p>県道のガードロープを撤去する作業終了後、事業主を含む5名が同乗したワゴン車が帰社のため駐車場から県道に進入した。直後に進行方向右カーブでタイヤがスリップし、同左側にあるガードロープ支柱に衝突、同支柱を倒し、路外へ転落（高さ4mほどの擁壁及びその下約2.5mほどの急勾配の斜面を転落）した。なお、被災当時県道には10cmほどの積雪が認められた。</p>	231	17	10～ 29
2006	11	14 ～ 15	<p>被災者2名を含む4名の作業員による、下水道の伏越管内部の汚れ具合の調査作業において、1名がマンホールを開け内部に入ったところ、意識を失い、救助のためにマンホールに入った同僚も意識を失った。</p>	714	12	10～ 29
		14	<p>被災者2名を含む4名の作業員による、下水道の伏越管内部の汚れ具合の</p>			

2006	11	～	調査作業において、1名がマンホールを開け内部に入ったところ、意識を失い、救助のためにマンホールに入った同僚も意識を失った。	714	12	10～ 29
2006	10	～	学校の樹木の剪定作業を終了した後、剪定で生じた枝葉などの切りくずを4トンのトラックに載せて処分場に捨てるため、校門から道路に出たところ、ガードレールに車体の左脇部分が接触した。運転者があわててトラックを後退させたところ、校舎の塀とトラックの荷台後部とに被災者が挟まれた。	221	7	1～9
2006	9	～	ゴルフ場での道路整地作業中、2トントラックを下り坂のカート道に停車させ、被災者がトラックから降りたところ、トラックが動き出したので、被災者はトラックの運転席側の窓から体を入れ、止めようとしたが、22メートル走行した箇所でトラックに轢かれ仰向けに倒れているのが発見された。	221	7	1～9
2006	10	9 ～ 10	酒造会社の建屋等解体工事において、麴室として使用していた土蔵を解体するため、屋根と前壁を取り壊した。その後、3人で土蔵内部で資材の分別・回収作業を行っていたところ、側壁が倒れてきて3人のうち1人が逃げ遅れ、下敷きになった。	418	5	30～ 49
2006	9	～	給油所新築工事に伴う造成現場で、土止用のL型擁壁（重量約3t）を設置していた。事業主がドラグ・ショベルを運転して当該L型擁壁を吊り上げ、約2m下方の設置箇所へ置くために機体を旋回させた時にドラグ・ショベルのバケットのフックに掛けていた玉掛け用ワイヤロープが切れたため、L型擁壁が落下し、下方で待機していた被災者に激突した。	372	4	1～9
2006	10	～	貯水槽を設置するため掘削作業中、被災者が深さ4mの掘削溝に落下したところ、地山の側面が崩壊して生き埋めになった。	711	5	1～9
2006	10	～	建物外溝改修工事を行っていたところ、傾斜角8度の道路に停車していた車両積載形トラックが動き出し、被災者を巻き込み、途中ブロック塀や電柱に激突しながら70メートル下の民家に激突した。	212	7	10～ 29

2006	9	8 ~ 9	くい打ち機のトップリーダーを、点検整備のため移動させようと被災者が玉掛け作業を行い、ついで被災者は使わなくなった機械（重機の旋回部）の上に上り、クレーン運転手に合図を行い、クレーン運転手が地切りを行ったところ、クレーン運転手から被災者が見えなくなった。クレーン運転手は近くにいた同僚に被災者の様子を見てくるよう頼んだところ、被災者は地面に倒れていた。	612	6	100 ~ 299
2006	10	8 ~ 9	門扉撤去の段取り作業中に、門扉を押したところ門扉が倒れて止めを超えて被災者の上に倒れた。	418	5	1~9
2006	10	15 ~ 16	業務を終え、自家用車で会社へ戻るため、高速道路を走行中、トンネル手前で、対向車線に入りトンネルの側壁に衝突した。	231	17	100 ~ 299
2006	9	11 ~ 12	国道において、道路側面の除草作業中、刈り取った草を機械式ごみ収集車（パッカー車）投入口から積み込む作業を行っていたとき、機械式ごみ収集車（パッカー車）の回転板に挟まれた。	221	7	50~ 99
2006	9	10 ~ 11	林道改良工事において、林道内に崩落した土砂の捨てる場所を確保するため、法面の立木伐倒及び測量作業を行っていた。杉の立木（胸高直径33cm）を伐倒したところ、伐倒木伐根から約20m離れた場所で測量作業をしていた同僚労働者に先端部分が激突した。伐倒木の全長は約22m。	712	6	10~ 29
2006	9	16 ~ 17	林道にブレーカを移動させるため、ブレーカにベルトスリングとワイヤロープを取り付け、ベルトスリングを林道上の車両積載形トラックに固定させ、ワイヤロープを林道上のバックホウのバケットに取り付け、バックホウでブレーカを引っ張ると同時に、被災者がブレーカを自走させ、傾斜45度の斜面上を上がっていた。この時、バケットのフックからワイヤロープが外れ、ブレーカーが転倒したため、被災者が運転席から転落した。	142	1	1~9
		0	被災者が県道小規模道路工事の雑木伐採作業を行った後、退避レーン外の草むらで休憩していた。走行してきた自動車が退避レーンに駐車していた			

2006	9	～ 1	2トンダンプトラックに接触した後、被災者を巻き込みながら道路脇の標識と衝突し、被災者は加害車両の下敷きとなった。	231	17	1～9
2006	9	～ 12	11 編心木（胸高直径約60cm：樹種センダン）伐木のため、梯子を用いて編心木に登り、チェーンソーで枝打ち作業を行っていたところ、5.7m下の用水路へ墜落した。	712	1	1～9
2006	9	～ 13 14	ドラグ・ショベルを用途外使用し、山留め鋼板（約600kg）を引き抜き、そのままつり上げ、仮置き場へ移動するため旋回して前進を始めたドラグ・ショベルに被災者が轢かれた。被災者は、山留め鋼板の玉掛け作業の後、当該ドラグ・ショベルの前方を移動していたものである。	142	7	1～9
2006	8	～ 14 15	急傾斜地崩壊対策工事において、落石防護柵を設置するため基礎床堀をしようと法面小段を小型ドラグ・ショベルに乗車して鉄板2枚を交互に敷き詰めながら移動中、鉄板を吊り上げて旋回中にバランスを崩して小段端部より12メートル下の民家敷地へ小型ドラグ・ショベルとともに転落した。	142	1	10～ 29
2006	8	～ 12 13	被災者を含め3名が工事を行うため現場へ乗用車で向かっていたところ、高さおよそ60mの谷へ車ごと転落し、被災した。	231	17	1～9
2006	7	～ 14 15	現場にて、草刈作業中、男性が使用していた草刈機が、付近で作業していた被災者に接触した。	169	8	1～9
2006	8	～ 10 11	片側一車線の沿道の草刈作業後に休憩をとり、作業を再び始めようと規制車（軽トラック）の移動のため規制車に乗り込もうとした際、後方から走ってきた乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2006	7	～ 15 16	15 建設工事現場の植樹作業中に、植栽工が気分が悪いと同僚に告げ休憩をとりに植樹作業場から離れ姿を消した後、約1時間後に作業場からは死角となる方角50mあたりに倒れている被災者が発見された。	715	11	1～9
		8	業務打合せのため社用車にて営業所へ向かう途中、自動車道上り線におい			

2006	8	～	て後続のトラックに追突され、その弾みで下り線にはみ出し、対向してきた乗用車と衝突した。	231	17	30～ 49
2006	7	～	被災者は、県道直下のブロック積み施工箇所をドラグ・ショベルで掘削していたが、右岸からは下部の掘削ができないため、小型ドラグ・ショベルを左岸から進入させた。ドラグ・ショベルの進入箇所はドラグ・ショベルの機体前方に約35度下がり傾斜で、左方向に約10度下がり傾斜であった。ドラグ・ショベルが前方に約2メートル進んだところで、機体が左に傾き横転して斜面を約15メートル転落、被災者は機体から投げ出された。	142	1	1～9
2006	7	～	鉄骨倉庫建築工事において、鉄骨柱に梁を取り付ける作業中、最上層の梁の取り合いが悪く取り付けられなかった為、既に取り付けてある中段の梁の固定ボルトを外し、更に柱を基礎部に固定しているナットを緩め、柱に立てかけたハシゴに再度登っていたところ、柱が傾き、中段の梁の一端が落下し、ハシゴ上の被災者がバランスを崩して転落した。	415	1	1～9
2006	7	～	えん堤工事用の資材道開設において、伐採した木の片付け作業中、木の搬出を行うため、既に3本の木を積載した林内作業車を斜約10度の資材道から、搬出しようとした木に接近させたところ、林内作業車が横転し、運転していた被災者が地面と林内作業車の間にはさまれた。	229	2	1～9
2006	7	～	左岸の排水機場逆水門付近の広場において刈払い機により草刈作業を行っていたところ、休憩時間になっても被災者がいないことに他の労働者が気が付き、搜索したところ川底から発見された。	713	10	1～9
2006	7	～	擁壁倒壊防止緊急対策工事において、擁壁工事にかかる補助作業として、鉄筋等の資材を運搬作業中、気分が悪くなり、日陰で休んでいたが、息遣いが荒くなり、意識が朦朧とした状態であったため、救急車にて病院に搬送したが、死亡した。	715	11	1～9
2006	6	～	被災者は線路敷地内において、合計7人にて草刈作業を行っていた。被災者は線路脇の片付けを行っていたが、休憩に入り、各自個別に持ち場を離	419	1	1～9

		11	れて休憩をしていたところ、被災者が下におりようとして翼壁上を歩き、高さ6mの地点から墜落した。			
2006	4	9 ～ 10	橋脚を補強する災害復旧工事において、被災者は橋脚の保護鋼板に樹脂を充填するため、酸素ポンペを装着し潜水作業を行っていた。1箇所目の橋脚の樹脂充填が終わり、約14メートル離れた次の橋脚に泳いで移動していたところ姿が見えなくなり50メートル下流にて発見された。	713	10	1～9
2006	6	11 ～ 12	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4m、勾配65度の土手の下部を深さ約1.4m、幅約1.4mに掘削した内部に作業員2名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約4m、高さ約4m、奥行約0.8mにわたり崩壊し、2名が被災した。	711	5	10～ 29
2006	6	11 ～ 12	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4m、勾配65度の土手の下部を深さ約1.4m、幅約1.4mに掘削した内部に作業員2名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約4m、高さ約4m、奥行約0.8mにわたり崩壊し、2名が被災した。	711	5	10～ 29
2006	6	14 ～ 15	被災者は、1段切梁架設作業中、腹起し材(H=400*400、L=4,5m、W=900kg)を固定しようとしたところ、腹起し下のブラケットが脱落した。これに伴い腹起しが斜め前方に落下し、その下敷きになり死亡した。腹起しの落下高さは、約1,6mである。ブラケット2ヶ所で腹起しを受けていたが、片側のブラケットが落下した。	412	4	1～9
2006	7	9 ～ 10	堤防補修工事において、被災者がローラー(機体重量3,2t)にて締め固めしている際、堤防の法面から転落した。	144	1	1～9
2006	5	13 ～ 14	国道において、最大積載量55トンのトレーラーが、国道の側溝清掃作業に伴う片側交互通行規制で停止していたトラックに追突した。このとき付近で交通整理をしていた被災者が押し出されたトラックに轢かれた。	221	17	30～ 49
2006	5	11 ～	線路下の横断水路新設工事現場において、被災者は深さ4.3mの縦坑内へ搬入されていたドラグ・ショベルを運転し、当箇所から1.6m下の床付け部に移動させようとドラグ・ショベルを方向転換させたとき、段差部	142	1	1～9

		12	の路肩が崩れ、クローラーが横滑りして横転し、運転席から投げ出された被災者は、縦坑鋼矢板とドラグ・ショベル間に挟まれた。			
2006	5	15 ～ 16	宅地造成工事において、幅約1.2メートル、奥行き約10メートル、深さ約2メートルを掘削し、この中で配水管敷設のための計測作業を行っていたところ、奥行き約2.7m、幅約0.6m、高さ約2mにわたる地山が崩れ、しゃがんでいた被災者が埋まった。	711	5	10～ 29
2006	5	7 ～ 8	敷地内スロープに停車していたダンプが逸走し、スロープ下部の駐車場に停車していた、もう1台のダンプ後部で作業をしていた被災者に激突した。被災者は停車していたダンプ、及び逸走してきたダンプに挟まれた。	221	6	30～ 49
2006	5	7 ～ 8	敷地内スロープに停車していたダンプが逸走し、スロープ下部の駐車場に停車していた、もう1台のダンプ後部で作業をしていた被災者に激突した。被災者は停車していたダンプ、及び逸走してきたダンプに挟まれた。	221	6	1～9
2006	3	14 ～ 15	国道の歩道上において、労働者8名が除草作業中、走行してきた普通自動車が当該作業箇所につつまみ、このうち5名の労働者が当該自動車に跳ねられて2名が死亡し、3名が負傷した。	231	17	1～9
2006	3	14 ～ 15	国道の歩道上において、労働者8名が除草作業中、走行してきた普通自動車が当該作業箇所につつまみ、このうち5名の労働者が当該自動車に跳ねられて2名が死亡し、3名が負傷した。	231	17	1～9
2006	4	10 ～ 11	工事用立て看板を設置するため、現場で位置決めをしていたところ、作業用1トントラックが後退してきて（勾配約6度）、トラックを静止しようとした被災者がトラックとガードロープの支柱に挟まれた。	221	7	10～ 29
2006	4	14 ～ 15	護岸裏の土砂流出による災害復旧工事現場において、2名で残された護岸（ブロック積み）の解体をしていたところ、幅約5m、高さ約2.4mの護岸（ブロック積み）が倒れて、護岸裏にいた被災者が被災した。	418	5	1～9
		9	護岸工事において、被災者がドラグ・ショベルを運転し、鉄板を吊り上げ			

2006	4	～	ている際にバランスが崩れ、高さ約2.5メートルの箇所からドラグ・	142	1	1～9
		10	ショベルごと転落し、ドラグ・ショベルと地面との間に挟まれた。			
2006	3	～	道路占有区画をした範囲内において、道路法面にある枯れ木の伐採、剪定	212	7	10～
		11	作業を、被災者を含む8名で実施していた際、伐採した幹を車両積載型ト			29
		12	ラッククレーン(2.9t)の荷台に積載するため、被災者が後方で誘導			
			しながら、当該トラックを後進させていたところ、被災者が荷台に接触			
			し、路面に倒れたところを後進するトラックの左後輪に轢かれた。			
2006	4	～	水田に農業機械搬入田スロープを砂を用いて埋め立てて造るため、地域の	711	5	1～9
		16	共有地である砂採取場から砂を手掘りで掘削していたところ、突然地山が			
		17	崩れ、被災した。			
2006	3	～	伐出夫3名が、高さ22.3m、胸高直径52.5cmのムクノキの立木の	361	6	10～
		10	上部にワイヤロープを巻き付け、手動ウィンチで牽引しながら、チェー			29
		11	ンソーを用いて当該立木の地上66cmの部分で切断して伐倒したとこ			
			ろ、当該伐倒木と根株の間のつるが切断されなかったため、当該伐倒木を			
			手動ウィンチで牽引したまま、被災者がチェーンソーを用いて当該つるを			
			切断したところ、当該伐倒木がロープに引っ張られて動き、被災者に激突			
			した。			
2006	2	～	会社の構内において、被災者が、建築廃材を載せたトラックを重量計に乗	221	6	1～9
		11	せた状況の写真を撮影していたところ、別のトラックがバックで進入し、			
		12	被災者がトラックに激突された。			
2006	1	～	被災者は除雪助手としてモーターグレーダーで深夜の市道除雪作業を終	141	1	10～
		7	え、車両基地に戻った。グレーダーから降りる際1.4m下の圧雪路面に			29
		8	転落した。帰宅したが痛みがひどいため整形外科を受診し自宅に戻り休ん			
			でいたところ、夜になって不調を訴え救急搬送。手術を受け治療を継続し			
			たが死亡した。			
2006	2	～	2トントラックに同乗し、現場へ向うため、高速道路を走行していたとこ	221	17	1～9
		7	ろ、追い越し車線より乗用車が急に車線変更したので、急ブレーキをか			
			け、ハンドルを追い越し車線側に切ったところ、追い越し車線を走行して			

		8	いたキャリアカーが衝突した。			
2006	1	8 ～ 9	土蔵屋根の雪下ろし作業を行うため、被災者と他1名が土蔵屋根に立てかけた移動はしごで屋根に上り、屋根上の雪をスノーダンプで掻き分けながら屋根の頂上部に向かって移動していたところ、屋根に積もった約2メートルの雪が全層雪崩の形態で屋根上から地上に滑り落ち、屋根上にいた両名がその雪とともに地上の雪面に滑落し、さらに屋根から滑り落ちてきた雪により被災した。	719	5	1～9
2006	2	16 ～ 17	法面の植生注入マットを固定するアンカーピンの設置作業中被災者が、リップが取り付けられている親綱の場所まで、法面上部の岩場を歩いていたところ、岩場から約15m下の側溝に墜落した。法面は岩盤で、高さ約15m、勾配約70度。	711	1	1～9
2006	2	10 ～ 11	発電所において、取水ゲート巻上機室の屋根に積もった雪のせり出し部分（雪庇）を取り除く作業を4名で行っていた。作業員4名のうち被災者1人が屋根下のベランダ部分で作業を行い、他の3名が屋根の上で作業を行っていたところ、被災者が落下してきた雪庇の下敷きとなった。	415	4	1～9
2006	2	11 ～ 12	急傾斜地崩壊対策工事の現場内において、現場代理人の被災者と1次下請業者の労働者1名が、重力式擁壁の型枠の位置決めをするための測量作業を下法尻にて行っていたところ、斜面上方から高さ約10メートル、幅約15メートル、深さ約1.5メートルにわたり法面が崩壊し、被災者が死亡した。	711	5	10～ 29
2006	2	13 ～ 14	コンクリート揚壁の型枠にコンクリートを打設するため、機体重量8トンのドラグ・ショベルのバケットで生コンを入れたホッパーをつり上げて旋回したところ、ドラグ・ショベルが横転し、型枠付近にいた労働者4名がドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	6	10～ 29
2006	1	19	くい打ち機材を別のトラックに積み替える作業を行っていた。トラック上に置かれた拡底バケット受台に一時立てかけてあったスタビライザーと呼ばれる機材を荷台に固定するため、荷締め器を用い仮締め作業を行ったと	379	7	10～ 29

		20	ころ、締めるに従いトラック前方側へ動いたスタビライザーと拡底バケツトの間に、ちょうどそこを通ろうとした被災者が挟まれ、被災した。			
2006	1	8 ～ 9	卸売業者の資材倉庫の屋根の雪下ろし作業を行うに当たり、被災者は同僚1名と共に当該倉庫出入口の下屋にはしごで登り、雪べらを用いて雪庇（屋根からせり出している雪）を落とす作業を行っていたところ、下屋に雪庇が崩れ落ち、当該雪庇に押し出される状況となって高さ5.18mの下屋から地面に墜落した。被災者はヘルメット着用していたが、墜落時は脱げた状態。	415	1	30～ 49
2006	1	8 ～ 9	ほ場造成工事現場内の平坦な場所において、被災者がブル・ドーザーを用いて整地作業を行っている際、運転席より左側に転落し、自らが運転する当該機械の左側履帯に巻き込まれ、被災した。	141	7	1～9
2005	1	10 ～ 11	取水ダム の排砂門に挟まった流木の撤去作業において、調査のためアクアリングを装備し潜水中に死亡した。	418	90	1～9
2005	7	13 ～ 14	アスファルト道路上の土砂を洗い流すため、タイヤローラーの後方で、散水用ホースにて歩行しながら散水作業を行っていたところ、後進してきた当該タイヤローラーにひかれた。	144	7	10～ 29
2005	4	16 ～ 17	災害復旧工事現場において、擁壁に使用するための栗石を不整地運搬車に積み、道路上から現場内に落とす作業を行っていたところ、当該不整地運搬車が2m下の現場内に転落し、運転していた被災者が下敷きとなった。	227	1	1～9
2005	3	11 ～ 12	森林の斜面の土砂の流出を防止するための土止め柵を設置する工事において、柵の材料が不足したため、急遽、現場内の立木を数本伐採して材料を作成する作業を行っていたところ、他の作業者が伐採した立木に直撃された。	712	6	30～ 49
2005	9	16 ～ 17	ダンプトラックの荷台をせり上げた状態でエンジン等の点検作業を行っていたところ、降下してきた荷台とダンプトラックのシャーシとの間に挟まれた。	221	7	10～ 29

2005	4	11 ～ 12	町道拡幅工事に係る立木の伐採作業において、伐木中の椎が伐採後の玉切りのために待機していた被災者に倒れ掛かり、被災者が下敷きとなった。	712	6	1～9
2005	7	9 ～ 10	草刈機を使用して除草作業中に、道路脇にあったスズメバチの巣を刺激したため、スズメバチに刺された。	719	90	1～9
2005	7	7 ～ 8	資材置場でダンプトラックにグリスアップしていたところ、荷台後部のあたりと荷台との間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2005	11	7 ～ 8	トラックの荷台にあった碎石の入ったシートモッコ（500kg）を降ろすため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.8トン）の左側方で操作をしていたところ、トラッククレーンが横転し、近くにあった木とトラッククレーン助手席のドアとの間に挟まれた。	212	2	1～9
2005	4	8 ～ 9	鋼管杭の周辺の土砂を寄せる作業中で、ドラグ・ショベルを後進させていたところ、後方にある移動式クレーンのカウンターウエイトの下部に潜り込む状態となり、カウンターウエイトとドラグ・ショベルの運転席との間に挟まれた。	142	3	10～ 29
2005	4	14 ～ 15	軽トラックでガラ等を残土置場に運ぶため、置場内をバックで走行中、道路斜面から30m下へ転落した。	221	18	1～9
2005	10	13 ～ 14	土木工事現場で使用を終えた型枠材等をダンプトラックに積み込み、資材置場までの搬送中、荷台から落下した一輪車を拾うため、ダンプトラックを後退させていたところ、路肩から脱輪、ダンプトラックとともに2m下の水田に落下した。	221	1	1～9
2005	6	10 ～ 11	工事現場において、アースドリルを旋回したところ、アースドリルの後部と置いてあった鉄製の箱との間に挟まれた。	143	7	10～ 29

2005	9	11 ～ 12	ドラグ・ショベルで県道を自走していたところ、道路が陥没してドラグ・ショベルが横転、ガードレールと機械との間に挟まれた。	142	17	10～ 29
2005	10	11 ～ 12	ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたコンクリートホッパにコンクリートを入れ、アームを旋回させたところ横転し、付近で型枠の建込作業を行っていた被災者が、ドラグ・ショベルの車体に押された型枠材との間に挟まれた。	142	6	1～9
2005	2	18 ～ 19	雑木をチェーンソーで伐倒作業中、雑木の幹が裂けて被災者にのしかかるように倒れ、その下敷きとなり動けなくなった。	712	6	10～ 29
2005	5	10 ～ 11	積載荷重0.5トンのクローラ式運搬車に石材1トンを積み込み坂道を後退中、運搬機の制御が利かなくなり、運搬車と坂道脇の擁壁との間に挟まれた。	229	7	1～9
2005	1	14 ～ 15	農道新設工事現場において、路体盛土の転圧作業を行うため、タイヤローラーに搭乗し後発進で移動していたところ、路肩に寄りすぎていたため、タイヤローラーごと谷に転落し、タイヤローラーの下敷きとなった。	144	1	30～ 49
2005	8	0 ～ 1	道路改良工事において資材の片付け等の作業に従事中、体調不良を訴え、熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2005	7	14 ～ 15	斜面上で、不整地運搬車（最大積載量990kg）の荷台を傾けて生コン(重さ600kg)をコンクリート缶に移そうとしたところ、不整地運搬車が前方方向に転落したために車から投げ出された。	227	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	ボーリングマシンを解体中、突然ボーリングマシンが倒れ、これを支えていた被害者が下敷きとなった。	149	6	10～ 29
2005	5	11 ～	トラックで追越車線を通行していた際に工事のため急に停車した前のトラックに追突した。	221	17	1～9

		12				
2005	12	16 ～ 17	コンクリート打設作業を行うため、ドラグ・ショベルのバケットにつり下げられたホッパーの開閉バーを持ちコンクリートを地上に落とす作業中、ホッパーと擁壁との間に挟まれた。	611	6	10～ 29
2005	11	16 ～ 17	道路での看板を設置していたところ、後方から走ってきたトラックにはねられた。	231	17	10～ 29
2005	7	11 ～ 12	民家の石積み補強工事で、トラック荷台上の生コンをドラグ・ショベルのバケットですくい、型枠へと注ぎ込む作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルもろとも2m下へ転落した。	142	1	1～9
2005	1	6 ～ 7	資材置場において、ダンプトラックから荷降ろし作業中、同車両が動き出し、勾配が10度の下り坂の途中付近で、車両右後輪でひかれた。	221	7	1～9
2005	3	8 ～ 9	工場敷地の造成工事において、敷鉄板（重さ1.4トン）を、ドラグ・ショベルでつり上げ、トラックの荷台に積載しようとしていたところ、つり具から敷鉄板がはずれて落下し、被災者が鉄板の下敷きとなった。	379	4	30～ 49
2005	1	14 ～ 15	法面改良工事のために、法面に親綱を張り安全帯のフックをかけて、法面上で型枠の下地となるラス金網を敷く作業をしていたところ、親綱を固定していたピンが折れて、被災者が法面を転落した。	379	1	10～ 29
2005	9	8 ～ 9	民家敷地内の擁壁設置工事現場において、溝をドラグ・ショベルで掘った後、被災者が溝に入り、建物側の地山に土止めのためのコンパネを置いて、前日に施工した場所の土止め支保工の部材を取り外したところ、建物側の地山が崩壊したため被災者が土砂に埋まった。	711	5	10～ 29
2005	7	11 ～ 12	国道のセンターラインの塗替え塗装を行っていたところ、当該現場の脇を通過しようとした大型トラックにはねられた。	221	17	1～9
		9	国道沿いの吹付法枠の補修工事において、上方から順次モルタルの粉落し			30～

2005	5	～ 10	作業を行っていたところ、親綱が切れ、4m転落した。	379	1	49
2005	2	～ 11	農業用水路補修工事現場の進入用雪道において、ドラグ・ショベルの操作をしていたところドラグ・ショベルが横転し、当該ドラグ・ショベルの運転席出入り口側の天井フレームと雪道との間に挟まれた。	142	7	30～ 49
2005	9	～ 17 18	ダンプトラックで国道を走行中、対向して来た乗用車がセンターラインをはみ出して、同トラックの側面へ衝突した。そのはずみで、同トラックもセンターラインをはみ出してしまい、同乗用車の後ろを走って来ていた他のトラックにさらに衝突した。	221	17	1～9
2005	7	～ 14 15	トラックで国道を走行していたところ、左カーブを曲がる際ガードレールに激突し、側溝に転落した。	221	17	1～9
2005	12	～ 6 7	道路除排雪作業を、ブル・ドーザーを使用して行っていたところ、後退時に誤って市道の側溝に車体の左側全体を落とし、その際、側溝に転落した。	141	1	1～9
2005	9	～ 8 9	雪崩柵設置工事において、溶接作業を行っていたところ、施工箇所の上部より岩石が飛来し、防護ネットを突き破り、被災者に激突した。	711	4	1～9
2005	1	～ 20 21	災害復旧工事のため宿泊していた旅館において、入浴中、積雪により風呂場の屋根が崩落して生き埋めとなった。	719	5	1～9
2005	10	～ 11 12	集水井掘削工事において、作業終了後に作業床を支えていた棒鋼の抜取り作業中、最後の棒鋼を抜き取った際、ワイヤロープのつりリングがクラムシェルから外れ、深さ7mの井戸底部に当該作業床もろとも墜落した。	142	1	1～9
2005	4	～ 0 1	県道の除雪工事において、高さ1.8mの道路擁壁上に上がり、車両の通行に支障となる雑木類の除去作業中、足が滑り道路に転落した。	418	1	10～ 29

2005	2	11 ～ 12	排水路の災害復旧工事現場において、降雪により中止していた工事の再開に向け、ドラグ・ショベル及び不整地運搬車を使用して、除雪作業を行っていたところ左岸側の山の上部から全層雪崩（堆積雪の幅22m、長さ21m）が発生し生き埋めとなった。	719	5	10～ 29
2005	11	14 ～ 15	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フトン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ遅れた被災者らが生き埋めとなった。	711	5	10～ 29
2005	11	14 ～ 15	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フトン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ遅れた被災者らが生き埋めとなった。	711	5	10～ 29
2005	5	13 ～ 14	車両積載形トラッククレーンを使用して、荷台から敷鉄板をつってジブを左旋回させていたところ、クレーンが傾き横転し、運転していた被災者が運転席の下敷きとなった。	212	2	1～9
2005	10	11 ～ 12	橋梁塗装工事に使用されたつり足場の解体作業中、つりクランプよりつりチェーンを外したところ、隣りのクランプが外れ、足場板と一緒に下の川に墜落した。	411	10	10～ 29
2005	8	8 ～ 9	トラックで走行中、先方のトラックが赤信号で停車したところへ追突した。	221	17	1～9
2005	1	11 ～ 12	高速自動車道において、作業員7人が、道路脇の目隠し板の撤去作業及び単管パイプの解体作業を行っていたところ、走行してきた大型トラックが規制帯に突っ込み、被災者らに激突した。	221	17	10～ 29
2005	8	10 ～ 11	倉庫整理等の軽作業を行っていたが、体調の異変が認められた。	715	90	10～ 29
2005	5	5 ～	ライトバンで走行中、ゆるやかなカーブにおいて、道路左側民家の塀に衝突し、後部座席に乗車していた被災者がフロントガラスに激突した。	231	17	10～ 29

		6				
2005	5	9 ～ 10	自走式ガソリンエンジン付き草刈機を後進させながら下草刈をしていたところ、転倒し、そこへ草刈機が乗り上げた。	169	7	10～ 29
2005	12	9 ～ 10	駐車場のアスファルト舗装工事を行うに当たり、搭乗式振動ローラーを使用し締め固め作業を行っていたところ、駐車場端から3.5m下の道路にローラーとともに転落した。	144	1	1～9
2005	11	10 ～ 11	土止め作業において連結鋼矢板を車両系建設機械を使用して玉掛作業で運搬中、足元が滑り転倒した。さらに、そのはずみで立てかけ状態であった当該鋼矢板(重さ260kg) が倒れ、被災者に激突した。	521	5	1～9
2005	11	23 ～ 24	低圧ポリプロピレン管の埋設工事に伴う試掘作業中、道路片側作業帯の中に無灯火で酒酔い運転の乗用車が飛び込んできて、同作業帯の中で試掘済の点検をしていた被災者がはねられた。	231	17	100 ～ 299
2005	12	11 ～ 12	はしごに昇り枝切り作業を行っていたところ、はしごが転位し、コンクリートの地面に墜落した。	371	1	10～ 29
2005	11	10 ～ 11	鉄板とH鋼材を溶接していたところ、鉄板（重さ800kg）が作業していた被災者側に倒れた。	521	5	10～ 29
2005	4	6 ～ 7	トラックの助手席に乗り高速自動車道を移動中、道路の継ぎ目で車両が大きくバウンドし、スリップしながら助手席側の側壁に衝突して車体が横転した。	221	17	100 ～ 299
2005	8	13 ～ 14	国道脇の除草工事中に、誤って同僚作業者に近づき過ぎたため、同僚の刈払機に接触した。	169	8	1～9
2005	10	8 ～	プレハブ倉庫の改修工事において、屋根上の状況を確認した後、解体工具であるバールを地上に取りに行くため、屋根よりはしごを使用して下りる	371	1	1～9

		9	途中、転落した。			
2005	4	17 ～ 18	ドラグ・ショベルのクローラを清掃作業中、ドラグ・ショベルが横転し、 下敷きとなった。	142	6	1～9
2005	11	5 ～ 6	工事現場へトラックで向かっていたところ、交差点で前方のタンクロー リーが大型ダンプトラックと衝突し、後方を走行していた被災者のトラッ クが横転したタンクローリーと衝突した。	221	17	10～ 29
2005	11	5 ～ 6	工事現場へトラックで向かっていたところ、交差点で前方のタンクロー リーが大型ダンプトラックと衝突し、後方を走行していた被災者のトラッ クが横転したタンクローリーと衝突した。	221	17	10～ 29
2005	6	15 ～ 16	資材置き場でコンクリートをつり上げた際、車両積載形トラッククレーン が横転した。	212	7	1～9
2005	7	16 ～ 17	水田の基盤整備事業の工事現場内において、ブル・ドーザーを運転してい た被災者が、盛土の斜面で、自分の運転していたブル・ドーザーのクロー ラ部分でひかれた。	141	7	30～ 49
2005	3	10 ～ 11	舗装工事現場において、タイヤローラーにより路盤を転圧するため、前進 及び後退の動作を繰り返していた際に、後方にて測量作業中の被災者に気 付かず、そのまま後退させたため、タイヤローラーの後輪でひいた。	144	7	50～ 99
2005	6	9 ～ 10	用水路の法面を草刈をするため、刈払機を肩から下げたまま法肩の柵（高 さ90cm）を乗り越えようとしたところ、柵から転落して法面を滑落し、 用水路に落ちた。	713	10	1～9
2005	11	9 ～ 10	作業道路の建設において、作業の支障となる立木の伐倒作業中、斜面に生 えていた立木をドラグ・ショベルのバケットで支えながらチェーンソーで 伐倒したところ、伐倒木が伐根から外れてほぼ真下に落下し、伐倒作業を していた被災者が当該伐倒木と伐根との間に挟まれた。	712	6	10～ 29
		10	橋梁下部に設置していたつり足場の解体作業中、足場板が外れ、当該足場			10～

2005	10	～ 11	板とともに15m下の地面に墜落した。	411	1	29
2005	4	16 ～ 17	資材センター内において、角パイプを選抜していた際に、当該パイプが崩壊し、崩壊したパイプ40本（重さ300kg）の下敷きとなった。	521	5	10～ 29
2005	1	15 ～ 16	木造建屋の解体工事において、立てた状態で仮置きされた地震体験用振動架台（重さ800kg）の横で、同架台のモーターに接続されていたケーブルを切断する作業を被災者が単独で行っていたが、同架台が突然倒れて下敷きとなった。	391	5	30～ 49
2005	12	7 ～ 8	社有車で国道を走行中、路面の凍結によりスリップして対向車線へはみ出し、対向車と衝突した。	231	17	10～ 29
2005	12	10 ～ 11	国道の雪崩予防柵設置工事において、測量準備として雪崩予防柵の設置位置を確定させるため、法面に縦糸をたらす作業中、被災者は法面中腹（勾配60度、高さ20m）で雑草にひっかかった縦糸をほどこうと法面を横移動していたところ、足を滑らせて転落し、下にあったコンプレッサーに激突した。	711	1	30～ 49
2005	10	15 ～ 16	碎石プラント跡地の整地作業において、ドラグ・ショベルを運転走行中、池の部分の軟弱地盤箇所と同ショベルが横転して水没し、被災者が溺れた。	141	2	10～ 29
2005	6	10 ～ 11	沈没した貨物船の撤去作業のため、海中に潜ってアーク溶断により船体を切り離し、海上のクレーンで引き上げる作業中、ガス爆発が発生した。	513	14	1～9
2004	3	21 ～ 22	擁壁側の路盤の手直し作業を急ぎよ行うこととなったため、夜間まで残業をすることになり、暗くなった後、西側から東側へ照らす投光器が1台しかない状況の中で、作業場所間を移動していた時に、擁壁の上から、深さ5.7mの水の入っていない貯水池の底に墜落した。	418	1	1～9

2004	1	11 ～ 12	排水路敷設工事現場において、道路下をドラグ・ショベルで床掘した後、床掘内で土止め材を設置する作業中、床掘した地山が幅6m、高さ1.2mにわたり民家の石積塀（高さ1.6m）とともに崩壊し、倒れ落ちた石積塀と道路中央側の掘削面との間に挟まれた。	711	5	10～ 29
2004	12	13 ～ 14	重さ350kgの杉の木を、チェーンソーで追い口を入れ、人力で押し倒そうとしたところ、受け口方向（東側）に倒れず、南側約10mの場所で、別の木にチェーンソーで受け口を入れていた被災者を直撃した。	712	6	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	岸壁に係留している浮きクレーンの補巻のワイヤロープを交換する作業中、立て置きしていた主巻のフックブロック（重量約1.3 t）が倒れ、下敷きになった。	212	7	10～ 29
2004	8	9 ～ 10	県道の除草作業現場において、ある地点で草を積み終え、次の積込み地点までトラックを移動させていたところ、トラックの荷台に乗っていた被災者が路上に転落した。	221	1	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	法面（のりめん）に、コンクリート製の溝を縦に17.2m設置する工事において、ドラグ・ショベルのアタッチメントをブレーカに変更して、本工事のために作った盛土（高さ7.33m）上で、法面を掘削している際に、一部盛土が崩壊し、盛土からブレーカが転落した。運転手は転落の際に運転席から飛び出したが転落するブレーカのアーム部分の下敷きとなった。	145	1	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	台風でスレート葺き鉄骨造平屋の工場の棟のスレートが破損したため、応急措置として破損部分周辺に足場板を並べてブルーシートを乗せ、木材で挟み、釘止めする作業中、スレートを踏み割り、約8m下の地上に墜落した。	415	1	30～ 49
2004	7	11 ～ 12	堆肥舎新築工事現場において、基礎床掘の整地作業を行っていた被災者が、法面（のりめん）（高さ約3m）の土砂崩壊によって生き埋めとなった。	711	5	1～9
2004	2	7 ～ 8	被災者は、朝のミーティング時に資材置き場へ行った。しばらくして被災者らしき者のうめき声が出たため資材置き場を確認すると、コンクリート床に仰向けに倒れている被災者が発見された。	418	1	30～ 49

2004	5	15 ～ 16	自社駐車場にホイールクレーンを入れるため、駐車場内のトラックを一般道へ出そうとしたが、バッテリーが上がって動かなかった。駐車場から一般道へは、若干下っているなのでこの下り坂を利用してエンジンを掛け、ホイールクレーンでトラックを引っ張ろうと玉掛けワイヤロープをトラックとホイールクレーンの牽引フックに掛けようとしたところ、トラックが動き出し、ホイールクレーンとトラックの前面に挟まれた。	221	17	1～9
2004	7	14 ～ 15	幅約40m、高さ約25mの法面（のりめん）に金属製の網を被せる養生工事現場において、網設置に支障となる木の根株を伐採する作業中墜落した。	711	1	1～9
2004	7	8 ～ 9	ケーブルクレーン設置工事で支柱鉄塔（高さ8m）に上がり、ガイドシーブの台付け角度の調整作業を行っていたところ、高さ約6mの位置から墜落し、さらに地山斜面を約11m転び落ちた。	211	1	50～ 99
2004	6	10 ～ 11	山の中腹にある風化した岩を小割りして取り除く作業において、小割りした際に下の道路に落石することによる危険を防止するため、取り除く予定の岩の下方に防護柵を設置することとした。この防護柵の設置場所を下見中、足を滑らせ岩盤の急斜面を約15m墜落した。	711	1	1～9
2004	10	16 ～ 17	コンバインド型振動ローラを移送するため3tダンプトラックの荷台に道板をかけ、後進で積込中、前輪がすべって脱輪し、運転していた被災者が運転席から1.25m下の道板に墜落、さらに0.75m下の路上に落ちた。	144	1	1～9
2004	10	17 ～ 18	台風の対応のため、自動車で河川の水門等の点検を行ったところ、車ごと川に流された。	719	5	50～ 99
2004	7	14 ～ 15	道路下法面（のりめん）の崩壊復旧工事現場において、被災者は、午前8時から道路脇に設置した植生基材製造・吹付プラントに原材料を供給する作業を行っていたところ、体調不良を訴え、駐車場に停めていた自社トラック内で休息していたが、その後死亡した。	719	90	1～9
		7	軽ワゴン車で走行中、トンネル内でセンターラインを越え、対向車と衝突			

2004	3	～ 8	した。	231	17	1～9
2004	10	9 ～ 10	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に從事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コンクリートで吹付けられた法面（のりめん））ともたれ擁壁の天端との間に挟まれた。	419	5	10～ 29
2004	10	9 ～ 10	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に從事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コンクリートで吹付けられた法面（のりめん））ともたれ擁壁の天端との間に挟まれた。	419	5	10～ 29
2004	5	16 ～ 17	自社の資材置場から水路に土砂が流れることを防止するため、敷地と水路の境界にコンクリートブロックを設置する作業において、ドラグ・ショベル（機体重量5.3t）を用いてブロック（重量約1.5t）1個をつり上げ、左に旋回中、ドラグ・ショベルが転倒し、その下敷きになった。	142	2	1～9
2004	1	14 ～ 15	構内の造船ドック内において、トラクター・ショベルを使用してポンツーン（浮き桟橋）製作中に出たコンクリートガラ（トラックへの積込作業）および当該ドック内のヘドロの除去作業において、トラックにガラを積載後、トラクター・ショベルでバックしたところ、ヘドロの溜まっているピット（縦8m、横6m、深さ約2.2m）に転落した。	141	1	10～ 29
2004	1	0 ～ 1	ローラーにて転圧作業中、ローラーを運転していた被災者が機体に引っ掛かって引きずられ、コンクリートブロック壁とローラーの側面に挟まれた。	144	7	30～ 49
2004	2	11 ～ 12	簡易水道配水管敷設工事現場において、仮置きしていた転石を移動しようと重機（ブレイカー）でつり上げ旋回しようとした際、重機が転倒し下敷きとなった。	145	2	50～ 99
2004	2	8 ～ 9	2tトラックに鉄板を積み込もうとして、ドラグ・ショベルのエンジンを始動したところ、突然アームが回転し、近くでトラックに乗ろうとしていた被災者がアーム先端のバケットとトラックの間に挟まれた。	142	6	1～9

2004	7	11 ～ 12	よう壁ブロックの積み上げ工事において、ドラグ・ショベルを用いバケツ トに生コンクリートを入れ、現場まで走行し型枠内に生コンクリートを流 し込もうと旋回したところ、バランスを崩し重機ごと転落した。	142	1	1～9
2004	2	8 ～ 9	作業開始直前に、既設のスロープを駆け降りようとした被災者がスロープ の端から2.3m下のアスファルトに墜落した。	418	1	10～ 29
2004	9	0 ～ 1	地すべり防止工事において、工事完了後、現場からクローラクレーンを搬 出するため幅約3.5mの町道上を走行中、路肩から約18m下の駐車場に車 両とともに転落し、車外に投げ出されて車両の下敷きになった。	212	17	1～9
2004	9	5 ～ 6	トラックで走行中、対向車（トラック）が誤って車線を越えてきて正面衝 突した。	221	17	1～9
2004	8	0 ～ 1	4tトラックで走行中、交差点で運転操作を誤り、中央分離帯（高さ約 20cm、幅約2m）を乗り越え、反対車線の大型貨物自動車に接触、運転手 が車外に放り出された。	221	17	1～9
2004	3	10 ～ 11	河川巡視業務を終え、横断歩道を自転車で渡ろうとしたところ、走行中の 2 tトラックにはねられた。	221	17	1～9
2004	2	8 ～ 9	高速道路に停車し、養生確認を実施した後、車に乗り込み出発しようとし たところ、後方より普通トラックに衝突され、遮音壁に激突し、その反動 で走行車線側に飛び出し、再度トラックと衝突した。	231	17	1～9
2004	10	17 ～ 18	ドラグ・ショベルを用いて作業をしていた被災者が、作業を終了しようと して、直前まで作業をしていた積み上げられた残土の上（傾斜角約18度） からアームを持ち上げた状態のまま下ろうとした際、バランスを崩したド ラグ・ショベルが傾き、被災者が前方へ放り出され、その上から転倒して きたドラグ・ショベルのヘッドガード部支柱と地面に挟まれた。	142	2	10～ 29
		9	工事現場において、車両積載形トラッククレーンで現場内で不要となった			

2004	6	～ 10	建築資材を2階バルコニーから地上へ荷降したところ、つり上げた荷資材（床用下地ボード、重量約315kg）が荷崩れを起こし地上へ落下し、トラッククレーンの近くにいた被災者に激突した。	212	4	10～ 29
2004	1	～ 15	14 道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用 水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2 15 人が生き埋めになった。	711	5	1～9
2004	1	～ 15	14 道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用 水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2 15 人が生き埋めになった。	711	5	1～9
2004	4	9 ～ 10	道路開設工事現場において、工事の完成検査を受けるための準備作業をし ていたところ、被災者は法面（のりめん）長の測定の準備のために法肩へ 登り、法肩から測定用巻尺を垂らすため、足場確保として安全帯用の親綱 を設置（高さ29m）していた時、墜落した。	711	1	1～9
2004	1	9 ～ 10	民家裏の法面（のりめん）の立木を伐採する作業において、移動式クレー ンでつるしたかごに人が搭乗し、立木を伐採していたところ、かごの吊り 上げに使用していたベルトスリングがフックからはずれ、約10mの高さか ら、かごと墜落した。	372	1	1～9
2004	7	～ 12	お寺の墓地内で墓石を設置する作業において、墓地の斜面にアルミ製の道 11 板（登坂用具）を敷いて、クローラ型の運搬車に重さ約300kgの墓石を積 んで運転者が後ろ向きで進行中（斜度約26.5度）、突然、運搬車の運転操 12 作側のクローラが浮き上がりそのまま後ろ向きに転倒し、運搬車の脇にい た被災者に激突した。	229	6	1～9
2004	3	～ 17	16 農業排水路の整備作業のため、排水路に小型ドラグ・ショベルと不整地運 搬車を入れて水路に堆積した土を運搬中、コンクリート製の橋の下部に不 17 整地運搬車のシートがぶつかって持ち上がり、バーハンドルに挟まれた。	227	3	10～ 29
2004	8	～ 15	14 ダンプカーで国道を走行中、前方で右折するため停車中のトラックに追突 した。	221	17	10～ 29

2004	2	8 ～ 9	建設機材倉庫敷地において、倉庫整理系の被災者がショベルローダーを運転して敷地内の除雪作業中、ショベルローダーが猛烈なスピードでバック走行し、運転席が倉庫内の中2階の梁に激突したため、運転席が押しつぶされ、運転席の天井部分で挟まれた。	225	3	50～ 99
2004	11	13 ～ 14	高速自動車道のインターチェンジ付近において、追越車線を走行していた貨物乗用車が中央分離帯側の溝で脱輪した後、スピンしながら走行車線を走行中の貨物トラックに接触し、本線とインターチェンジとの合流地点で交通誘導をしていた作業者をはねた。	231	17	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	高速自動車道のインターチェンジ付近において、追越車線を走行していた貨物乗用車が中央分離帯側の溝で脱輪した後、スピンしながら走行車線を走行中の貨物トラックに接触し、本線とインターチェンジとの合流地点で交通誘導をしていた作業者をはねた。	231	17	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	高速自動車道のインターチェンジ付近において、追越車線を走行していた貨物乗用車が中央分離帯側の溝で脱輪した後、スピンしながら走行車線を走行中の貨物トラックに接触し、本線とインターチェンジとの合流地点で交通誘導をしていた作業者をはねた。	231	17	10～ 29
2004	7	14 ～ 15	道路拡幅工事現場において、掘削部の床ならし作業を行っていたところ、掘削した法面（のりめん）上部の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	711	5	1～9
2004	2	13 ～ 14	会社倉庫前で車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）を用いて、井戸掘削用の鉄製刃先付金棒（質量2.52t）を地上に下ろす作業中、当該クレーンが転倒し、荷台上にいた被災者が荷とともに地上に投げ出され、つり荷と激突した。	212	6	10～ 29
2004	6	14 ～ 15	林道維持補修工事において、被災者は法面（のりめん）上高さ約8.5mのところにあった倒木を撤去するため、法面に登り、手のこで倒木を切断していたところ、バランスを崩し林道上に転落した。	711	1	1～9
		13	ダム浚渫工事のため、取水口のゲートを開放したまま、ゲートの状況を確認			

2004	11	～	認しようとダム内に潜水した後、他のダイバーにより、水面下7mの取水	418	10	1～9
		14	ゲートに覆い被さるように貼り付いているのが発見された。			
2004	9	～	法面（のりめん）のラス張りをするため法面天端の親綱を取り付けるアン	711	1	1～9
		9	カーの状態を確認していたところ、天端より6.1m下に墜落した。			
2004	7	～	排水路工事現場において、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重	212	7	10～
		9	2.93 t）を用いて荷台に積んでいた鉄板1枚（重さ800kg）を同クレーン			29
			で積み降し作業中、車体が倒れ、クレーンをリモコン操作していた被災者			
			が車体とガードレールの間に挟まれた。			
2004	8	～	林道工事において、チェーンソーを用いて伐採済みの木の枝打ち作業を	712	6	10～
		12	行っていたところ、近くで伐採作業を行っていた同僚の切った杉の木が被			29
			災者の後方より倒れてきて激突した。			
2004	1	～	自社の資材置き場を拡張する工事中、法面（のりめん）（約65度）に面し	418	1	1～9
		12	た手すりを撤去するため車両系建設機械で引き抜いていたところ、車両系			
			建設機械が転倒したため、近くで手元作業中の被災者が、これを避けよう			
			として法面を約5m墜落した。			
2004	11	～	宅地造成工事において、木に登り伐木作業中、当該木の幹を途中で切り落	712	1	10～
		10	とした反動で幹が跳ね上がり、作業地点から振り落とされ、約6.3m下の			29
			切り株に激突後、さらに3.7m下の地面に墜落した。			
2004	2	～	止水壁として使用していたシートパイルの引抜き作業中、シートパイルに	372	4	10～
		15	クランプ（1個）を付け、移動式クレーンで抜き、地上に下ろそうとした			29
			ところ、クランプが外れてシートパイルが落下し、近くにいた被災者に激			
			突した。			
2004	10	～	杭打工事に使用する鋼管ヤットコを加工する為、65 t クローラクレーンを	611	5	50～
		8	使って格納場所からヤットコを取り出す作業中に、玉掛けを行っていた被			99
			災者の背後に積まれていた他のヤットコが突然崩れ、被災者に激突した。			
		10				

2004	8	～ 11	河川敷での除草後、フォークを使用した集草作業中に、川に転落した。	713	10	1～9
2004	12	～ 8	予防治山工事において、ドラグ・ショベルを用いて抜根を2.5 t 貨物自動車に積み込む作業中、被災者が当該貨物自動車を止め、運転席から降りたところ、貨物自動車が急に動き出したことから、それを止めるため、被災者が貨物自動車の荷台に取り付けられた昇降設備をつかんだものの、停止せず、そのまま被災者はバランスを崩し、右後輪にひかれ死亡した。	221	6	30～ 49
2004	9	～ 10	小学校の植木手入れ作業現場において、脚立を用い、飛来落下物用の保護帽を着用して、キンモクセイ（高さ約5.3m）の刈込み作業を行っていたところ、脚立から下方のコンクリート面に墜落した。	371	1	1～9
2004	11	～ 14 15	シートパイルを四方に打ち込み資材置場を作る工事において、強風により、シートパイルを掴んでいた被災者が荷とともに外部足場外に押し出され、建地に掛けていた安全帯のフックが抜け、5.4m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2004	9	～ 11 12	電話管撤去作業中、掘削箇所内部に立ち上がった際、土砂崩壊が発生し生き埋めとなった。	711	5	10～ 29
2004	8	～ 15 16	住宅建築工事の杭工事において、ドラグ・ショベル脇にあったスコップを取るためにかがんでいたところへ、ドラグ・ショベルの操作者がドラグ・ショベルを左旋回させたため、立ち上がった被災者がドラグ・ショベルの後部と隣りあった移動式クレーンの間に挟まれた。	142	7	10～ 29
2004	7	～ 9 10	建物の外溝工事において、ダンプトラックを運転して土砂を現場へ運び入れ、所定の場所へバックで進入していたところ、そこで待機していた被災者が、ダンプトラックと建物の間に挟まれた。	221	7	30～ 49
2004	10	～ 8	工事用道路の坂道を利用してドラグ・ショベル（機体重量6t）を車両積載形トラッククレーン車（最大積載過重4t）に積み込んだ後、車両積載形トラッククレーン車のアウトリガーを戻していたところ、突然、車両積載形トラッククレーンが下り坂を下りはじめ、約12m逸走したところで坂道か	141	6	10～ 29

		9	ら転落、その衝撃で車両積載形トラッククレーンの荷台からドラグ・ショベルがずり落ち被災者に激突した。			
2004	12	9 ～ 10	乗用車で県道を走行中、対向車線にはみ出し、コンクリートミキサー車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2004	9	14 ～ 15	資材置場において、資材の整理中地面に散乱していた角材につまづき転倒した。	522	2	1～9
2004	1	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを用いて、作業道に積もった雪をドラグ・ショベルのクローラで踏み固める作業中、下り勾配（22度）の雪でスリップ、作業道路肩から沢に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きになった。	141	1	10～ 29
2004	2	9 ～ 10	傾斜約3度の工事用道路を移動していたドラグ・ショベルが、方向転換を行おうとして車体を転向させたところ、路面が凍結していたため横滑りを起こして滑走し、道路上に止めていたトラックとドラグ・ショベルの車体との間に挟まれた。	142	7	30～ 49
2004	8	15 ～ 16	朴の木に上り枝切りをしていたところ、幹が反時計回りにねじれ、バランスを崩して高さ約3mの所から墜落した。	712	1	10～ 29
2004	9	10 ～ 11	交差点において、10tトラックとライトバンが出会い頭に衝突し、ライトバンに乗車していた2名が死亡し、トラックの運転手が軽傷を負った。	231	17	30～ 49
2004	9	10 ～ 11	交差点において、10tトラックとライトバンが出会い頭に衝突し、ライトバンに乗車していた2名が死亡し、トラックの運転手が軽傷を負った。	231	17	30～ 49
2004	10	13 ～ 14	ダム取水口（水深約4.9m）に堆積した沈木等の除去作業中、取水口のゲート下部の隙間に吸い込まれて身動きがとれなくなり、その後、取水口から下流に流され溺死した。	713	10	1～9

2004	7	22 ～ 23	建築工事現場において、コンクリートポンプ車の洗浄作業中、車体と左後部アウトリガーとの間に挟まれた。	149	7	10～ 29
2003	12	13 ～ 14	エレベーターの昇降路塔の上部で、校舎の「ひさし」を解体したときの「コンクリートがら」を地上に搬出するためバケツに詰めているときに、昇降路塔と外部足場との隙間（50cm）からピットに墜落（高さ：約13m）した。	418	1	1～9
2003	12	9 ～ 10	顧客先へ向うため乗用車で国道を走行中、見通しの悪いカーブの上り坂でハンドル操作を誤ってセンターラインを超え、対向車線にはみ出して大型トラック（10t）と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2003	12	20 ～ 21	年末の挨拶回りのため3名が乗用車で自動車道を走行中、反対車線にはみ出して走行してきた13tトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2003	12	20 ～ 21	年末の挨拶回りのため3名が乗用車で自動車道を走行中、反対車線にはみ出して走行してきた13tトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2003	12	20 ～ 21	年末の挨拶回りのため3名が乗用車で自動車道を走行中、反対車線にはみ出して走行してきた13tトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2003	12	0 ～ 1	塗装工事に使用する塗料を荷卸して台車を乗せて国道の路肩を歩行中、後方から走行してきた自動車が出し過ぎでコントロールできずにはねられた。	231	17	1～9
2003	12	17 ～ 18	宅地造成工事において、現場の清掃等に従事していた者が道路と宅地造成地の間の用水（幅140cm、深さ120cm）に掛けられていた鉄板の橋から転落した。	417	1	1～9
2003	12	14 ～	砂防ダムの仮設道路整備作業中に、人力により路肩および路床の仕上げを行っていたときに、荒仕上げに使用していた車両系建設機械が後進してき	142	7	10～ 29

		15	て全身をひかれた。			
2003	11	8 ～ 9	道路拡幅工事において、高さ約5mの単管上で防護柵の溶断作業を行っていたところ、鉄板に安全帯のフックを引っ掛けていたところ防護柵の鉄板が倒れて落下し一緒に墜落した。	419	5	1～9
2003	11	15 ～ 16	簡易水道工事で、管を布設するため幅65cmの溝に碎石を入れてタンパー（質量345kg）を前後に動かして均していたときに、タンパーの操作部にある取っ手と背後に停車していたダンプとの間に下腹部をはさまれた。	149	7	10～ 29
2003	11	14 ～ 15	2tトラックから木製の電柱10本をドラグ・ショベルで荷降ろしする作業で、7本目を降ろそうとしたときに、トラック荷台から丸太1本とともに墜落し、下敷きになった。	221	1	1～9
2003	10	14 ～ 15	軽貨物トラックで走行中、交差点内で右折しようとしたときに直進してきた乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
2003	10	11 ～ 12	敷地内の焼却炉で、廃材の焼却をするため廃棄物を一輪車で投入しようとしたときに、焼却ピット端からバランスを崩して転落し焼死した。	416	1	1～9
2003	10	13 ～ 14	配水管布設工事で、配水管（塩ビ、長さ4m）を据付け土を埋めて固定する作業を終了したときに、土砂（高さ2.2m、幅45cm、長さ4.9m）が崩れ落ち、口の高さまで埋まった。	711	5	10～ 29
2003	10	13 ～ 14	国道沿いの法面（のりめん）の落石防護ネット張り工事において、山の斜面（傾斜角約45度）を5人の作業員が一列に並んで歩いて作業個所へ向かっていたところ、4人から少し離れて最後尾を歩いていた者が斜面を約50m転落した。	711	1	1～9
2003	9	9 ～ 10	倉庫の整理等を業務とする者が、倉庫内の床面に倒れている状態で発見された。（近くにはしごがあったので、転落と想定される）	371	1	10～ 29
		10	重さ約300kgの鉄骨1本（角柱状）にビニールシートを巻いてスリング2本			30～

2003	9	～	で玉掛けし、20t移動式クレーンで建物屋上の部品置場に上げようとした	611	4	49
		11	ときに、シートから鉄骨が滑り落ちて下にいた者の頭部を直撃した。			
2003	9	～	道路沿いの法面（のりめん）工事において、現場事務所側（海側）から工	221	17	1～9
		15	事施工場所（山側）に行くため道路を歩行横断中、走行してきた2tトラッ			
			クにはねられた。			
2003	9	～	国道沿いの排水路に堆積した土砂を取り除く作業で、単独でドラグ・ショ	142	7	50～
		11	ベルを運転して暗渠（きょ）（高さ1.47m、幅1.24m）個所に移動して土			99
		12	砂を取り除いていたときに、ドラグ・ショベルと暗渠（きょ）壁との間に			
			はさまれた。			
2003	8	～	道路法面（のりめん）の巨石破砕除去工事において、法面（のりめん）の	711	5	1～9
		14	岩盤部分（巨石）を発破するため削岩機を用いて岩盤部分を削孔する作業			
		15	を行っていたときに、足元の岩盤部分が崩落し、使用していた親綱も切断			
			したため崩壊した岩・土砂とともに墜落した。			
2003	8	～	住宅裏の崖上の雑木伐採において、雑木伐採の途中で休憩のため親綱から	711	1	1～9
		9	安全帯を外したときに、バランスを崩して高さ9.4mの崖から墜落した。			
		10				
2003	8	～	掘削個所でズリ出しを行っていたドラグ・ショベル（0.7m ³ ）が旋回した	142	7	30～
		8	ときに、カウンタウエイト部と掘削個所の手すり単管との間にはさまれ			49
		9	た。			
2003	8	～	林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンク	711	5	10～
		13	リート防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）			29
		～	（勾配約60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法			
		14	面（のりめん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂			
			（崩壊土量約250m ³ ）の生き埋めとなり2名が窒息死した。			
2003	8	～	林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンク	711	5	10～
		13	リート防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）			29
		～	（勾配約60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法			
		14	面（のりめん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂			

			(崩壊土量約250m ³)の生き埋めとなり2名が窒息死した。			
2003	8	7 ～ 8	資材置場で、工事現場へ搬送する資材をトラックに積み込むため、フネ（プラスチックのケース）を持ち上げたところ、そばにあった廃材を入れる箱を支える単管パイプ（長さ2.85m、直径4.5cm）にフネが当たり、単管パイプの中からアシナガバチが飛び出してきて刺された。	719	90	1～9
2003	8	6 ～ 7	ミーティングのため会社1階の打合室に集合し、そこで社長より各作業員の現場先の割り振り・指示等を聞いていたときに、スズメバチに右耳あたりを刺され倒れた。	719	90	10～ 29
2003	8	15 ～ 16	治山復旧工事において、法面（のりめん）で伐採作業を行っていた作業者が所定の休憩時間に法面（のりめん）の平らなところで休憩していたところ、法面（のりめん）の上方で立木が倒れ、それにより生じたと思われる落石が落下してきて左前頭部に当たった。	711	5	1～9
2003	7	13 ～ 14	基礎工事で、H鋼杭の間に横矢板を入れるため約10mの深さのところを掘削していたところ、土砂（約3～4m ³ ）が流出したので土砂等を除去して11mのところまで横矢板の積み直し作業を実施していたときに、土砂（約50m ³ ）が流出してきて生き埋めになった。	711	5	1～9
2003	7	8 ～ 9	橋梁建設に伴う周辺道路等の整備工事において、作業場所に置いてあった搭乗式振動ローラー（質量約3.5t）が作業の妨げになるため移動させていたときに、建設中の橋梁取付道路の路肩からローラーごと約4m下の地面に転落し、ローラーの下敷きになった。	144	1	1～9
2003	7	14 ～ 15	法面（のりめん）の吹き付け作業を他の労働者と交代して15時の休憩を取るために、山の際でロリップと墜落防止用安全帯を外したときに、高さ約30mのところから墜落した。	711	1	10～ 29
2003	7	13 ～ 14	事務所から工場へ向うため乗用車で走行中、町道から県道へ右折したときに後方から来た大型トラックに追突され、前方に停車していた大型トラックとの間にはさまれた。	231	17	10～ 29
		15	デリックでつり上げた3節目の鉄塔（鉄塔1節3m、重さ約200kg）と2節目			

2003	7	～	の鉄塔の玉外しをしたその数分後に鉄塔が崩壊し、鉄塔の2節目にいた者が鉄塔の下敷きになった。	211	5	1～9
2003	7	11 ～ 12	地滑り防止擁（よう）壁築造工事の準備作業として、施工場所上部の斜面（62度）で上部からロープを垂らし、ロリップ式安全帯を使用して落石防止用のモルタルを吹き付けるための金網を張る（ラス張り）作業中に、安全帯がロープから抜けたため約8mの高さの斜面から墜落した。	711	1	10～ 29
2003	7	9 ～ 10	既存のコンクリート壁の補強工事において、コンクリート壁の基礎付近の床掘り作業を行っていたときに、コンクリート壁が崩落し下敷きとなった。	418	5	1～9
2003	7	14 ～ 15	道路改良工事において、測量の邪魔になる雑木・草を草刈り機で刈っていて熱中症により突然倒れた。	715	11	1～9
2003	7	15 ～ 16	積み重ねた高さ1.5mの敷鉄板上の最上部の1枚の敷鉄板に玉掛けする作業で、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様付：2.9t）のバケットをつり上げ位置に合わせるため運転者がアームを伸ばしたときに、バケットのフックから取付けピンを外そうとしていた者がバケットに接触し敷鉄板上から墜落した。	142	1	50～ 99
2003	7	14 ～ 15	市道の側溝改修工事において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.1m ³ ）で既設の側溝（質量0.76t）を撤去するため、バケット背部のフックにワイヤロープを掛けてつり上げ右旋回をしたところ、バランスを崩して横転し、近くで補助作業をしていた者がショベルのアームと地面との間にはさまれた。	142	7	50～ 99
2003	7	8 ～ 9	山林の斜面上（傾斜角40～50度）において、伐倒した雑木をドラグ・ショベルのバケットに付いているフックにワイヤロープを掛けて上まで引き上げ、引き上げた雑木からワイヤロープを取り外す作業中に、斜面の中腹にいた作業者が放置されていた木の切り株（根が付いたもの）がころがり落ちその下敷きになっているのを発見した。	712	5	1～9
			台風で倒れたクスノキの枝を移動式クレーンでつって切るため、地上			

2003	6	0 ～ 1	7.5mの別の枝上で折れた枝に玉掛けをして巻き上げたときに、他の枝等に引っ掛けてしまったので脚でその枝を蹴飛ばしたところ、引っ掛りが外れた枝が激突し、7.5m下の道路（アスファルト）上に墜落した。	712	1	1～9
2003	6	16 ～ 17	自動車道の保全工事において、盛土法面（のりめん）の草刈り作業中に気分が悪くなり木陰で休んでいたが、意識がもうろうとした状態であったので救急車で病院に搬送したが熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2003	6	17 ～ 18	駐車場入口部分の歩道切下げ工事において、午前8時頃から午後5時まで石張り作業を行っていた作業員がトイレ脇に倒れていた。（熱中症）	715	11	10～ 29
2003	6	4 ～ 5	鉄道線路で、保線車両を使用したバラストのつき固め作業中に上り線特急にひかれた。	232	18	10～ 29
2003	6	10 ～ 11	急傾斜地崩壊対策工事において、3名でスコップ等を用いて土砂の搬出作業を行っていたところ、地山が高さ約6m、幅約10mにわたり崩壊し1名が死亡した。	711	5	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	軽自動車で国道を走行中、前方を走行中のダンプ・トラックに追突した。	231	17	10～ 29
2003	5	9 ～ 10	トラックでガス工事現場のガラを処理場まで運搬・投棄して現場にもどる途中、幅員約5mの道路で対向車とすれ違う際に左により過ぎてトラックごと路肩から水路に転落した。	221	17	1～9
2003	5	11 ～ 12	墓石の加工場内で、墓地土止め工事に使用するハンドガイド式の小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.5t）をトラックに積み込むため、トラックに背を向けたままトラック側面に向かってクレーンを後進で走行させていたときに、トラックと小型移動式クレーンとの間に腹部をはさまれた。	212	7	1～9
		13	緊急地すべり対策として施工した水抜き立坑（立坑掘削後に放射状にボーリングを行い地層間の地下水を抜くもの）の施工終了後、流量等の測定等			10～

2003	4	～ 14	のために20mの立坑に入り、測定を終えてはしご道を登っているときに転落した。	417	1	29
2003	4	～ 10	砕石を製造するプラント工場で、車両系建設機械で原石をホッパー内に投入していて、いったん機械を降りて砕石を運搬する貨物自動車の運転手に作業指示を行い、その後、機械まで戻って乗車するときに、機械の乗車口または機械の脇の地山の端で足を滑らせ地山の端から約3.8m下の地面に墜落した。	416	1	10～ 29
2003	4	～ 9	棚足場（長さ4m、幅20cm、高さ1.89m）の解体作業で、緊結してあった鉄線を切って足場板を4枚取り外し、足場板を地面に降ろすため棚足場上を移動していたときに、乗った足場板が天秤状態となったためバランスを崩して転落した。	411	1	1～9
2003	3	～ 10	道路拡幅工事において、法面（のりめん）掘削箇所（幅約25m、高さ約3m）にL字よう壁を取付けるため、基礎コンクリート上で墨だし作業をしていたときに、法面（のりめん）が崩壊し土砂（高さ約3m、幅約3.9m、奥行き90cm、崩壊土量は約9・3）に埋まった。	711	5	10～ 29
2003	3	～ 14	護岸ブロックを積み終えて川底を埋め戻すためにマーキング作業を行っていてときに、川底の水溜まり（長さ103cm×幅220cm、深さ35cm）に転落し水死した。	713	10	10～ 29
2003	3	～ 12	法面（のりめん）復旧工事において、一人で作業していたときに地山が高さ2.3m、幅2mにわたり崩壊し生き埋めになった。	711	5	1～9
2003	3	～ 14	県道沿いにある防雪柵の収納作業で、防雪柵の支柱を固定している2本のボルトのうち1本のボルトを外し2本目の固定ボルトを外したときに、支柱が倒れたため支柱と防雪板との間に腹部をはさまれた	419	5	10～ 29
2003	3	～ 18	トラックで運送先から会社へもどる途中、下りの緩やかな左カーブでセンターラインを超え、反対側道路脇の監視カメラの鉄柱に衝突して横転した。	221	17	30～ 49

2003	3	8 ～ 9	工事現場にドラグ・ショベルを搬入するため、倉庫で4tダンプにアルミ製の道板を掛け積込みをしていたが、真っ直ぐに積込みが出来ないので道板上で少し右に修正したときに、道板が滑り落ちたためドラグ・ショベルとともに転落した。	142	2	10～ 29
2003	3	9 ～ 10	温泉の掘削工事において、高さ15mの鋼製檣の2.9mの位置に設けられた作業台上で既に仮置きされた外径20cm、長さ3m、重さ650kgのドリルカラー（接続管）をウインチで巻上げたときに、ドリルカラーが作業台に設けられたスロープ沿いに落下し、ウインチのワイヤを握っていた者がワイヤの勢いで飛ばされた。	219	1	1～9
2003	3	9 ～ 10	ロードローラーで資材置場から工事現場へ向かう途中、ロードローラーとともに約3.3m下の用水路に転落し、ロードローラーの下敷きになった。	144	17	1～9
2003	3	15 ～ 16	電線の地中化工事で、電線管をコンクリート製変電ボックスの差込口に取付け作業を行っていたところ、車道の雨水溝に接する形で残っていた古い建設物の基礎コンクリート（柱状で質量2.8t）が崩れ落ちてきて直撃した。	418	5	30～ 49
2003	2	11 ～ 12	ボーリング設備の檣（鉄製、檣高さ約12m）の高さ約9.3mの個所の足場板上での作業を終え、足場板上から檣外面に設けられた垂直タラップに移って降りていたときに、約4～5m下の地面に墜落した。	371	1	1～9
2003	2	1 ～ 2	歩道の除雪作業で、歩道ロータリー除雪車の雪を出す伸縮式シュートから出た雪で視界が悪くなったので一旦停止し、エンジンを止めて除雪車から降りたところ、除雪車の前方で誘導していた者が巻き込まれて左足膝上、左手首上より切断、右足大腿骨骨折で倒れていた。	149	7	1～9
2003	2	15 ～ 16	登坂車線と走行車線を規制して、穴や亀裂が入った個所の舗装工事のため「はつり作業」を走行車線上で行っていたところ、ワゴン車が規制区域内に突入してきて、作業員8名と警備員1名をはね1名が死亡した。	231	17	100 ～ 299
		9	河川の魚道工事において、移動式クレーンによるL字溝の撤去運搬作業で、車両に1つ目のL字溝を積み込んで仮置きし、補助者が荷のつり上げに			10～

2003	2	～ 10	使用してしたワイヤロープを外したときに、仮置き状態であった質量約2tのL字溝が倒れたため背後から下半身をはさまれた。	418	5	29
2003	2	9 ～ 10	土砂を積んで側道を走っていたダンプ・トラック（4t）が、信号のない交差点で本線を走っていた乗用車（ワンボックス車）に衝突し、乗用車は田んぼに転落、ダンプ・トラックははずみで本線の街路灯に運転席側から激突し、ダンプ・トラックの運転手が死亡した。	221	17	1～9
2003	2	～ 3	美容院の建築工事において、基礎工事用の杭（コンクリートパイプ、長さ29m、直径30cm、質量1t）を10tトラックから荷卸しするため、杭をトラック荷台上の枕木上を転がしていたところ、杭が激突したためにバランスを崩し、高さ1mの荷台上から転落し、その直後に杭が落下してきて下敷きになった。	529	6	10～ 29
2003	2	17 ～ 18	雨が降っていたため、前日までに工事が終了していた民家の新築基礎工事現場の様子を4tダンプ・トラックで見に行く途中に、対向車の3tトラックと衝突し車外に投げ出された。	221	17	10～ 29
2003	1	16 ～ 17	積載荷重2tの不整地運搬車のエンジンをかけたままその周りで作業をしていたときに、不整地運搬車が動き出して不整地運搬車で胴体をひかれた。	227	7	1～9
2003	1	11 ～ 12	小学校の敷地内にある農園に通じるスロープ（高低差約70cm）を設置するため、2名で手作業による掘削を行っていたところ、崩れてきた土砂で生き埋めとなり1名が死亡した。	711	5	1～9
2003	1	14 ～ 15	高速道路高架橋の床板補修工事で、高所作業車に乗って床板下面のブラスト作業をしていたところ、突然高所作業車のかごが上昇し、かごの手すり と床板下面にはさまれた。	146	7	1～9
2003	1	8 ～ 9	事業場内で、ドラグ・ショベルにより除雪作業中、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	6	10～ 29
			立坑（深さ約33m、直径4.5m）の掘削工事現場で、資材搬入用ケーシン			

2002	7	14 ～ 15	グパイプ（直径1.35m）内を4.9 tのクローラクレーンを使用してライナープレート9枚の荷降ろし作業を行っていたところ、ライナープレートを載せた搬器が吊り具から外れてケーシングパイプの一部とともに落下し、下に居た作業者に激突した。	372	4	1～9
2002	6	8 ～ 9	市民センター資材置場の空地の草刈作業現場で、前日刈った草を収集して車に運ぶ作業に従事していた者が法面でうつ伏せに倒れていたのが発見された。	999	2	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	河川の災害復旧工事において、重機のアタッチメント交換作業に従事していた、作業後に現場内で突然倒れた。	715	90	1～9
2002	10	13 ～ 14	仮設資材置場前の道路上で、2 tトラックの荷台に積んだ荷の上に乗って結束していたロープを外そうとしたときに、荷の上（高さ約2.3m）から道路上に転落した。	221	1	30～ 49
2002	12	13 ～ 14	墓地の石垣築造に伴う残土の搬出作業で、ハンドガイド式運搬機に残土を積み、後進で途中まで走行しそこで方向転換を行ったときに、足を側溝に踏み外して転倒し運転していた運搬機に轢かれた。	417	2	10～ 29
2002	8	17 ～ 18	駐車場整備工場で一輪車を用いて色付ブロックを敷詰めする作業に従事していたが、夕方になって足がもつれるように倒れ込み、まもなく意識不明となった。（熱中症）	715	11	1～9
2002	12	0 ～ 1	地下2.5mの位置に水道管（長さ6m、径1m）を埋設し、溶接が終って管末に止水栓を取り付けていたときに、土止めをしていなかった掘削溝の末端部が崩壊して身体の大部分が土砂に埋まった。	711	5	1～9
2002	10	17 ～ 18	工場の工業用水管布設工事において、深さ約2.8mの溝内に布設した送水管の写真を撮って掘削構から出ようとしたときに、側壁が幅約6.7m、高さ約2.5mに亘って崩壊し、2名のうち1名が全身生き埋めとなった。	711	5	1～9
2002	12	14	雨水の浸透槽設置工事において、バックホーで掘削した部分（深さ約3 m）に土止め支保工を設置するため、内部に入って作業中に地山が崩壊	711	5	1～9

		15	(約2.5?) し生き埋めとなった。			
2002	11	9 ～ 10	浄水場配水池改良工事において、換気塔の点検用タラップの踊場（コンクリート製、3m×1.2m、厚さ20cm、推定質量1.48t）の型枠下部パイプサポートを撤去したところ、踊場が突然落下し踊場と足場板との間に胸部を挟まれた。	418	5	100 ～ 299
2002	12	16 ～ 17	屋上の鉄筋ヤードにおいて、つり上げ荷重2.8tのクレーンを使用して鉄筋の束（1束60本、長さ約9m、重さ約2t）を所定のラックの支柱に寄せて荷卸したときに、ラックの支柱（H鋼）2本の根元の溶接箇所が破断して傾いたため、支柱と隣の支柱との間に挟まれた。	419	7	10～ 29
2002	12	11 ～ 12	営業活動を終え乗用車で国道を走行中、緩い左カーブのアイスバーン状態の路面でスピンし、左回転しながら対向車線にはみ出して対向の4tトラックと衝突した。	231	17	30～ 49
2002	12	9 ～ 10	自社の門柱を移動させるため基礎付近を掘削していたところ、基礎の底にコンクリートの塊が付着したのでバールで塊を削ったときに、門柱が倒れ直撃された。	418	5	10～ 29
2002	11	8 ～ 9	急傾斜地の崩壊対策工事において、傾斜地の立木（高さ約15m、重さ約1t）をチェーンソーをで伐倒したところ、倒れた木が斜面の下方に転がったため、傍にいた者が木の元口と地面との間に挟まれた。	522	7	10～ 29
2002	12	0 ～ 1	既設擁壁に排水管を貫通する作業を終えてワゴン車で国道を走行中、坂道が続く直線道路で対向車線にはみだして貨物自動車と正面衝突した。	231	17	1～9
2002	12	9 ～ 10	宅地造成地において、トラック積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）で法面（全長約24m）に緑化ブロック（質量725kg）を積み上げる作業中、ブロック3段目が終わり4段目（高さ約3m）を全長の半分まで積み上げたときに、裏込めをしていなかったためブロックの自重で3、4段目が倒壊し、作業中の4名がブロックの下敷きになり1名が死亡した。	418	5	1～9
		18	資材置き場で、ダンプトラックのパンクを修理してタイヤの組立てを行			100

2002	11	19	い、コンプレッサーで空気を充填してダンプトラックにタイヤを運んでいるときに、タイヤが破裂し頭部に激突した。	312	4	～ 299
2002	11	16 17	土木工事を終えて元請現場責任者1名を含む5名が下山を開始したが、下山途中に1名の具合が悪くなったので下山をいったん中断し様子を見ていたが死亡したものと推定し、その者を置いて下山を再開した。しかし、腰までの積雪のため身動きが取れなくなり、翌日にヘリコプターで救助されるまで遭難状態となった。	715	11	10～ 29
2002	10	14 15	自動車道の保全工事において、規制区域内で行っている樹木剪定、除草、排水溝・集水マス清掃等の安全確保のために旗振りをしていた者をバキューム車が巻き込んだ。	221	7	30～ 49
2002	11	9 10	鋼矢板を引き抜く作業で、バイブロハンマーを鋼矢板に差し込み油圧チャックを締めずにバイブロハンマーの起動スイッチを入れたため、バイブロハンマーが起振してクローラークレーンのフックから外れて作業者の上に倒れた。	143	4	1～9
2002	10	11 12	擁壁新設場所周辺の伐木作業が終了し、斜面直下の道路上においてチェーンソーで玉切を行っていたところ、山の斜面上に引っかかった状態となっていた伐倒木が滑動してきて頭部に落下した。	712	4	1～9
2002	10	11 12	新しいU字溝の敷設（総延長約1000m）工事において、掘削した箇所（深さ約70cm）に木の根が見えたので切断していたときに、擁壁が倒壊して腹部を挟まれた。	418	5	30～ 49
2002	11	9 10	深さ4.6mのところへ据え付けた雨水排水用のヒューム管（直径1.65m）の型枠材（長さ約4m）を地上に上げるため、土止め支保工の切梁上で作業をしていたときに深さ約3.5mの掘削部に墜落した。	412	1	10～ 29
2002	10	11 12	法面保護のモルタル吹付け作業終了後の出来高管理のための法長の測定作業で、高さ約31.5mの法肩上で巻尺を持って各側点における法長を計測していて、次の計測点に行くため隣の親綱に向って移動中に23.5m下に墜落しさらに8m下に墜落した。	711	1	10～ 29

2002	9	8 ～ 9	現場で使用する覆工板をドラグショベルで運搬用のトラッククレーン荷台に積み込む作業中、バケットに取付けてあった玉掛け用具のフックを覆工板の穴に引っ掛けて旋回したところ、フックから覆工板が外れて付近にいた者の上に落下した。	379	4	1～9
2002	10	17 ～ 18	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するにあたり、ドラグショベルで床掘りし同僚はブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	711	5	1～9
2002	12	17 ～ 18	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するため、ドラグショベルで床掘りし同僚がブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	711	5	10～ 29
2002	10	7 ～ 8	ワゴン車で市道を走行中、通勤途中の乗用車と出会い頭に衝突しワゴン車の助手席に乗っていた者が死亡した。	231	17	1～9
2002	10	14 ～ 15	根株付の材1本（質量約1 t）を県道脇の山林に降ろすため、積載型トラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げ作業中、トラッククレーンが山林側に転倒したためクレーンとガードレールとの間に挟まれた。	212	6	1～9
2002	8	11 ～ 12	林道において除草集積した雑草を2 t ダンプトラックに人力で積み込み作業中に、荷台上から約3m下の路肩に転落した。	221	1	10～ 29
2002	9	11 ～ 12	建設会社の資材置場の水はけが悪いので、3mほど掘削して地盤の改良（表土返し）作業中に、ドラグ・ショベルが滑って掘削した穴に転落し運転席に挟まれた。	142	1	10～ 29
2002	9	14 ～ 15	国道の道路脇で、道路標識設置のため手持ち式電動ブレーカーで穴掘り作業を行っていたときワゴン車にはねられた。	231	17	1～9

2002	9	9	残土処分場で、敷地境界線部分に土手（盛土）を形成するため1人でブルドーザーを運転（前後進）していたが、2度目の後進途中で何らかの原因によりブルドーザーの排土板に激突された。	141	6	10～29
2002	9	0	ゴルフ場造成工事において、乗用式芝刈り機（四輪駆動で燃料は軽油）でコース内の芝刈り作業を行っていたところ、燃料切れでエンジンが停止したので下り勾配となっているカート用通路を惰性で走行していて、ハンドル操作を誤り路外へ逸脱して芝刈り機から投げ出され芝刈り機の下敷きになった。	169	1	10～29
2002	9	11	ダム本堤下流部の垂直壁リフトの型枠組立て作業で、足場上（キャットウォーク）で型枠固めのためチェーンを張っていたときに手が滑り、その反動で足場と手すりの間から2m下の地面に墜落した。	411	1	10～29
2002	8	9	小規模水道施設工事において、ヒューム管の設置箇所に敷き詰める栗石を不整地運搬車に積んで作業道（平均こう配20度）を後進で下っていたときに、路肩より約3m下へ墜落し不整地運搬車の下敷きになった。	227	1	10～29
2002	8	15	庭園築造工事において、石（縦130cm、横110cm、厚さ50cm）をドラグショベルで移動させるため、事業者がドラグショベルを運転し2人で石のワイヤーロープ掛け作業を行っていたところ、ドラグショベルが左旋回してきたためカウンターウェイトと石との間に体を挟まれた。	142	7	1～9
2002	4	16	農業用水管の設置工事において、管を敷設するため掘削された溝（幅40cm、長さ10m、深さ約3m）の中に入って作業を行っていたとき、地山の一部（高さ1.1m、幅1.7m）と地山の上に置かれた掘削土が崩壊し生き埋めになった。	711	5	100～299
2002	7	11	落石防止ネットを張るための金属パイプを肩に担いで110mほど運搬する作業中、作業開始より体調が悪く途中休みながら作業していたので同僚が涼しいところで休むように指示をして現場を離れた直後にうつ伏せで倒れて死亡した。（熱中症）	715	11	1～9
2002	8	10	山林敷地の測量整備として山林斜面を草刈機で下草刈り作業中、高さ	711	1	10～

		11	3.3mの斜面の端から用水路に墜落し側溝で頭を強打した。			29
2002	8	8 ～ 9	商店の土間に砂利石を敷く作業が終了し、門扉（高さ1.8m、長さ9.4m、重さ約200kg）を閉めたときに門扉が倒れ、地面と門扉との間に挟まれた。	419	5	1～9
2002	8	14 ～ 15	川堤防において、肩掛けの刈り払い機による除草作業中に熱射病で倒れ死亡した。	715	11	10～ 29
2002	6	0 ～ 1	自動車道の法面の草刈作業終了後、部材を回収するため3.5tトラックで走行車線から非常駐車帯へ進入しようとしていたときに後続のトラックに追突され、非常駐車帯で待機していた者がトラックと法面との間に挟まれた。	221	17	50～ 99
2002	7	11 ～ 12	残土の整地及び周囲の草刈り作業で、整地のためにドラグショベルを後退させたときに刈った草の取りまとめ作業をしていた者を轢いた。	142	7	10～ 29
2002	7	10 ～ 11	同僚6名と軌道脇法面の除草後の草の集積作業に取り組むことになっていたところ、橋下の公道にうつ伏せになって倒れていた。（状況、原因不明）	999	99	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	霊園内の草刈り現場において刈った草を集めて一輪車で運んだのち、草を手でかかえて幅約2mの通路端から勾配約30度の斜面に投げ置いていたときに、斜面から約11m転落し、草の運搬用に停めてあった2tトラックに激突した。	711	1	1～9
2002	7	15 ～ 16	歩道舗装用ブロックを載せたパレットを車両積載型トラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げて荷台に積み込む作業を2名で行っていたときに、他の場所のパレットを積むため車両積載型トラッククレーンが後進してきたため、後方にいた者が右後輪で腹部を轢かれた。	212	7	10～ 29
		18	発電所取水口のゲートに引っ掛かった流木（長さ約10m）を撤去するため、流木にワイヤーを掛けて引張ったところ流木の影響で足場としていた			10～

2002	7	7 ～ 19	場所が川水により崩れたため、バランスをくずして川に転倒し約60m流された。	713	10	29
2002	7	14 ～ 15	除草作業で道路に散らばった草を収集していたときに、後方より走行してきた4 t 冷凍車に激突された。	221	17	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	落石対策のため立木に親綱を固定しロリップ付き安全帯で斜面の草刈り作業中、落石（約50cm×40cm×25cm、重さ56kg）が右側頭部に当たった。	711	4	30～ 49
2002	7	16 ～ 17	県道改良工事において、盛土敷均し後の転圧のため振動ローラーを作業場所まで移動していたところ、路肩をオーバーし法面部分（約20度）で横転したのでローラーから飛び降りたときに、法面に停止していたドラグショベルのカウンタウェイトとローラーの運転席の手すりとの間に胸部を挟まれた。	144	2	30～ 49
2002	7	10 ～ 11	台風で崩落土砂が堆積した町道の復旧作業において、崩壊箇所の上部にあった立木に親綱を取り付けて法面の浮石を除去し、町道管理者の確認検査に対応するため崩壊箇所の脇に安全帯を装着したまま待機していたところ、上方約20mほどの法面が崩壊して親綱を取り付けていた立木もろとも町道の約50m下まで流された。	711	5	100 ～ 299
2002	6	10 ～ 11	資材倉庫で、携帯用丸鋸で丁張り杭（角材、縦5cm×横5cm×長さ100cm）の先端を尖らせるために切断していて、右足大腿部を切傷した。	131	8	50～ 99
2002	7	15 ～ 16	建物解体工事において、トラック荷台上の束ねてある廃材のベルトを外すため解体用機械のアタッチメント先端にそのベルトを掛け引っ張ったときに、アタッチメント先端がトラック荷台上にいた者に激突した。	169	6	1～9
2002	5	15 ～ 16	取引先で集金し自家用車で帰社途中、うどん店の駐車場から出てきた2tトラックと衝突した。	221	17	1～9

2002	6	16 ～ 17	土捨て場に運び込まれた土砂の均し作業で、途中でブル・ドーザーが動かなくなったため運転席左側の覆帯に乗り運転席前方のエンジン部分を点検していたときに、突然ブル・ドーザーが動き出したためキャタピラに巻き込まれた。	141	7	1～9
2002	4	0 ～ 1	工事現場の工事用仮設道路上（盛土）で昼休憩中、ゴザを敷いて寝ていた者が造成工事場所までバックで移動していた2tトラックに轢かれた。	221	18	10～ 29
2002	4	13 ～ 14	2 t ダンプを運転して畑を作るための土石（約700kg）を運搬中、農道の急カーブで道路に隣接した段差（約40cm）に片方のタイヤが乗り上げたためにダンプが傾いた状態で停車し、ダンプのドアを開けて運転席から外に出ようとしたときにダンプが横転し下敷きとなった。	221	17	1～9
2002	5	10 ～ 11	林道開設工事現場における伐木作業中、ロープで介錯していた伐倒した立木（約12m）の下敷きになった。	712	6	30～ 49
2002	1	14 ～ 15	工事で使用した資材をケーブルクレーンで吊り上げ移動中、ウインチ運転者に合図をしていた者が40m下の林道に転落した。	711	1	10～ 29
2002	2	6 ～ 7	下水道工事の竣工検査の打合せのため社有車を運転して走行中、反対車線を走っていた自動車と正面衝突した。	231	17	30～ 49
2002	8	16 ～ 17	工場内の「防災池緊急拡張工事」の防災池内に設けられた取付道路をドラグショベルで走行していたところ、防災池の南斜面が崩壊したためドラグショベルが崩壊した土砂に押し流されて約10m下の防災池に転落し、崩壊した土砂に押しつぶされた。	711	5	1～9
2002	4	15 ～ 16	農家の共有道をコンクリートで補修する作業中、コンクリートを積んだ最大積載量が1.2tの不整地運搬車で共有道から進入路（幅1.8m）へ進入した直後に、進入路から1.4m下の田へ転落しその下敷きになった。	227	1	30～ 49

2002	3	13 ～ 14	交通安全施設（標識、ガードレール、カーブミラー）の新設・補修工事で出た廃材を積載型トラッククレーンへ積み込む作業中、移動するために積載型トラッククレーンを動かし始めたとき左前方車輪に接触した。	221	7	30～ 49
2002	3	11 ～ 12	民有地の外構工事において、敷設してあった鉄板（1540×3060×19mm、質量710kg）の中心に横吊り用クランプを取付け、他端のワイヤーロープをドラグショベルのバケットに溶接しフックに掛けて一本吊りしていたところ、鉄板がクランプから外れて落下し鉄板の下敷きとなった。	372	4	1～9
2002	3	6 ～ 7	建設予定現場の下見のため自動二輪車で国道を走行中、交差点で右折してきたワゴン車と衝突した。	231	17	1～9
2002	3	14 ～ 15	トラッククレーンの荷台から鉄板（質量約800kg）を降ろすため、フック付きワイヤーロープで玉掛した鉄板をドラッグショベルで吊り、既に積んでいた鉄板（12枚）の上に降ろして積み重ねようとしたところ、鉄板に掛けていたフックが外れ付近で荷降ろしの合図を行っていた者が鉄板の下敷きとなった。	372	4	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	スクリーン設置工事において、排水の異物分別用アルミ製枠（スクリーン、約1.1t）の設置のため、クレーンで吊り上げて既設の溝に嵌る作業中、上手く嵌らないので玉掛けフックを付け替えたときにスクリーンが溝から滑り激突された。	212	6	1～9
2002	3	11 ～ 12	配電線の支障木の伐倒作業中、立木の幹が途中で裂けながら倒れて跳ね上がり顎部分に当たった。	712	6	1～9
2002	3	10 ～ 11	県道の舗装修繕工事において、工事用写真を撮影していたところ、背後から後進してきたドラグ・ショベル（機体質量2865kg）のクローラに腰・腹部を轢かれた。	142	7	10～ 29
		11	畑地の灌漑用水管（塩ビ管）の布設工事において、深さ1.5m、床幅55cm、長さ20mの掘削溝の側面が長さ1.5m、地表からの深さ70cm、幅			30～

2002	2	～ 12	40cmに亘り崩壊し、掘削溝内で作業していた作業員のうち1名が崩壊した土砂と反対側の法面との間に挟まれた。	711	5	49
2002	2	～ 13 14	高所作業車2台でケーブルテレビの架線工事中、後方の高所作業車がアウトリガーを出したまま前方の高所作業車の前へ出ようと追い抜いた時に、前方の高所作業車の右後方で作業を行っていた者にアウトリガーが激突し、転倒したところへ後方の高所作業車の左後輪で頭部を轢いた。	146	17	1～9
2002	2	～ 16 17	建設工事現場から社有車で会社に戻る途中の市道で追突事故を起こしたので、同乗していた者が後続車に事故を知らせるために道路に立っていたところ、後から走行して来たトラックがスリップしたため社有車とトラックとの間に挟まれた。	221	17	1～9
2002	2	～ 11 12	農業用排水路築造工事において、昼休みで施工箇所から現場事務所兼休憩所へ戻るため、不整地運搬車（最大積載量4t）の荷台の最後部に立って乗車して移動していたところ、左カーブを曲がった時に高さ1.12mの荷台上から地面へ転落した。	227	1	1～9
2002	2	～ 12 13	都市ガスの供給管の撤去作業で、供給管の既設穴より2種類の袋を入れて空気を充填して膨張させて都市ガスを遮断し、本管と供給管のつなぎ目のパッキン及び供給管をはずしたところ、都市ガスが本管より流出し窒息死した。	513	12	10～ 29
2002	2	～ 12 13	都市ガスの供給管の撤去作業で、供給管の既設穴より2種類の袋を入れて空気を充填して膨張させて都市ガスを遮断し、本管と供給管のつなぎ目のパッキン及び供給管をはずしたところ、都市ガスが本管より流出し窒息死した。	513	12	10～ 29
2002	1	～ 15 16	公園整備工事において、クレーン機能（最大吊上荷重1.7 t）付ドラグショベルにより自然石階段の施工作业中、石（71×61×50cm）が回転したときに玉掛者に激突した。	212	6	30～ 49
		10	ガス管理設工事現場において、埋設管内の窒素ガスを抜くために帽甲（ぼうこう）と呼ばれる閉止蓋（金属製）と押し輪（帽甲を固定させる金具）			

2002	1	～	とのボルト接合部をトルクレンチとモンキースパナを使って緩めていると	418	4	1～9
		11	きに、ガス管内に封入されていた窒素ガスの圧力により帽甲と押し輪（約25kg）がガス管より外れ右脇腹部に当たった。			
2002	1	～	道路工事用の標識（約300kg）をフォークリフトで2 tトラックの荷台に	222	7	100
		9	載せる作業中、標識の荷重が偏るので3名で支えていたところ、標識が倒れ2名は逃げたが1名が標識の下敷きとなった。			～ 299
2002	1	～	枕木交換工事現場で列車の待避中、工事責任者が待避位置を離れ列車と接	232	18	100
		12	触した。			～ 299
2002	1	～	吐水槽躯体工事の外部足場解体前の養生用屋根撤去作業で、手すりとクリ	419	1	1～9
		9	アシートを約半分まで撤去を終えたときに、クリアシート撤去後の開口部（幅110cm）から墜落し、11.8m下の吐水槽底のコンクリート面に激突した。			
2002	1	～	軽トラックで会社の土場へ向かうため堤防道路を走行中、緩い左カーブの	221	17	10～
		7	ところでブレーキを掛けたときに、軽トラックが横滑りして対向の乗用車と正面衝突した。			29
2001	7	～	動力式擁壁の埋め戻し作業を行っていて午前中の作業が終わった頃に体の	715	11	1～9
		12	不調を訴え、トラック内でクーラーにあたりながら昼食休憩を採ったのち帰宅したが室内で死亡した。			
2001	12	～	トラック(2. 9t吊りのクレーン付)をダムサイトの駐車場からトンネル脇	221	17	1～9
		9	の駐車場にバックで走行していたときに、その経路上の道端でトラック荷台から法面工事で使用する用具を荷降ろししていた者がひかれた。			
2001	12	～	農地区画整理工事において、不整地運搬車(最大積載荷重2. 5t)に石材を	227	1	1～9
		17	積載して現場内の運搬作業を行っていたときに、不整地運搬車ごと約17mの下の下崖下に転落し、下敷きになった。			
2001	12	～	工事現場へ向かうため同僚の運転するワゴン車に同乗して走行中、ブレー	231	17	30～
			キをかけたときに路面が凍結していたためスリップし、対向の大型ダンプ			49

		8	カーと正面衝突した。			
2001	8	8 ～ 9	胸高直径21cm、高さ約6mの庭木の枝剪定中に、墜落した。	712	1	1～9
2001	11	20 ～ 21	工事が終了したので片付けと要員の引き上げを行って車で自動車道を走行中、中央分離帯に衝突して横転した。	231	17	30～ 49
2001	9	13 ～ 14	資材置場において、杭打機のリーダ(長さ6m、重量2t)の接合部のボルトを外し3mものに分解するため、杭打機でリーダを1mの高さに吊り上げて下端のボルトを外していたところ、杭打機のエンジンを切った状態で吊り上げていたため油圧が減圧になり、吊り上げたリーダが落下し、直撃した。	143	4	1～9
2001	12	9 ～ 10	防火水槽設置工事において、道路上に移動式クレーン(45t吊)を設置し防火水槽の部材(約9t)を高さ約7mまで吊り上げ左方向に旋回したところ、右側後部のアウトリガー設置箇所の路肩が崩壊したため移動式クレーンが転倒し、ジブの下敷きになった。	212	6	100 ～ 299
2001	12	9 ～ 10	深さ1.2mの用水路内にたまったヘドロを小型ドラグショベル(機体質量980kg)で除去作業中に、用水路に掛けられたコンクリート製の橋とドラグショベルの運転席との間に挟まれた。	142	7	10～ 29
2001	12	8 ～ 9	堤防災害復旧工事において、作業場内に真砂土を運搬する10tダンプトラックが後進してきたときに、ダンプトラック左後方で誘導していた者をひいた。	221	6	100 ～ 299
2001	12	15 ～ 16	直径40cm、長さ410cm、重さ約300kgの丸太を積載型移動式クレーンから人力で降すため、荷台から地上へ道板を置いて丸太を土場へ落としたり、荷台上にいた者が丸太に胸部を強打した。	522	6	50～ 99
2001	12	6	国道に積雪があったため凍結防止剤散布作業を行っていたときに、2tダンプの後に取付けた砂巻き用の機械の中に凍結防止剤を入れるため荷台に	221	7	1～9

		7	載っていた者が徐行していたダンプの左後輪にひかれた。			
2001	12	7 ～ 8	事業場前の道路上で駐車しておいた2tトラックの運転席に乗ろうとしたところ、後方から大型ダンプが走行してきたので運転席のドアの前で大型ダンプをやり過ごそうとしていたところ、大型ダンプが交差点を右折する際にトラックに当たったため、ドアとの間に挟まれた。	221	17	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	道路工事において、ドラグショベルとブルドーザーで砕石を敷き均しているときに、ドラグショベルの後方で作業をしていた者をドラグショベルのクローラーでひいた。	142	7	10～ 29
2001	12	0 ～ 1	本社から営業所へ書類を届けて戻るため車で走行中、路面がアイスバーン状態のためスリップして一時停止線を越え、走行していた4tトラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	建屋の外部通路を移動中に約15m下の地面に墜落した。	418	1	30～ 49
2001	12	7 ～ 8	ワゴン車で建設工事現場へ向け4名を乗せて走行中、緩やかな右カーブでアイスバーンのためスリップして対向車線にはみ出し、対向の普通トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2001	12	7 ～ 8	ワゴン車で建設工事現場へ向け4名を乗せて走行中、緩やかな右カーブでアイスバーンのためスリップして対向車線にはみ出し、対向の普通トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2001	10	10 ～ 11	0. 02クラスのドラグショベルで共同溝内底盤の荒仕上げ作業中に、走行レバーに触れたためドラグショベルが切梁の下を通過し、背中側から押される形で切梁とドラグショベルの走行レバー及び前側のガードとの間に挟まれた。	141	7	10～ 29
2001	10	16 ～ 17	法面の緑化工事において、当日の作業が終了し打合せを行うため集合したところ、1人が来ていなかったため捜したところ、擁壁(高さ約5. 2m)の下に倒れているのを発見した。	418	1	10～ 29

2001	11	11 ～ 12	岸壁に係留中の浮きクレーンの台船の点検作業のため船内に入ったときに意識を失って倒れた。	714	12	30～ 49
2001	10	1 ～ 2	車で現場パトロールのため走行中、大雨で見通しが悪いため前で発生していた追突事故の発見が遅れ、急ハンドルで切ったとき歩道橋の橋脚に激突した。	231	17	10～ 29
2001	11	10 ～ 11	労働者18名で国道(片側2車線)の中央分離帯の草刈作業を行っていたところ、作業現場に突入してきた乗用車に作業員4名が激突された。	231	17	10～ 29
2001	11	0 ～ 1	ガス管2本を埋設するため、掘削深さ1.4mのところではガス管の接合部の調整作業をしていたところ、掘削箇所と並行して建っていたコンクリートブロック塀(1.5m×3.6m)が倒れ、掘削箇所のアスファルト部と塀との間に頭部をはさまれた。	419	5	10～ 29
2001	11	16 ～ 17	駐車場の舗装工事において、舗装区画外にこぼれたアスファルト合材をダンプトラックに積み込む作業中に、タイヤローラーが減速しながら後退してきたので退避しようとしたときにタイヤローラーが急加速したため逃げ切れずタイヤローラーにひかれた。	144	7	30～ 49
2001	8	11 ～ 12	3tダンプで掘削したアスファルトガラを11.5km離れた仮置場に運搬し、その場所にあったハンドガイドローラー、ランマーを積んで現場に戻る途中、見通しの良いS字カーブで対向の4tトラックがセンターラインを超えてきたため正面衝突した。	221	17	1～9
2001	8	10 ～ 11	グラウンドの補修工事で、枯れ草を灯油式バーナーで焼却作業中に衣服に引火し火傷を負った。	363	11	10～ 29
2001	10	13 ～ 14	林道の改良工事において、ダンプトラックが林道上の工事現場とは別の箇所約20m下に墜落した。	221	17	30～ 49

2001	10	17 ～ 18	法面の保護工事において、法面から道路に落ちた残土、岩石等をトラクター・ショベルで集積、運搬しているときに、道路左側の法肩から約5m下にトラクター・ショベルごと転落し、下敷きになった。	141	1	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	ワゴン車で工事現場に到着したが、当日使用する電動ドリルを忘れていたので自宅に戻り、再度現場に向かう途中、緩やかな左カーブで運転操作を誤って左手の欄干に激突した。	231	17	30～ 49
2001	10	11 ～ 12	杉(長さ17m)の伐倒作業中に、伐倒方向を誤り他の伐倒木の枝払いをしていた者の方向へ倒れたため、被災者に杉の木に落下した。	712	6	10～ 29
2001	10	15 ～ 16	トンネル坑口前の道路保護用仮設覆工の解体作業の前作業として覆工上面に敷並べてあった緩衝材のEPSブロック(発泡スチロール重さ20kg/個)を撤去する作業をしていたときに、覆工と落石防護柵の隙間(約50cm)から約5.3m墜落し、頭部を道路面に強打した。	418	1	50～ 99
2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	711	5	10～ 29
2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	711	5	10～ 29
2001	10	10 ～ 11	林道沿いの法面へのコンクリート吹き付け工事において、法面に親綱となる繊維ロープ(4本)の設置作業中に1本が岩盤に掛かってしまったので、岩盤に掛かったロープにロリップ式の安全帯を取り付けて降り、ロープの掛かりを直したのち法面の途中から約27m下の林道に墜落した。	711	1	1～9
2001	8	10 ～	ドラグショベル(機体質量1.5t)で果樹園の鳥獣害防止柵の扉門柱(幅約2m)基礎ブロック埋設のため法尻部分を掘削していたところ、ショベルのキャタピラがアスファルト部から未舗装の部分にかかり、自重により沈み	142	1	10～

		11	込んで転倒し、ショベルとともに法面下方(約1m)に転落し下敷きになった。			29
2001	7	14 ～ 15	国道を走行中のライトバンが道路脇に停車していた軽トラックに追突し、その弾みで動いた軽トラックが除草作業の状況確認のため軽トラックの前面を横切ろうとした者に激突した。	231	17	10～ 29
2001	9	12 ～ 13	モーターカーにバラストを積載した運搬車2輦を連結しモーターカーで後押ししてバラストを敷設する作業を行っていて、鉄橋上にさしかかったところで先頭の運搬車がバランスを崩し約6m下の河川に乗っていた3名とともに墜落した。	229	1	10～ 29
2001	9	12 ～ 13	モーターカーにバラストを積載した運搬車2輦を連結しモーターカーで後押ししてバラストを敷設する作業を行っていて、鉄橋上にさしかかったところで先頭の運搬車がバランスを崩し約6m下の河川に乗っていた3名とともに墜落した。	229	1	1～9
2001	9	11 ～ 12	排水路用ヒューム管埋設のため、建設用掘削機械で垂直掘りして床均し、均しコンクリート打設のため作業員3名が穴の中に入ったところ、粘土質の地盤が垂直方向に剥がれる形で崩壊し、反対側の掘削側面との間に挟まれた。	711	5	1～9
2001	8	21 ～ 22	光ファイバー埋設工事のため国道の車線規制を行う準備として体感マットを敷いていたところ、乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2001	8	15 ～ 16	残土集積現場でブルドーザ(機体質量約8t)を運転していて高さ約4mの崖から転落した。	141	1	1～9
2001	8	6 ～ 7	同僚が運転するワゴン車で工事現場に向けて走行中、道路に張り出していた松の木にワゴン車の前方左側が衝突したため助手席に乗っていて死亡した。	231	17	50～ 99
			産業廃棄物処理場において、排水のためのパイプを土中に埋める作業に用			

2001	8	15 ～ 16	いる水準器が使用できるかどうかフォークリフトの運転者に聞きに行き、 帰るときにフォークリフトを前進させたためフォークリフトの左側前輪で ひかれた。	222	7	10～ 29
2001	8	15 ～ 16	杭打工事において、クローラークレーン(吊上げ荷重50t)の主巻フックに 接続されている天秤にベッセルを装着するために天秤から玉掛けワイヤー を外し主巻フックを自由降下したときに補巻フックに取付けられている キャップと接触したため、天秤が主巻フックから脱落し真下で作業を行っ ていた者の頭部を直撃した。	212	4	30～ 49
2001	8	9 ～ 10	採石場の道路取り付けのためドラグ・ショベルで地山を掘削中に、路肩が 崩壊し約40m下の谷へドラグ・ショベルとともに落下した。	711	1	10～ 29
2001	8	9 ～ 10	高校のグラウンドにおいて体育祭用の応援席スタンドの組立中、トラス材(1 本約100kg)数本が倒れその下敷きになった。	419	5	1～9
2001	7	16 ～ 17	河川に籠マットを敷設する工事において、当日の作業が終了したので河床 から2mほど掘削した法面付近で排水ポンプの吸入口周辺の掃除を行って いたところ、突然幅4m、高さ4m、厚さ0.5mに亘り法面の軟岩部分が崩 落し、腰部分まで埋った。	711	5	1～9
2001	5	9 ～ 10	4tトラックで資材置場に「土」を運ぶ途中、県道の下り急カーブで曲がり きれずに進行方向右側の斜面壁に衝突し、運転席側を下にして横転しト ラックと斜面壁との間に挟まれた。	221	17	1～9
2001	8	10 ～ 11	市道雨水幹線工事において、市道上に仮置きされていた自由勾配側溝(コ ンクリート製たて2m、横72cm、高さ96cm)の継ぎ目部分の凸部をグライ ンダーで研磨していたときに、後退してきた2tダンプトラックと自由勾配 側溝との間にはさまれた。	221	17	10～ 29
		11	擁壁の上部斜面で草刈作業中に気分が悪くなり手すりがない通路(幅 36cm、高さ約2.2m)に腰掛けて休憩していたところ、タオルが地上に落			10～

2001	7	～	ち地上にいた作業員がタオルを拾って近くに投げ返してくれたので拾うた	417	1	29
	12		め立ち上がったときに、通路から地上にスローモーションのように頭から墜落した。			
2001	4	～	解体工事においてドラグショベルで土倉を解体作業中、ドラグショベルの	413	2	1～9
	15		傍で作業を指示していて高さ約1.1mのコンクリートで造られたスロープ上で転倒し頭部を強打した。			
2001	7	～	倉庫に「深井戸用水中ポンプ」の入った「鉄製アングルのかご」を積載型	611	5	10～
	9		移動式クレーンに積込む作業中、積込む「かご」以外の「水中ポンプの			29
	10		入った「かご」(3段に積まれていた)の近くを通行したときに、2段目と3段目の「かご」(各重量約500～700kg)が崩壊し下敷きになった。			
2001	6	～	貯水槽の底に溜まった泥をドラグショベルで外に出すため、貯水槽から出	379	6	10～
	18		てドラグショベルの操作を始めたときに、貯水槽の上部に仮置してあった			29
	19		杭打ち機のスパイクの片側が落下し、激突した。			
2001	7	～	高さ約2mのコンクリート擁壁で土止めされた民家に隣接する箇所の市道	711	5	10～
	9		の側溝補修工事で、ドラグショベルで掘削したのち掘削箇所内で土止めの			29
	10		補強を行っていたところ、民家敷地の土砂が擁壁とともに崩壊し崩壊した擁壁と道路側の溝壁との間に挟まれた。			
2001	7	～	工事現場から乗用車(3名乗車)で国道を走行中、登坂車線から一旦走行車	231	17	1～9
	18		線に出て追い越したのち、再び登坂車線に戻ろうとしたときに、そのまま			
	19		左側ガードレールを突き破って約50m下に車ごと転落した。			
2001	6	～	ゴルフ場造成工事において、被災者は、地盤改良のためのボラ土を運搬す	141	1	30～
	16		るためにトラクターショベルでボラ土採取箇所まで勾配10度の作業道を前			49
	17		進で下っていたところ、路肩左側に寄りすぎて約5m下の道路に転落した。			
2001	6	～	橋脚建設用の作業構台の解体作業において、梁の補強のためのアングルの	415	1	30～
	11		片側がまだ接合していると思い、ガス溶断しやすいようにアングルを移動			49
	12		式クレーンでワイヤロープが張るまで吊り上げたところ、実際は両側がす			
			でに溶断されていたためアングルが持ち上がり、片足をアングルにのせて			

			いたため約1. 1m下の川に落下した。			
2001	6	13 ～ 14	土砂搬入用地において、高さ20mのクヌギをチェーンソーで伐倒して いて、15cm程切り進んだところで切っていた箇所から木が裂けて折れ、折 れた木が顔面を直撃した。	712	6	10～ 29
2001	3	12 ～ 13	大型トラックで自動車道を走行中、トンネル内で作業員5名が乗り込んだ ワゴン車が故障して停車していたところに追突し、4名が負傷、1名が死亡 した。	231	17	10～ 29
2001	6	14 ～ 15	重機運搬車(3.4t)にアルミ製の道板2枚を取付け、ドラグショベル(機体質 量990kg)を荷台に積込む作業を行っていたところ、道板からドラグショ ベルが転落し、その下敷きになった。	142	1	10～ 29
2001	6	11 ～ 12	キャリアダンプ(ハンドガイド式運搬車)でコンクリートブロックを設置箇 所に運搬し、再び積込場所に引返す途中の作業通路上でキャリアダンプを 180度方向転換させようとしたときに、作業通路の端から約25m下のダム 湖に転落し溺死した。	417	10	1～9
2001	6	14 ～ 15	橋梁工事用進入路の建設作業において、盛土部分をコンバインドローラー (機体質量3. 3t)で路肩部分を後退しながら転圧作業中に、路肩から約 1. 5m下の側溝に機体とともに転落した。	144	1	10～ 29
2001	5	9 ～ 10	盛土及び整地工事において、山土を土取場から現場まで10tダンプトラッ クで運搬中、道路左側の豚舎に激突した。	221	17	30～ 49
2001	3	13 ～ 14	張出歩道設置用の脚柱立込み穴を作るため既設擁壁のはつり作業をハンド ブレーカーで行っていたところ、バランスを崩して80cm下の足場に転落 した。	418	2	1～9
2001	6	10 ～ 11	個人住宅の基礎工事で地中に埋め込むための電柱(長さ3. 5mに切断した もので質量約500Kg)を10tトラックで運搬して来て、この荷を降ろすた め、トラック側面のアオリのロックを外したのち、アオリが開かないよう に締め付けていたワイヤロープを緩めてトラックのロープ掛けから外した	529	5	1～9

			ところ、アオリが開いて電柱が荷台から崩れ落ち下敷きになった。			
2001	5	8 ～ 9	井戸堀工事において、約5m四方、深さ約8mの井戸穴の地下水をくみ上げるポンプが埋まったため、ドラグ・ショベルで引き抜くためポンプに取り付けたロープをショベルのアームにかけ、ポンプの真上になるよう旋回するとき、オペレーターが操作を誤ったためロープを押さえていた者がバケットに激突された。	142	7	10～ 29
2001	5	13 ～ 14	高圧線の鉄塔工事に部材を運ぶための作業道を開設するため、民有地の竹林をドラグショベル(機体質量1.5t)で掘削していたところ、ドラグショベルが後方に転倒したため現場に自生している竹とドラグショベルとの間に挟まれた。	142	2	10～ 29
2001	5	11 ～ 12	トンネルの覆工に用いたスライドセントルの解体作業でトラスビームを連結していたH鋼を取外して移動式クレーン(吊上げ荷重25t)で吊上げたときに、トラスビームが移動式クレーン側に倒れて運転席付近に激突した。	412	5	10～ 29
2001	4	11 ～ 12	農免道路で砂利をトラックで運搬中、対向乗用車と正面衝突し、対向車線のガードレールを突き破り約16m下の荒れ地に転落した。	221	17	1～9
2001	4	8 ～ 9	トレーラーにドラグショベルを積み込む作業で、ショベルのアームを支えにして機体を浮き上がらせトレーラーに乗せようとしたところ、ショベルのキャタピラ部分がトレーラーから外れ、その反動でドラグショベルが横転し下敷きになった。	142	1	10～ 29
2001	3	0 ～ 1	事業場に帰るため乗用車で走行中、点滅式信号の交差点で左方向から直進してきた乗用車の側面に衝突し横転した。	231	17	10～ 29
2001	4	11 ～ 12	災害発生地内工事において、玉石積みの裏込め用砕石を積んで2tダンプトラックをバックしていたがドラグショベルが作業を行っていたため、移動するように運転手に声をかけるためダンプを停車し、運転席から降りて2tダンプの後方へ歩いているときにダンプが動き出して激突された。	221	6	10～ 29

2001	4	15 ～ 16	もと田んぼだったところを整地した敷地内において、油圧ショベルで鉄板の片づけ作業をしていたところ、立った状態の鉄板にかけていたフックが外れ、激突した。	521	4	10～ 29
2001	4	9 ～ 10	防潮堤補強工事において、鋼製杭の角度を測定していたとき、軽貨物自動車(箱型)が工事敷地内に進入してきてはねられた。	221	17	0
2001	3	16 ～ 17	ゴルフ場のコース管理のため機械を使用したエアレーション作業(芝生の養生)が終了し、クラブハウスに戻る途中、機械の下敷きとなり走行用歯車で大腿部と腹部が負傷した。	169	7	10～ 29
2001	4	10 ～ 11	社内研修の宿泊場所の下見のため、2tトラックで走行中、センターラインをはみだしてきた対向車(3tトラック)と正面衝突し、運転手が死亡、助手席に乗っていた者が負傷した。	221	17	10～ 29
2001	4	9 ～ 10	小規模崩壊地復旧工事において、小型パワーショベルで掘削中に法面の切り株にバケットが当たったため、その反動で小型パワーショベルが持ち上がってバランスを崩し、ショベルとともに約3m下に転落した。	142	1	1～9
2001	1	13 ～ 14	町道改良工事において、石積み作業のため石(質量28.5kg)に玉掛けを行っていたときに、オペレーターが操作を誤ってバケットが接触し、深さ1.2mの溝に転落し、同時に石も落下して腹部を強打した。	142	6	1～9
2001	3	14 ～ 15	コンクリート試験材料を検査機関に届たのちライトバンで国道を走行中、センターラインをオーバーして、対向の大型トラックと正面衝突した。	231	17	30～ 49
2001	3	9 ～ 10	ガス管敷設工事において、深さ2mの掘削溝内で作業中に側面の土砂が崩落し、土留めとして使用していた鉄板が崩落した土砂に押し出されて倒壊したため反対側の鉄板との間に挟まれた。	412	5	10～ 29
2001	3	16 ～ 17	農業用水の送水管布設工事において、当日の掘削作業が終了したので転落防止のため矢板と矢板の間に蓋をしようとドラグショベルで鉄板(重量約0.3t)を吊り上げたところ、落下し矢板との間に挟まれた。	372	7	10～ 29

2001	3	10 ～ 11	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、コンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間に入ったときに、地山が幅8.3m、高さ4m、奥行1.2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	711	5	1～9
2001	3	10 ～ 11	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、コンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間に入ったときに、地山が幅8.3m、高さ4m、奥行1.2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	711	5	1～9
2001	3	9 ～ 10	工事現場へコンクリートを運搬するためミキサー車で作業道を走行中、路面が凍結していたためミキサー車が滑走し、山側の斜面へ激突した反動で横転し車の屋根とハンドルとの間に挟まれた。	221	17	30～ 49
2001	3	15 ～ 16	貯水池の擁壁嵩上げ工事において、貯水池の縁でコンクリートのガラ片付け作業を行っていたときに、足を滑らせて手すりのない階段を1.6m転げ落ちたのち4.9mの高さから水を抜いた貯水池の底面(コンクリート面)まで墜落した。	418	1	1～9
2001	3	16 ～ 17	ドラグショベルにヘッドガードを取り付ける作業で、原動機を止めないままショベルにヘッドガードをのせたところ、前方の運転席側に傾いて前後進レバーにかかった状態となったので、立て直そうとして後方に引いてしまったためレバーが後進に入ってドラグショベルが後進し、左クローラー上でヘッドガードを保持していた者が左クローラーにひかれた。	141	7	1～9
2001	3	16 ～ 17	道路災害復旧工事において、積載型トラッククレーンに積んでいた鉄板(重さ1.2t)をドラグショベルでつり降ろそうとしたところ、玉掛用クランプが鉄板の中心に掛っていなかったため同鉄板が傾いてトラックの荷台から滑り落ち、ドラグショベルと鉄板との間に挟まれた。	142	7	30～ 49
2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11.2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	711	5	10～ 29

2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11.2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	711	5	10～ 29
2001	3	15 ～ 16	緑地建設工事において、ドラグ・ショベルでコンクリート製の集水枡(重さ約500kg)を吊り上げたところ、玉掛け用具の吊りチェーンが切断したため集水枡が落下し、その下にいた者の頭部に当たった。	372	4	1～9
2001	2	6 ～ 7	ワゴン車で国道を走行中、センターラインをはみ出してきた大型トラックと正面衝突し、さらに後続してきた大型トラックも事故を避けきれずワゴン車に衝突した。	221	17	10～ 29
2001	2	7 ～ 8	油圧ショベルのアタッチメントを「小割圧砕機」から「鉄骨切断機」に取り替えるため、作業装置からピンを抜いたところ、「小割圧砕機」が転がってアタッチメントに身体の一部を挟まれた。	145	7	100 ～ 299
2001	1	14 ～ 15	ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	711	5	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	711	5	10～ 29
2001	1	16 ～ 17	雨水管新設工事において、積載型小型移動式クレーンのタイヤが雪に埋まって動けなくなったため、ホイール式トラクターショベルでけん引することにし、けん引のためのワイヤ掛けをしていたときにトラックの運転手が自力で雪から脱出しようとして後進したため、トラックと停止していたショベルとの間に挟まれた。	221	7	1～9
			くい打機の掘削用オーガーで穴(径0.6m、深さ9m)を掘削しその穴に仮			

2001	1	11 ～ 12	置きしていた杭(質量約2.5t)を打ち込むためくい打機で引張り込んでいたところ、くい打機の履帯の一部が敷鉄板から外れていたためくい打機が傾きはじめ、危険を感じて運転席から外へ出たが間に合わずに下敷きになった。	143	2	1～9
2000	7	13 ～ 14	芝生張り替え工事において、張り替え済みの芝生に土をかけて均す作業を行っていたときに、天端付近から約5m下のコンクリート面に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	コンクリート造の堤防の天端を資材(重さ3kgの鉄筋)運搬中に転倒して法面を転落し、溜池(水深4.5m)で溺死した。	418	1	30～ 49
2000	9	13 ～ 14	安全柵の改良工事において、携帯用丸のこを使用して型枠材の加工中に、丸のこで右大腿部を切った。	131	8	30～ 49
2000	9	17 ～ 18	緊急地すべり対策の工事で、同僚二人で作業が終了した既設集水井(外径3.52m、深さ12.8m)の金属製の蓋(半円形で半径1.8m、質量約230kg)を、既に設置していた同型の金属製の蓋に乗って人力で引き寄せようとしていたところ、引き寄せていた蓋が既設集水井の中に落ち、同時に既設集水井の中に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	7	8 ～ 9	土砂崩壊箇所の査定を受けるために藪払いを行うことになって作業箇所に行ったところ、作業用具を持って来なかったことに気づき軽トラックで会社に作業用具を取りに帰るときに、緩い右カーブでハンドル操作を誤り道路脇の電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2000	6	11 ～ 12	残土を運搬・造成する作業を4名で行っていて、使用していたブルドーザー1台(機体質量5t)を他へ移送するために現場の盛土を利用してトレーラーへ載せようとしたところ、ブルドーザーが後ろ向きにひっくり返ってその下敷きになった。	141	2	10～ 29
2000	9	7 ～	同僚2名とともに社用車で国道を走行中、右カーブにさしかかったところでガードレールに衝突し、そのはずみで助手席のドアが開いて道路上に転	221	17	1～9

		8	落した。			
2000	4	16 ～ 17	擁壁を嵩上げする擁壁工事において、同僚とともに擁壁上に設置された張出足場の解体作業を行なっていて約4m下のコンクリート地面に墜落した。	411	1	1～9
2000	2	13 ～ 14	工事現場において、2. 5tの不整地運搬車で碎石を床掘りした場所に降ろすため、同僚に碎石を降ろす旨を伝えて荷台をダンプさせようとしたところ、不整地運搬車が後退して床掘りした穴に転落し、そのはずみで投げ出されて約30m下に転落した。	227	1	10～ 29
2000	10	17 ～ 18	無線基地局建設工事において、2tトラックを傾斜角約20度の仮設道路にトラックを駐車し、周辺に放置してあった資材を積み込むため運転席を離れたところトラックが仮設道路を下り出したため、それを止めようと運転席側を並走したが転倒し、後部車輪に巻き込まれた。	221	7	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	県道の災害復旧工事において、法面工事の準備作業として刈払いされた草木の除去作業中に1人の作業員が変調を来たし、病院に移送したが熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2000	3	13 ～ 14	積載型移動式クレーン(4t)が、道路右側のカラーコーン等で道路と仕切られた区域内で側溝の敷設工事を行っていた労働者に激突した。	221	17	30～ 49
2000	2	9 ～ 10	ごみ処理場の排水溜池工事において、傾斜勾配約50度の斜面にある樹高約15mの傾いた立木をチェーンソーで伐採していたときに、追口先端が立木の上部に向かって裂け、追口から約180cm付近で傾いた方向に折れて激突され、約2m下の地面に墜落した。	712	6	1～9
2000	7	10 ～ 11	ボーリングによる地質調査を行っていたところロッドが地中43. 5m地点で引きぬけなくなったため、パイプレンチをロッドにかませ人力で回転させようと、パイプレンチを持った3人がレンチの柄に単管を差込んで回転させたときに、単管がパイプレンチから抜け、その反動でパイプレンチが回転し頭部を直撃した。	149	6	1～9

2000	1	13 ～ 14	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バールで引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタルを引き剥がす方法で作業を行っていたところ、地山が約500m ³ 崩壊し生き埋めとなった。	711	5	1～9
2000	1	13 ～ 14	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バールで引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタルを引き剥がす方法で作業を行っていたところ、地山が約500m ³ 崩壊し生き埋めとなった。	711	5	1～9
2000	6	17 ～ 18	現場での作業を終え使用した4tダンプを車庫に前向きに駐車し、エンジンを切って降車して車庫を出たところダンプが後方に動き出して、車庫から出てきたため、止めようと荷台の後ろにまわり付近にいて気づいた同僚とともにダンプ荷台を押したが止まらず、同僚は途中で逃げたが、運転者はそのまま押しつづけ、後方に駐車していた車との間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2000	2	15 ～ 16	廃車するワゴン車(重量約1t)を積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.93トン)で運び込み、廃材置場に降ろすため吊り上げて旋回させたときにクレーンが転倒し、廃材との間に挟まれた。	212	6	1～9
2000	1	9 ～ 10	高所作業車(作業床高さ13.2m)で高架橋の下端部(高さ約8m)にコンクリート剥落防止のためのネットを張る作業で、高所作業車の操作をプラットフォーム型の作業床上で行っていたときに、高架橋の下面と操作盤との間に挟まれた。	146	7	1～9
2000	12	9 ～ 10	ケーブルクレーンの撤去作業において、支柱用の鉄塔(全長16m)と鉄塔補強用の木材(杉)を繋いでいた線を取り外すため鉄塔を昇っていて、継ぎ目部分(地上から14m)から鉄塔下部の斜面に約14.8m墜落した。	211	1	1～9
2000	1	14 ～ 15	ドラグショベルで石積み用の石の運搬と盛土の作業中、石積み作業に従事していた者が後退したドラグショベルのバケットと盛土との間に挟まれた。	142	6	1～9

2000	1	2 ～ 3	国道の歩道直下に光通信ケーブルボックスを埋設する作業において、路面を掘削し光通信ケーブルボックスの設置が完了した箇所をアスファルト等による舗装作業中に、後方からアスファルトを荷台に積んで後進してきた4tトラックにひかれた。	221	7	10～ 29
2000	7	11 ～ 12	舗装工事現場内において、アスファルト舗装前にしゃがんだ姿勢でコンクリート壁に墨打ち作業をしているときに、後進してきたモーター・グレーダー(機体質量=7.4t)の右後輪にひかれた。	141	6	50～ 99
2000	6	10 ～ 11	町道側溝の清掃作業中で、ガソリンスタンド横の消火栓につないだホースから水を出して土砂を押し流す作業が終了し、栓を閉めて作業箇所に戻るため歩道を歩いていたときに後方から走行中の軽トラックが歩道上に突っ込んで約14m飛ばされた。	231	17	50～ 99
2000	1	11 ～ 12	4tトラックに積み込んだ材木(直径30cm、長さ9m20cmの杉材)が落下して傍を歩いていた者に当たった。	522	5	1～9
2000	2	16 ～ 17	アパート新築工事現場で生コンを打設したのち現場前の路上でタイヤに付着した泥を落とすためコンクリートミキサー車をバックしたときに、路上に落ちた泥を掃除しようと同車の後ろに移動して来た者をひいた。	221	17	10～ 29
2000	1	11 ～ 12	下水管理設工事において、深さ約2.3mの穴に入って床堀を行っていたところ、穴の側面の土砂が崩落し、生き埋めとなった。	711	5	10～ 29
2000	4	14 ～ 15	ドラグショベルの運転手が運転席から降りようとして誤って旋回用のレバーに触れたため、バケットが旋回し近くに止めてあったトラックの横でガラを整理していた者がバケットとトラックとの間に挟まれた。	142	7	10～ 29
2000	2	20 ～ 21	2tトラックでコンクリート道路カッター工事現場へ行く途中、運転を誤って郵便局の階段に激突した。	221	17	10～ 29
		14	法面の施工のためロリップ付の安全帯を装着して枠内に水抜きパイプを取			

2000	1	15	り付ける作業を行っていたところ、頭を下に向けて宙づりになったので、 救出に向かったが間に合わず、腰から安全帯が抜け7.4m下に墜落した。	379	1	1～9
2000	1	9 10	防火水槽新設工事において、コンクリート養生のために使用した練炭火鉢 を除去するためマンホールから深さ約2mのところに入って移動していた ときに一酸化炭素中毒症になった。	714	12	1～9
2000	1	17 18	ため池の蓄積土を取り除くため、ドラグショベル掃除用のコンプレッサー をドラグショベルに吊って移動中に、ドラグショベルが転倒しその下敷に なった。	141	2	10～ 29
2000	8	17 18	4tダンプに3名が乗車し国道を走行中、橋の上が雨で濡れていたためタイ ヤがスリップし、橋の側面のガードパイプに激突した。	221	17	1～9
2000	8	9 10	作業用道路新設に伴う立木伐倒作業で、高さ9.5mの立木を伐倒したとこ ろ、枝が近くの立木に接して伐倒方向が変わったため胸に激突した。	712	6	10～ 29
2000	7	3 4	国道の情報ボックスの埋設作業中、走行していた普通自動車が警備員の停 止指示で止まりきれずに急ハンドルを切ったため反対側車線の歩道の縁石 に乗り上げ、反動で反対側車線の作業現場に突っ込み、そこで作業してい た者に激突した。(1人死亡、2名軽傷)	231	17	1～9
2000	10	15 16	光ファイバーケーブル敷設工事で、3.2m掘削した溝に外径10cmの管(1 本あたり5.5m)3本を敷設し土止め支保工を解体しているときに、土砂が 崩壊し解体作業を行っていた者が生き埋めとなった。	412	5	1～9
2000	9	13 14	無資格者がドラグ・ショベルを移動しているときに溝に転落しそうになり バケットで支えて止まったので、ダンプとドラグ・ショベルにワイヤーを 掛け、引き上げようとしたときにショベルと共に転落し、その下敷きに なった。	142	1	1～9
2000	7	16	路肩の草刈り作業終了後、1.2km後方にあった標識車に戻るためパッ カー車に乗り込んでバックで移動中、パッカー車後方にいた者をひいた。	229	6	10～ 29

		17				
2000	9	13	木造2階建家屋を圧碎機を用いて解体する作業で、圧碎機で掴みとった廃材をトラックに積み込むために圧碎機を旋回させたときに廃材の後片付けをしていた者がトラックの荷台と圧碎機との間に挟まれた。	149	7	50～99
2000	2	12	男子寮の2階に寄宿していた労働者2名が焼死した。	999	16	30～49
2000	2	13				
2000	2	12	男子寮の2階に寄宿していた労働者2名が焼死した。	999	16	30～49
2000	2	13				
2000	12	10	資材置場で、大掃除後のゴミを焼却作業中に、ゴミにかけた油が付着した衣類に引火し、腹部から膝にかけて火傷を負った。	512	11	1～9
2000	12	11				
2000	9	10	農業用ため池建設工事で、最上段(3段目)の堤防をローラーで整地作業中に誤って斜度28度5.6m下の2段目にローラーとともに転落し、その下敷きとなった。	144	1	10～29
2000	9	11				
2000	4	9	災害防除工事の検査前の準備作業(清掃)中に、道路の壁面約6.8mの犬走り(幅約45cm)上から墜落した。	418	1	1～9
2000	4	10				
2000	4	8	資材置場において、2tトラックと4tトラックを縦に並べて資材を積み込んでいたときに、4tトラックが後ろに動き出したので、止めようとして停車中の2tトラックとの間に挟まれた。	221	6	1～9
2000	4	9				
2000	2	11	災害防除工事において、急斜面にロックネットを張る前作業として急斜面の立木を伐採中に、約15m下の道路(道幅約2.6m)に墜落した。	711	1	1～9
2000	2	12				
2000	8	15	炎天下でワイヤーモッコを地下に降ろす作業中、地上の材料置場で残材の片付けを行っていて、熱中症により死亡した。	911	90	1～9

		16				
2000	7	13 ~ 14	個人宅の庭木の剪定作業で、アルミ製はしごを転倒防止のためロープで3方から固定し剪定ばさみを持って梯子を約5メートルほど登ったところでバランスを崩し、梯子とともに転倒し、約5メートル下の地面に墜落した。	371	1	1~9
2000	10	10 ~ 11	現場に給油にきたタンクローリーが斜面(傾斜角10度)でスリップしたので救出のためブルドーザの運転席から離れタンクローリーの状況を確認しようとしていたときに、タンクローリー運転手がタンクローリーを発進させたためブルドーザが引っ張られるかたちで斜面を後退し始め、その衝撃で地面に転落しブルドーザに頭部をひかれた。	141	17	30~ 49
2000	8	7 ~ 8	ダンプトラックの前で休憩していたところ、10tダンプトラックが発進したため、左前輪でひかれた。	221	6	1~9
2000	5	8 ~ 9	事業場内の休憩室(コンテナ)の屋根上に置いてあった断熱材を1.48m下に降ろす作業が終了し、屋根から脚立を使って降りようとしたときに、墜落した。	371	1	10~ 29
2000	1	7 ~ 8	舗装工事において、早朝で気温が低かったので、暖を取るため作業者が一斗缶に枝、紙等を入れて燃やしたところへ火力を強くするつもりで油の入ったポリ容器(容量6?)を持ち出して火にかけたため火炎が立ち火傷した。	512	16	10~ 29
2000	9	4 ~ 5	小規模治山工事において、長さ約60mの谷の下草刈をしたところ谷の最上部に直径70cm程の浮き石が発見されたので、下に監視人をおいて石を落としたところ石が予想外の方向に跳ね道路上にいた監視人の頭を直撃した。	711	4	10~ 29
2000	8	9 ~ 10	50tクローラクレーンで長さ14.4m重量約1.95tのH鋼を一本吊りで移動しているときに、玉掛けワイヤーが切れH鋼が落下し、落下し倒れた時にH鋼の先端が付近を走行していたブルドーザーの運転席を直撃した。	372	4	30~ 49

2000	7	15 ～ 16	堤防上で刈られた草を熊手でかき集める作業などを行っていたが、午後になって意識不明となり熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2000	8	9 ～ 10	直射日光下で基礎の型枠解体作業に従事していたところ、気分が悪くなり、休憩所で休んでいたが、けいれん・嘔吐をもよおしたので病院に搬送したが死亡した。(体温が41.3℃)	715	11	10～ 29
2000	7	8 ～ 9	新たな側溝を設置する現場において、道路を行き交う車輛の誘導を車道上で行なっていて進行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2000	4	20 ～ 21	養鶏場のごみ捨場から出火したので、周囲への延焼を防ぐためパワーショベルで土をかぶせるなどの消火作業を行っていたところ、夜間と煙りにより視界が悪かったため誤って高さ9メートルの崖下に重機とともに転落した。	142	1	1～9
2000	9	17 ～ 18	現場の工事を終えて軽トラックで国道を走行中、ゆるやかなカーブで追い越しを掛けたところに前方より乗用車が来たためブレーキをかけたがスリップし、軽トラックの助手席側が衝突した。	221	17	10～ 29
2000	2	10 ～ 11	農地災害復旧工事現場へ機体質量2,8tのドラグショベルを移動する途中で道路脇から重機ごと転落し、ヘッドガードと重機に挟まれた。	142	1	1～9
2000	11	8 ～ 9	トラッククレーン(吊り上げ荷重2.9t)で走行中、ジブ先端がずい道の入口に衝突し、その反動でハンドルに腹部等を激突した。	212	17	1～9
2000	10	14 ～ 15	落石防止用の金網設置工事において、仮付けされた金網を縦方向に固定するための補助ワイヤーロープの本留め作業中に墜落した。	419	1	1～9
2000	3	14 ～	道路改良工事において、コンクリート基礎上に1段目のコンクリート擁壁(150cm×150cm×14cm600kg)を自立させ、位置調整のためにかがんで目	418	5	1～9

		15	地の整形中に、コンクリート擁壁が倒れ地面との間に挟まれた。			
2000	3	11 ～ 12	水路築造工事着工前の障害木の伐倒作業で、チェーンソーで斜面上の杉(直径17cm、長さ14m)を沢側へ伐倒する受口をつくり、伐倒したときに伐倒した木の下敷になった。	712	6	1～9
2000	10	11 ～ 12	工事現場の坂道(勾配約4度)でドラグショベルを用いて養生用の鉄板(重量約800kg)を4tダンプトラックに積込む作業中に、ダンプが動き出したので停車させようと荷台から運転席に乗り込もうとしたが間に合わず、車とともに道路脇の崖下に転落した。	221	1	50～ 99
2000	10	7 ～ 8	地すべり工事現場の搬入道路において、発電機を撤収するために入ってきた4トントラックがぬかるみにはまって動けなくなったのでドラグ・ショベルで牽引して13mほど後進したときに、ショベルの後方でモルタルの準備作業を行っていた者がキャタピラーに巻込まれた。	142	7	10～ 29
2000	8	15 ～ 16	橋梁の解体作業で、ドラグショベルで破碎した床版コンクリート片(約600kg)を吊り上げダンプトラックに積み込むため旋回したときに横転し、ショベルと共に約22m下の川に墜落した。	142	1	1～9
2000	1	16 ～ 17	県道山側の法面(勾配約68度)に吹き付けたモルタルが劣下してきたので、法肩よりロリップで法面に降り法尻から動力ピックでモルタルを削り落す作業を順次行い法尻より約40m付近で作業中に、3名が作業を行っていた上部のモルタルが滑落して巻き込まれ、1名が転落して死亡し、他の2名が負傷した。	711	5	1～9
2000	11	13 ～ 14	平坦地との高低差が3.2mある宅地造成地の端で機体質量2.49tのドラグ・ショベルでコンクリートバケットを吊り上げ型枠にコンクリートを流し込む作業中に、ドラグ・ショベルが平坦地に転落し機体の下敷きになった。	142	1	1～9
2000	10	11 ～ 12	雑木林の伐採現場において、最大積載量3tの移動式クレーン付トラックの荷台で伐採した雑木(長さ1.7m、重量75kg)を移動させたところ、突然、動きだしたため雑木と共に転落し、胸に雑木が激突した。	522	4	10～ 29

2000	7	9 ～ 10	フレコンバックに掘削廃土を詰めてフォークリフトで運搬する作業で、廃土を積み込む指定位置にフォークリフトを移動させるため方向転換させたときに、法肩の土のう袋を乗り越え転落(90 c m)しフォークリフトの下敷きになった。	222	1	1～9
2000	2	10 ～ 11	休憩時間を終えて持場に戻ろうとした時に手袋を忘れたので取りに戻るときに、高さ3. 25mの石積み天端の上を転落防護柵に捕まりながら移動していたら転落した。	418	1	10～ 29
2000	1	13 ～ 14	宅地造成工事現場において、捨てコン打設のため、生コンを入れたホッパーをドラグショベルで吊り上げて所定位置に降ろそうとしたときに、路肩が崩れてドラグショベルが転倒したため補助作業を行っていた者がコンクリートの擁壁とドラグショベルのアームとの間にはさまれた。	142	7	1～9
2000	12	10 ～ 11	壁面等補修工事のための足場を組立て作業で、コンクリート製の梁上で足場板を運んでいてバランスを崩し、11. 7メートル下のコンクリート床面に墜落した。	414	1	1～9
2000	12	11 ～ 12	浄水場入口のスロープで積載形小型クレーン車が動かなくなったので、荷台のコンプレッサー4台を荷卸していたところ、荷が他のコンプレッサーに接触して下方にすべり落ちはじめたので、それを止めようとして隣接する建物の壁とコンプレッサーとの間に挟まれた。	212	7	1000 ～ 9999
2000	11	16 ～ 17	モルタル吹付工事において、吹付機の清掃終了後に点検口の蓋を開けて内部を確認中に、右腕を巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2000	7	18 ～ 19	立坑工事現場で工事用エレベーター近くのH鋼の上で溶接作業を行なっていたら墜落した。	214	1	30～ 49
2000	3	2 ～ 3	高速道路上の配水升の調査をしていたところ、作業帯の後方に停車していた規制車(標識車)に13. 3tトラックが衝突し、そのはずみではねられた。	221	17	10～ 29

2000	2	10 ～ 11	3名で移動式クレーンを使用して土止め支保工用鉄製矢板の降ろし作業を行っていたところ、荷と運転席後部が接触したために荷の方向が変化してバランスが崩れクレーンが横転し、荷台上に居た2名のうち1名は横転直前に避難したが1名は道路わきのステンレス製柵と同移動式クレーンとの間に挟まれた。	212	7	1～9
2000	2	13 ～ 14	2tトラックから建築廃材(コンクリート塊)を降ろすため、トラックの荷台(高さ1.3m)で荷台を覆っていたシートを外す作業をしていたときに、転落して右肋骨を骨折し、感染症で死亡した。	221	1	10～ 29
2000	10	14 ～ 15	駐車場の地均し作業をしていたときに、後退してきたドラグショベルにひかれた。	142	7	10～ 29
2000	3	9 ～ 10	トラック(4t)の後部であおりの補修を行っていたときに、ドラグ・ショベルが後進したためトラックとドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	142	7	1～9
2000	3	9 ～ 10	車両走行の妨げになる陰樹の伐木で、高さ約5mの木をチェーンソーで切断したところ予想外の方向に倒れ、付近で枝の収集をしていた者の肩に当たった。	712	6	30～ 49
2000	6	7 ～ 8	パワーショベルを現場に移送するため、機械を自走させて4t貨物自動車に積み込ませているときに横転し、ショベルの下敷きとなった。	142	1	1～9
2000	6	13 ～ 14	深さ8.44m、内径90cmの井戸清掃のため、井戸内にエンジンポンプを入れて排水していて一酸化炭素中毒になったり、地上にいた同僚が救助のため中に降りて同じく被災した。	514	12	10～ 29
2000	6	13 ～ 14	深さ8.44m、内径90cmの井戸清掃のため、井戸内にエンジンポンプを入れて排水していて一酸化炭素中毒になったり、地上にいた同僚が救助のため中に降りて同じく被災した。	514	12	10～ 29
		7	汚水処理場解体工事現場において、解体途中の建屋内で鉄筋が刺さって右			

2000	5	～ 8	腋下部から出血し、倒れていたのを同僚に発見された。	419	8	1～9
2000	12	16 ～ 17	駐車場の植え込みの縁石を並べ終わり、隙間を埋めるためのコンクリート(約20kg)を1tトラックの荷台から荷降ろしする作業中に転落した。	221	1	10～ 29
2000	11	13 ～ 14	国道路肩の草刈り作業を下刈機で行っていたところ、走行してきた乗用車に跳ねられた。	231	17	1～9
2000	4	15 ～ 16	梨園において、棚を張るためのアンカー撤去作業を地盤のやわらかな傾斜地(勾配約10度)でバックホーを使用して行っていて、バックホーが突然横転したため、約2m離れたところで次に撤去するアンカーを探していた者にバケット部が接触した。	142	6	1～9
2000	8	9 ～ 10	ドラグショベル(機体重量7.5t)で用水路(幅1m)の上に敷いてあった鉄板(重さ1.6t)を移動するため、バケットとアームの付け根にワイヤーを掛け鉄板を吊り上げようとしたときにドラグショベルが運転席側に横転し、下敷きになった。	141	2	1～9
2000	1	16 ～ 17	採石現場において、クローラー式のドラグショベルを後退させていたところ、片側クローラーが斜面に乗り上げて横転し、運転席が立木に衝突して潰された。	142	2	1～9
2000	11	16 ～ 17	不整地運搬車で土石を運搬中、作業道を外れて田んぼの土手に乗り上げたため不整地運搬車が横転し、土石の下敷きになった。	227	2	30～ 49
2000	2	18 ～ 19	コンテナハウス(重量約500kg)を、トラッククレーン(2.9t)で吊り上げ、荷台に載せようと誘導していたところ、使用していた玉掛けワイヤーロープが切断し、下敷きになった。	372	4	1～9
2000	12	10 ～	降雪に伴う水力発電所の保守点検のため、5名で発電所上部の水槽まで水圧鉄管沿いに登坂していたときに、表層雪崩が発生して5名全員が巻き込	719	5	10～ 29

		11	まれ、労働者3名が死亡し、2名が負傷した。			
2000	12	10	降雪に伴う水力発電所の保守点検のため、5名で発電所上部の水槽まで水 圧鉄管沿いに登坂していたときに、表層雪崩が発生して5名全員が巻き込 まれ、労働者3名が死亡し、2名が負傷した。	719	5	10～ 29
2000	5	9 ～ 10	クレーン付トラックでドラグショベルのバケット部分を回収する作業中、 無人の状態で逸走(後退)したクレーン付トラックにひかれた。	212	7	50～ 99
2000	3	9 ～ 10	排雪場において、雪を捨てたダンプトラックの後輪が空回りして動けなく なったのでホイールローダーで牽引しようとダンプトラックの運転手とホ イールローダーの運転手2名でワイヤーロープの取り付け作業等を行って いたところ、上部にあったダンプトラックが無人状態で斜面を下ってきた ため、2名がダンプトラックとホイールローダーの間にはさまれ、ダンプ トラックの運転手が死亡した。	221	7	1～9
2000	5	16 ～ 17	資材置場の隣に生えている樹木(胸高直径30cm、長さ約13m)の伐採で、 チェーンソーを幹の半分位まで入れたときに歯が噛んでしまったので他の チェーンソーで幹に切り込みを入れていたときに、縦方向に割れが入って 木が倒れてきて激突された。	712	4	10～ 29
2000	4	0 ～ 1	深さ4.8mのマンホール内で電線管内部の清掃と導通試験を行っていて、 昼食のためマンホールのタラップを昇って外に出ようとしたときに墜落し た。	418	1	1～9
2000	3	11 ～ 12	産業廃棄物の中間処理施設建設工事において、休憩後に外壁取付け箇所に 戻ろうとして、深さ2.98mのコンクリート製中間処理槽に転落した。	418	1	10～ 29
2000	12	22 ～ 23	現場からダンプ(2人乗車)とワンボックスカー(1人乗車)で帰ったが、ワン ボックスカーが帰社しなかったため、運行経路を捜索したところ翌日に なって発見したが、運転者はワンボックスカーの中でシートベルトをした まま既に死亡していた。(ワンボックスカーは、後部だけが燃えた跡が あった。)	514	12	1～9

2000	11	17 ～ 18	現場で使用していた鉄板を資材置場に搬入し、小型移動式クレーン車(吊り上げ荷重2.9t)で鉄板(1.6t)を下ろしていたときに、荷台に何も積んでいないクレーン車が傾いたため、脇に積み上げられていた鉄板と倒れてきたクレーン車のドアとの間に頭部を挟まれた。	212	7	10～ 29
2000	1	9 ～ 10	ダンプ(2トン)で走行中、対向のバスと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2000	11	6 ～ 7	ライトバンで除雪後の道路状況の確認のため走行中、信号機のある五差路で右側から信号機を無視して進入してきた11t保冷車と出会い頭に衝突し、ライトバンの2名が死亡した。	221	17	50～ 99
2000	11	6 ～ 7	ライトバンで除雪後の道路状況の確認のため走行中、信号機のある五差路で右側から信号機を無視して進入してきた11t保冷車と出会い頭に衝突し、ライトバンの2名が死亡した。	221	17	50～ 99
2000	11	10 ～ 11	農地に火山灰を入れる土壌改良工事において、仮設道路にダンプが進入してきたので火山灰を均す作業をしていたブルドーザー(機体重量4.9t)が仮設道路外に出て交すために後退したときにそこにいた者をひいた。	141	7	10～ 29
2000	8	15 ～ 16	国道トンネルの漏水防止板の撤去工事において、トンネル手前約140mの位置に「徐行」の札を掲げていたときに、走行してきた2tトラックに激突されて約17m飛ばされた。	221	17	30～ 49
2000	8	15 ～ 16	桜並木の保全のために周辺の柳の木を伐倒し、トラッククレーン車に手作業で乗せるため荷台上で積み込み、整理をしていたときに、高さ1.46mの荷台上から転落した。	221	1	50～ 99
2000	7	16 ～ 17	ワゴン車で走行中、前のトラックを追い越そうと対向車線に出たところで、対向の乗用車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2000	3	15 ～	舗装工事のため片側交互通行としていた車道を解除するため、セーフティーコーン等の後片付け作業を行っていたときに、走行してきたトラッ	221	17	10～

		16	ク(4t)が交通規制に気付かず乗っていた規制車に衝突してきたため全身を強打した。			29
2000	3	0 ～ 1	海上ボーリング調査用台船の支柱組立のため、2. 9t移動式クレーンで重量約300kg、長さ約5mの支柱を吊上げ左旋回中、台船端の支柱取付け金具に接触したため衝撃で荷が振れて玉掛けワイヤーがずれ、いわゆる一本吊状態となって片側が落下し、近くにいた者が荷の下敷きとなった。	212	6	1～9
2000	2	11 ～ 12	ダム工事現場の取付道路で雪にはまったライトバンを除雪用のブルドーザーで移動させた後、ブルドーザーを元の場所に戻すため走行中、作業者がブルドーザーのキャタピラでひいた。	141	3	1～9
1999	7	0 ～ 1	トラックの運転で、昼休み休憩中に道路に寝そべっていたところ、トラック積載型小型移動式クレーンの運転席内で休憩していた別の者が両足を運転席に伸ばしたときにサイドブレーキに触れて、解除したため突然動き出し、クレーンにひかれた。	221	6	1～9
1999	4	5 ～ 6	高速道路を走行中、停車中の貨物自動車に衝突した。	231	17	50～ 99
1999	12	8 ～ 9	軽トラックで事務所から建設現場に向かっている途中、県道交差点で乗用車と出会い頭に衝突し、運転者、同乗者ともに死亡した。	231	17	10～ 29
1999	12	8 ～ 9	軽トラックで事務所から建設現場に向かっている途中、県道交差点で乗用車と出会い頭に衝突し、運転者、同乗者ともに死亡した。	231	17	10～ 29
1999	5	5 ～ 6	代表者及び労働者7名がワゴン車で建設工事現場へ向かう途中、6差路においてトラックと衝突し、3名が死亡し5名が負傷した。	231	17	1～9
1999	5	5 ～	代表者及び労働者7名がワゴン車で建設工事現場へ向かう途中、6差路においてトラックと衝突し、3名が死亡し5名が負傷した。	231	17	1～9

		6				
1999	8	11 ～ 12	県道沿いで草刈り作業中、居眠り運転で対向車線にはみ出してきた乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
1999	8	14 ～ 15	舗装工事において、アスファルトフィニッシャの脇でスコップマンとして作業をしていたが、午後2時20分頃動作がおかしくなったため日陰で休ませたが、回復しないため病院に運んだが熱中症で死亡した。	715	11	1～9
1999	12	3 ～ 4	県道交差点内での、ガス中圧管移設工事が終了し覆工板等を積載しているトラックを運転するため、車両に乗り込もうと運転席側に回ったときに、後方より進行してきた普通乗用車に激突された。	231	17	1～9
1999	12	16 ～ 17	バックホーのバケットに入れて運んだランマーを約50cm掘削したのち碎石で締め固められた作業場に置くためアームを旋回したときにバケットが近くの者に激突し、そのはずみで地中に埋め込まれていたH鋼で地上に出た部分に胸部を挟まれた。	142	6	10～ 29
1999	12	16 ～ 17	碎石を運ぶため4tトラック資材置場へ行き、同僚が碎石の積込をしている間車外で待機していたところ、トラックが逸走しかけたためそれを止めようとして逸走してきたトラックと資材置場内にいた2tトラックとの間に挟まれた。	221	6	10～ 29
1999	5	5 ～ 6	代表者及び労働者7名がワゴン車で建設工事現場へ向かう途中、6差路においてトラックと衝突し、3名が死亡し5名が負傷した。	231	17	1～9
1999	12	10 ～ 11	送電線付近の立木をチルホールを利用してチェーンソーで伐採していたところ、突如立木が裂け激突された。	712	6	30～ 49
1999	12	0 ～ 1	林道新設工事において、吹付け材混合機に搬入するためベルトコンベアに客土を投入する作業中に身体のバランスを崩して擁壁端部より約4.2m下の斜面に墜落し、そのまま斜面を約100m滑落した。	416	1	1～9

1999	12	13 ～ 14	地下約2.7メートルの掘削床付け工事において、軟弱地盤の改良のためミニバックホー(機体重量760kg)土とセメントを混合する作業を行おうとしていたところ、バックホーが切梁に当たり前のめりになったときに、前進レバーに入り、切梁と操作レバーとの間に胸が挟まれた。	142	7	0
1999	12	0 ～ 1	片側3車線の自動車専用道路のつなぎ目を補修するため、1車線を約1.2キロメートルにわたって規制し、作業員5名が規制区画内で作業中、同作業箇所トラックが突っ込み、作業員3名がはねられた。	221	17	10～ 29
1999	12	0 ～ 1	片側3車線の自動車専用道路のつなぎ目を補修するため、1車線を約1.2キロメートルにわたって規制し、作業員5名が規制区画内で作業中、同作業箇所トラックが突っ込み、作業員3名がはねられた。	221	17	10～ 29
1999	12	9 ～ 10	道路脇の舗装復旧工事において、しゃがんで作業をしていた者を砂礫を運ぶ4tダンプが前方を確認しないまま発車してひいてしまった。	221	7	10～ 29
1999	12	16 ～ 17	公園造成作業を終えて同僚と2人で社用車(2tトラック)で帰社する途中、路上に駐車していたトラックに追突した。助手席に乗車していた者が死亡した。	221	17	1～9
1999	12	8 ～ 9	法面のステップ(幅約2.5メートル)上に停止させていたドラグショベルを地上に降ろすための運転操作を行っていてドラグショベルと共に法面から約6メートル下の地面に転落した。	711	1	10～ 29
1999	12	14 ～ 15	トラックグレーダーを用いて道幅約4mの町道の除雪作業をしていたところ、道路左側の路肩から脱輪し、高さ約3.5mで勾配46度の斜面を転落し、運転席上部がつぶされた。	149	1	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	資材置場で、2トンダンプの荷台に上り単管等の荷造りを行なって下車する際に転落した。	221	1	10～ 29
1999	11	11	6.3トンのドラグショベルを用いて傾斜角26度の場所においてあった木の枝の除去作業中、ドラグショベルが後方谷川へ転倒し、ドラグショベル	142	2	10～ 29

		12	運転席フレームと地面との間に挟まれた。			
1999	11	10 ～ 11	ブルドーザーを使用して路盤上に砂利を敷き均す作業を行っていたときに、後方で砂利をかく作業をしていた者をバック走行でひいた。	141	7	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	下水道管敷設工事現場において、土止め支保工を打ち込むため深さ約2m、幅1mの掘削した溝の底で地面をならしていたところ、側壁約3立方メートルが崩壊して胸まで埋まった。	711	5	10～ 29
1999	9	13 ～ 14	公園の災害復旧工事現場において、道路脇法面の緑化ウォールをよじ登っていたときに下の道路上に墜落した。	418	1	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	道路拡幅工事現場において、地下水道管の撤去のため、約1.5mの深さまで掘削された場所でドラグショベルを前進で走行中、軟弱な掘削土の上であったためショベルが左に傾き、その横を通りぬけて退避しようとした者がバケット側面と壁面との間に腰部を挟まれた。	142	7	10～ 29
1999	11	11 ～ 12	軽自動車で行く銀行から事務所に帰る途中、道路を右折横断しようとしたが対向車線を大型ダンプが走行してきたため一時停止したところ、後方から走行してきた普通乗用車に追突されて対向車線に押し出され、対向の大型ダンプと正面衝突した。	231	17	10～ 29
1999	11	11 ～ 12	除草したものをダンプで国道沿いの土捨場に搬入するため、土捨場前の国道にダンプを止めて助手席から降り国道を横断しようとしたところ、後方から直進してきた800ccバイクにはねられた。	231	17	10～ 29
1999	11	7 ～ 8	現場で使用するワイヤロープを事務所の反対側に停めてあったダンプトラックに積み込み、事務所に置いてあった合羽と弁当を取りに戻ったのち、再度ダンプトラックに乗り込むため道路を横断していたところ、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
1999	11	10	送水管移設工事現場で、水抜きを行った送水管(内径1200mm)の上部を直径約50cm(円形)にガスで切断しハンマーで叩き落としていたところ、送	418	90	10～ 29

		11	水管内に約7m吸い込まれた。			
1999	10	13 ～ 14	植木の剪定作業のため塀に立て掛けてあったアルミ製のはしごの下で仰向けになっているのが発見されたが、剪定バサミが塀に置かれていたので剪定作業中に発生したものではない。(外傷性急性大動脈解離)	999	99	1～9
1999	10	16 ～ 17	国道維持のため3名が道路脇で型枠の設置、コンクリート打設作業を行っていたところに、山砂を積んで国道を走行してきた11tダンプが突っ込んだ。	221	17	1～9
1999	5	10 ～ 11	砂防(堰堤)工事現場において、6名が堰堤下で残土処理、片付処理などを行っていて、落石に備えて堰堤上の山道上で見張りをしていた者が約16m下の堰堤付近に連絡した。	419	1	1～9
1999	10	15 ～ 16	ダンプオペレーターが、土砂の積込中にダンプの前方で小用を足していたところ、別のダンプに激突され、2台のダンプに挟まれた。	149	6	1～9
1999	10	19 ～ 20	グラウンド改修工事の受注のための測量作業を終了して会社に帰る途中、橋の欄干に正面から激突し、助手席の1人が胸部等を強く打って死亡し、運転していた者と後部座席の2人合計3人が骨折等の負った。	231	17	10～ 29
1999	10	10 ～ 11	地下貯水タンク建設工事において、U型コンクリートブロックにはめ込み立てかけてあった沈殿池と貯水タンクを仕切るコンクリート製の越流壁(高さ2.05m幅2.58m厚み20cm重量約2.5t)が倒壊し、近くでモルタル敷ならし作業をしていた者が押しつぶされた。	529	5	1～9
1999	10	14 ～ 15	河川修繕工事にともなう草刈り作業において、漆の木(直径約30mm)を刈払機で刈払う作業を行っていたときに、キックバックしたため付近にいた者の胸部に刈払機の刃が当たった。	169	8	10～ 29
1999	9	14 ～ 15	道路の法面に落石防止用の防護ネット(金網)を設置する工事において、防護ネットを取り付ける鋼製支柱にまたがり、支柱を支えるワイヤーロープの張力調整用のターンバックルに安全帯のフックをかけて防護ネットの取付作業を行っていたところ、ターンバックルが脱落したため安全帯のフック	379	1	1～9

			クが外れ、約20メートル下のアスファルト道路上に転落した。			
1999	10	14 ～ 15	浄水場新設工事現場において、伐採した木を搬出するためドラグショベルにアタッチメントであるグラップル(はさみ)を装着した建設機械を用いて運搬、整理していたところ、この作業箇所下に掘ってあった小枝等を燃すための穴にショベルが転落し、運転者がその下敷きになった。	149	1	1～9
1999	10	8 ～ 9	呑口柵の型枠解体作業で溝に溜まった雨水を排出するための排水路をバックホウで開削したのち、排右旋回したところ樹木が障害となりできなかったため左旋回したところ、コールゲートパイプ上にいた者がコールゲートパイプから地面に墜落した。	419	1	1～9
1999	9	14 ～ 15	道路法面に擁壁を築造するため、作業員2名がピックハンマーを用いて地山掘削を行っていたところ、はつっていた箇所の上部が崩落し、その岩石(風化花崗岩)とともに約2.8m下のコンクリート打設面に墜落した。	711	5	1～9
1999	9	14 ～ 15	国道山側の法面の補強工事において、法面上(高さ約40m)で型枠の組立作業中に法面上部から土石が崩壊し、生埋めとなった。	711	5	10～ 29
1999	10	10 ～ 11	墓の納骨室築造で階段を築造するため材料である大谷石を積み込むための不整地運搬車をバックで運転中に、墓地外柵と不整地運搬車の間にはさまれた。	227	7	1～9
1999	9	13 ～ 14	治山のための法面保全工事において、ミニコンボでかき落とした表土によって作業道が通れなくなったので、頂上側を通り反対側へ大きく回り込もうとしたときに法面上を約40m転落した。	142	1	30～ 49
1999	9	16 ～ 17	トレーラートラックで県道を走行中、ブレーキが効かなくなって、工事現場の工事規制信号で停車していた軽自動車に追突した後、さらに進行し工事現場内に停めていたドラグショベルに衝突して横転した。	221	17	1～9
1999	9	13 ～ 14	ドラグ・ショベルでポリエチレンパイプ(直径60cm、長さ5m、重さ60kg)をダンプトラックに積み込むため、ダンプトラックの荷台に乗って作業しているときに、ドラグ・ショベルのバケットとダンプトラックの車体との	142	6	1～9

			間に挟まれた。			
1999	9	8 ～ 9	農道の下方16. 8メートルのところでは作業で残土の除去作業を行っていたところ、上方の農道路面上でドラグショベルにより残土の除去作業を行っていた残土に混じていた岩石が落下してきて頭部に当たった。	711	4	1～9
1999	9	8 ～ 9	霊園造成工事において、25tキャリアダンプから土砂を下ろすため、荷台をあげたところボディと荷台との間に鉄筋が引っかかっていたので取り除こうとしていたときに、降下してきた荷台とボディとの間に右太股を挟まれた。	221	7	1～9
1999	8	13 ～ 14	道路新設工事に伴うU字溝据付作業において、仮置場から敷設場所までU字溝を運ぶためドラグショベルでダンプトラックに積込むときに、旋回方向の死角付近に作業者を発見し旋回を急停止させたところ、専用吊具で吊っていたU字溝がはずれ作業者が下敷きとなった。	372	4	30～ 49
1999	8	18 ～ 19	貯水池周囲の草刈り作業をしていた者の姿が見えなくなったので、警察署員や関係者が周囲を捜索したところ、深さ約1. 8メートルの貯水池に沈んでいるのが発見された。	713	10	10～ 29
1999	9	13 ～ 14	ドラグショベルで掘削した土砂を段の下部に仮置きしたのち、ダンプトラックに土砂を積み込むため土砂の上を下っていたときに、ドラグショベルが転倒し、下にあった岩と車体との間に挟まれた。	142	7	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	資材置場において、搭載形小型移動式クレーン(吊上げ荷重2. 93t)で鉄骨カッター(鉄鋼製・重量約2t)を吊り上げたところ、同クレーンが横転し、その下敷きになった。	212	6	10～ 29
1999	9	17 ～ 18	トンネル築造工事において、地下約30mの立坑内で清掃した土砂をズリ鋼車に積み込み、吊上げ荷重4. 95tの天井クレーンで吊上げ中に、鋼車が落下した。	372	4	100 ～ 299
1999	7	17 ～ 18	当日の作業終了を確認するため立坑内に入ったとき、立坑上では掘削土をダンパーに積み込んでいたクラムシェルに気付くのが遅れ、また立坑の手摺の止め金具に作業服が引っ掛かったためクラムシェルと手摺との間に	142	7	1～9

			挟まれた。			
1999	8	10 ～ 11	一輪車に生コンクリート約30キログラムを積んで勾配約20～24度のコンクリート坂道を後向に運んでいたときに、足を滑らし道の端より約4.1メートル下に一輪車とともに転落した。	417	1	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	アースオーガのスクリーオーガを取り外すため、アースオーガとの接続ピンを取り外して、右前方に倒したところ、その位置に急に他の作業者が走り込んできて、倒れてきたスクリーオーガに激突された。	143	4	30～ 49
1999	8	16 ～ 17	刈り払い機で草刈り作業中、作業箇所から2、7メートル下の通路に墜落し、さらに4、5メートル下に墜落した。	711	1	1～9
1999	8	11 ～ 12	県道沿いで草刈り作業中、居眠り運転で対向車線にはみ出した乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
1999	8	14 ～ 15	畑を整地するため、2.9t移動式クレーンで機体重量約3tのドラッグショベルを吊り上げ、道路わき約2m下の畑まで降ろしていたところ、移動式クレーンが道路端に設置されたガードレール側に傾いたためクレーン車体とガードレールとの間に胸を挟まれた。	212	6	10～ 29
1999	8	15 ～ 16	国道沿いの山腹崩壊箇所の応急仮工事現場において法面頭の切り取り作業中、約30メートル下の崩壊した岩石のところへ転落した。	711	1	30～ 49
1999	8	15 ～ 16	道路法面工事において、トラクターショベルで道路上の砂の排除作業を行っていたが、砂を運搬してきた10tダンプとすれ違うため、約50メートルバックさせ、道が広くなった場所で、ダンプをやり過ぎたときに、トラクターショベルごと約20メートル転落した。	229	1	10～ 29
1999	7	14 ～ 15	気温約32℃、湿度約64%の環境下の河川堤防において、過日刈り取った枯れ草を集める作業を行っていたところ、意識不明状態に陥り約2日半後に熱中症で死亡した。	715	11	30～ 49

1999	8	13 ～ 14	ガス管理設工事で、シートパイルホイール式油圧ショベルに油圧バイプロ アタッチメントを取り付けてシートパイル(長さ7m重量420kg)をチャッキ ングし引抜いたところ、シートパイルが抜け落ちて当たった。	521	4	1～9
1999	2	14 ～ 15	資材・残土置場において、ストックしてある残土を移動させようとダンプ トラックにドラグショベルで残土を積み込み、トラックを後退させていた ときに、トラックの後方で残土の仕分け作業をしていた作業員がダンプト ラックとドラグショベルとの間にはさまれた。	221	7	10～ 29
1999	7	15 ～ 16	フォークリフトで発電機を運搬していて、下り坂に差しかかったためバッ クで移動していたところ、フォークリフトが横転し、その下敷きとなっ た。	222	7	50～ 99
1999	8	11 ～ 12	資材置場において、軽量鋼矢板約20枚を2列に積み上げ、矢板の片側にワ イヤロープで玉掛けし、続いて反対側も玉掛けするため、先に玉掛けし たワイヤロープをバックホーのバケットのフックに掛けて約1メートル 吊り上げたときに、バケットのフックからワイヤロープが外れ、落ちて きた矢板の下敷になった。	142	4	1～9
1999	6	9 ～ 10	斜度25度の牧草地の表土掘削作業をブルドーザーで行っているときに、ブ ルドーザーが横滑りして約13m滑落して、横転しブルドーザーの下敷に なった。	141	1	10～ 29
1999	5	12 ～ 13	自動車道で、乗用車4台が関係する交通事故が発生して2人が死亡、5人が 負傷したが、死亡した者のうち1名は運転者(労働者)であった。	231	17	10～ 29
1999	7	14 ～ 15	道路工事現場において、破碎薬による岩石の除去作業のときに破碎箇所か ら約70メートル離れた国道上に退避していたところ、破碎によって飛来し た重さ2.6キログラムの岩石が頭部に激突した。	711	4	50～ 99
1999	6	15 ～ 16	工事の入札後、知人の車で駅まで走行中に、対向車と衝突した。	231	17	50～ 99

1999	7	9 ～ 10	高さ約9mの市道街路樹の約7m地点で枝の剪定作業をして、下へ降りようとしたときに、地上へ墜落した。	712	1	30～ 49
1999	6	14 ～ 15	老朽化した煉瓦造りの倉庫を解体作業中、倉庫全体が一気に倒壊する危険が生じたので、ドラグショベルにワイヤーを掛けて建物を支えながら養生用足場の3段目に上がって指揮をしていたところ、壁の煉瓦が大規模に崩壊して足場に激突したため、足場上から約5.4m下の地面に墜落した。	418	5	1～9
1999	4	8 ～ 9	事業場内の資材置場を通行中に、付近のコンクリートガラ圧碎機からコンクリート破片が飛び出してきた、頭部を直撃した。	169	4	10～ 29
1999	6	16 ～ 17	土止め材として使用するグリ石1.6tを積載した不整地運搬車を山のふもとから土止め障壁を施工する現場まで運転していて途中の切り返し地点で後進させた時に後方の風倒木に激突した。	227	3	30～ 49
1999	5	18 ～ 19	工事現場から社有車で帰社途中に、緩いカーブで道路外に逸脱してコンクリート製電柱に衝突した。	231	17	50～ 99
1999	7	9 ～ 10	木製脚立(3脚)に上って、駐車場の高さ約3.5mの植木の刈り込み作業を行っていたときに、アスファルト地面に墜落した。	371	1	10～ 29
1999	7	15 ～ 16	県道上でトレーラーにドラグショベルを積み込んだのち、付近の道路を竹ぼうきで掃いていたところ、走行してきた乗用車にはねられた。なお、当日は雨で視界が悪かった。	231	17	1～9
1999	6	10 ～ 11	杭工事で、次に施工する杭の掘削準備のためケーシングを削孔機で吊りながら前進したときに、左側のキャタピラ一部に巻き込まれた。	143	7	1～9
1999	6	14 ～	マンションの周りの植木等の刈り込みを行っていたところ、蜂に刺されて気分が悪くなり病院に運ばれたが、死亡した。	719	90	50～ 99

		15				
1999	6	16 ～ 17	橋台建設工事において、ミニドラグショベルで整地した法面を登坂中にショベルが後転し、その下敷きになった。	142	2	30～ 49
1999	6	9 ～ 10	基礎工事の資材置場において、H鋼材2本をクレーンで吊り上げトラックの荷台に移す作業を行っていたところ、鋼材を吊っていたワイヤーが切れて落下し、その下敷になった。	372	6	10～ 29
1999	2	8 ～ 9	池整備工事で、前日に降雨に備えて小段上に退避してあったタイヤローラーを池底部に移動しているとき、仮設スロープ路肩から約5.2メートル下に横方向に1回転して転落し、そのときに地面と車両との間にはさまれた。	144	1	300 ～ 499
1999	5	9 ～ 10	高さ4メートルのブロック積み擁壁上で、上方の伐採する立木を予定の位置に伐倒するため立木にかけたロープを引っ張っていたところ、作業床の端に近付きすぎて作業床の端から墜落した。	418	1	1～9
1999	2	15 ～ 16	国道の拡幅工事現場において、土留め用の鋼矢板を引抜くため、矢板に玉掛けをしていたときに突然、爆風に飛ばされて全身を打撲した。	511	14	10～ 29
1999	5	14 ～ 15	住宅擁壁の工事において、コンクリート擁壁の基礎下部に排水パイプを布設するためドラグショベルで擁壁のすぐ脇を深さ約40cm掘削し、その中で床付け作業中に、擁壁が倒れてきて下敷きとなった。	418	5	10～ 29
1999	6	10 ～ 11	架設足場に使用する単管を小型移動式クレーンで荷揚げする作業で、単管の束をワイヤーロープ2本で玉掛けして吊り上げたところ、荷が傾いてワイヤーロープからすり抜けて落下し、その下敷きになった。	521	4	10～ 29
1999	6	13 ～ 14	河川敷の堤防除草作業において、刈り倒した草をレーキ式集草機で集草していたときに、集草機が作業者に乗りあげた。	169	7	30～ 49
		14	地下道の掘削工事現場で掘削した土砂をテルハでトラックに積込む作業を			10～

1999	6	～	行なっていて、土砂を掴むためバケットを地面に降ろしたときに、フック	211	6	29
	15		からバケットが外れて転がり、付近で作業をしていた者に激突した。			
1999	5	～	8 造成工事において、盛土用土砂を10tダンプで運搬してきて、本来ダンプ	221	1	50～
	9		アップする場所以外の法面までバックしすぎて、左後方からそのまま2～3			99
			9 回転しながらダンプと共に転落した。			
1999	5	～	14 道路工事で出た土を10tダンプカーに積んで町道を走行中、下り坂左カー	221	17	1～9
	15		ブの途中で道路右側のガードレールを突き破って約13m下の線路に転落、			
			15 横転し、さらに約24m下の国道に転落した。			
1999	5	～	14 民家の石垣築造工事で、機体重量9. 2トンのドラグショベルバケットによ	142	7	1～9
	15		り吊り込まれた石をバケットの下部に立ち入って据え付けていて、バケッ			
			15 トと据付け中の石との間に頭部を挟まれた。			
1999	4	～	8 資材置場でテルハを用いて鉄板3枚をトラックに積み込む作業で、3枚目の	372	6	10～
	9		鉄板を吊り上げたときに、玉掛け用ワイヤーロープが切断したため、鉄板			29
			9 が落下して下敷になった。			
1999	4	～	6 自家用車で工事受注予定地域の積雪状況調査のため現場に向かう途中、踏	231	17	30～
	7		切内で立ち往生し貨物列車に衝突された。			49
1999	4	～	16 橋脚建設工事現場において、橋台箇所の掘削した土石を約70m離れた作業	227	1	50～
	17		用道路に不整地運搬車で運搬するため、バックで始動した直後に、停車し			99
			17 ていた付近の路肩から約8m下の谷川に不整地運搬車とともに転落した。			
1999	4	～	13 電柱の光ケーブルを通す管を付け替えるため、電柱の側にある木の添え木	231	17	10～
	14		に登り、木の枝を掴んで作業を行っているときに掴んでいた木の枝が折れ			29
			14 て町道側に転落し、そこへ通行してきた自家用自動車にひかれた。			
1999	4	～	11 遊水地整備工事現場において、ドラグショベルで遊水地床部の地慣らしを	412	4	10～
	12		行うときに、土止め支保工の腹おこし材に沿って、ドラグショベルのバ			29
			12 ケットを当てながら移動させていたときに、切り梁が落下して下敷きと			
			なった。			

1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するため、バックホーで掘削して底部をブレーカーではつり仕上げ作業していたときに、掘削した法面の真砂及び軟岩が崩壊し生埋めとなった。	711	5	10～ 29
1999	3	11 ～ 12	次の現場へ移動するため軽四貨物自動車で県道を走行中、センターラインをオーバーしたため、対向の普通貨物自動車と正面衝突した。	231	17	1～9
1999	3	14 ～ 15	ドラグショベルで約35度の斜面を下っていたところ、ドラグショベルが前倒しになったため、運転席から投げ出された、側方の法面と傾いたドラグショベルとの間に挟まれた。	142	7	1～9
1999	3	13 ～ 14	仮設橋の解体撤去作業で、架台支柱の内の14mの支柱に登り、支柱と仮設橋の桁をつないでいたボルトを取り外したところ架台が転倒したため架台の支柱に登っていた作業員2名が支柱から墜落し、1名が死亡し、1名が負傷した。	418	1	1～9
1999	3	16 ～ 17	消雪設備工事現場において使用した鋼板積んだ2tトラックで国道を走行中、反対車線に飛び出し、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
1999	3	13 ～ 14	雑木の伐木現場において、作業員3名が下り勾配の道路端に停車中のパッカー車内で休憩していたところ、運転者が車から降りた直後に車が突然動き出して約100メートル暴走したうえ、縁石に乗り上げて止ったが、飛び降りた2名のうち1名が死亡、1名が重傷を負った。	221	17	1～9
1999	3	21 ～ 22	現場での作業を終えて4トンダンプトラックで事務所へ戻る途中、県道でUターンしたときに、後続の乗用車と接触事故を起こしたので反対車線の端にダンプを停めて路上に散乱した乗用車のガラスの破片を片づけていたところ、走行してきた大型トラックにひかれた。	221	17	1～9
1999	3	8 ～ 9	屋外給排水工事現場において、施工した管路の高さに不具合が生じたので、ヒューム管の布設し直しを行うため、3名で深さ1.2メートルの掘削床に入って埋め戻した山砂をスコップで掘って除去していたときに、根切りした垂直地山が崩壊し、1名が崩壊した土塊と根切りした垂直地山に	711	5	1～9

			胸部を挟まれた。			
1999	3	9 ～ 10	ドラグショベルでグレーチングを吊りピットに設置作業で、いったん被せたグレーチングの上に乗って調整しているときに、グレーチングがピットの肩から外れ、かつ、グレーチングを吊っていたワイヤーロープも外れたためピット内に墜落した。	419	1	10～ 29
1999	3	18 ～ 19	工事現場から2トンダンプにドラグショベルを載せて目的地へ降ろしたのち、ショベルを駐機場所へ移動しているときにショベルが転倒し、ヘッドガードと地面との間に頭部を挟まれた。	141	2	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	はつり後のコンクリート片をワイヤーモッコに入れ移動式クレーン(吊り上げ荷重2.93トン)で吊り上げて旋回したときに、クレーンがバランスを崩して横転し、オペレーターがクレーンと橋の欄干との間に挟まれた。	212	2	0
1999	3	0 ～ 1	国道への管の埋設工事現場で、昼の休憩時間になったので作業場所から約50m離れた地点の国道を歩行しているときに同僚の運転するトラックにひかれた。	221	17	1～9
1999	2	11 ～ 12	団地駐車場の造成工事の前段階の作業として碎石を平らに馴らす作業をスコップで行っていたときに、後進してきたドラグショベルにひかれた。	141	6	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するためバックホーで掘削し、その底部をブレーカーではつり仕上げをしていたときに、掘削した法面の真砂及び軟岩が崩壊し、底部で作業していた2名が生埋めとなった。	711	5	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	作業員4人による住宅の屋根上の雪下ろし作業中に、敷地内の物置裏と母屋との間の地上で氷の一部の下敷きとなった。	719	4	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	資材置場で下水道用の箱型土止め用簡易パネルを解体する作業で、パネル上部を外すときに上部パネルが落ちないようにドラッグショベルで支持しようと吊り上げたところ、箱型パネルが振れて、近くにいた作業者に当たり、同人は約4メートル後の側溝に転落し、後頭部を打った。	142	6	10～ 29

1999	3	0 ～ 1	FRP下水管の敷設工事を推進工法で施工中、到達立坑内で推進により湧き出す泥水を排除するためのバキュームホースの取り回し作業を行っていた者が到達坑内にすでに突出していた推進機先端のパイロットドリルに衣服を巻込まれて体ごと回転し、周囲の支保工に頭部を強打した。	142	7	30～ 49
1999	3	11 ～ 12	道路改良工事において、U字溝布設のためアスファルト舗装をコンクリートカッターで切断していたところに、近くで水道管の布設工事に従事していた2tダンプカーがバックしてきて、背中をダンプカーの後部とカッターとの間に挟まれた。	221	7	10～ 29
1999	2	11 ～ 12	井戸掘削作業現場でボーリングマシンのロッドをスパナを用いて取り外していたときに、ロッドが急に回転したため持っていたスパナに腹部を強打された。	142	6	10～ 29
1999	2	13 ～ 14	高速道路工事の残土埋め立て場でハンドガイドローラを使用して整地作業を行っていて法面から転落したところへ、ローラが落下してきてその下敷きになった。	144	1	30～ 49
1999	2	13 ～ 14	建設資材置場で、工事に使用するU字溝蓋を現場まで運ぶため、ドラッグ・ショベルのバケットに取り付けたフックを利用して吊り上げる作業を行なっているときにバケットが突然降下してきて、玉掛者に激突した。	142	6	1～9
1999	2	11 ～ 12	ターミナルのエプロンの舗装作業で、コンクリート打ちが終了したので、生コンを運ぶコンベアーの清掃作業を行なっているときに、コンベアーのゴムベルトとローラーとの間に両手及び頭部を巻き込まれた。	224	7	1～9
1999	2	13 ～ 14	駐車場等整備工事において、作業箇所の移動のため国道と県道の交差点を歩行していたところ、後退して来た同僚が運転するダンプトラックにひかれた。	221	17	10～ 29
1999	2	13 ～ 14	ブーム掘削機を用いて用水路の既設暗渠のコンクリート内部壁面の切削作業中、遠隔操作用のコントローラーコードの一部が回転しているカッターヘッドに絡み付いたので、機械を回転させたまま外そうとしたときにコントローラーボックスを胸部に下げていたため体が引き寄せられ、回転するヘッドに跳ね飛ばされた。	149	7	10～ 29

1999	1	11 ～ 12	工事契約が終わって帰社するために県道を走行中、市電の電停のコンクリート壁部分(乗客が電車を待つ所)に激突した。	231	17	10～ 29
1999	2	18 ～ 19	工事現場の残土運搬作業で泥地にはまった4トンダンプカーをバックホーのバケットで押し出したときに荷台に穴があいたため、作業終了後、河川敷の砂利ヤードで荷台を上げロック装置を施し、荷台の修理作業を荷台とキャビンの間に入り行っていたところ、荷台が降下して挟まれた。	221	7	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	築堤の天端上の除雪をブル・ドーザーを用いて行っていて、路肩から6.4m下にブル・ドーザーとともに転落し、ブル・ドーザーのヘッドガードと地面との間に挟まれてた。	141	1	100 ～ 299
1999	2	15 ～ 16	圃場整備工事現場において、不整地運搬車の走行路付近で排水用のホースを伸ばす作業を行っていて、掘削土を積んで後進してきた不整地運搬車に上半身をひかれた。	227	7	1～9
1999	1	16 ～ 17	積載型トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして車体の下に入り込み、足回り、ドライブシャフト等にグリスアップを行っていたところ回転していたPTOのドライブシャフトに、着用していたつなぎの作業着が巻き込まれ、窒息した。	212	7	1～9
1999	1	10 ～ 11	鉄骨矢倉に附設されていた高さ2mの鉄骨上のプレハブ事務所の土台の解体作業で最後の1本の梁のボルトを取り外した時、土台が倒壊し、鉄骨を押さえていた者が鉄骨と傍の仮設用WCとに挟まれ、頭にWCの排気塔部材が刺さった。	418	5	10～ 29
1999	1	3 ～ 4	夜間作業が終了して、会社の小型トラックを運転して帰宅途中、直線道路で右側の路面がブラックアイスバーンのため路外に飛出し転覆し、その際に車外に投出されてトラックの下敷きとなった。	221	17	30～ 49
1999	1	14 ～ 15	防波堤に接触して損傷したフェリーを水中で点検するため潜水作業を行っていたところ、潜水士のヘルメットが外れて溺死した。	391	10	10～ 29

1999	1	10 ～ 11	溜池の管理道路の締め固め作業をタイヤローラーに乗って行なっていて、ローラーと共に斜面より約10m程下の池底に転落した。	144	1	10～ 29
1999	1	9 ～ 10	水平ボーリング作業中、着ていたヤッケがボーリングマシンのロッドに巻き込まれ首を締められ意識不明となった。	149	7	10～ 29
1999	1	14 ～ 15	道路新設工事に伴う立木の伐採作業で、チェーンソーで立木を伐採した直後に、伐採場所から2, 8メートル下の農道に転落した。	711	1	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	橋補修工事ですり足場のチェーンを取付ける作業が終わったので、橋に上がるためはしごを登り欄干を跨いでいたところ滑って川に墜落し溺死した。	418	1	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。